

〈日本歯科矯正器材協議会四〇周年記念誌〉

矯正歯科業界の歩み

〈日本歯科矯正器材協議会四〇周年記念誌〉

矯正歯科業界の歩み

当会の前身であります矯正器材懇談会が一九八〇年に日本矯正歯科学会賛助会員を中心に結成されて一〇年、一九九一年に矯正器材を扱う一三社により現在の日本歯科矯正器材協議会の名称のもと新たに発足して三〇年が経過し、現在二六社となり、このたびおかげさまで四〇周年を迎えることができました。

つきましては、二〇〇一年に二〇周年を記念して発刊されました「矯正歯科業界の歩み」から二〇年の歳月を経て、このたび「日本歯科矯正器材協議会四〇周年記念誌」が発刊される運びとなりました。

第一部として、二〇周年記念誌の歯科矯正企業通史―変遷と発展―をそのまま掲載し、続いて第二部として、二一世紀に入りますます多岐にわたるようになりましたその後二〇年の当会の活動および矯正歯科業界のトピックスを取りあげて追加記載いたしました。

そして第三部として、永年にわたる研究・開発、そして技術の向上と新素材の導入により格段の進歩を遂げてまいりました矯正歯科器材を取り上げ、またそれらを活用し矯正歯科治療の発展に寄与してこられた代表的なテクニクを、それぞれの先生方にご寄稿いただきました。

第四部として、現会員企業二六社の沿革を掲載させていただきました。二〇周年誌では一八社を掲載いたしました。その後二〇年の国内外の社会情勢の変化に伴い、医療業界の地図が大きく書き換わり、IT技術を活

用したデジタル化の大きな波が押し寄せる中、会員各社も変化に適応すべく買収合併・社名変更などが多く行われ、矯正歯科業界への新規参入・撤退の変遷を経て現在に至っております。

最後に第五部として、矯正歯科の歴史をいくつかの切り口で年代別に整理した年表をまとめさせていただきました。改めて業界の変遷と発展の経緯を知っていただく一助になれば幸いに存じます。

またご承知の通り新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、一〇年余業界の総力を結集して準備を進めてまいりました二〇二〇年の第九回国際矯正歯科学界大会(9th I O C横浜大会)はWeb開催に、第八〇回日本矯正歯科学会横浜大会はハイブリッド開催となり、その他の学会、展示会、セミナー等もほとんど実地開催が見送られ、誠に忸怩たる思いが続いております。

たとえ状況がどのように変わりましたが、私どもは今後も研究・教育・臨床に携わる先生方のご協力のもと、産学臨の連携をさらに深め、より良い矯正歯科器材の研究・開発に尽力し、安全・安心にご使用いただける製品ならびに有用な情報の提供を通じ、矯正歯科医療の発展に貢献してまいる所存です。

このたびの発刊に際しましては、先生方をはじめ多くの方々のご協力をいただきました。当会を代表しまして、皆さまに心より御礼申し上げます。

日本歯科矯正器材協議会がめでたく設立四〇周年を迎えられますことを心よりお祝い申し上げます。また、日本歯科矯正器材協議会の皆様には、平素より公益社団法人日本矯正歯科学会の活動に対する深いご理解と多大なるご協力を賜り、学会を代表して厚く御礼申し上げます。

日本歯科矯正器材協議会の矯正歯科界の発展に対するご貢献は枚挙に暇がありませんが、中でも、世界矯正歯科医連盟(World Federation of Orthodontists: WFO)の公式学術大会である二〇二〇年の第九回国際矯正歯科会議世界大会(International Orthodontic Congress: IOC)の誘致と開催にむけた準備において大変ご助力いただきましたことは、私共の記憶に深く刻まれております。二〇二二年にAAOHノル大会の際に開催されたWFO常任理事会において「YOKOHAMA」と読み上げられた瞬間は、東日本大震災からまだ完全に立ち直りきっていない日本に一筋の光明が差し込んだかのような高揚感を味わうことができました。

日本歯科矯正器材協議会のお取り計らいでハワイ・プリンスホテル・ワイキキにおいて開催された「JOS Friendship Party」では、WFOのRoberto Justus会長、Allan R. Thom副会長、William H. DeKock事務局長、Lee W. Graber 前会長、AAOのMichael B. Rogers会長等、世界の矯正歯科界の重鎮をお招きし、また日本からWFO名誉会員の故三浦不二夫先生、黒田敬之先生、日本矯正歯科学会後藤滋巳理事長らが参加して喜びを分かち合うとともに、二〇二〇年の会議成功を誓いあったことを思い出します。当時は新型コロナウイルスの感染爆発が起こるとは予想だにしていまじませんでした。その後、幾多の苦難を乗り越え、予定通り二〇二〇年に小野卓史大会長の下で世界初となる完全バーチャル形式の矯正歯科の国際会議を実現することができました。

蓋を開けてみれば六〇〇名以上の参加者を得て成功裏

に閉会し、世界の檜舞台で日本の矯正歯科界の面目躍如を果たすことができました。これもひとえに、日本歯科矯正器材協議会関係者の皆様の影になり日向になりのご支援があったからこそと、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、矯正歯科治療は、我が国のみならず、世界中の人々にとりましてより身近な存在となりつつあります。正しい歯列・咬合、それによってもたらされる美しい笑顔は、豊かな食生活や快適なコミュニケーションを可能にするばかりでなく、心身を健康に保ち、QOLの向上につながることを人々が認識するようになった証ではないかと思えます。矯正歯科治療の経験がコンプレックス解消や自信獲得に繋がり、歯科医師を志すきっかけとなったと話す歯学部学生も少なくありません。

矯正歯科医療の持続的な進歩発展は、先端的な医療機器・システムの開発、優秀な矯正歯科医の養成、適切な医療提供体制の構築に帰すると言っても過言ではありませんが、その土台となるべき産学臨の三つの車輪が協働しなければ、たちまち進むべき道から大きく逸れていってしまいます。我が国の矯正歯科医療が今日まで世界をリードし、高いレベルを保ち続けてこられたのは、三者が手を携えて矯正歯科の明るい未来を目指して共に励んできたからに他なりません。急速に技術革新が進む昨今ですが、長年かけて築き上げてきた矯正歯科界の社会的信用を失墜させることのないよう、学会としても誠心誠意取り組んでいく所存ですので、どうか今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、日本歯科矯正器材協議会が五〇年、一〇〇年と、さらなるご発展の歴史を積み重ねられますように、心よりお祈り申し上げます。

日本歯科矯正器材協議会の創立四〇周年に日本臨床矯正歯科医会を代表して心からお祝い申し上げます。また四〇年間にわたり、歴代の役員の方々、また会員の方々のたゆまぬ努力で発展され、矯正歯科界に多大な貢献されてきたことに對して、敬意を表します。

貴会監修の「矯正歯科業界の歩み」が出版された二〇〇一年以降は、矯正歯科材料の変化が我々矯正歯科医の治療に大変革をもたらしました。貴会創立の頃に開発された超弾性的特徴を持つZrO₂ワイヤーの特性をより効果的に發揮できるセルフライゲーションブラケットが流行したのが約二〇年前。その次は、歯の移動の固定源としてのインプラントアンカーの実用化でした。ミニプレートから始まり、侵襲を少なくしたアンカースクリューが開発され、実用化されました。この変化は、かつてのセファログラムの実用化、ダイレクトボンディングシステムの開発、超弾性ワイヤーの出現に続く第四の波と感じました。このアンカースクリューにより、矯正歯科治療のフォースシステムが大きく変わりました。本邦では、二〇一一年に「歯科矯正用アンカースクリュー」という呼称に統一され、薬事承認されて保険診療に収載されました。これには、当時の器材協議会会長であった小川清史氏のご尽力があったと伺っております。

そして近年の大きな変革はデジタル技術を利用した新しい機器の開発と言えるでしょう。歯科界でのCAD/CAMの開発に伴い、デジタル技術から作られるカスタムメイドブラケット、さらにはワイヤーベンディングロボットの出現、そして新しい矯正装置としてアライナー型矯正装置が五年前より爆発的に歯科業界で広がりました。加えて、診断までを製作会社に任せてしまうことで矯正歯科医不在でも矯正歯科治療が可能になるというセールストークのも

と一般歯科医の矯正歯科への介入も著明になりました。

そのような急激な変化の結果として、ここ数年の本医会「矯正歯科なんでも相談」に寄せられるアライナー型矯正装置への苦情・批判が年間五〇件以上に増加する状況になりました。このアライナー型矯正装置については、学術的立場から日本矯正歯科学会による検証が進められ、そこに「産」すなわちアライナーのサプライヤーとしての器材協議会と矯正歯科を生業とする日本臨床矯正歯科医会の「臨」が各々の立場から協働することで、「産・学・臨」の下、矯正歯科界がより良い方向に向かうことを祈念いたします。それとともに我々の悲願である「矯正歯科専門医制度」の確立も待たれるところです。

以上のようにこの二〇年は、器材協議会の方々のたゆまぬご尽力により、目まぐるしい変化に對して適時対応していただいた時節であったことと存じます。

我々日本臨床矯正歯科医会は二〇二三年には五〇周年を迎えます。この日本の矯正歯科界において、本医会は最も緊密に器材協議会とは協働し発展してきました。貴会からは一九九〇年から大会での商社展示を、そして現在ではラッシュンセミナーの開催、あるいはブレースマイルコンテストの後援など多方面からご協力を頂戴しております。

器材協議会、矯正歯科医会はそれぞれ発足から四〇年、五〇年の歴史のある会です。矯正歯科医会は矯正歯科界のこれからの発展を望み、ことに若い世代へ新しい矯正歯科界の広がりを残すべく、矯正歯科治療の専門性の高さを訴え、国民に矯正歯科治療に関する正しい役に立つ情報を発信できるように目指して参りますので、今後とも末永くお付き合いいただきたく存じます。

〔日本歯科矯正器材協議会四〇周年記念誌〕
矯正歯科業界の歩み

巻頭言

「日本歯科矯正器材協議会四〇周年記念誌」発刊に際して	日本歯科矯正器材協議会会長	大石邦雄
「日本歯科矯正器材協議会四〇周年記念誌」発刊に際して	日本矯正歯科学会理事長	森山啓司
「日本歯科矯正器材協議会四〇周年記念誌」発刊に際して	日本臨床矯正歯科医会会長	野村泰世

第一部 歯科矯正企業通史―変遷と発展……………11

黎明期の矯正歯科学と器材	12
戦争による停滞期	14
戦後復興期の先駆者たち	15
輸入の促進と国産品の台頭	16
歯科矯正のめざましい発展と新規参入企業	17
矯正器材懇談会の結成	19
懇談会から協議会へ	24
各種委員会の設置と多彩な活動	27
産学臨協同の新世紀を	29

◇ 歯科矯正閑話 ◇

執筆並びに資料提供

三浦不二夫（東京医科歯科大学名誉教授）
福原達郎（昭和大学名誉教授）

米軍歯科診療所からの戴きモノ（その一）	14
アングルが考えたブラケット	16
米軍歯科診療所からの戴きモノ（その二）	22
アングルの抜歯不可論をめぐる史実	24
古代マヤ族のインレー	26
ロバ用のピカピカナトレー	28

第二部 歯科矯正企業通史Ⅱ(二〇〇一年～現在)……………31

第1章 器材協21世紀20年の活動 32

発足からの二〇年 32

業界活動の広がり 34

各委員会の活動 36

骨接合用品の適用内使用に向けて 38

産学官臨協力体制 39

薬事行政・法令遵守 42

第9回国際矯正歯科会議世界大会 44

五団体矯正歯科懇談会 45

新しい時代の流れ 46

コロナ禍の中で 47

第2章 主なトピックス 49

歯科矯正用アンカースクリュー「二課長通知」に基づく公知申請 49

第九回国際矯正歯科会議世界大会 19th I O Cの横浜誘致から開催まで 52

五団体矯正歯科懇談会 1国が認める矯正専門医制度設立に向けて 55

矯正歯科に係るI S O 認証基準の作成 57

第三部 日本における矯正歯科テクニックの導入(一九七〇年～)……………59

第1章 日本における口蓋裂矯正歯科治療の保険導入へ 60

福原達郎(昭和大学名誉教授)

第2章 日本における矯正歯科テクニックの導入(一九七〇年～) 62

スタンダードエッジワイズテクニック 62

与五沢文夫(よごさわ歯科矯正)

バイオプログレッシブセラピー 63

根津 浩(根津矯正歯科クリニック)

レベルアンカレッジ・システム 65

川本達雄(大阪歯科大学名誉教授)

アレキサンダーデイシプリン 67

浅井保彦(浅井矯正歯科)

ストレートワイヤーエッジワイズシステム(SWES) 70

古賀正忠(古賀矯正歯科クリニック)

歯科矯正用アンカースクリューの開発 72

嘉ノ海龍三(カノミ矯正歯科クリニック)

マイオフアंकシヨナルセラピー 74

大野肅英(大野矯正クリニック)

アライナー型矯正テクニック 76

榎 宏太郎(昭和大学歯学部歯科矯正学講座教授)

第四部 歯科矯正企業各社の沿革―未来への軌跡……………79

株式会社アソインターナシヨナル 80

有限会社ウイルデント 82

株式会社岡部 85

有限会社オソデントラム 87

株式会社オーティカ・インターナシヨナル 90

カポデンタルシステムズ株式会社 92

オームコジャパン

株式会社オーラルケア 94

株式会社ジーシールソリー 96

株式会社 JM Ortho 98

株式会社松風 営業部矯正課 101

スリーエムジャパン株式会社 104

歯科用製品事業部 ユニテック製品グループ

ストローマン・ジャパン株式会社	106
株式会社タスク	108
有限会社ティーピー・オーソドンテックス・ジャパン	110
株式会社デンタリード	112
デンツプライシロナ株式会社	114
株式会社トミーインターナショナル	116
株式会社バイオデント	119
有限会社バルビゾン	121
フォレストデント・ジャパン株式会社	123
株式会社プロシード	125
株式会社ミツバオゾンサプライ	127
メディア株式会社	130
株式会社モリムラ	132
株式会社ヨシダ	135
株式会社YDM	137

第五部 日本歯科矯正年表／日本歯科矯正器材協議会会務経過報告……………139

日本歯科矯正年表―総会例会等一覽	140
日本歯科矯正年表―全国各地区学会一覽	145
日本歯科矯正年表―各分野一覽	149
日本歯科矯正器材協議会会務経過報告	152
一九九七(平成九)～二〇二〇(令和二)年度	

付表……………167

日本歯科矯正器材協議会歴代役員・委員長一覽	167
日本歯科矯正器材協議会会員企業一覽	168
大学歯科矯正学教室一覽	170

〔凡例〕

- 年代の表記は各部ごとの表記法に従っている。
- 企業名については原則として法人格(株式会社、有限会社等)を付記している。
- 海外の同一企業名、その所在地や製品名の日本語表記については、各部および各社ごとの表記法に従っている。
- 外国人講師等の表記方法は、肩書(資格)付記の有無も含め、各部および各社の原稿に従っている。

◇第一部◇

歯科矯正企業通史Ⅰ―変遷と発展（～二〇〇〇年）

※本稿は二〇周年記念誌から再録しているため、企業名等現在の表記と異なることがあります。

黎明期の矯正歯科学と器材

わが国における矯正歯科学の黎明期は歯科矯正器材ならびに関連企業の黎明期でもあった。

「矯正」という言葉が活字として登場するのは、今から百数十年前の一八八九(明治二二)年に、小林義直が著した「歯科提要」であるとされている。同書では「歯列矯正」、「歯列矯正術」などと表現されている。

十数年後の一九〇二(明治三五年)年には、東京歯科医学専門学校(現・東京歯科大学)の血脇守之助先生が講義の中で初めて「矯正歯科」という言葉を使っている。

さらに一〇年後の一九一三(大正二)年、同じ東京歯科医学専門学校の寺木定芳教授による日本で初めてのオリジナルな歯科矯正の教科書「歯科矯正学綱領」が発刊されている。寺木教授は、メリーランド大学を卒業後、日本人として初めてアングル・スクールに学び、



高橋新次郎先生

明治30年東京都生まれ。大正8年日本歯科医学専門学校(現・東京医科歯科大学)卒業。その後アメリカ留学を経て東京医科歯科大学矯正学講座教授、歯学部付属病院長、歯学部部長等を歴任し、昭和37年退官。高橋歯科矯正研究所を開設。昭和48年逝去。

一九〇九(明治四二)年に帰国し、東京歯科医学専門学校の歯科矯正学教授に就任している。

あとに登場する榎本美彦教授は寺木教授の後任として、一九一四(大正三)年に東京歯科医学専門学校の教授に就任している。

診療科目として正式に矯正科が誕生するのは、ペンシルバニア大学で矯正学を学んだ高橋新次郎先生が帰国した一九二五(大正一四)年、文部省歯科病院(現・東京医科歯科大学)の補綴部の診療科目としてである。

この間の経緯を、高橋先生はその著書「矯正こぼれ話」の中で次のように振り返っている(要旨)。

『文部省歯科病院に矯正科が誕生した当時、すでに他の歯科医学専門学校には矯正学の講座はあったが、はつきりとした存在ではなく、歯科医の関心も低く、取りつきにくいものだったようである。しかし、同じ頃、榎本美彦先生、多胡謙治先生、斎藤久先生、岩垣宏先生らが集まって、わが国における矯正学の今後の進歩、発展などについて熱心に論議をたたかわせていた。また慶應大学に歯科を新設した岡田満先生は矯正治療を大々的に宣伝した。今思えば、この頃(大正末から昭和のはじめ)は、まぎれもなく日本の歯科矯正学の黎明期であった。』

一九一五(大正四)年に、榎本美彦先生の「矯正歯科学」、一九二六(大正一五)年には、岩垣宏先生の「矯正歯科学の実際」が発刊され、一九三〇(昭和五)年には、高橋先生による「矯正歯科学—理論と実際」が出版されるなど、この頃の矯正歯科学は、歯科の新しい

分野として、欧米の先進諸国に追いつくべく、学術、臨床にわたる広範な研究が精力的に進められていたことを物語っている。

一九三二(昭和七)年四月に、第一回日本矯正歯科学会(以下、日矯学会)大会が開催されている。東京基督教青年会館(東京都千代田区)二階講堂においてのことである。会長は前出の榎本先生で、準備委員長は同じく岡田満先生であった。

血脇先生が講義の中で「矯正歯科」という言葉を初めて口にされてから三〇年後のことである。

記念すべきこの大会では、すでに側方拡大装置、矯正用ゴムリング、ループレットとチューブ装置、定圧送風器などの装置や器材に関する講演のほか、リボンアーチ、舌側矯正装置などのデモが行われている。



第一回矯正歯科学大会

(資料=「月刊日本之歯界」昭和7年3月号)

商社展示も行われており、ジーシー化学研究所(現・ジーシー株)、丸善株、森田歯科商店(現・株モリタ)、歯苑社代理部(現・株シエン社)、鳥光歯科器械店の各社が出演社として記録されている。

リボンアーチのデモは当時エスエス・ホワイト社の日本代表であった石井房次郎氏が行っている。同氏は戦前戦後を通し、一貫して海外の歯科器材の輸入と普及に取り組んだ。

森田歯科商店の当時のカタログには、エスエス・ホワイト社の次のような矯正用器材が名を連ねている。

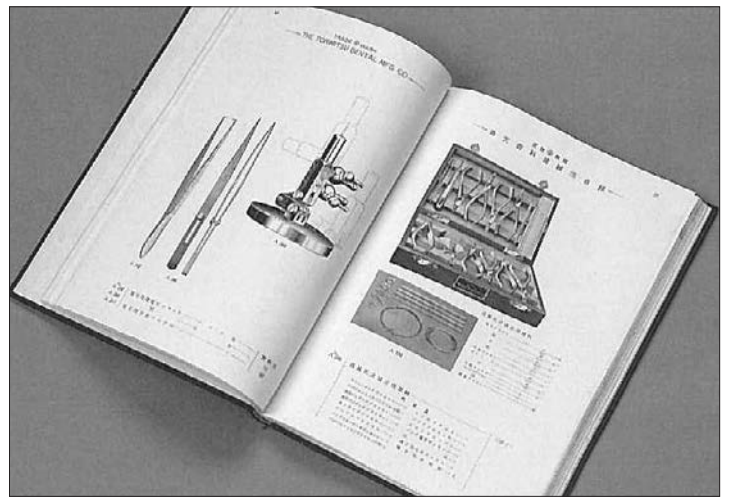
「アングル氏バンドフォーミングプライヤー」、「ヤング氏ワイヤーバンドプライヤー」、「バンド形成鉗子」、「リボンアーチ用鉗子」、「矯正ブローパイプ」、「結紮線」、「アンカーバンド」などである。

また、他の製品カタログにも、品種はわずかであるが、「歯列矯正器」、「矯正器環帯材料」、「太口アーチ」、「細口アーチ」などの呼称で矯正器材が紹介されている。

ちなみに、一九三二(昭和六)年頃の価格表には、「矯正器弦線」(輸入品)一本四円、「矯正用ワイヤー」(エスエス・ホワイト社製)一函三円五〇銭、「ブラケット一具」(セット)二九円五〇銭などと記載されている。

前出の「矯正こぼれ話」の中で、この頃の矯正器材の状況について、高橋先生は次のように記述している。少し長くなるが、引用させていただく(原文)。

『(略)アメリカでは、矯正臨床のすばらしい発達に伴い、材料業者が矯正家の要請



昭和6年頃の資料用品カタログと価格表
(資料=大野肅英先生)

に依って、材料の研究改善につとめ、洋銀、真ちゆう、白金加金などをへて、その初期には想像もつかなかったほどの素晴らしいステンレス・スチールをうみだすにいたった。

—(略)—

一九世紀から二〇世紀初期にかけてはほとんどの材料は洋銀で、アングルが既製装置の製作にふみきる以前は各先生方が思い思いに装置を作って治療に用いていた。この意味からアングルの既製装置による治療の標準化が矯正臨床の一大飛躍を一般臨床家の間にまき起こしたことは事実であろう。

わが国ではその当時実際に矯正臨床にたずさわる人も非常に少なく、ほとんどはアメリカ

から輸入した材料を用いていた。その後、アメリカでも洋銀から次第に貴金属、とくに白金加金の優秀さに魅せられて、これが洋銀にとって代つて、いわゆる白金加金時代となった。ことにレビオ・リンガル・テクニクを用いる人々はほとんどこの材料を用いていた。

私が帰国した時もこの材料を後生大事にもち帰ったものだ。その後も必要に応じてアメリカから輸入していたが、社会情勢の変化で貴金属の輸入が思うようにならなくなり、わが国でこの材料を作らざるを得なくなっていた。いろいろと失敗をしながらどうやら使えるような物ができた。何分需要の少ないものだから、業者もなかなかこちらの希望するような物を作ってくれないので困った。

そのうちに戦争の影響などで貴金属の使用が次第に困難となり、これに代る物をいろいろと考え、今日のいわゆる「サンプラ」を改良したら何とかなるのではないかと考え、かなりこれを研究して白金加金の代用としたものである。—(略)—

その後わが国でも弾線などはステンレスを用いるようになったが、その欠点は鑑着がうまくできないことと細い弾線などは鑑着によってその弾性を著しく失うということである。そのころドイツなどでもステンレス・スチールのみを用いる装置の作り方などを書いた本が発表されて、その使い方の苦心のほどをよく察することができた。アメリカでも、白金加金時代から次第にステンレスの時代になりかわり、きわめて少数の人が今日でも白金加金を用いているにすぎない。—(略)—

昭和のはじめ頃の矯正器材の状況を知る貴重な記述である。

戦争による停滞期

黎明期を迎えた矯正歯科学の発展と軌を同じくして矯正器材の輸入や生産が徐々に広がりを見せはじめた。

高橋先生の回顧録にあるサンプラチナはもと三金電化研究所によって開発されたニッケルクロム合金の商標名で、当初は主として装身具や時計の側、眼鏡縁用の材料として用いられていた。

サンプラチナが歯科材料として使われたのは、第一回日矯学会大会が開催された一九三二(昭和七)年のことで、当初は主に補綴関係



昭和8年当時のサンプラチナの広告
(資料=三金工業(株)矯正営業部)

の材料としてであった。

高橋先生の要望によりサンプラチナを改良したわが国初の矯正用材料が誕生したのは一九三五(昭和一〇)年のことである。ロー線、前歯用・臼歯用バンドメタルに次いで矯正用の丸型チューブなどが開発され、二年後にはSTロックも完成している。

これを機に三金歯科金属合名会社(現・三金工業(株))が設立され、森田歯科商店(現・株モリタ)、中井歯科商店(現・株東京中井)の販売協力のもとに歯科用金属材料の専門メーカーとしての第一歩を踏み出している。

しかし、この頃から日本を取り巻く国際情勢は日を追うごとに厳しいものとなり、一九三七(昭和一二)年に勃発した日中戦争を境に戦時体制下における統制経済が強化されていった。特に金地金の高騰と厳しい統制は、代用合金の開発を促進することとなった。代用金属の乱出に困惑した厚生省(一九三八年、昭和一三年設置)や歯科医師会が金代用合金材料の規格を作ったのも一九三七〜三九(昭和一二〜一四)年にかけてのことである。

さらに事態は悪化して、一九四一(昭和一七)年には政府の命により日本歯科用品配給統制(株)が設立され、多くの歯科用品は統制品目として指定されることとなる。

日中戦争から太平洋戦争へと戦線が拡大するにつれ、多くの企業は民需から軍需への転換を余儀なくされ、歯科産業界も例外たり得なかった。

このような状況下において、ようやく黎明

歯科矯正 閑話 ① 三浦不二夫

米軍歯科診療所からの戴きモノ(その一)

私の恩師、高橋教授がマッカーサー指令部の歯科担当官リジレイ中佐の日本側顧問として丸ノ内の米軍歯科診療所に入入りしていた頃である。

教授は中佐から「COELOID」という新しい印象材をもらってきて、印象採得のデモをしてくれた。

それまでは、印象を石膏で採ってきた私た



高橋新次郎先生
(1897~1973)

ちにとつて、アンダーカット部分を含む歯列全体を一塊として、いとも簡単に、精密でしかも正確な印象を採るこの弾性印象材を見て驚嘆するばかり、加えて採った印象に石膏を注げば、硬化後には模型がスッポリ抜けるのに二度、ビックリした。

これが契機となって、高橋教授の指導のもと、試行錯誤を繰り返しながらも、数年後には日本製アルギン印象材「アルヂックス」が誕生したのである。



天野隆芳氏

スパバデンタルプロダクツ(株)創設者。昭和49年(株)サンキントレーディング代表取締役社長に就任後、平成5年より(株)ナカデンオーバース代表取締役社長。

期を迎えつつあったわが国の歯科矯正界は、関連産業界も含め、まさに出鼻を挫かれたかのように、その歩みを止めざるを得なかった。

戦後復興期の先駆者たち

一九四五(昭和二〇)年の敗戦を境に戦後の復興が始まり、戦時の空白期を取り戻すかのように、歯科界はそれぞれに体制を整え、新たなスタートを切った。

一九四六(昭和二一)年頃には、学校教育法により、それまでの歯科専門学校が歯科大学へと昇格を始める。一九四八(昭和二三)年には、医師法、歯科医師法、歯科衛生士法が公布され、薬事法が成立した。

一九五〇年代の後半〜七〇年代(昭和三〇年代〜五〇年代前半)にかけて、早くも矯正治療の新しい考え方とテクニックが相次いで導入された。

岩垣先生による「ユニバーサル・アプライ・アンス」、高橋先生の「ツインワイヤー・アチ・アプライアンス」、榎先生の「ベッグ法」、三浦先生の「ジャラバック法」などである。

また、「エッジワイズ法」の日本における普及に関しては日系のD.R.ヒト・スエヒロ(ワ

シントンDC開業)が大きく貢献している。一九七〇年代の初頭(昭和四〇年代中頃)より数度となく来日し、全国各地でコースを開催したD.R.スエヒロは、わが国におけるエッジワイズシステムの基礎を確立したといっても過言ではない。

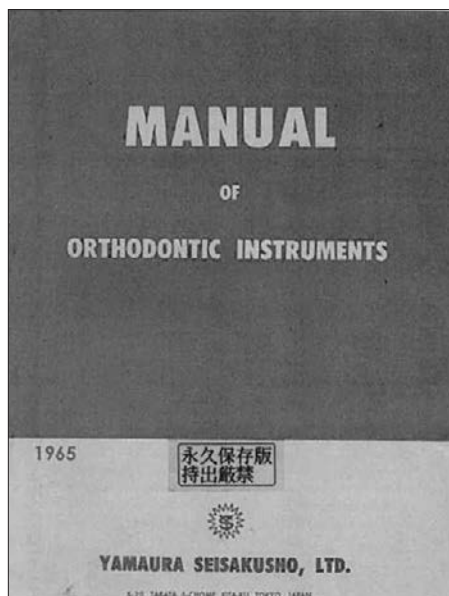
新しいテクニックの導入と並行して、矯正器材の輸入と国産化に拍車がかかることとなる。現在の矯正関連企業の多くは、期せずしてこの頃に活動を開始している。

戦後いち早く、エスエス・ホワイト社のセメントが矯正用材料として前出の石井房次郎氏によって輸入されている。

また、終戦直後から矯正器材の輸出入に深く関わった一人に天野隆芳氏(現・株ナカデンオーバース代表)がいる。

天野氏はもともと、米軍をリタイアしたりチャード・リッチマン氏が東京都港区に創設した貿易会社、ハウス・オブ・マルコポーロを通して、主にハンドピースの輸出に携わっていたが、海外の歯科事情に精通しているところから、海外のメーカーと日本企業との業務提携や販売契約を仲介することも少なくなかった。

天野氏は、一九六〇年代のはじめ(昭和三四年代中頃)にはすでに、山浦製作所(現・株ワイディエム)の矯正用ワイヤーをアメリカ向けに輸出している。そのモデルとなったのは同氏がアメリカから持ち込んだユニテック社のワイヤーであった。



日本初の矯正器材カタログ
(発行=山浦製作所=現(株)ワイディエム)

国産の矯正用ワイヤーは、その後、アメリカから帰国した三浦不二夫先生(現・東京医科歯科大学名誉教授)の指導によって、その性能は飛躍的に向上し、輸出货量は急増した。先発の山浦製作所のほかに、塩田歯科器械製作所(現・株シオダ)がその製造にあたっている。

一九六四(昭和三九)年に山浦製作所は「マニアル」という製品カタログを発行している。わが国で初めての矯正用器材を集約したカタログで、高橋新次郎先生の顎態模型診断器なども収録されている。

当時、山浦製作所に勤務していた小川清氏はその後、ミツバ医療用具(現・株ミツバオゾンサプライ)を設立し、大学矯正科、矯正医などの求めに応じて、TPオーソドンテックス社、Aカンパニー社、オームコ社などの矯正器材の販売を手がけているが、これらの輸入業務に関わったのは天野氏である。



国産初の矯正用プライヤー
(製造=山浦製作所=現(株)ワイディエム)

輸入の促進と国産品の台頭

高橋先生の「アメリカで見聞した話」(昭和三〇年・歯界展望)をはじめ、その他の記録によれば、当時、アメリカにおける規模の大きい矯正器材のメーカーとして、ユニテック社(カリフォルニア州・モンロビア)、ロッキーマウンテンオーソドンティックス社(コロラド州・デンバー)、オームコ社(カリフォルニア州・オレンジ)、の名を挙げている。高橋先生の見聞記によれば、ユニテック社は主としてアメリカの西部から中部を、ロッキーマウンテンオーソドンティック社は主に東部をテリトリリーとしていたようである。

一九六〇年代のはじめから一九七〇年代(昭和三〇年代後半〜五〇年代前半)にかけて、これらアメリカの矯正器材が相次いで輸入され、わが国における歯科矯正市場はにわか活況を呈することとなる。

わが国における矯正器材関連企業の系譜を知るためにも、これらアメリカの主要器材の日本進出時の経緯を振り返っておく必要がある。各社の詳細な沿革については第二部を参照いただきたい。

ロッキーマウンテンオーソドンティックスの製品は一九六三(昭和三八)年頃から(株)モリタによって本格的な輸入が開始され、一九七三(昭和四八)年には両社の合併により、(株)ロッキーマウンテンモリタ(森田福男代表)が設立されている。

以降、ロッキーマウンテンモリタは、ダイレクト・ボンディング・システムに代表されるハイテク製品の開発並びに海外への輸出という双方向取引の領域を拡充しながら現在に至っている。

ユニテック社の製品が正式に輸入されはじめたのは、三金工業(株)が販売契約を結んだ一九六九(昭和四四)年二月以降である。それまでも三金工業は自社の印象材などの補綴材料をアメリカのユニテック社に輸出する傍ら、散発的ではあるがユニテック社の矯正器材の販売にも関与していた。三金工業はその後、ドイツのデントラム社(フォルツハイム)の製品の販売も手がけている。

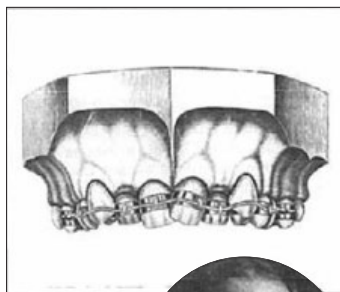
これらの海外メーカーと三金工業の提携を仲介したのは前出の天野氏であるが、同氏は

歯科矯正 閑話 ② 福原達郎

アンゲルが考えたブラケット

アンゲルは生涯に三七の特許を持ったという。確かにその歴史を追ってみれば、なかなかのアイディアマンであることがわかる。

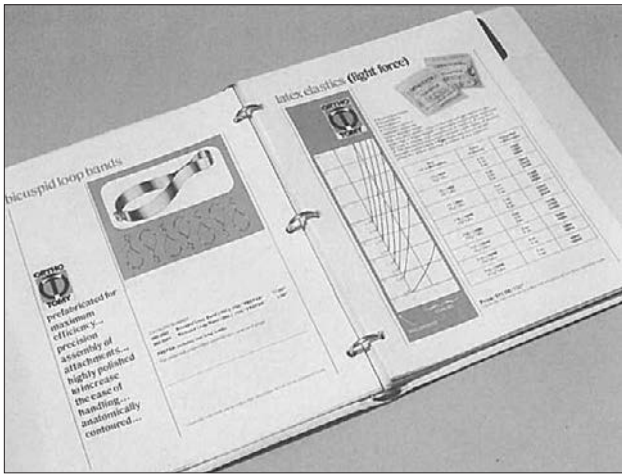
「最新かつ最良の矯正治療法」と自画自賛し一九二八年に発表されたものが、今日のエッジワイズ法のスタートであるが、同時にその時のブラケットが今日のエッジワイズブラケ



△1916年頃
のアンゲル
のブリケット

ットのプロトタイプである。
一九一五年頃から、アンゲルはいろいろな工夫を重ね、さまざまなブラケットを発表している。

抜歯により矯正治療法を開発したベッグもアンゲルスクールの最初の頃の弟子である。後にオーストラリアに帰国してベッグ法を確立したが、彼のブラケットも一九一六年頃のリボン・アーチ(紐状弧線)のブラケットを上下逆さまにしたものである。



昭和45～50年頃の輸出用カタログ
(資料=トミー(株))

一九六六(昭和四一)年、ハウス・オブ・マルコポーロの創設者の死去に伴い、その業務の一部を引き継ぎ、歯科矯正器材の輸出を目的に、アメリカのスパバデンタルプロダクツ社(カリフォルニア州・サンディエゴ)との合弁会社として、新しくスパバデンタルプロダクツ(株)(現・スリーエムユニテック(株))を設立している。

ロッキーマウンテン社、ユニテック社に次いで本格的な日本進出を果たしたのはオームコ社である。同社の製品は、同じく前出の天野氏の仲介により、一九七三(昭和四八)年に(株)シンワ(旧・(株)木野歯科商会)によって国内販売が開始されている。同時に、シンワはデントロニクス社(ペンシルバニア州・アイビーランド)の製品の販売も手がけ

ている。

オームコ社とシンワの関係は、一九七七(昭和五二)年のサンキンオームコの設立まで続き、その後、一九八三(昭和五八)年、トミー(株)の国内販売部門とシンワの矯正部門との合弁で現在の(株)トミーインターナショナル(木野和雄代表)を設立している。

一九七五(昭和五〇)年に、三金工業との契約終了を機にユニテック社の製品は、スパバデンタルプロダクツの後身である(株)ユニテックジャパンが販売することとなり、現在のスリーエムユニテック(株)に至っている。

一方、三金工業は一九七四(昭和四九)年に(株)サンキントレーディングを設立し、社長に天野氏を迎えている。一九七七(昭和五二)年、アメリカのオームコ社の株主の移動により、それまでシンワが担当していたオームコ社製品の販売権は三金工業へと移行し、同社は新しく(株)サンキンオームコ(田口國雄代表)を設立する。シンワの木野氏は取締役役に迎えられる。

さらに、一九九五(平成七)年には、オームコ社製品の販売はサンキンオームコの手を離れ、オームコジャパン(サイブロン・デンタル(株)・中澤孝夫代表)に移行し、現在に至っている。

このように欧米の主要な矯正器材が相次いで輸入される一方、国産品の開発・製造も積極的に進められていた。

トミーは、一九六一(昭和三六)年に国産のバンドやブラケットの試作品を完成している。翌年七月には新しく設立されたトミ

ー研究所のもと、本格的な製造を開始し、国内販売はもとより広く海外にも輸出されるところとなる。

山浦製作所、塩田歯科器械製作所が製造する矯正用プライヤー類については、先に触れた。

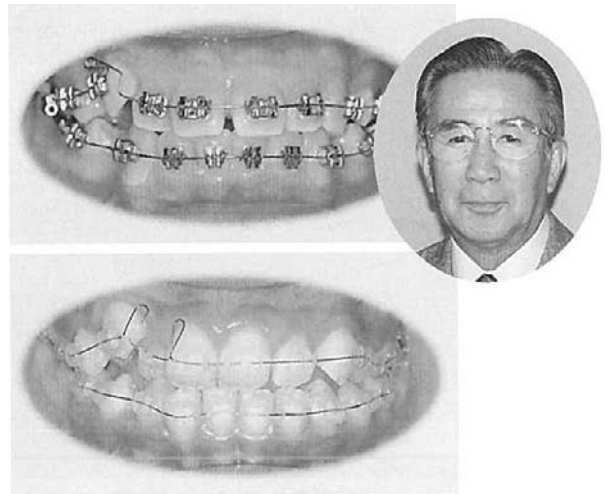
その後、塩田歯科器械製作所は、矯正用器材をメインとした歯科器具の輸出と国内の販売会社として(有)タスク(現・(株)タスク、塩田英雄代表)を一九六八(昭和四三)年に設立している。

同じく、山浦製作所は一九八六(昭和六一)年にアメリカカンオースドンティックス社(ウイスコンシン州・セボイガン)の製品並びに自社の矯正用インスツルメント類の販売を目的として(株)バイオデント(山浦彰一代表)を設立している。一九八〇年代(昭和五五年以降)に入ると、さらに多くの企業の参入がみられるが、これら新規参入企業のルーツを辿れば、多くの場合、既述した先発企業に行き着く。

歯科矯正のめざましい発展と新規参入企業

矯正器材の輸入と国産化が大きく促進された一九六〇年代は、七〇年代にかけての歯科矯正を取り巻く状況はどうであったのか。

一九六一(昭和三六)年の四月に国民皆保険制度と拠出制国民年金が発足している。世界に類を見ない国民皆保険制度の発足である。



ダイレクト・ボンディング・システム(DBS)による治療
(円内は三浦不二夫先生)

この年、東京医科歯科大学をリタイアした高橋新次郎先生が、東京・京橋に高橋矯正歯科研究所を開設し、初代所長に就任した。同大学の後任の教授には三浦不二夫先生が就任している。

同じく岩垣宏先生は一九五五(昭和三〇)年、お茶の水に岩垣矯正歯科研究所を開設している。

黎明期を支えた重鎮の業績を踏み台として、わが国の矯正歯科界はその後、右肩上がりの発展を続け、時を経ずして欧米の矯正界に比肩するに至る。

一九六六(昭和四一)年頃からダイレクト・ボンディング・システム(DBS)の研究がスタートしている。歯面に直接ブラケットを接着するこの革新的なテクニックの

研究は東京医科歯科大学の三浦不二夫教授らによって進められ、その斬新な発想と術式は、日本の歯科矯正学並びに素材技術のレベルの高さを世界にアピールすることとなった。特に、ストレートワイヤー・テクニックをはじめ、多くのテクニックの技術的な後楯として貢献したことは周知の通りである。

一九七三(昭和四八)年には日本臨床矯正歯科医学会(以下、矯正歯科医学会)が発足している。前身は関東地区の矯正専門開業医の集いの第二金曜会である。初代会長は大坪淳造先生(東京都港区・開業)で、当初約二〇名でスタートした同会も、現在では会員数約三〇〇名を擁する矯正臨床最前線のオピニオンリーダーとして、治療技術の向上、矯正治療の啓発にリーダーシップを発揮している。

一九七八(昭和五三)年に、医療法の一部改正により、従来の「歯科」のほかに「矯正歯科」、「小児歯科」の診療科名の標榜が認可されている。「矯正歯科」に関しては、当時の日矯学会(三浦不二夫会長)の各方面に対する強い要望に応えて実現されたという経緯がある。

ちなみに、一九九八(平成一〇)年末における矯正歯科の標榜診療所は、単科標榜が約九六〇件、重複標榜は約一万二〇〇〇件となっている。

そのほか、一九七〇(昭和四五)年前後から、歯科矯正に関するセミナーや講演会が頻繁に開催されるようになった。

特に、欧米の著名な矯正家はいずれもこ

の頃に来日している。その後、その考え方やテクニックは日本の学界や臨床界に広く浸透し、研究会やスタディグループの名のもとにセミナー、講演会が継続して実施されている。

エッジワイズ・テクニックのD.r.ヒト・スエヒロについては、先に触れた。

バイオプログレッシブ・セラピーの創始者であるD.r.リケッツの来日は一九七二(昭和四七)年以降、数次に及んでいる。D.r.リケッツの理論をもとに独自の診断と成長予測法を体系化したD.r.グジノのコースは毎年開催されている。

一九七七(昭和五二)年には、当時ツイードファンデーションの会長で、レベルアンカレッジ・システムの考案者でもあるD.r. ルートが来日し、同じくD.r.ツイードの考え方を基本として独自の治療体系を確立したD.r.アレキサンダーは一九七九(昭和五四)年に来日している。一九八一(昭和五六)年にスタートしたセミナーは、その後、毎年開かれている。

ストレートワイヤー・テクニック(SWA)の生みの親であるD.r.アンドリュースの初来日は一九八二(昭和五七)年である。SWAをもととしてロス・フィロソフィーを確立したD.r.ロスのコースは今なお随時開催されている。

一九八五(昭和六〇)年にはマルチルーブ・エッジワイズ・システムの講師としてボストンのD.r.キムが来日している。

そのほかにもシカゴ大学のD.r.グレーバ

1、ミシガン大学のD.r.モイヤー、トロント大学のD.r.ウッドサイド、ミシガン大学のD.r.マクナマラなど、この頃の来日をきっかけとして、日本の関係者との交流を深めてきた欧米のビッグネームは枚挙にいとまがない。

多彩なテクニクスの導入とともに、一九七〇年代後半から八〇年代(昭和五〇年代)平成元年頃)にかけて、矯正器材業界には新たな胎動が始まる。先発企業に加えて、新規企業の参入が相次ぐのもこの頃である。その経緯を簡単に振り返っておこう。

TPオーソドンティックス社(インディアナ州・ラポルテ)の製品は、一九七九(昭和五四)年に(株)エイコー(森村浩治代表)が販売代理契約を結んでいる。その後、販売権は一時、(株)ティピー・ジャパン(大竹喜一代表)に移行し、現在、ティピー・オーソドンティックス・ジャパン(小川伴陸代表)が担当している。

ティピー・ジャパンは(株)オーラルケアと社名を変更し、口腔衛生関連商品の販売を中心として今日に至っている。

Aカンパニー社(カリフォルニア州・サンディエゴ)の製品が本格的に輸入されたのは、一九八三(昭和五八)年、アメリカのジョンソンエンドジョンソン社の日本人である、ジョンソンエンドジョンソン(株)デンタル事業部によってである。一九九一(平成三)年三月には、販売権は(株)松風に移行した。その後一九九八(平成一〇)年に、米国のオームコ社は合併によりAカンパニー社を傘下に入れ、日本では二〇〇〇(平成一

二)年に、Aカンパニー社製品の輸入元がオームコジャパン(サイブロン・デンタル)となった。現在Aカンパニー社製品の販売はオームコジャパンと松風が行っている。

一九八四(昭和五九)年に、(株)ランサイインターナショナル(村上留治代表)が設立された。

一九八六(昭和六一)年には、(株)オーソガーナイザーズジャパンが設立され、同社の創設者の一員であった鈴木芳和氏は、一九八八(昭和六三)年に(株)メデिकाを設立している。村上氏、鈴木氏は共にユニテックジャパンからの転身である。

一九八六(昭和六一)年には(有)オーソデントラムが設立されている。代表者の外口和美氏は三金工業からの転身である。

矯正器材懇談会の結成

一九八二(昭和五七)年に、唇顎口蓋裂に起因する咬合異常の矯正歯科治療が健康保険に導入された。当時、日矯学会の社会医療理事であった福原達郎先生の尽力と唇顎口蓋裂の子供をもつ親の会「口友会」の運動の成果でもある。

一九八五(昭和六〇)年一二月に月刊「矯正臨床ジャーナル」(Journal of Orthodontic Practice 編集提携「アメリカJCO誌」が発刊された。わが国初の歯科矯正分野の月刊誌である。

平成元年、一九八九年に外科矯正に健康保険が導入された。当時、昭和大学の教授であ

った福原達郎先生(現・昭和大学名誉教授、東京都大田区開業)は、一九八二(昭和五七)年の唇顎口蓋裂の保険導入と併せて、『歯科矯正が社会保険制度の中で市民権を得た特徴的な出来事である』と位置づけている。

この年、「矯正歯科医療の高度な水準の維持と向上を図ることによって、適切な医療を提供すること」を目的とした日矯学会の認定医制度が発足している。歯科では口腔外科学会、歯科麻酔学会、小児歯科学会に次ぐ四番目の認定医制度である。

ちなみに、二〇〇〇(平成一二)年七月末現在、日矯学会の認定医は約一五八〇名である。

矯正歯科学、矯正臨床の飛躍的な発展と相俟って、新規参入の矯正器材メーカー、商社も漸増した。

このような状況の変化に対応すべく、いわゆる矯正器材業界における先発企業各社の担当者は、それぞれに同業者団体結成の必要性を感じていた。

当時、すでに歯科産業界においては各種の団体が存在し、多彩な活動を展開していた。以下はその主な団体と会員数(二〇〇〇、平成一二年九月現在)である。なお、社団法人日本歯科商工協会は歯科産業界関連の各種団体を束ねる組織として、一一一五社(名)の会員を擁している。

- 社団法人日本歯科商工協会
- 日本歯科用品卸商業組合 一九社
- 日本歯科器械工業協同組合 九六社

矯正器材懇談会

OCT, 22 '80

先般（10月4日）九州において矯正器材懇談会と仮称を決定されましたが、今後この会を進めるにあたり、下記項目等のご検討を願えればと存じます。

記

1. 事務局の設立
2. 役員を選出
3. 運営及びその予算化
4. 呼びかけ先の検討
(現在の賛助会員先別紙1)
5. その他

以上

矯正器材懇談会検討事項の連絡

昭和55年10月6日
東京都文京区湯島3丁目14番9号
株式会社サンキンオームコ
社長 北村虎雄

各位 殿

矯正器材（取扱業者）懇談会開催ご通知

謹啓 貴社益々ご隆昌のこととお慶び申し上げます。

近年、歯科器材業界におきましても矯正用器材及び関連器材を取り扱う企業が増えてまいりましたが、同時に標榜科名として“矯正歯科”が認められてより先生方も矯正に大きく注目されるようになってまいりました。

さて、日頃学会、展示会などではお互いに顔見知りではございますが、多くの関係者の方々より、お互いのコミュニケーションの場が欲しいとご要望が多く又、学会当局よりも業者への連絡窓口設定に関するご希望などあり、これを機会に関係者で一度ご懇談いたしたく提案させていただきましたので、よろしくご理解の上、ご協力いただけますれば幸甚に存じます。

敬具

提案者 発信人他提案同意者一同

仮 称 矯正器材懇談会

日 時 昭和55年12月1日（月）13：00～16：00

会 場 三金工業株式会社

東京都文京区湯島3-14-9 TEL. 03-836-2821

ご案内先 日本矯正歯科学会昭和55年度賛助会員

会場案内図 別紙ご参照

矯正器材懇談会（仮称）開催通知

各位 殿

拝啓

時下の候、貴社益々ご清祥の段、大慶に存じます。

さて、第一回の矯正器材懇談会が去る12月1日行われましたので、別紙の議事録を同送いたします。つきましては小社が窓口事務局となりましたので、今後の連絡事項等の発送に関し、ご面倒様でも下記の事項をご記入の上、事務局担当者宛にお送り願いますようお願い申し上げます。

敬具

..... キリトリ

会社名	
ご住所	〒 TEL.
担当部署	
担当者名	
ご意見	

各社連絡先書式

1980, 12.1

名 称 矯正器材連絡会（新しい会の名称）

事務局 東京都文京区湯島3-14-9

TEL. 03-836-2821

担当者 北村、山中

運営委員（世話役）

(株) サンキンオームコ

(有) トミー

(株) 山浦製作所

(株) ユニテックジャパン

(株) ロッキーマウンテンモリタ

運営委員会での協議

1. 会則（案）の作成準備（含・会費問題）

2. 本会の目的と業務範囲の検討

3. 本会の運営のあり方、今後の方向づけに関しての草案作成

4. その他

第1回矯正器材懇談会における協議事項

は、一九八〇（昭和五五）年の第三九回日矯学

日本歯科材料工業協同組合 八九社
 日本歯科薬品協議会 二社
 日本歯科用品輸入協会 五二社
 日本歯材同友会 二社
 日本歯科企業協議会 九二名

団体結成の構想が関係各社に提案されたの

各位 殿

矯正器材懇談会（仮称）議事録

日時 昭和55年12月1日 13:00~15:30
 場所 三金工業（株）東京本社会議室
 出席者（アイウエオ順）

（株）サンキンオームコ、三金工業（株）、シオジデンタルラボ、塩田歯科器械、（株）シンワ、東京エンジン工業（株）、（有）トミー、（株）日本歯科工業社、（株）ニッシン、ピアステック事業部、（株）ミツバ、（株）モリタ、（株）モリムラ、（株）山浦製作所、（株）ユニテックジャパン、（株）ロッキーマウンテンモリタ、以上16社

各自自己紹介の後本懇談会の趣旨について提案者より説明があり協議に入った。

1. 本会の設置 出席者全員の総意により本会の設置を決定。
2. 本会の名称 矯正器材連絡会と称する。
3. 事務局の設置 本会の事務局を下記へ設置する。
東京都文京区湯島3-14-9 湯島ビル4F
（株）サンキンオームコ内（担当 北村、山中）
TEL. 03-(836)-2821
4. 会員資格 日本矯正歯科学会賛助会員に限る。
5. 本会の主たる目的 同業各社のコミュニケーションを図ることを主目的とし、当面情報交換などの連絡業務を中心とした活動とする。
6. 運営委員会 本会の運営を円滑化する目的で世話役として下記の者で委員会を構成する。（アイウエオ順）
（株）サンキンオームコ
（有）トミー
（株）山浦製作所
（株）ユニテックジャパン
（株）ロッキーマウンテンモリタ
7. 運営 当面日矯学会などを中心とする先生方の情報などを主に各会員に提供する連絡業務を主とした活動とするが、本連絡会のあり方、今後の方向づけなどについて運営委員会で検討、各会員にはかりながら運営することとする。

以上

※配布先：55年度日本矯正歯科学会賛助会員

会福岡大会（高濱靖英大会長）においてであった。

当時の関係者によれば、福岡市内のニューオータニホテルにおいて、提案者を代表してサンキンオームコの当時の社長であった北村虎雄氏から、およそ次のような主旨説明がなされたとのことである。

『業界全体の体質強化のためにも、また、

日矯学会からの窓口設置の要請に因應するためにも、そろそろ何らかの情報交換の場をもつ必要がある。』

学会期間中に、団体の仮称は矯正器材懇談会とされ、学会終了後、改めて懇談会結成に向けての具体的な行動をとることが確認された。

福岡大会直後の一〇月六日に懇談会設立に

各位 殿

昭和56年8月12日
矯正器材懇談会事務局

矯正器材懇談会運営委員会議事録

去る6月24日（水）に運営委員会が行われましたので、ご報告申し上げます。

日 時：昭和56年6月24日（水） PM13：30～15：30

場 所：三金工業（株）会議室

出席者：運営委員会メンバー 7名

（有）トミー 今井氏

（株）山浦製作所

（株）ユニテックジャパン 古屋氏

（株）ロッキーマウンテンモリタ 山下/加納氏

（株）サンキンオームコ 北村/山中氏

議 題：

- 1) 第40回日本矯正歯科学会 行事日程表（別紙）
- 2) 第40回日本矯正歯科学会 協力賛助金について
- 3) その他

決定事項：

1. 1) の日矯学会別紙についての説明後、特に懇親パーティー等の協力賛助金についてどのようにするかが問題点となり討議された。
2. 日矯学会についての窓口は矯正器材懇談会として、日矯学会事務局へ複数で折渉する。
担当者 ロッキーマウンテンモリタ 山下氏
サンキンオームコ 山中氏
3. 1) 1案として1コマ当り、30,000円の協力賛助金までとする。総コマ数は、約70コマと見当して210万円相当の協力賛助金となる。
2) 3回のパーティーを2回にしよう案を示す。
4. 3-1)、2) で解決しない場合は、再度委員会を開く。
5. 折渉内容を会員に報告する。
6. 正式な依頼状は、学会事務局より各社へ発送しよう。
7. 7月中旬に折渉し委員会を開催し、8月上旬に会員に連絡する。

以 上

矯正器材懇談会運営委員会の議事録

各位 殿

昭和56年6月12日
矯正器材懇談会事務局

矯正器材懇談会 運営委員会開催のお知らせ

謹啓 貴社益々ご隆昌のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年12月以来滞っておりました会を、日本矯正歯科学会及び東京矯正歯科学会等の開催に関し、様々な行事が組み込まれていると聞いております。

つきましては、ご多忙のこととは存じますが下記の通り運営委員会を開催いたしたいと存じますので、ご出席願いますようお願い申し上げます。

敬具

記

日 時：昭和56年6月24日（水）

PM13：30～15：30

場 所：三金工業（株）東京本社2階会議室

配布先：運営委員会メンバー

（有）トミー殿

（株）山浦製作所殿

（株）ユニテックジャパン殿

（株）ロッキーマウンテンモリタ殿

（株）サンキンオームコ殿

矯正器材懇談会運営委員会開催の通知

歯科矯正
閑話 ③ 三浦不二夫

米軍歯科診療所からの戴きモノ（その二）

私のインストラクターだった榎教授も高橋教授の補佐役として米軍歯科診療所にしばしば出入りしていた。

会議室へ行くには診療所の傍らを通ることから、その一隅に文献では見たことのあるレントゲン・セファログラフィーが設置されているのに気付かれた。将来の矯正診断にはこの装置の活用が必須であるとして、以後、そ



榎先生
(1906～1998)

こを通るたびに、横目でそれを眺めて装置の形体を脳裏に焼付け、帰宅してからそれをノートに書き止めたそうである。

ちょうどその頃、先生の母校、日本歯科大学から教授就任の話があったので、その条件に、ノートに書き止めた装置の実現を希望された。

かくして日本製レントゲンセファログラフィー第一号機が日本歯科大学に設置され、いわゆるセファロに関する研究が始まった。

矯正器材連絡会開催御案内

矯正器材連絡会
世話人 山下道男

各位 殿

新年明けましておめでとうございます。

貴社に於かれましては、益々御繁栄のこととお慶び申し上げます。又、本年の業績拡大への決意を新たに御活躍のことと存じ上げます。

さて、下記の通り、例会（新年会）を開催致したくここに御案内申し上げます。今回特別講演を企画致しました。全員御参加の程宜しくお願い致します。

—記—

- 日時：平成3年1月30日（水） 13：30～17：00
特別講演…13：30～15：00
例 会…15：15～17：00

（平成3年度会の運営について&その他）

- 場所：株式会社ロッキーマウンテンモリタ会議室
千代田区神田淡路町2-23
☎ 03-3251-4631（代）

- 特別講演：
テーマ「歯科マーケットの現状と将来展望について」
講師…稲岡 勲氏
（デンタル・ビジネス・マネージメント・センター）

尚、年会費を下記口座へ1月24日（木）迄にお振り込み願います。

金 額：10,000円
口座番号：協和銀行 神田支店
協和普通預金 126-004815
キョウセイキザイ レンラク ヤマシタ

矯正器材連絡会開催通知

向けた最初の懇談会開催の通知が日矯学会の賛助会員各社に配布された。
当時の賛助会員は次の通りである（順・社名は原文のまま、法人表記略）。

ヨシダ、白水貿易、松風陶歯製造、医歯薬出版、サンキンオームコ、三金工業、ニッシン、山浦製作所、長田電気工業、日本歯科工業社、トミー、ピアス、東京エンジン工業、而至歯科工業、ミツバ、シンワ、ロッキーマウンテンモリタ、ライオン、阪神技術研究所、

塩田歯科器械製作所、ユニテックジャパン、シオジデンタルラボラトリー、モリムラ、モリタ

一二月一日に矯正器材懇談会（仮称）の初めての会合が三金工業東京本社との会議室で開催された。日矯学会福岡大会からわずか二カ月余りのことである。

当日の議題と議事録は別掲の通りである。懇談会の運営に関しては、選任された運営委員会が適宜協議し、全員にはかつて会の意

思を集約する方法が採られたが、当面の業務は日矯学会や各地区学会における商社展示に関する会員間の意見調整と主催者との折衝であった。

一九八一（昭和五六）年六月には、運営委員が、日矯学会（本橋康助大会長）並びに東京矯正歯科学会（瀬端正之大会長）の展示について協議している。運営委員会開催の通知と議事録は別掲の通りである。

以後、日矯学会の商社展示に関する協議は、年度によっては必ずしも同一対応ではなかったもの、おおむね五六年度の協議事項を基本として学会側と折衝している。

五八年度は、サンキンオームコが懇談会を代表して飯塚哲夫大会長（現・愛知学院大学名誉教授）と折衝している。この大会では会期中、学会の要請により商社展示とは別に、各社が取り扱い製品やテクニクについてPRを行う場が設けられた。

翌、五九年度は、岡山大学の中後大会長の上京と併せて、三金工業において展示会に関する協議がなされている。

また、東日本はサンキンオームコとヨシダ、西日本はモリタというように、全国に拠点をもつ企業や大会の主幹校に出店している企業が事務局との折衝を代行し、その結果を懇談会各社に連絡する年もあった。

一九七五（昭和五〇）年の岐阜大会（岸本正大会長）、一九九二（平成四）年の大宮大会（清村寛大会長）ではヨシダが担当し、一九八七（昭和六二）年の徳島大会（河田照茂大会長）や一九八九（平成元）年金沢大会（須佐美

矯正器材連絡会議事録

平成3年1月30日（水）13：30～17：00

13：00～15：00 特別講演 歯科マーケットの現状と将来の展望について

講師 稲岡 勲氏

(デンタル・ビジネス・マネージメント・センター)

15：00～17：00 例会議事

1. '90年度日臨矯総会（埼玉）での業者展示に対する感謝の意を（株）トミーインターナショナル御代川氏が代弁して述べた。
引き続き、'91年度以降の展示についての打診が日臨矯会長よりあったことに関し13社の今後の参加姿勢を検討。この結果コマ代、開催場所等々問題はあるが積極的に参加する意向を日臨矯会長に申し出る事でまとまった。

1. 今後の矯正器材連絡会の在り方に関して矯正業界の中での位置づけ及び立場等を考えてしっかりした組織にしていかななくてはいけないという考え方から出席者総意に基づき会長を決定した。

会長 (株) ロッキーマウンテンモリタ

取締役マネージャー 山下道男氏

その後、会長の任意により執行部役員を選定し会則案を作成する事とし、それを基にして会合の時に細部に渡り検討することにして閉会とした。

出席者 10社

欠席者 3社

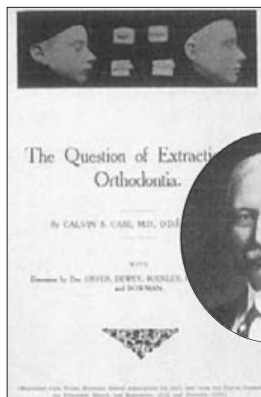
(株) オーツオーガナイザー (有) オーツデントラム
ジョンソン&ジョンソン (株) デンタル営業部

矯正器材連絡会議事録

歯科矯正 閑話 ④ 福原達郎

アングルの抜歯不可論をめぐる史実

アングルの抜歯不可論は当時の歯科矯正学の教義であった。それを決定づけたのは、抜歯論者とされたケースとの一九一一年の抜歯論争である。大学でも、教科書でもそう教えられた。しかし、この論争にアングルは参加せず論争の大役には、高弟のデューイ(サルツマン先生の恩師)があてられた。アングル



△カルビン・ケース博士(円内)と1911年の論文

は自説に反対する者とは、口もきかず同じレベルにもつかない性格の持ち主であった。

実は、アングルもかつては熱心な抜歯論者であった、と言うとびっくりして驚く人が多い。しかし、これは紛れもない事実なのである。一九〇三年の論文に、アングルは自分で

もそう書いている。なによりそれまでの教科書が雄弁に物語っている。抜歯不可論は第七版からはじまるが抜歯の必要性を強調した第六版は、一冊を残して地上から消えたという。

隆三大会長)では、モリタが折衝にあたって

いる。
また、学会の開催中に、翌年の大会長、事務局長、運営委員の間で、商社展示についての基本的な話し合いがもたれる年もあった。

懇談会から協議会へ

矯正器材懇談会の発足前後から平成のはじめにかけて、歯科矯正界を取り巻く状況にも新たな変化が生じた。

前述の標榜制度の実施、唇顎口蓋裂、外科矯正の保険導入、認定医制度や生涯研修制度などの諸制度の発足に加えて、矯正治療を提

供する歯科医師・診療所の増加、国民の矯正治療に対する理解の広がりなどである。

このほかにも、日本咀嚼学会、日本審美歯科学会、顎変形症学会、日本接着歯学会などの関連学会が次々と設立され、歯科矯正は名実共に包括的歯科医療の一翼を担う重要な分野として、隣接分野から大きな期待と関心が寄せられることとなる。



山下道男会長

昭和37年、(株)モリタ入社。貿易部に所属。昭和48年、(株)ロッキーマウンテンモリタ設立と同時にマネージャーとして同社に就任。平成3年常務取締役。現在、同社顧問。平成3年から平成9年まで日本歯科矯正器材協議会会長。

(器材協議会発足当時の会員社・五〇音順)
 (株)オーソオメガナイザーズジャパン
 (有)オーソデントラム
 (株)サンキンオームコ

このような時代の変化に対応すべく、一九九〇年～一九九一年(平成二～三年)のはじめにかけて、懇談会の歯科矯正界の中での位置づけを一層明確にするため、会の目的や会員資格の整備など、会の在り方そのものを再考してみようとの気運が高まってきた。対外的に積極的に行動していく組織への衣替えである。このような動きを受け、一九九一年(平成三年)一月の新年会を兼ねた例会において、会則の見直しと業界発展のための施策等、再出発に向けての準備作業のための連絡会が設けられ、山下道男氏(現・(株)ロッキーマウンテンモリタ顧問)が代表世話人に指名された。同年四月一日、主要メーカー、商社一三社の参加を得て、日本歯科矯正器材協議会(以下、器材協議会)(英語名=Orthodontic Suppliers Association of Japan)の名称のもとに、新しい組織が発足することとなる。初代会長には世話人の山下氏が就任した。



器材協議会発足時の集合写真

前列左から三上、古屋、北島、山下、御代川、村上。

後列左から鈴木、伊藤、外口、宮島、長谷川、藤野、小川(敬称略)。

ジョンソン&ジョンソンメディカル(株)
 テイ・ピー・ジャパン
 (株)トミーインターナショナル
 (株)バイオデント
 (株)ミツバオーソサプライ
 (株)メデिका
 (株)ランサーインターナショナル
 (株)山浦製作所
 (株)ユニテックジャパン
 (株)ロッキーマウンテンモリタ

平成三年度の役員(当時の役職)
 会長 山下道男
 (株)ロッキーマウンテンモリタ常務取締役)

副会長 山中喜彦
 (株)サンキンオームコ取締役
 会計理事 古屋雄三
 (株)ユニテックジャパン代表取締役専務
 庶務理事 御代川和寿
 (株)トミーインターナショナル専務取締役
 監事 山浦彰一
 (株)山浦製作所代表取締役社長)

会長の任期は二年である。初代会長の山下氏は一九九一年(平成三)年までの三期六年間、会長職を務める。一九九一年(平成三)年には、第五〇回日矯学会記念大会(作田守大会長)並びに第一回アジア太平洋矯正歯科学会議が大阪・ロイヤルホテルを会場に開催されている。一九三二(昭和七年)に第一回日矯学会大会が開催されてから六〇余年後のことである。欧米と肩を並べるまでになった日本の歯科矯正界が、世界に向けて最新の知識と技術を提供していくターニングポイントともなった記念すべき大会であった。

内外の企業を含め、商社展示も四〇数社にのぼった。また、コンピュータ時代にふさわしく、新しい試みとしてコンピュータ関連製品の専用展示場が設けられた。

また、この年の一月には、矯正歯科医学会鹿児島大会の会期中に、鹿児島大学の伊藤学而教授の呼びかけにより、矯正科の教授陣と器材協議会役員が一同に会し、大学に対する要望や、今後の患者啓発についての意見交換が行われた。



器材協議会主催のカクテルパーティ
(サンフランシスコ・ANAホテル)

この間の特筆すべき催事として、一九九五(平成七)年五月にサンフランシスコで開催された第九回アメリカ正歯科学会(AAO)の会期中に、当地のANAホテルで開催された器材協議会主催のカクテルパーティ「NIKKEI Invitational Cocktail Party」がある。

アメリカで活躍する日系の矯正医と日本の矯正医との懇親を目的としたパーティの参加者数は二〇〇名を越え、アメリカ矯正歯科学会のウイリアム・デコック会長、リー・グレイバー大会長、日矯学会の伊藤学而会長など、日米の重鎮がこぞって参加したこともあって、予定時間を過ぎても熱心な情報交換が繰り広げられ、器材協議会の名を知らしめる絶好の機会ともなった。

パーティには器材協議会の全社と欧米の取引先関係者も多数参加し、ホスト役として懇親会の雰囲気をおおいに盛り上げた。

また、このパーティの企画に際して、日系のD.R.グレン・マスナガ(ハワイ州・矯正専門開業)とD.R.ハリー・ハタサカ(カリフォルニア州・TMD専門開業)の絶大なる協力があつたことを付記しておく。

一九九五(平成七)年四月の総会では、(株)ワイデム・ヤマウラ(現・(株)ワイデイム)の石谷薫氏を招いて「医療環境の変化と薬事法改正」をテーマに特別講演会を実施した。薬事法やPL法(製造者責任法)に関する最新情報は、企業活動の根幹に関わる問題であるがゆえに、各社の関心は高く、熱心な質疑応答が行われた。

その後、患者啓発に関してはさしたる進捗は見られなかったが、あとで述べるように二〇〇〇(平成一二)年末になってようやく新しい展開を見ることとなる。

翌年の一九九二(平成四)年一月には、矯正歯科医学会の創立二〇周年記念大会が東京・フォーシーズンズホテル・椿山荘を会場に開催された。商社展示は二六社にのぼり、器材協議会を代表して山下会長が祝辞を述べている。

ちなみに、矯正歯科医学会における商社展示は、一九九〇(平成二)年の第一八回大宮大会から始まっている。

一九九六(平成八)年には、日矯学会の事業

歯科矯正 閑話 ⑤ 三浦不二夫

古代マヤ族のインレー

メキシコ国立民族博物館には前歯にトルコ石やエメラルドがインレーされている古代マヤ族の頭蓋骨が幾つも陳列されている。接着の研究をしてきた私には、それらがなぜ一〇〇年以上も接着されてきたのか不思議でならなかった。

ところが、メキシコの友人D.R.ファストリ



△古代メキシコ・マヤ族のトルコ石やエメラルドのインレー

ツチの父親が、すでに二〇年も前に、接着されていた宝石の下から白い粉をかき取り、その分析結果を報告していた。それによれば、カルシウムと隣に次いでシリコンが五%含まれていたというのである。

現在、どの接着剤もセラミック・ブラケットを接着するには五%のシリコンをカップリング剤として使用しているが、すでに古代マヤ族が経験的に五%のシリコンを使っていたことは全くの驚きである。



森田福男氏

(株)モリタ、(株)ロッキーマウンテンモリタ代表取締役。その後両社の会長、相談役を経て現在モリタ名誉会長。この間、日本歯科商工協会初代会長、歯科用品卸商業組合理事長、歯科企業協議会会長、FDI参与などを歴任。昭和61年藍綬褒章、平成4年勲四等瑞宝章受章。平成8年日本矯正歯科学会功労賞受賞。



川口健太郎氏

トミー(株)創設者の一員。昭和58年(株)トミーインターナショナル設立に伴い、代表取締役社長に就任。平成9年より同社取締役会長。平成8年日本矯正歯科学会功労賞受賞。

の推進に功労のあった個人または団体に贈る同学会功労賞の第一回授賞者に森田福男氏(株)ロッキーマウンテンモリタ創設者、現・(株)モリタ名誉会長)と川口健太郎氏(トミー(株)創設者の一員、現・(株)トミーインターナショナル会長)が選ばれた。企業家として初の受賞である。

両氏は、産学協同の推進者として矯正歯科医療の発展を支え、国際交流や学術大会をはじめとする学会の諸事業に長年に渡り貢献した偉大な先達であり、個人の輝かしい業績は言うに及ばず、歯科矯正器材業界あげての間断なき努力が広く認められた快挙でもある。また、この頃から器材協議会と日矯学会、

矯正歯科医会執行部との対話が頻繁に行われるようになり、商社展示に関するルールが徐々に明確化されていった。一九九二〜九七(平成四〜九)年に至る会員の動静は次の通りであった。

〔入会〕

- (株)ヨシダ一九九二(平成四)年
- HOYA(株)一九九二(平成四)年
- (有)タスク一九九四(平成六)年

各種委員会の設置と多彩な活動

一九九七(平成九)年、山下会長の後任として古屋雄三氏(スリーエムユニテック(株)代表取締役)が二代目会長に選任された。古屋会長はその後、二〇〇一(平成一三)年三月末日までの二期四年間、会長職を務める。

平成九年度の役員(当時の役職)

- 会長 古屋雄三
- (スリーエムユニテック(株)代表取締役) 副会長 北島喜彦
- (三金工業(株)矯正事業部営業部長)



古屋雄三会長

昭和43年スバパデンタルプロダクツ(株)入社。昭和51年代表取締役専務を経て、現社名スリーエムユニテック(株)代表取締役就任。平成9〜13年、日本歯科矯正器材協議会会長。

専務理事 御代川和寿

(株)トミーインターナショナル専務取締役

渉外理事 小川清史

(株)ミツバオーソソプライ代表取締役)

会計理事 宮島 勝

(株)松風営業部矯正課課長)

監事 山浦彰一

(株)ワイディエム代表取締役社長)

相談役 山下道男

(株)ロッキーマウンテンモリタ常務取締役)

山下会長のもとに、矯正界における器材協議会の認知という初期の目的を達成したあと、次なる目標として、四つの項目が掲げられた。

- 一 患者啓発
- 二 学術大会におけるイニシアティブをもった商社展示
- 三 会則を常に、時代に即したものに改正していく。
- 四 薬事他、法律上の問題の確認

古屋会長によれば、アメリカ矯正歯科学会(AAO)と業界組織であるOMA(Orthodontic Manufacturers Association)の協力体制をモデルとして設定した活動目標であるが、とりわけ一、二項目は重点課題とすることで意思の統一がはかられた。

これらの新しい目標に向けて対外的な活動を積極的に推進していくために、各種委員会が順次設置された。

一九九七(平成九)年六月には学術大会準備委員会(御代川和寿委員長)を立ち上げ、主に、日矯学会の商社展示のサポートを積極的に行った。

具体的には、委員会発足と同じ年の第五六回日矯学会(柴崎好伸大会長)から、商社展示の計画段階に準備委員が参画するようになり、翌一九九八(平成一〇)年の仙台大会(三谷英夫大会長)からは、商社展示の準備、運営、会計の一切が全面的に器材協議会に委託されることとなる。

矯正歯科医会大会における商社展示に関しても、準備と運営は器材協議会の遂行するところであり、日本人矯正歯科学会の学術大会では、展示への参加はもとより、毎年選ばれるEーライン・ビューティフル大賞に器材協議会として副賞の景品を贈呈している。

そのほか、日本MEAW研究会、バイオプロGRESS・スタディ・クラブなどの学術大会における展示会に關しても器材協議会の会員社が窓口として折衝にあたりている。

同じ年の七月には、会則検討委員会(北島喜彦委員長)を設置し、翌年の一九九八(平成一〇)年一月に、「本会の目的」の条文を見

直し、一九九九(平成一一)年七月には、「正会員」と「準会員」の区別、「役員と会務の分掌」などについての条項を改め、現在に至っている。

一九九九(平成一一)年四月には、社会医療検討委員会(小川清史委員長)が設置され、主に薬事承認、公正取引規約、ホームページに關する情報の収集と会員相互の意見交換をはかってきた。

特に、公正取引問題については二〇〇〇(平成一二)年冬期例会において、公正取引協議会歯科支部委員長の高橋勝美氏(株オムニコ代表)を招いて「医療用具の公正取引について」をテーマに、講演会を実施している。

さらに、同年の夏期例会において、歯科矯正器材産業界の歴史を記録としてとどめる計画が浮上してきた。

歯科産業界の中では比較的新しい分野とはいえ、時とともに関係者の記憶も薄れ、草創期の貴重な記録が散逸していくことは防ぎようがない。現在に至る矯正器材に關わる産業界の歩みを記録することは、今なら可能であるとの判断から生まれた企画である。

また、患者啓発問題については、多少の曲折はあったものの、二〇〇〇(平成一二)年の後半になってようやく進展の兆しが見え、この問題を討議するための懇談会(仮称「矯正歯科の啓発運動を考える会」)が翌二〇〇一(平成一二)年二月に開催された。

愛知学院大学の後藤滋巳先生(日矯学会国

歯科矯正 閑話 ⑥ 福原達郎

ロバ用のピカピカなトレー

上野動物園に「一文字号」というロバがいた。太平洋戦争の端緒となった盧溝橋事件で日本陸軍に現地徴用されたロバである。

ロジスチック要員として武器や食料の搬送に従事した。当時の寺内司令官が、軍功馬として上野動物園に送られた。東京オリンピックの頃、二八才の老齡(人間なら約九〇歳)で



△一文字号の歯型をとる石上先生と完成したロバの入れ歯

前歯も抜け、食欲も落ち「入れ歯」が必要になった。後に昭和天皇の侍医になられた石上健次先生(故人)が、兄の命令で入れ歯を作ることになった。話が伝わって馬用の大きなトレーが作成された。寄贈主は、当時の山浦製作所(現・株ワイディエム)の山浦慶治社長であった。ピカピカでは印象材がとれて困るのだが、立派なトレーであった。入れ歯をもらったロバは、毛並みもよくなりすぐ元気になった。ロバにも「歯は命」であった。

内渉外理事)の議事進行のもと、浅井保彦先生(岐阜市・専門開業)、筒井照子先生(福岡県北九州市・専門開業)、オプザバーとして矯正歯科医会の篠倉均会長(新潟市・専門開業)、大野肅英先生(神奈川県横浜市・専門開業)、器材協議会から古屋会長、御代川理事、小川理事が出席し、矯正歯科が一般の人々の身近な存在として受け入れられるための取り組みについて意見交換がはかられた。

一九九七〜二〇〇一(平成九〜一三年)に至る会員の動静は次の通りである。

〔入会〕

- (株)モリムラ 一九九九(平成一一)年
- (株)日本歯科工業社 一九九九(平成一一)年
- (有)インターグループ 二〇〇一(平成二三)年
- (有)バルビゾン 二〇〇一(平成二三)年
- 〔退会〕
- (株)オーストリアガナイザーズジャパン 一九九七(平成九)年
- (株)ヨシダ 二〇〇〇(平成一二)年

新しく器材協議会会員となった(有)バルビゾン(星野司代表)は、一九九一(平成三)年に創業されている。代表の星野氏は、ユニテックジャパン、ランサーインターナショナルを経営の創業である。

また、(有)インターグループ(中山登美子代表)は、白水貿易(株)の関連会社として一九九四(平成六)年に設立され主としてドイツのデントラム社の製品を取り扱っている。

産学臨協同の世紀を

二〇〇一(平成一三年)年、古屋会長のあとを受け御代川和寿氏(株)トミーインターナショナル専務取締役)が三代目会長に就任した。

平成一三年度の役員

会長 御代川和寿

(株)トミーインターナショナル専務取締役) 副会長 中澤孝夫

(サイブロン・デンタル(株)代表取締役) 専務理事 小川清史

(株)ミツバオーストリア代表取締役) 財務理事 猪股 康

(三金工業(株)矯正営業部部长) 渉外理事 宮島 勝

(株)松風営業部矯正課課長) 特務理事 山崎 裕

(株)ロッキーマウンテンモリタ代表取締役社長) 監事 古屋雄三

(スリーエムユニテック(株)代表取締役) 相談役 山浦彰一

(株)ワイディエム代表取締役社長)

平成一三年度の委員会

- | | | |
|-----------|-----|------|
| 商社展示運営委員会 | 委員長 | 小川清史 |
| 編集委員会 | 委員長 | 山崎 裕 |
| 社会医療委員会 | 委員長 | 宮島 勝 |
| 会則検討委員会 | 委員長 | 猪股 康 |

広報委員会 委員長 古屋雄三

編集委員会は、記念誌刊行のために臨時に結成され、編集委員長に特務理事の山崎裕氏が、委員に三上雄章氏(株)ワイディエム)、山下道男氏(株)ロッキーマウンテンモリタ)が選任された。

最後に、新しく選任された御代川会長は、器材協議会の今後の方向性について概要を次のように語っている。

「企業の社会性、あるいは責任性が問われる今日、歯科矯正器材を扱う我々企業は、矯正歯科医療を通じて社会に貢献するという使命をもっている。なぜなら、より良い矯正器材の研究と開発、そして製品ならびに情報提供することにより、国民の健康を守り、歯科矯正医療の発展に寄与できると考えているからである。器材協議会会則第二章には、本会の目的として、業界の健全な発展を図るとともに、よりよき歯科矯正医療に寄与すべく活動を行うことを目的とする」とある。設立二〇周年を迎える当協議会は、認知される会から開かれた会をめざすことを基本方針に、各種委員会を順次設置し活動を積極的に推進してきた。

今後は委員会をさらに充実させ、教育・研究に携わり学術発展に貢献される先生方や、矯正治療を通じ地域社会に貢献される臨床の先生方との協力のもと、産学臨協同を実現させながら、歯科矯正医療の発展に貢献すべく活動を展開してゆきたいと思っている。」

第一部「歯科矯正企業通史」は、以下のメンバーによる座談会を元に、編集部においてまとめたものである(二〇〇一年四月二〇日・ロッキーマウンテンモリタ本社会議室にて実施。敬称略、五〇音順)。

天野隆芳(株)ナカデンオーバサイズ)
 小川清史(株)ミツバオソソプラライ)
 北島喜彦(有)オソソデントラム)
 鈴木正三(有)インターグループ)
 古屋雄三(スリーエムユニテック(株))
 三上雄章(株)ワイディエム)
 御代川和寿(株)トミーインターナショナル)
 山下道男(株)ロッキーマウンテンモリタ)

〈主な参考文献〉

▽[Orthodontics: An Historical Review of its Origin and Evolution] Bernhard Wolf Weinberger THE C.V.MOSBY COMPANY 1929年

▽月刊日本之歯界「第一回矯正歯科学大会」44 21443 (株)歯苑社 1932年

▽歯界展望「米国における歯科矯正の現況」高橋新次郎 第6巻第3号 1949年 日本医学雑誌(株)

▽歯学史研究「初の国産歯科用品の製作者(第一回)」山田平太 第1号 1969年

▽矯正こぼれ話 高橋新次郎 永末書店 1972年

▽歯学史研究「国産歯科材料の展望」山田平太 第5号 1972年

▽三金五十年史 1977年 三金工業(株)

▽歯科矯正学生発達治療法(バイプログレッシ

ブセラピー) 三谷英夫訳 ロッキーマウンテンモリタ 1980年

▽DON(DENTA ORTHODONTICS NEWS) 1980年6月号〜1994年4月号(N01〜N036) 三金工業(株)オームコ事業部

▽一般矯正医のための実践歯科矯正・平野護・東京臨床出版 1986年

▽モリタ七十年史—希望の未来へ— 1977年モリタ70年史編集委員会

▽三浦不二夫退官記念誌 三浦不二夫教授退官記念事業会 1991年

▽日本矯正歯科学会雑誌「わが国の矯正歯科—その軌跡と方向—」福原達郎 日本矯正歯科学会第51巻特別号 1992年

▽星霜—二十周年記念誌— 日本臨床矯正歯科医学会 1993年

▽日本臨床矯正歯科医学会雑誌VOL5・10月・1993年

▽日本臨床矯正歯科医学会雑誌「日本における矯正書の歴史的考察」大野肅英、菅原勇、窪田勝信 VOL8・2月・1996年

▽日本臨床矯正歯科医学会雑誌 VOL12・3月・2001年

▽矯正臨床ジャーナルVOL1・2月・1985年〜VOL17・3月・2001年

◇ 第二部

齒科矯正企業通史Ⅱ (二〇〇一年～現在)

第1章 器材協21世紀20年の活動

発足からの二〇年

団体結成の構想が関係各社（日本矯正歯科学会賛助会員）に提案されたのは、一九八〇年一月第三九回日本矯正歯科学会（以下、日矯学会）福岡大会においてであった。提案者を代表してサンキンオームコの社長であった北村虎雄氏より「業界全体の体質強化のためにも、また日矯学会からの窓口設置の要請に応えるためにも、そろそろ何らかの情報交換の場をもつ必要がある。」旨の趣旨説明がなされた。

一九八〇年一月一日に開催された会の名称は「矯正器材連絡会」（その後矯正器材懇談会に）、第一回の参加企業は以下の一六社、運営委員会メンバーは以下の五社である。発足から定期的な会合が行われることはなく、日矯学会の窓口的役割として、運営委員会メンバーを中心に活動が行われている。

【参加企業】（五〇音順）

（株）サンキンオームコ／三金工業（株）／シオジデンタルラボ／塩田歯科器械／（株）シンワ／東京エンジン工業（株）／（有）トミー／（株）日本歯科工業社／（株）ニッシン／ピアステック事業部／（株）ミツバ／（株）モリタ／（株）モリムラ／（株）山浦製作所／（株）ユニテックジャパン／（株）ロッキーマウンテンモリタ

【運営委員会メンバー】

（株）サンキンオームコ／（有）トミー／（株）山浦製作所／（株）ユニテックジャパン／（株）ロッキーマウンテンモリタ

マウンテンモリタ

昭和から平成の初めにかけて、標榜制度の実施、唇顎口蓋裂／外科矯正の保険導入、矯正歯科治療を行う診療所の増加等歯科矯正界を取り巻く状況にも大きな変化が生じた。そのような中、矯正器材連絡会発足から一〇年が経過し、連絡会の歯科矯正界の中での位置づけを一層明確にするため、会の目的や会員資格の整備など、会の在り方そのものを再考し、対外的に積極的に行動していく気運の下、（株）ロッキーマウンテンモリタの山下道男氏が代表世話人となり一九九一年四月主要メーカー、商社一三社の参加を得て、新しい組織として「日本歯科矯正器材協議会」（以下、器材協議会）が発足した。初代会長は代表世話人の山下道男氏が就任した。

【発足時の会員会社】（五〇音順）

（株）オーソオメガナイザー／スジャパン／（有）オソデントラム／（株）サンキンオームコ／ジョンソンエンドジョンソンメデイカル（株）／（株）ティピイジャパン／（株）トミーインターナショナル／（株）バイオデント／（株）ミツバオーソサプライ／（株）メデイカ／（株）ランサーインターナショナル／（株）山浦製作所／（株）ユニテックジャパン／（株）ロッキーマウンテンモリタ

【役員】

会 長…山下道男（株）ロッキーマウンテンモリタ常務取締役）
副会長…山中喜彦（株）サンキンオームコ取

（縮役）

会計理事…古屋雄三（株）ユニテックジャパン代表取締役専務）
庶務理事…御代川和寿（株）トミーインターナショナル専務取締役）
監 事…山浦彰一（株）山浦製作所代表取締役社長）

特筆すべき催事として、一九九五年五月サンフランシスコで開催された第九回アメリカ矯正歯科学会では「NIKKEI Invitational Cocktail Party」を器材協議会で主催し、協議会の名を知らしめる絶好の機会となった。

矯正歯科界における器材協議会の認知という所期の目的は達成され、次なる目標として患者啓発、学術大会におけるイニシアティブをもった商社展示、薬事法ほか、法律上の問題の確認へと活動は広がっていく。

一九九七（平成九）年の第五六回日矯学会（柴崎好伸大会長、東京国際フォーラム）より、商社展示の計画段階から器材協議会役員が準備委員として参画するようになり、翌一九九八年第五七回仙台大会（三谷英夫大会長、仙台国際センター）からは、商社展示の準備、運営、会計の一切が器材協議会に委託されるようになった。

日本臨床矯正歯科医会（以下、矯正歯科医会）の商社展示は一九九〇年の第一八回大宮大会から始まり、毎年開催大会関係者と器材協議会役員との打ち合わせの上運営を行うようになった。特に二〇〇一年第二九回仙台大会からは後の企業プレゼンテーションに繋がる企業商品説明会がスタートし、二〇〇八年よ




第56回日矯学会商社展示開会式
左より、平出事務局長／柴崎大会長／伊藤学会長／古屋会長／御代川商社展示運営委員長

り日矯同様矯正歯科医会でも商社展示の準備、運営、会計の一切が器材協議会に委託されるようになった。こうした経緯を経て、器材協議会は二〇〇一年日矯学会と矯正歯科医会の協力団体となる。

二一世紀に入り、器材協議会の認知度は高まり、活動は多岐に広がっていく。

JAPAN ORTHODONTIC SOCIETY
C/O, ROHKU HOKEN KYOKAI, 1-44-2 KOMAGOME, TOSHIMA-KU, TOKYO 170, JAPAN



日本矯正歯科学会

日本矯正歯科学会事務局
〒170東京都豊島区駒込1-44-2
駒込経団地組合内
Tel: 03-3947-8891
Fax: 03-3947-8318

平成10年2月26日

日本歯科矯正器材協議会
会長 古屋 雄三 殿

日本矯正歯科学会
会長 伊藤学而

日本矯正歯科学会大会における商社展示の業務依頼について

拝 啓

本会の会務運営につきましては日頃からご協力を頂きまして有り難うございます。さて、学術大会の参加者はお陰をもちまして年々増加し、昨年については2,000名を超えました。こうなると大会事務局だけで運営するには負担が大きすぎます。そこで今年の第57回大会から、大会運営を大幅に合理化することにいたしました。

この一環として、従来は大会事務局で行っていた商社展示の業務を、歯科矯正器材業者の団体である貴協議会にご依頼しようということになりました。ただし商社展示には、本会の賛助会員であっても貴協議会に加盟していない商社も参加するのでこの方達も含めて公正に運営していただくこと、及び大会の企画・運営は本会の学術大会運営委員会で協議・調整することになっていきますので商社展示の企画・運営についてもここで協議していただくことの2点を希望いたします。

以上の条件を含めて、第57回大会以降の商社展示の業務一切をお引受け下さいますようお願い申し上げます。

敬 具

日本矯正歯科学会
伊藤学而会長からの委任状

2001年9月

製品説明会社各位

事前ミーティングの件

前略

日本矯正歯科学会 仙台大会での製品説明のお申込みありがとうございました。今回7社の製品説明となります。

つきましては、使用機器の関係で事前打ち合わせを行いたく、ご連絡申し上げます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

敬々

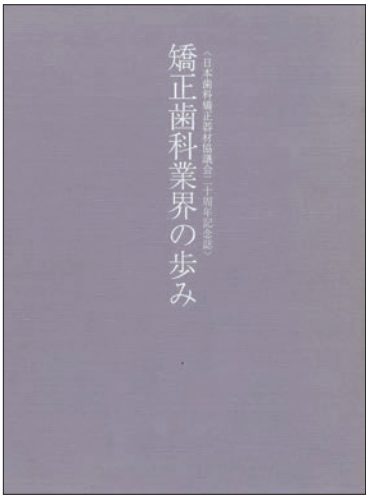
日時: 9月14日(金)19:00~20:00
場所: 展示会場(6Fミーティングルーム)前
持参頂くもの: 使用するノートパソコン、あるいはスライド(念のため、スライドカルセルも)。 ※液晶プロジェクターはパソコンを事前に5台まで接続可能ですので、各自のノートパソコンを使用していただくことができます。

何かご質問等ございましたら、(株)松風 営業部までご連絡下さい。

お問合せ先

(株)松風 営業部 矯正課 空島 耕
TEL: 03-3832-1824 / FAX: 03-3832-7682

第29回日本臨床矯正歯科医会仙台大会
製品説明事前ミーティング案内



器材協議会20周年記念誌表紙

第6期役員（2001, 2002年度=平13年4月～15年3月）

会長：御代川和寿（トミーインターナショナル）
 副会長：中澤孝夫（サイブロンデンタルオームコジャパン）
 専務：小川清史（ミツバオーソサプライ）
 特務：山崎裕（ロッキーマウンテンモリタ）
 渉外：宮島勝（松風）
 財務：猪股康（三金工業矯正事業部）
 監事：古屋雄三（スリーエムユニテック）
 相談役：山浦彰一（ワイディエム）

【商社展示運営委員会】 小川委員長/山崎副委員長/宮島委員
 【広報委員会】 古屋委員長
 【編集委員会】 山崎委員長/山浦副委員長
 【社会医療委員会】 宮島委員長
 【会則検討委員会】 猪股委員長

山下道男氏の第一～三期（六年）、古屋雄三氏の第四～五期（四年）の後、二〇〇一年三月の臨時総会にて（株）トミーインターナショナルの御代川和寿氏が三代目会長（第六期）として

就任、会員会社数一六社、役員は別表の通りである。器材協議会二〇周年記念誌「矯正歯科業界の歩み」の編集が第六〇回日矯学会大会に間に合うよう動き始め、一〇月一日に刊行された。

業界活動の広がり

二〇〇一年第六〇回日矯学会は、相馬邦道大会長の下、日矯七五周年記念式典、並びにアジア太平洋矯正歯科学会（APOS）設立等

があり、海外からの来客も多く、器材協議会も大会を盛り上げるため、会員会社一八社二三名が初日器材協議会ネーム入りの統一したユニホームを着て、接客にあたった。一〇月九日には、初めての企画として展示会場でアルコール飲食を伴う学会主催のインターナショナルフレンドシップパーティを後援し、多くの国内外の参加者に喜んでいただいた。一〇月一日には、学会との共同企画七五周年記念パネルディスカッション「矯正歯科と医療経営環境」を行った。パネラー

平成13年3月22日

日本矯正歯科商社の変遷に関する件

下記の項目について検討の上、本役員会で決定必要。

1) 表題

- 例1 日本矯正歯科商社の変遷
- 例2 日本矯正歯科企業30年の歩み
- 例3 日本矯正歯科商社の歴史の変遷
- 例4
- 例5
- 例6

2) 構成案についての最終見解（別紙）

3) ヒアリング時期 3月22日以降スタート

構成案決定次第スタートする。

ヒアリング先	協議会役員	(スリーエムユニテック 古屋雄三)	(トミーインターナショナル 御代川和寿)
		(ミツバオーソサプライ 小川清史)	(ロッキーマウンテンモリタ 山下道男)
		(ワイディエム 山浦彰一)	(松風 宮島勝)
他	ナカデンオーバーシーズ 天野隆彦	インターグローブ 鈴木正一	北島喜彦
		矯正医 鈴木元教授 資料なし	
エピソード (コラム扱い)		三浦不二男名誉教授	福原達郎名誉教授

4) 会員各社のプロフィール（フェースシート）の提出期限

2001年5月20日まで（提出あり次第、東京臨床出版よりコンタクトされる）

器材協議会20周年記念誌企画案



第60回日矯学会商社展示開会式
左より、小川商社展示運営委員長／相馬大会長／花田学会会長／御代川会長



2001年8月1日鬼怒川温泉にて夏季例会

会場設営
座長と6人のパネラーは壇上上がったまま進行できるような設営とする(両ソファ片ソファ7人か)

スケジュール案

9:00 座長あいさつ(趣旨説明・パネラー紹介)
御代川和寿 日本歯科矯正器材協議会会長

9:10~9:30 『医療経営の日本比較』 岡部 陽二(広島国際大学医療福祉学部医療経営学教授)
医療制度・医療費の日本比較(医療費は英国並に安く、制度面では米国に近い、が特論)
米国の医療経営に学ぶもの<この話に力点を置いていただくようお願いする>
内容(マネジメントと顧客ニーズに合わせるサービス意識の徹底)

9:30~9:45 『矯正治療と医療経済環境—現状と提言』
花岡 宏(矯正歯科広島市開業・日臨矯元会長)
経営環境の悪化の認識と提言
・専門医制度(厚生省認定?)の確立
・公的・私的医療保険の整備・国民と医療関係者の啓蒙

9:45~10:00 『矯正治療の啓蒙と質の向上を』
後藤 滋巳(愛知学院大学歯学部教授日矯渉外担当)
競争は喜ばしい、教育・研究・臨床の三位一体で臨床医育成を

10:00~10:10 『保険診療による矯正治療』 府川 俊彦(矯正歯科鎌倉市開業)
・矯正専門開業をアピールする意味で保険(特定療養費)患者を大事にしよう

10:10~10:30 ディスカッション・パート1
三人のドクターに対して、岡部(稲岡、秋元補足)が質問するかたちで
ベシッ的な質問をする
例 治療費の設定根拠は?
矯正を必要とする患者はどれくらい?有病率は?
これまでの学会などの啓蒙活動は、どのようなもの?

10:30~10:40 休憩

10:40~10:50 『患者を引き付ける医療経営』
稲岡 勲(株式会社デンタルマネジメントコンサルティング)
・患者志向の矯正歯科とは?・患者とのコミュニケーション

10:50~11:00 『患者に求められる矯正歯科』 秋元 秀俊
・矯正はもっともユーザー指向を求められる医療
・矯正歯科の健康指向の医療理念は一般市民に届いているか

11:00~11:25 ディスカッション・パート2
患者指向・ユーザー指向の観点を三人のドクターに向う

●三人のドクターの発言についてあまり拘泥しない、趣旨である「顧客志向」「ビジネスの視点」などに
ディスカッションの話題を集中するように岡部、稲岡と打ち合わせる。
●座長名で、入道が遅れたことのお詫び(急な依頼のお詫び)とディスカッションに遅きを慮ることで発言
時間が短いことの理解を求め、ディスカッションの論点をユーザー(患者)重視の矯正に置くことを伝える。

75周年記念パネルディスカッション
スケジュール案



75周年記念パネルディスカッション
開始前の御代川会長

は岡部陽二、稲岡勲、秋山秀俊、後藤滋巳、花岡宏、府川俊彦の各先生、御代川器材協議会会長が議長を務めた。

また、器材協議会ブースを設置し二〇周年記念誌と学会国内渉外と協力して作成した患者啓発ポスターを配布、患者啓発を行うにあたってアンケートを実施した。

この記念大会をきっかけに出展社数、出展小間数も飛躍的に増し、安定した商社展示運営が可能になっていく。この大会での出展社数は六三社、出展小間数は二三九小間と初めて二〇〇小間を大幅に超える状況であった。以降学会の参加登録者も展示小間数も安定的に増えていく。

2003年4月3日

【内容】

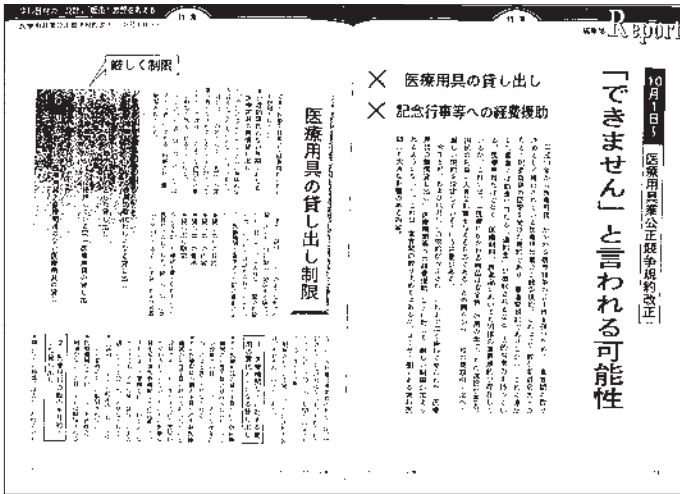
下記3つの項目を設ける。

1. トップページ
2. 協議会概要-20年史の電子データを利用。
3. 省級一学会(当初は日矯学会、矯正医会)、理事関連の情報は掲載し詳細については関係機関へリンクする。
4. Link-日矯学会、矯正医会、矯正専門店街、出版社、新聞社。
クイッテセンス出版 www.quintj.co.jp
医歯薬出版 www.ishiyaku.co.jp
ヒコーロン www.hyron.co.jp
デンタルダイヤモンド www.dental-diamond.co.jp
医学情報社 www.dentaltoday.co.jp

【費用概算】

合い見積りを取り、価格・サービス内容を確認して業者を決める。

- | | | |
|---------|-----------|----------|
| 1. 初期費用 | ¥138,000～ | ¥298,000 |
| 2. 維持費 | ¥28,000～ | ¥54,000 |
| 3. 更新費用 | ¥10,000～ | ¥45,000 |



医療用具業公正競争規約改正記事
(アポロニア21 11月号)

ホームページ開設案

各委員会の活動

広報活動においては、日矯学会の「矯正歯科の啓発運動を考える会」同様、矯正歯科医学会でも大々的な広報プロジェクトが始まったのがこの二〇〇一年からである。器材協議会も古屋広報委員長を中心に日矯学会、矯正歯科医学会への協力を進めていく。二〇〇二年四月の器材協議会総会において、矯正歯科医学会広報委員会の平木理事、池森委員長に「広報プロジェクトについて」のプレゼンテーションを行っていただいた。矯正歯科医学会は患者啓発広報に注力し、啓発雑誌発刊、二〇〇五年から始まるブレースマイルコンテストへ繋がっていく。器材協議会は二〇〇二年矯正歯科医学会第三〇回記念大会(文京シビックホール)での広報特別事業に協賛金を提供し以後の広報活動に協賛を続けている。

二〇〇二年六月、厚生労働省(以下、厚労省)より通達があった「医科向け医療用具添付文書の記載要領」により添付文書の義務化が始まる。社会医療委員会(後の薬事行政委員会)では、説明会を実施、同様に夏季例会で「医療用具業公正競争規約に関する報告」も行い医療用具の貸出制限、医療機関等への経費援助制限(親睦会合)記念事業(忘年会)新年会への金品提供の制限)についての説明会を行った。長年の慣習に慣らされ、公正競争規約上掲載不可の他社比較、カタログ上の強調表現、〇〇先生推薦等、理解を得るまで時間を要したが何度も説明会を行い少しずつ理解が得ら

れるようになっていった。

二〇〇二年一月二十五日、日矯学会より古屋雄三前会長と木野和雄(株)トミーインタナショナル代表取締役役に学会功労賞が授与される。

二〇〇三年二月に検討課題であった器材協議会ホームページ開設のための委員会(山崎裕委員長)を設置し、四月総会時報告ができるようたたき台の作成に入る。

内容として、① トップページ・組織構成、会員案内、② 協議会概要・設立年、設立目的、二〇〇一年記念誌の電子データの掲載、③ 情報・学会等(日矯学会、矯正歯科医学会)、④ Link、⑤ 薬事関連など

二〇〇三年四月三日第一三回通常総会を開催し、第七期会長として御代川和寿氏(株)トミーインタナショナル)が再任される。会員会社一九社、役員は別表の通り。

社会医療委員会にて薬事に関する諸問題を討議し、六月に日本歯科材料工業協同組合技術委員会より講師を招き、平成一七年施行予定の改正薬事法に関する説明会・検討会を開催している。

二〇〇四年度総会において矯正患者数市場調査にも繋がる国内の過去三か年に遡ってブラケット販売数量調査を行った。審美ブラケット(リングガル含む)とメタルブラケットに分け調査し、現在まで継続されている。二〇〇一年当時から現在(二〇二〇年)までの二〇年間ブラケット販売数量は約二倍となった。日本市場の特異性として、海外に比べ圧倒的に審美ブラケットの販売数量が多く、年々そ

第8期役員(2005, 2006年度=平17年4月~19年3月)

会長：御代川和寿 (トミーインターナショナル)
 副会長：中澤孝夫 (サイブロンデンタルオームコジャパン)
 山崎 裕 (ロッキーマウンテンモリタ)
 専務：小川清史 (ミツバオーソサプライ)
 渉外：宮島 勝 (松風)
 財務：猪股 康 (デンツプライ三金)
 監事：古屋雄三 (スリーエムユニテック)
 相談役：山浦彰一 (ワイディエム)

【商社展示運営委員会】 小川委員長
 【編集委員会 (HP 委員会)】 山崎委員長
 【社会医療委員会】 宮島委員長
 【会則検討委員会】 猪股委員長
 【広報委員会】 古屋委員長

第7期役員(2003, 2004年度=平15年4月~17年3月)

会長：御代川和寿 (トミーインターナショナル)
 副会長：中澤孝夫 (サイブロンデンタルオームコジャパン)
 専務：小川清史 (ミツバオーソサプライ)
 特務：山崎 裕 (ロッキーマウンテンモリタ)
 渉外：宮島 勝 (松風)
 財務：猪股 康 (デンツプライ三金)
 監事：古屋雄三 (スリーエムユニテック)
 相談役：山浦彰一 (ワイディエム)

【商社展示運営委員会】 小川委員長
 【編集委員会 (HP 委員会)】 山崎委員長
 【社会医療委員会】 宮島委員長
 【会則検討委員会】 猪股委員長
 【広報委員会】 古屋委員長

平成17年2月9日

日本歯科矯正器材協議会
 会員各位

前略

昨年12月の冬期例会でお話をさせていただきました「新患者数の調査」について下記
 を実行したく思いますので、ご協力お願いします。

草々

記

1. 貴社が販売したすべての右上中切歯ブラケットの数を算出していただき、平成17
 年度総会会場に持参してください。棄権はしないでください。
2004年度分 - それぞれの右上中切歯ブラケットの数。
 1) ブラケット数は、元売りの数(輸入または製造販売数)に限定してください。
 2) 輸出分は含めないでください。
 3) 国内で出荷したものすべて(サンプルを含む)を出してください。
 4) それぞれの年度は12月締めでも、3月締めでも結構ですが、昨年と同じ期間
 を使ってください。
 5) スタンダード エッジワイズ ブラケットのように左右共通のものは半分の数
 にしてください。
 6) ブラケットの区別は： 審美ブラケット(セラミック、プラスチック、コンポ
 ジット、リングル、審美セルフライゲータリング)とメタルブラケット(ステ
 ンレススチール、ゴールド、チタン)に分けて、数字をご用意ください。
2. 総会会場では、用意された計算機にその数を打ち込んでください。(他の人からは
 見えないように工夫します。)
3. ご協力いただきました会社には、合計数をお知らせします。

ご質問がございましたら、広報委員会・古屋まで E-mail 又は、お電話でお尋ねくださ
 い。

以上

広報委員会
 古屋 雄三

2005年総会
 ブラケット調査依頼案内



2005年3月9日古屋氏退職お祝い会
 古屋氏を囲んで、当時の役員

の占有が広がっていることである。二〇〇一
 年審美ブラケット(六六・〇%) / メタルブラ
 ケット(三四・〇%)が二〇二〇年審美ブラケ
 ット(八八・六%) / メタルブラケット(一一・
 四%)となっている。
 二〇〇五年四月一日第一五回通常総会を
 開催し第八期も御代川執行部が継続すること
 を可決する。会員会社二社、役員は別表の
 通り。
 二〇〇六年第六五回日矯学会札幌大会にお
 いて、商社展示ガイドブックを初めて作成
 し、大会参加章ネットワークストラップと併せ大会
 受付コーナーにて配布を行った。

Orthodontic Suppliers Association of Japan

平成 17 年 3 月 7 日

日本歯科矯正器材協議会
会 員 各 位

日本歯科矯正器材協議会
会 長 御代川和寿

【平成 17 年度通常総会・講演会開催のお知らせ】

拝啓 春寒の候、皆様方におかれましては、ますますご清祥の段お喜び申し上げます。さて、下記の通り平成 17 年度の通常総会を開催します。また今回、鹿児島大学名誉教授 伊藤 学而先生をお招きし、お話しただくと共に先生を囲んで懇談会並びに昼食会を企画しましたので、ご出席くださいますようお願い致します。

敬具

記

日 時： 平成 17 年 4 月 11 日（月）（会 場：新松 風 B1会議室）
 総 会： 10：00～11：30
 講演会： 11：30～12：30
 昼食会： 12：30～13：30

議 題： 1. 会務経過報告
 2. 平成 16 年度会計報告
 3. 平成 17 年度予算案
 4. 各委員会からの報告・協議事項
 5. 第 2 回「新患者数調査」（広報委員会）
 6. その他

講 演： 「これからの矯正歯科と器材協議会の役割」
 鹿児島大学名誉教授 伊藤 学而 先生

以上

出欠を 3 月 25 日（金）迄に FAX または Eメールにてご返信くださいますようお願い致します。
 fax：(03) 3258-2236 e-mail：miyokawa@tomy-ortho.co.jp

総 会： ●ご出席 ●ご欠席

貴社名： _____ ご出席者名： _____
日本歯科矯正器材協議会

2005年(平成17年)度総会案内



2005年11月29日冬季例会懇親会
特別講演演者 花田晃治新潟大名譽教授を囲んで

骨接合用品の適用内使用に向けて

二〇〇七年四月三日第一七回通常総会において、第九期会長に役員推薦の山崎裕氏が全員一致で決定する。会員会社二社、役員は別表の通り。

山崎執行部では、骨接合用品の適用外使用から適用内使用へ移行するため器材協議会内でのワーキンググループ発足（インプラントアンカーを文字つてIA委員会と命名）、厚労省指導による「二課長通知」に基づくサマリー案作成のための膨大な資料集め、文案作成、日矯学会並びに厚労省との折衝、該当五社への適応外商品としての販売方法遵守の徹底等、様々な対応を行った二年間

であった。

二〇〇三年初め画期的歯科矯正商品が骨接合用品として三金工業(株)から発売される。患者の協力を必要としない絶対的固定源としてのシステムであり、以後(株)プロシード、(株)バ イオデント、安永コンピュータシステム(株)、(株)松風四社の発売が続いた。当時は矯正用アンカーとしての薬事一般名称はなく、全ての会社がクラスⅢ骨接合用品で薬事承認を受けていた。しかし二〇〇六年頃より歯牙移動の固定源としての使用は目的外使用ではないかと言われるようになり、日矯学会のホームページ(二〇〇六年六月・二〇〇七年四月)を通

第9期役員(2007, 2008年度=平成19年4月～21年3月)

- 会 長：山崎 裕 (ロッキーマウンテンモリタ)
 副会長：御代川和寿 (トミーインターナショナル)
 ：宮島 勝 (松風)
 専 務：小川清史 (ミツバオーソサプライ)
 渉 外：大石邦雄 (バイオデント)
 財 務：井出 清 (スリーエムユニテック)
 監 事：中澤孝夫 (サイブロンデンタルオーモコジヤパン)

- 【商社展示運営委員会】 小川委員長
 【社会医療委員会】 宮島委員長
 【会則検討委員会】 猪股委員長
 【広報委員会】 御代川委員長

Orthodontic Suppliers Association of Japan

平成 20 年 3 月 日

日本歯科矯正器材協議会
会員各位

日本歯科矯正器材協議会
会長 山崎 裕

【平成 20 年度 通常総会・講演会のお知らせ】

拝啓 春寒の候、皆様方におかれましては、ますますご清祥の段お喜び申し上げます。
さて、下記の通り平成 20 年度通常総会並びに昭和大学 中納 治久准教授による「保険診療と矯正器材」に関する講演会を開催しますので、ご出席くださいますようお願い致します。

敬具

記

日時：平成 20 年 4 月 3 日（木）【会場：勝山 風 7F 会議室】
 総会：14:30～16:15
 議題：1. 会務経過報告
 2. 平成 19 年度会計報告
 3. 平成 20 年度予算案
 4. 各委員会からの報告・協議事項
 5. 「新患者数調査」
 6. その他

講演：16:30～18:00
 「保険診療と矯正器材」
 昭和大学歯学部歯科矯正学教室
 准教授 中納 治久先生

以上

出欠を 3 月 21 日（金）迄に FAX または E メールにてご返信くださいますようお願い致します。
 fax: (03) 3255-4090 e-mail: yamazaki@rmcc.co.jp

総会： ●出席 ●欠席

貴社名： _____ ご出席者名： _____

日本歯科矯正器材協議会

2008 年(平成 20 年)度総会案内

第 10 期役員(2009, 2010 年度=平 21 年 4 月～23 年 3 月)

会長：小川清史 (ミツバオーソサプライ)
 副会長：大石邦雄 (バイオデント)
 総務：外口和美 (オーソデントラム)
 渉外：宮島 勝 (松風)
 大島雅之 (ヨシダ)
 財務：中島実之 (スリーエムユニテック)
 広報：小林功一 (オームコジヤパン)
 監事：御代川和寿 (トミーインターナショナル)

【商社展示運営委員会】 宮島委員長
 【社会医療委員会】 大石委員長
 【広報委員会】 小林委員長

じて取り扱いについて注意喚起されるようになった。

二〇〇七年三月、日矯学会歯科材料安全対策検討班の山口班長(東京歯科大教授)より器材協議会に対し適用外使用から適用内使用へ移行するため、該当五社は足並みを揃え適用外商品としての販売方法の徹底、並びに器材協議会を窓口として厚労省へ対応するよう要請があった。これを受け、当該五社と器材協議会役員が集まり即時対応、日矯学会への協力依頼、厚労省/医薬品医療機器総合機構(以下、PMDA)への折衝等、二〇一一年一〇月に厚労省から各社申請に向け準備を進め

るよう指示を得るまで五年間の長く険しい作業に入っていく。

二〇〇八年四月三日保険点数改正に伴い矯正材料の保険診療に関わる講演を「保険診療と矯正器材」と題して昭和大学歯学部歯科矯正学講座講師の中納先生に行ってもらった。当時、矯正材料販売商社において矯正歯科治療は自費診療の認識が強く、特定保健医療材料の保険申請を行っている会社と行っていない会社が存在した。矯正治療への保険導入の歴史から適応病名、顎変形診療における保険請求の流れ、施設基準等詳細に解説していた。

産学官臨協力体制

二〇〇九年四月一六日第一九回通常総会において、互選にて第一〇期会長に小川清史氏が決定する。会員会社三社、役員は別表の通り。小川体制下、新執行部で取り組む喫緊の案件はインプラントアンカー(仮称)の適応拡大の実現である。新たに骨接合用品で承認取得したジーシーも加えた六社は行政指導の下、日矯学会の全面的な協力を得て、厚労省、PMDA、日矯学会、器材協議会による合同会議を複数回開催し、二〇一一年一〇月、機械的試

日本矯正歯科学会・協力医会・協力団体
（日矯、日臨矯、器材協）合同懇談会 議事進行（案）

日時：平成21年6月26日（金）18:30-21:30
会場：八重洲富士屋ホテル 5階あんず・なつめの間
出席予定者：
日本矯正歯科学会：後藤滋巳（理事長）、石川博之、小川邦彦、森山啓司（各常務理事）、
宮澤 健（幹事）
日本臨床矯正歯科医会：平本建史（会長）、浅井保彦（副会長）、野村憲世（専務理事）、
三村 博（会計理事）、土屋朋未（総務理事）、造藤信平（学術理事）、
丸山文幸（医療管理・共済理事）
日本歯科矯正器材協議会：小川清史（会長）、大石邦雄（副会長）、宮島勝（渉外理事）、
外口和美（総務理事）、小林功一（広報理事）
大島雅之（兼務担当理事）、御代川和寿（監事）

I. 開会の辞 日本矯正歯科学会 森山 啓司 総務担当理事

II. 挨拶ならびに出席者の紹介

日本矯正歯科学会 後藤 滋巳 理事長
日本臨床矯正歯科医会 平本 建史 会長
日本歯科矯正器材協議会 小川 清史 会長

III. 報告

① 日本矯正歯科学会
② 日本臨床矯正歯科医会
③ 日本歯科矯正器材協議会

IV. 協議

① 本懇談会の目的とその位置づけについて
② 3団体の協力のあり方について
③ その他

V. その他

① 今後の懇談会の進め方について
② その他

VI. 閉会の辞 日本臨床矯正歯科医会 浅井 保彦 副会長

2009年6月
合同懇談会議事進行案

夏季例会案内

日本歯科矯正器材協議会 会員各位

隔春の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
新体制になり業務行政、商社展示、広報など関係各団体との交渉に役員、委員一同邁進しております。特に、前 IA 委員会のご努力にも拘らず諸問題で停滞しておりましたインプラントアンカーの案件につきましては、行政・学会交渉、サマリー作成など新しい業務行政委員の皆様のご努力により突破口が開けました。会長と致しまして心よりお礼申し上げます。

さて、通常夏季例会を以下のように行いますので会員の皆様お忙しい中恐縮でございますがご出席の程よろしくお願いいたします。
なお、当日は、会務報告・議案の他、日本矯正歯科学会理事長 後藤滋巳先生に「学会と協力団体」という内容で一時間ほど御講演を頂く事になりました。理事長からも、学会協力団体の一つである器材協議会会員の皆様と意見交換が出来ればとのお話を頂いております。例会終了後理事長を交えて懇親会を開く予定です。また例年行われているブラケット動態調査を外口総務理事に取りまとめをお願いしております。ご協力よろしくお願いいたします。

日時 平成21年8月17日（月曜日）午後3時
場所 株式会社 松風楼 B1ホール

各委員会報告
ブラケット動態調査
日本矯正歯科学会 理事長講演
その他
懇親会 同日 午後5時30分より

出欠につきましては平成21年7月15日までに外口総務理事までメール又はFAXにてご連絡ください。

例会	出席	欠席	懇親会	出席	欠席
日本歯科矯正器材協議会 会長 小川清史					

敬具

2009年(平成21年)
夏季例会案内



2009年6月合同懇談会集合写真

矯正歯科医会においては、日矯学会同様、
を派遣し現在に至っている。

八月夏季例会時、日矯学会の後藤理事長を
招聘し「学会と協力団体」と題し講演をしてい
ただいた。また日矯学会の学術大会運営委員
会、国内渉外委員会、医療問題検討委員会、
倫理裁定委員会の委員として器材協議会役員
を派遣し現在に至っている。

八月夏季例会時、日矯学会の後藤理事長を
招聘し「学会と協力団体」と題し講演をしてい
ただいた。また日矯学会の学術大会運営委員
会、国内渉外委員会、医療問題検討委員会、
倫理裁定委員会の委員として器材協議会役員
を派遣し現在に至っている。

次に関係強化がある。二〇〇九年六月
二六日三団体理事懇談会を開催し、三団体の
協力の在り方について話し合った。

定し七月二十七日に官報にて告示された。
一般名称「歯科矯正用アンカースクリュー」と決
定し七月二十七日に官報にて告示された。

次に協力団体である日矯学会並びに矯正歯
科医会との関係強化がある。二〇〇九年六月
二六日三団体理事懇談会を開催し、三団体の
協力の在り方について話し合った。

後、遂に各社申請に向けての準備を進めるよ
う指示をいただくことができた。一月の六
社説明会にて申請書案・試験方法を確認し、
各社申請手続きに入る。二〇一二年六月、一
般名称「歯科矯正用アンカースクリュー」と決
定し七月二十七日に官報にて告示された。

第11期役員(2011~2013年度=平23年4月~26年3月)

会長：小川清史 (ミツバオーソサプライ)
 副会長：大石邦雄 (バイオデント)
 総務：外口和美 (オーソデントラム)
 渉外：宮島 勝 (松風)
 財務：大島雅之 (ヨシダ)
 広報：小林功一 (オームコジャパン)
 監事：御代川和寿 (トミーインターナショナル)

【商社展示運営委員会】 宮島委員長
 【社会医療委員会】 大石委員長
 【広報委員会】 小林委員長

矯正器材懇談会当時の一九九〇年第一八回大会(大宮ソニックスシティ)より商社展示が始まり、二〇〇一年第二九回大会(ネット仙台情報プラザ)において特別講演会後の一時間を割いていただき、初めての商社製品説明会を行い七社の申込みがあった。

二〇〇六年第三四回大会(新横浜プリンスホテル)では昼食時と午後の休憩時の各一時間をいただき、これが初めてのランチョン企業プレゼンテーションとなった。定期的な合同役員会も開催し広報活動を主として協力を続けている。二〇一二年一月ブレースマイルコンテストに関する合同役員会を開催

Orthodontic Suppliers Association of Japan

History of the Orthodontic Suppliers Association of Japan

1980 Orthodontic Instrument Conference established
 1991 Orthodontic Suppliers Association of Japan established (13 companies at establishment)
 2012 25 member companies

The orthodontic field has undergone significant changes from around the establishment of the first Orthodontic Instrument Conference to the early 1990s, including the adoption of a certification system that allows dentists to use the title of orthodontist, the introduction of insurance coverage for cheilionthopalatoschisis and surgical orthodontics, and the initiation of new systems such as the specialist certification system and career-long learning system. In addition, the number of dentists and clinics that provide orthodontic treatment has increased and more people have a better understanding of what orthodontic treatment is. A number of relevant specialist associations have also been established such as the Japanese Society for Mastication Science and Health Promotion, the Japan Academy of Esthetic Dentistry, the Japanese Society for Jaw Deformities and the Japan Society for Adhesive Dentistry. Through these changes and improvements, orthodontics has garnered high interest and expectations from those in related areas as a tangible field that plays an important role in comprehensive dental care.

To promptly address this transformation, from 1990 to 1991 there was an accelerated push to reconsider the image of the Orthodontic Instrument Conference, including its objectives and membership eligibility, in order to define its position much more clearly. At the 1991 New Year Annual Meeting, a group dedicated to preparing for the organization's rebirth was formed. Results from their discussions on the review of bylaws, actions to take to develop the industry and other relevant issues, yielded a new organization named the "Orthodontic Suppliers Association of Japan", launched in April 1991 with participation from 13 member companies. The President and board members of this Association each serve a term of two years. In 1991, the year of the Association's launch, the first Asian Pacific Orthodontic Society Meeting was held in Osaka concurrently with the 50th Anniversary Meeting of the Japanese Orthodontic Society. More than 40 companies displayed their products at the meeting, along with a new feature that was also set up, an exhibit booth dedicated to computer-related products.

After the Association achieved its initial goal of gaining recognition in the orthodontic field, its four objectives were defined as follows:

1. Raising awareness among patients
2. Encouraging companies to take the initiative on exhibits at scientific conferences
3. Amending bylaws such that the needs of the times could constantly be met
4. Identifying legal issues, including those in pharmaceutical affairs

These action goals were determined based on the cooperative relationship between the American Association of Orthodontists (AAO) and the Orthodontic Manufacturers Association (OMA), an industrial organization. We particularly emphasize items 1 and 2, and in order to promote activities to realize new goals, various committees have been established, including the Academic Conferences Preparation Committee, the Bylaw Review Committee, and the Social Health Review Committee.

Successive Presidents

First President Michio Yamashita (Rocky Mountain Morita Corporation)
 Second Yuzo Furuya (3M Unitek)
 Third Kazutoshi Miyokawa (Tomy International Inc.)
 Fourth Hiroshi Yamazaki (Rocky Mountain Morita Corporation)
 Fifth Kiyofumi Ogawa (Mitsuba Ortho Supply)

Executive Members for FY2012

 President Kiyofumi Ogawa Mitsuba Ortho Supply President	 Director of External Affairs Masaru Miyajima Orthodontic Department, Shofu Inc. Sales Deputy Director	 Auditor Kazutoshi Miyokawa Tomy International Inc. President
 Vice President Kunio Oishi Biodent Corporation President	 Director of Finance Masayuki Oshima Yoshida Dental Trade Distribution Co., Ltd. Director, University Sales Department	
 Director of General Affairs Kazubi Sotokuchi Ortho Dentaurum President	 Director of Public Relations Koichi Kobayashi Sybron Dental Specialties Japan, Inc. Ormco Japan President	

List of Member Companies

BARBIZON Inc. / BIODENT CORPORATION / DENTSPLY-Sankin K.K. / Forestadent Japan Co., Ltd. / GC CORPORATION / INTER GLOBE Ltd. / MEDIA CO. LTD / Mitsuba Ortho Supply Corp. / Morimura Dental Company / NIPPON SHIKAKOGYOSHA Co., Ltd. / Oralcare / ORMCO JAPAN, a division of Sybron Dental Specialties Japan, Inc. / Orthika International Ltd. / Ortho Dentaurum / Tok-Seed Corporation / Rocky Mountain Morita Corporation / SHOFU INC. / 3M Health Care Limited / TASK INC. / Tokuyama Dental Corporation / TOMY INTERNATIONAL INC. / TP Orthodontics Japan / Yoshida Dental Trade Distribution Co., Ltd. / YASUNAGA Computer Systems Co., Inc. / YDM CORPORATION
 In alphabetical Order

し、第四〇回記念大会(東京学術総合センター)前日の二〇一三年二月五日にブレースマイルコンテスト共同開催の調印式を行い小川会長が署名している。

二〇一一年四月七日、第二一回通常総会において第一一〇回会長に小川清史氏が再任される。会員会社二五社、役員は別表の通り。

二〇一一年、第七〇回日矯学会名古屋大会にて日矯学会においても企業プレゼンテーションが企画され器材協議会運営により現在まで継続開催されている。

二〇一二年、第七一回日矯学会盛岡大会では、学術会場と商社展示会場が徒歩圏外とな

ったため、参加者の会場間移動の手段としてシャトルバスの運行を行った。また今大会において日矯学会より御代川和寿元会長と山崎裕前会長に学会功労賞が授与されている。

二〇一〇年九月二十七日の日矯学会第六九回学術大会・社員総会にて承認された二〇二〇年9th IOC招致活動は二〇一一年四月一日に第一回IOC招致ワーキンググループ委員会が発足し、器材協議会からは小川会長と御代川氏が歯科商社代表として参加している。そして二〇一二年AAOホルル大会期間中の五月六日WFOプレジデントミーティングにおいて二〇二〇年横浜開催が決定し

2012年AAO、JOSフレンドシップパーティーでの
 器材協議会紹介プレゼン



2012年 AAO、JOS フレンドシップパーティー後、WFO 常任理事 森山誘致WG 委員長を囲んで

た。五月四日器材協議会がスポンサーとなり JOS フレンドシップパーティーが開催され、器材協議会役員は器材協議会ロゴ（OS AJ）入りポロシャツを着て接客を行った。二〇一三年度は役員改選年度であったが、協力団体である日矯学会、矯正歯科医会との役員改選時期と合わせるため小川体制を継続することになった。この年一〇月の日矯学会松本大会において小川会長に学会特別功労賞が授与されている。

薬事行政・法令遵守

二〇一四年四月四日の第二四回通常総会において、第一二期会長は役員推薦の宮島勝氏



2013年10月8日
第72回日矯学会商社展示開会式での後藤理事長ご挨拶

が全員一致で決定し新執行部がスタートする。会員会社二六社、役員は別表の通り。宮島執行部では、器材協議会会員会社は医療機器を取り扱う企業としての社会的使命・責任を認識し関連法規法令を遵守し、またその情報を共有するため代表メンバーだけでなく薬事担当者、営業責任者も参加できる勉強会、講習会を総会例会に併せ頻繁に行った。特にプロモーションコード／公正競争規約の講習会は腐敗行為防止、透明性ガイドラインへとつながり、公正な行動基準を実行する企業を目指すものである。協力団体である日矯学会、矯正歯科医会での商社展示要項には展示、広告において以下のことを厳守するよう注意事項として記載している。



第72回日矯学会展示会場写真

第12期役員(2014, 2015年度=平26年4月~28年3月)

会長: 宮島 勝 (松風)
 副会長: 大石邦雄 (バイオデント)
 総務: 大島雅之 (ヨシダ)
 渉外: 山崎 裕 (ロッキーマウンテンモリタ)
 財務: 西川裕機 (スリーエムジャパン)
 特務: 小川清史 (ミツバオーソサプライ)
 監事: 外口和美 (オーソデントラム)
 相談役: 御代川和寿 (トミーインターナショナル)

【商社展示運営委員会】 大石委員長
 【社会医療委員会】 高江洲委員長
 【広報委員会】 山崎委員長



2014年夏季例会懇親ゴルフ

日本歯科矯正器材協議会
 会員各位

平成26年10月15日

日本歯科矯正器材協議会
 会長 宮島 勝

平成26年 冬季例会 開催のご案内

拝啓 清秋の候皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また平素は当会の活動にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
 さて、冬季例会を下記のとおり開催いたします。今年度の冬季例会は以下の勉強会と報告会を組み入れました。薬事に関わる内容になりますので是非、薬事担当責任者様の出席をお願いいたします。
 何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

日程: 平成26年11月26日(水)
 時間: 13:00~17:00
 場所: 株式会社松風 B1ホール
 東京都文京区湯島3-16-2 松風ESTビル B1ホール
 例会: 13:00~13:50 各委員会報告、他
 勉強会: 14:00~16:00 11月25日からの改正薬事に関する情報
 報告会: 16:10~17:00 2014年9月ISO/TC106ベルリン大会ミーティング報告
 冬季例会費: ¥7,000 (メンバー以外で勉強会、報告会参加者の懇親会参加の場合は会費として同額を回収させていただきます。)
 懇親会: 17:30~19:30 「ラレンツァ」(イタリアン) <http://www.la-stella-tokyo.jp/access/>
 (東京都千代田区外神田6-13-11 TEL 03-3833-9321)

例会委員会報告資料につきましては協議会ホームページ会員サイトに随時掲載されますのでお手数ですが各自印刷いただき当日お持ちいただけますようお願い申し上げます。

今回の勉強会は11月からの改正薬事について非常に重要な情報を提供していただけたと思います。輸入協議会、卸商業組合で行われた勉強会から更に情報を盛り込んだ最新の情報をお話していただけます。またISO/TC106ベルリン大会ミーティング報告は出席いただいた東京歯科大学の坂本輝雄先生をお願いいたします。

出欠につきましては11月7日(金)までにメール又はFAXにてご連絡ください。

担当: 総務理事 大島 雅之

2014年(平成26年)度
 冬季例会案内

一. 日本国医薬品医療機器等法を厳守する事
 二. 公正競争規約を厳守する事
 三. 医療法および歯科技工士法を厳守する事
 四. 日本矯正歯科学会倫理規定を厳守する事
 特に、
 ・薬事未承認品目の取り扱いについて
 ・目的外承認医療機器の説明について
 ・効能効果に対してなどの広告規制
 ・景品・医療機器のサンプルの取り扱いについて等

また法令遵守の上で日矯学会、矯正歯科医学会だけでなく、この年より各地区学会、成人

矯正歯科学会、日本矯正歯科学会での商社展示要項にも掲載してもらおうようにした。
 新執行部スタート早々、カスタムメイド矯正装置の問題が浮上する。所謂マウスピース矯正の薬事法上の解釈である。カスタムメイド矯正装置が医療用具なのか、歯科技工物なのか、厚労省の関係部局と日矯学会、日本歯科技工士会、日本歯科材料工業協同組合(以下、材料組合)、器材協議会が複数回検討を重ね、日矯学会と材料組合は同装置の法的位置づけを明確にするため疑義照会を厚労省へ提出、厚労省からは「国内外で製作されたカ

(1) 2014年(平成26年)10月1日(木曜日) 第4501号

日刊 歯科通信

Daily Dental News

【無断転載を禁ず】

【きょうは2つです】

(発行所) 日本歯科新聞社 厚生労働省認可第123号
 本社: 〒101-0061 東京都千代田区三軒明2-15-2
 電話: 03(3234)2475/03(3234)8302/メール: jdn@dentals.com.jp

5年かけて追跡調査

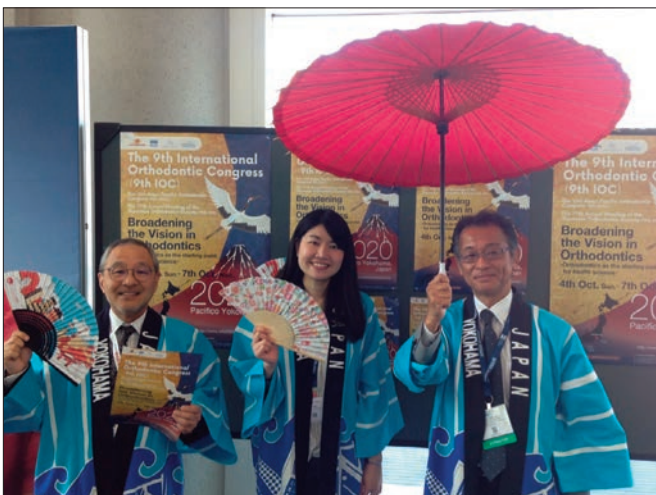
8020推進財団が3万人対象に実施

【東京】8020推進財団の「8020の歯を維持」をテーマにした追跡調査が、5年かけて実施された。調査対象は、歯科医療機関で治療を受けた患者約3万人を対象とし、そのうち約1万人を1年間の追跡調査の対象とした。調査結果は、歯科医療機関での治療を受けた患者の約3万人を対象とし、そのうち約1万人を1年間の追跡調査の対象とした。調査結果は、歯科医療機関での治療を受けた患者の約3万人を対象とし、そのうち約1万人を1年間の追跡調査の対象とした。

【東京】8020推進財団の「8020の歯を維持」をテーマにした追跡調査が、5年かけて実施された。調査対象は、歯科医療機関で治療を受けた患者約3万人を対象とし、そのうち約1万人を1年間の追跡調査の対象とした。調査結果は、歯科医療機関での治療を受けた患者の約3万人を対象とし、そのうち約1万人を1年間の追跡調査の対象とした。

【東京】8020推進財団の「8020の歯を維持」をテーマにした追跡調査が、5年かけて実施された。調査対象は、歯科医療機関で治療を受けた患者約3万人を対象とし、そのうち約1万人を1年間の追跡調査の対象とした。調査結果は、歯科医療機関での治療を受けた患者の約3万人を対象とし、そのうち約1万人を1年間の追跡調査の対象とした。

2014年10月1日
 カスタムメイド矯正装置(日刊歯科通信記事)



2017年AAOサンディエゴ大会
 9th IOCブースにて

スタムメイド矯正装置は個人向けに製作されたものであり市場流通性が無いため薬事法上の医療機器に該当しない。また海外で製作されたカスタムメイド矯正装置は歯科医師が患者に十分情報提供を行った上で患者の理解と同意を得ることを遵守するとともに歯科医師の全面的責任のもと使用されたい」との疑義回答が六月四日付で出された。

国内で製作されたカスタムメイド矯正装置については、歯科技工士法上の矯正装置とみなされるが、技工物の広告規制されている。疑義回答を受け、日矯学会は七月

九日学会ホームページ上に同装置の注意事項を掲載した。

第9回国際矯正歯科会議世界大会

二〇二〇年横浜での開催が決定した9th IOCだが、二〇一四年七月一七日に事業推進ワーキンググループが発足し、器材協議会より宮島会長と材料組合より小川理事がメンバーとなった。二〇一五年六月には第七九回JOSとの共催が決まり、九月開催の8th IOCロンドン大会では、展示会場に9th

IOCのブースを設け横浜大会のアピールを行った。

二〇一六年具体的に準備を進めるため大会準備委員会が設置され、五月九日第一回会合にて小野卓史委員長、齋藤功副委員長、五十嵐一吉副委員長を選出、展示ワーキンググループメンバーは宮島会長、小川理事は募金ワーキンググループメンバーとなる。二〇一七年四月第一一七回AAOサンディエゴ大会では商社展示会場外に9th IOCブースが設けられ、JAPAN/YOKOHAMAの文字が入った法被を着、蛇の目傘を差して海外大手企業の展示責任者に二〇二〇年横浜大会への協力をお願いして回った。二〇一七年一〇月のIOC準備委員会ですポンサーシップ募集要項の金額設定、

第13期役員(2016, 2017年度=平成28年4月～30年3月)

会長：宮島 勝 (松風)
 副会長：大石邦雄 (バイオデント)
 総務：大島雅之 (ヨシダ)
 渉外：山崎 裕 (ロッキーマウンテンモリタ)
 財務：近藤大士 (スリーエムジャパン)
 特務：小川清史 (ミツバオーソサプライ)
 監事：外口和美 (オーソデントラム)
 相談役：御代川和寿 (トミーインターナショナル)

【商社展示運営委員会】 大石委員長
 【社会医療委員会】 高江洲委員長
 【広報委員会】 山崎委員長



2017年8月夏季例会
 特別講演者黒田敬之東京医科歯科大学名誉教授と役員一同



2017年7月24日
 五団体矯正歯科懇談会集合写真

今後のスケジュールについて報告している。二〇一八年一月より大会実行委員会となり第二回アジア太平洋矯正歯科学会との共催も決まり器材協議会でも最大規模の商社展示、初めてのスポンサーシップ提案を成功させるために役員全員をメンバーとした商社展示運営委員会を設け協力体制を整えていく。

二〇一六年三月二六日第二六回通常総会で第一三期会長に宮島勝氏が再任される。会員会社二三社、役員は別表の通り。

二〇一七年七月神戸での開催が決定した9th WIOC大会(第五九回近畿東海矯正歯科学会併設)は二〇一四年より準備委員会が

発足し、一月の第二回委員会にて器材協議会も委員を拜命し大石商社展示運営委員長を代表として派遣する。二〇一六年七月二六日の夏季例会時、大会長の嘉ノ海龍三より神戸大会について説明をしていただく。

五団体矯正歯科懇談会

矯正歯科の統一専門医制度の確立を見据えた五団体矯正歯科懇談会(日本矯正歯科学会、日本成人矯正歯科学会、日本矯正歯科協会、日本臨床矯正歯科医会、日本歯科矯正器材協議会)は二〇一七年(平成二九年)五月一日に器材協議会前会長(当時)の小川清史氏の声掛けにより厚労省も交え始まる。

以降二回にわたり忌憚のない議論が交わされ一〇月二日の第四回懇談会において懇談会立ち上げの経緯と懇談会におけるこれまでの議論の整理が取りまとめられた。これから議論の解決に向けて協議を行い、歯科界および国民/社会に向けた提言を取りまとめる。提言は以下と決まった。

提言・国民に安心・安全な矯正歯科治療を提供するために

- 一. 関連法規等の確認と遵守
- ① 医療法、歯科医師法、医薬品医療機器法等の関連法令
- ② 医療広告ガイドライン、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針等

第14期役員（2018、2019年度=平30年4月～令2年3月）

会長：大石邦雄（バイオデント）
 総務：高江洲義朗（ジーシーオールソリー）
 渉外：三上 勉（デンツプライシロナ）
 財務：河手雅弥（スリーエムジャパン）
 特務：小川清史（ミツバオーソサプライ）
 監事：宮島 勝（松風）
 相談役：御代川和寿（トミーインターナショナル）
 山崎 裕（ロッキーマウンテンモリタ）

【商社展示運営委員会】 三上委員長
 【薬事・行政委員会】 小川委員長
 【広報委員会】 高江洲委員長

- ③ その他、COI（利益相反）、返金に関する指針等
- 二、口腔の形態改善と機能向上に寄与
 - ① 適切な診査・診断の実施
 - ② 学術的根拠に基づく治療の実践
 - ③ 治療後の長期安定性への配慮
- 三、統一された専門医制度の確立
 - ① 国民が理解しやすい制度
 - ② 専門性と質を担保しうる制度

新しい時代の流れ

二〇一八年四月三日第二八回通常総会にお



2018年夏季例会懇親会



2019年冬季例会懇親会

いて、第一四期会長は役員推薦の大石邦雄氏が全員一致で決定し新執行部がスタートする。会員会社二三社、役員は別表の通り。

9th IOC実行委員会では四月の委員会より宮島前会長に加え大石新会長と三上新商社展示運営委員長も展示ワーキンググループメンバーに加わりスポンサーシップ案、小間料金案、小間レイアウト案等商社展示に関わる具体的な提案並びに展示会場での商品紹介方法についての提案を行った。以降、企業に関わるスポンサーシップ・出展・広告の企画案、展示要項の作成に入っていく。

九月末申込締切り後八二社八八六小間の申込があり、スポンサーシップメニューにも多くの企業から申込みがあった。

二〇二〇年に入り、新型コロナウイルスの感染が世界中に広がり始め、五月一日に日矯学会理事会にて9th IOCの開催形式変更について予算を除き承認され、バーチャル開催に向け、大きく舵を切ることとなった。

Web上での商社展示はゼロからの再構築となった。六月二二日の大会実行委員会にてバーチャル展示要項を説明し、リアル展示に申込があった国内商社七〇社へ送信する旨報告を行った。

展示申込締切りを七月二一日とし、七月末時点で四二社の申込（最終的には四三社）があり、八月二一日に出展企業へのバーチャル展示説明会を開催。八月末、出展企業の展示画面への入力完了し九月八日器材



まぼろしとなった商社展示会場エントランス案



2020年10月4日
9th IOC横浜大会バーチャル開催直前の委員会メンバー

協議会役員会にて全社のチェックを行い、必要に応じて修正を依頼した。

一〇月四日、大会当日の申込数は五七四九名、東京医科歯科大学名誉教授の黒田敬之先生による基調講演に始まり、一三〇講演、ポスター七〇〇演題、出展商社四三社によるバーチャル展示がスタートした。オンデマンド配信が終了する一一月三日までの申込数は六二八二名(国内四三三七三名、海外一九〇九名)、バーチャル商社展示へのアクセス数は一五〇五六回という結果となった。

五団体矯正歯科懇談会では二〇一九年二

月一日第九回懇談会にて第一回矯正歯科統一専門医制度の資格条件、試験内容が承認され、審査員は、最終的に一〇月二七日の審査員審査において日本矯正歯科学会、日本成人矯正歯科学会、日本矯正歯科協会三団体推薦の四一名が確定された。

一一、一二回と規則案が議論され、一三回懇談会にて日本矯正歯科専門医機関専門医制度規則案はほぼ合意、倫理規定も合意となる。また審査日程も申請二〇一九年一月一日〜一二月一日まで、筆記試験二〇二〇年三月一五日、症例審査第一グルー

プ三月二四、二五日と第二グループ二五、二六日と決定した。

ほとんど準備が整った二月末、新型コロナウイルス感染拡大に伴い筆記試験の中止が決定。五月末、9th IOCの会場として予約しているパシフィコ横浜会場がWeb開催となったことで会場が空き、ソーシャルディスプレイを十分に確保したスペースが保てることから同会場での統一専門医審査の実地提案がなされ、実地条件等が審査される。

七月初め、二次審査および筆記試験の一〇月パシフィコ横浜での開催が決定し、日程概要は以下の通りとなった。

【日程】

- ・一〇月五日午前・午後、六日午前・統一専門医症例審査(第一グループ)
- ・一〇月六日午後・筆記試験
- ・一〇月七日午前・午後、八日午前・統一専門医症例審査(第二グループ)

二〇二一年七月の段階において日本歯科医学协会会员である日矯学会並びに日本矯正歯科専門医機関を中心に日本歯科専門医機構と国の認めた広告可能な専門医制度にあわせた矯正歯科専門医が一日も早く誕生するため断続的に協議・審議がもたれている。

コロナ禍の中で

二〇二〇年一月から徐々に話題になり始めた新型コロナウイルス感染症は、日本において二月頃から深刻さが増す雰囲気

第15期役員（2019～2021年度=令2年4月～令4年3月）

会 長：大石邦雄（バイオデント）
 総 務：藤枝 淳（ジーシーオルソリー）
 渉 外：桑原 勉（フォレストudent・ジャパン）
 財 務：河手雅弥（スリーエムジャパン）
 特 務：小川清史（ミツバオーソサプライ）
 監 事：宮島 勝（松風）
 相談役：御代川和寿（トミーインターナショナル）
 山崎 裕（JM Ortho）

【商社展示運営委員会】 桑原委員長
 【薬事・行政委員会】 小川委員長
 【広報委員会】 藤枝委員長

気が漂いだし、三月からは世界的なウイルス感染状態に変わり、四月七日からの緊急事態宣言下では未知であるコロナウイルスの恐怖に怯えつつ町から人が消え、電車も道路もガラガラ状態という異様な光景となった。

矯正歯科業界では、学会が二月の九州矯正歯科学会熊本大会、矯正歯科医会さいたま大会を最後に開催中止、誌上開催、Web開催、ハイブリット開催等に替わっていた。企業主催のセミナー、講演会も急遽の中止が相次ぎ、感染症対策の長期化が予測されるにつれ、オンラインセミナー企画

へ切り替わっていった。

器材協議会も二〇二〇年四月に開催予定だった第三〇回通常総会は、新型コロナ感染拡大により書面による議決権行使となり、第一五期会長に大石邦雄氏が再任され、新執行部でスタートする。会員会社二六社、役員は別表の通りである。

以降、事案により役員の招集もあるが、ほとんどがオンラインミーティング開催であり、会員が集まる機会はなくなった。

この状況の中、八月初旬世界最大の矯正歯科材料供給メーカーであるデンツプライシロナからデジタル歯科矯正分野への投資

集中のため従来からある矯正材料の販売から撤退するとのニュースが世界を駆け巡った。国内工場製造品もあり、日本市場への影響は大きく現時点でも需要と供給のミスマッチが続いている。改めて医療機器材料の供給責任の大きさに気づかされた。

世界的なIT化、AIの進化により、矯正歯科界も材料、デジタルソフトの飛躍的発展が見込まれる。現在会員会社二六社は、最新情報の提供、安全な素材で安心して患者さんに使用していただける機器・材料の安定供給を目指し、歯科矯正医療へ貢献できればと願っている。

OSAJ 日本歯科矯正器材協議会
<https://www.kyouseikizai.org/>

日本歯科矯正器材協議会
 会員各位

令和3年04月05日

日本歯科矯正器材協議会
 会長 大石邦雄

令和3年 総会開催のご案内

拝啓 春暖の候、貴社ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は当会の活動にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、令和3年の総会を下記のとおり開催致しますので、ご参加くださいますようよろしくお願い申し上げます。

敬 具

記

1) 総会
 日 時：2021年4月22日（木）15:00～16:00
 開催形態：Web開催（ZOOM使用予定）
 内 容：会務報告他

- 1) 令和2年度財務報告
- 2) 令和3年度予算案
- 3) 今年度各学会商社展示
- 4) ブラケット調査結果と20年度実施について
- 5) 40周年記念誌
- 6) その他

以 上


出欠につきましては、**4月16日(金)**までにメールまたはFAXにてご連絡下さい。

E-mail : atsushi.fujieda@gc.dental / FAX : 03-3965-1657

【出 欠】

・ 総会	出席	欠席
企業名	_____	_____
出席者名	_____	_____

総務担当 藤枝 淳



2021年(令和3年)度
 総会案内

第2章 主なトピックス

歯科矯正用アンカースクリュー

「二課長通知」に基づく公知申請一

歯科矯正用アンカースクリューは、骨接合用品として二〇〇三年一月、デンツプライ三金(株)(当時)によりクラスⅢ承認を取得し発売された。以後、(株)プロシード、(株)ヨシオカ(販売はバイオデント)、安永コンピュータシステム(株)、(株)松風と承認取得、発売が続いた。

しかし、骨接合用品は、顎骨や歯槽骨の骨折または顎顔面変形症の外科手術に用いることを目的に薬事承認された医療機器であるため、歯の移動の固定源としての使用は適応外使用ではないかと指摘されるようになり、日矯学会のホームページ(二〇〇六年六月・二〇〇七年四月)を通じて、アンカースクリューの取り扱いについて注意喚起されるようになった。

二〇〇七年三月、日矯学会歯科材料安全対策検討班の山口秀晴班長(当時、東歯大教授)から器材協議会に対し、適応外使用から適応内使用へ移行するため該当五社は足並みを揃え、適応外商品としての販売の徹底ならびに器材協議会を窓口として厚労省へ対応するよう要請があった。

これを受け三月二〇日、該当五社代表と器材協議会役員が集まり以下を決定した。

- ・「スクリューを固定源として使用すること」は適応外であることを再確認し、現在取扱いをしている企業は、その旨を従業員にも徹底させること。
- ・商品広告、企業のホームページで、ミニスクリューを固定源として使用することを連想させるような内容掲載はしない。
- ・セミナーの募集広告においては、企業名、商品名、臨床例を掲載しないようにする。
- ・学術論文執筆者に、商品の情報を提供する場合は、「固定ネジとしての薬事しか取れていない」ことを徹底してもらう。可能であれば、論文の文末にでもその旨を記載してもらうよう依頼する。
- ・適応内使用へ移行する作業に関しては、器材協議会の薬事担当者ワーキンググループで、原案を作成する。
- 四月一二日、厚労省へ挨拶。その折、アンカーについても産学共同で適応拡大要望を行う旨伝える。
- 五月一〇日、安全対策検討班の坂本輝雄先生と福山英治先生およびミツバオーソサプライの小川清史氏、器材協議会代表として山崎会長、薬事行政委員会宮島委員長が厚労省へ赴き、適応外から適応内への要望を伝え、以下のアドバイスを受ける。
- 一. 適用拡大の要望書に準ずること。
- 二. アメリカでの承認内容を入手すること(できれば二社ほど)。

- 三. アメリカでの使用目的
- 四. 国外臨床データの入手。
- 五. 教科書的な本が出ているか。
- 六. 適用内の根拠となる臨床論文があるか。
- 七. P M D A の H P に使用拡大要望の手引きがあるので参考にしてほしい。

以上を受けて五月二八日、五社に報告。協議会にて入手できる資料は協力して集める旨依頼する。

二〇〇七年一〇月三〇日、日矯学会・相馬邦道理事長名の「矯正用インプラントアンカー(仮称)適応拡大の要望書」が、厚労省に提出される。

同一一月六日、厚労省より該当五社代表に対して要望書の内容に異存がないかメールがあり、五社とも依存ない旨、返信。翌二〇〇八年一月一〇日、厚労省より、インプラントアンカーが公知である旨の説明資料を作成し提出するよう連絡があった。

同一一月二一日、関係会社、器材協議会役員会社でミーティングを行い現状報告ならびに説明資料作成をお願いした。ここから五社共同による統一サマリー、資料の作成に入っていく。

集める資料は以下のものだった。

- ① 要望書に添付されている二三編の論文をできるだけ多く
- ② 海外での承認状況
- ③ 国内でどのように使用されているか分かる臨床文献
- ④ 教科書となるような本

各社の協力の下、二三編全ての論文コピー、一三社のFDA承認情報、臨床文献、教科書の本が集まった。

二月八日に厚労省のアポイントが取れ、収集した資料を持参して説明を行う。厚労省が求めるものは、矯正用インプラントアンカーが固定源として有効性・安全性の担保となる論文、通称「二課長通知」に基づく資料の作成、公知申請（一部変更申請）を行う上で五社取りまとめて同時期に申請されたら如何かとのアドバイスであった。

また、適応内使用が認められるまでは講習会、広告を自粛するように、とのことであった。

この面談を受け、以下の作業を行う。

一、矯正用インプラントアンカーを使用している大学数の調査↓安全検討班へ依頼

二、適応外使用での安全性の担保となる論文を集める↓安全検討班から全大
学へ依頼

三、要望書に掲載された二三編論文の整理
四、「二課長通知」に基づく公知申請（一部
変更申請）を行うための概要

PMDAの審査の流れは、

① 一部変更申請のための五社共同の概要書（サマリー）を作成し、厚労省医政局の担当課に提出してチェックしていただく。

② ①で問題がなければ、厚労省医薬食品局の担当課にチェックしていただく。

③ ②で問題がなければ、五社がサマリーに基づき各社の商品にあった一部変更申請書を作成し、PMDAへ同時期に提出する。

五社の一部変更申請をとりまとめ、矯正用アンカーとしての使用目的、有効性、技術概要、使用例、安全性、外国の状況の説明、また学会要望書には診療ガイドラインを作成予定、矯正用インプラントアンカーの使用状況、成功率や合併症などの実態調査を行う予定の二点が明記されている。これにより、二〇〇八年五月九日付で日矯学会・後藤滋巳理事長および医療問題検討委員会・森山啓司委員長に、「矯正用インプラントアンカー（仮称）アンケート調査依頼書を、器材協議会山崎会長および薬事行政委員会宮島委員長名で依頼、六月二七日に集計報告書を提出した。

サマリー作成においては、東京医科歯科大学の園田先生にアドバイスをいただきながら作成にあたったが、初めての経験ということもあって試行錯誤の連続であった。

七月八日、厚労省へサマリー四部を提出。以降、公知性を示す論文の取りまとめ作業に入った。

一月二六日、厚労省に修正サマリーを提出。

二〇〇九年四月二日、厚労省を訪問、担当審議官より「器材協議会作成のサマリーを元にして矯正の先生に作成してもらっ

てはどうか」とのアドバイスがあった。並行して「医療ニーズの高い医療機器等に関する要望書」の提出についても勧められた。

四月九日、資料等すべてを日矯学会医療問題検討委員会に送り、サマリー作成の検討を始めてもらう。ガイドラインに関しては委員会に外部の先生（大学関係者）を加えた作業グループを作って進める予定とのことであった。

四月二三日、器材協議会新執行部発足に伴い、薬事行政委員会が大石委員長の下で第一回会合を開く。メンバーは小川会長、大石委員長、IA委員会六社（ジーシーが加わる）、由田材料組合歯科材料問題検討委員会委員長、薬事担当者として野末氏（オームコ）、高藤氏（バイオデント）。

五月一二日、厚労省との面談。内容は以下の三項目だった。

一、学会ガイドライン作成の報告
二、サマリー修正内容の確認
三、医療ニーズの高い医療機器等に関する要望書「記入方法の確認

日矯学会内に矯正用インプラントに関するワーキンググループが発足し、ガイドラインおよび「医療ニーズの高い医療機器等に関する要望書」作成協力が得られるとの報告。サマリーの表は日矯学会、器材協議会、材料組合の三団体名とする。提出済みのサマリーを元にアドバイスをいただく。STED（サマリー・テクニカル・ドキュメント）に沿う。厚労省より具体的なアドバイスをいただくことで飛躍

的に作業が進むこととなる。

六月 「医療ニーズの高い医療機器に関する要望書」を提出(日矯学会↓厚労省)

七月 「二課長通知に基づくサマリー」「学会要望書に引用の文献集」「FDA承認一覧」を提出(器材協議会↓厚労省)

九月 第一回インプラントアンカー(仮称)合同会議(厚労省、PMDA、日矯学会、器材協議会)。適正使用のためのガイドライン情報発信の依頼、および申請書と関連資料の作成についての指導を受ける(PMDA↓日矯学会)

一〇月 厚労省「医療ニーズの高い医療機器等の早期導入に関する検討会」にて矯正用インプラントアンカー(仮称)が公知申請に決定。

一二月 「矯正用インプラントアンカー(仮称)申請資料案」を提出(器材協議会↓厚労省)

二〇一〇年

一月 第二回合同会議(厚労省、PMDA、日矯学会、器材協議会)。「使用目的、効能又は効果」「操作方法又は使用方法」と学会ガイドラインとの整合の指示を受ける。

三月 「矯正用インプラントアンカー(仮称)ガイドライン初版」制定

四月 「試験方法案」を提出(器材協議会↓厚労省)

五月 第三回合同会議(厚労省、PMDA、日矯学会、器材協議会)ガイドライン修正の指示を受ける。

六月 「矯正用インプラントアンカー(仮称)ガイドライン第二版」制定(日矯学会↓厚労省)

七月 予備試験(日矯学会・器材協議会・日大にて)

七月 第四回合同会議(厚労省、PMDA、日矯学会、器材協議会)で申請に向けてのプロセスを相談

九月 「矯正用インプラントアンカー(仮称)の適応拡大の申請書(案)」を提出(器材協議会↓厚労省)。品目仕様再検討の指示を受ける。

一二月 第五回合同会議(厚労省、PMDA、日矯学会、器材協議会)。試験方法と申請に向けてのプロセスを相談

二〇一二年

三月 「歯科矯正用インプラントアンカーの機械的試験方法(案)」を提出(日矯学会、器材協議会↓厚労省)

三月 申請書案再提出(器材協議会↓厚労省↓PMDA)

六月 牽引試験の方法を再検討するよう指示あり(厚労省↓器材協議会)

六月 日矯学会と器材協議会で機械的試験の再検討、日大における試験

一〇月 「機械的試験方法(最終案)」と申請書案を提出(器材協議会↓厚労省)

一〇月 各社申請に向けての準備を進め

一月 六社説明会。申請書案・試験方法を配布

一二月 六社説明会。申請資料について意見交換、各社申請手続きを進めるよう確認

一二月 (株)プロシード、(株)ヨシオカ、(株)ジーシーが申請

二〇一二年 二月 安永コンピュータシステム(株)が申請

三月 (株)松風が申請

五月 デンツプライ(株)が申請

六月 一般的名称「歯科矯正用アンカー スクリュー」と決定(七月二十七日官報告示)

八月 (株)プロシード、(株)ヨシオカ、(株)ジーシーが承認

その後、安永コンピュータシステム(株)、(株)松風、デンツプライ(株)も承認取得、二〇一四年四月より保険適応が認められた。

第九回国際矯正歯科会議世界大会

19th I O Cの横浜誘致から開催まで

第九回国際矯正歯科会議 世界大会(9th I O C)は、コロナ禍、現地開催から一転して二〇二〇年一〇月四日(日)から六日(火)までのバーチャル開催と一〇月七日(水)から一一月三日(火)までのオンデマンド配信で行われた。

器材協議会も誘致活動初期より商社展示を中心に企画運営から関わって来た。器材協議会から見た9th I O C横浜大会を振り返ってみる。

1st I O Cは一九二六年、米国ニューヨークで開催された。日本から齋藤久教授(東京歯科医学専門学校⇨東京歯科大学の前身)ほか四名が参加し、同年に発足した日本矯正歯科学会(J O S)をアピールされている。

一九三〇年、J O SはI O Cの正式な加盟団体となり、2nd I O Cには高橋新次郎教授(東京医科歯科大学)も参加された。一九九五年五月、サンフランシスコで開催された4th I O Cの場で国際矯正歯科会議(W F O)が発足し、I O Cを五年に一回開催する公式会議として位置づけられた。

日本矯正歯科学会はこのW F O創設メンバーに加わり、国際的リーダーシップを発揮してきたが、アジア初となる日本での開催機運が高まり、二〇一〇年九月二十七日の日矯学会第六九回学術大会・社員総会で招致活動が承認された。二〇一一年四月一四日、第一回

I O C招致 W G (working group)委員会を開催。器材協議会からは当時会長の小川氏と御代川氏が歯科商社代表として参加している。

二回目のW G委員会で提案開催地を横浜市とすることが承認され、一二月九日、W F O事務局へ「提案資料」が提出された。立候補都市はアブダビ、ソウル、横浜、リオデジャネイロ、アンマン、ローマ、北京の七都市であった。

二〇一二年二月二三日の第五回W G委員会にて、開催都市選考会議が行われるA A O ホノルル大会でのP R活動として、器材協議会協賛によるJ O Cフレンドシップパーティー並びにJ O SのP R用ブース出展を行うことが承認された。そしてA A O ホノルル大会期間中の五月六日、W F Oプレジデントミーティングにおいて、二〇二〇年9th I O Cの横浜開催が決定した。

開催決定により、当初は日矯学会国際渉外委員会(森山委員長)の下、開催準備について議論が重ねられたが、二〇一四年七月一七日、正式に9th I O C二〇二〇事業推進W Gが発足し、器材協議会より宮島氏、材料組合より小川氏がメンバーとなった。

二〇一五年六月、9th I O Cと79th J O Sの共催が決定、同時にA P O Cとの併催についても検討することになった。また、二〇一五年九月開催の8th I O Cロンドン大会ならびに国内外での横浜広報活動等が議論された。

二〇一五年、I O Cロンドン大会で開催されたW F O理事会において、9th I O C

誘致の中心的役割を担われた森山教授(東京医科歯科大学)が二〇一五年(二〇二〇年の東アジア・中央アジア地区代表の常任理事に留任されることが決まった。I O C大会長との兼務が許されず、具体的に準備を進めるため大会準備委員会を設置。二〇一六年五月九日、第一回会合にて小野卓史委員長、齋藤功副委員長、五十嵐一吉副委員長を選出し、展示W Gメンバーは引き続き宮島氏が務め、小川氏は募金W Gメンバーとなった。二〇一七年一〇月一八日の準備委員会にてスポンサーシップ募集要項の金額設定、今後のスケジュールを報告している。

二〇一八年一月より、大会準備委員会は9th I O C 2020大会実行委員会となる。9th I O Cも第一二回アジア太平洋矯正歯科学会との共催も決まり、器材協議会でも最大規模の商社展示、初めてのスポンサーシップ提案を成功させるために、役員をメンバーとした商社展示運営委員会を設け協力体制を整えていく。

また、その四月、器材協議会の役員改選に伴い新会長となった大石氏、新商社展示運営委員長の三上氏が四月の委員会より展示W Gメンバーに加わり、スポンサーシップ案、小間料金案、小間レイアウト案等商社展示に関わる具体的な提案ならびに展示会場での商品紹介方法についての提案を行った。小間数は日矯学会展示で最大規模であった七七回大会四七五小間の一・五倍の七二〇小間を見積もった。

以降、企業に関わるスポンサーシップ・

出展・広告の企画案、展示要項の作成に入っていく。

二〇一九年一月初めに器材協議会会員に出展予定小間数をヒアリングしたところ六〇〇(六四〇小間であった。器材協議会以外の商社/メーカーを加えると八〇〇小間以上のスペースが必要となるため、七七回大会の横浜パシフィコ会場の二倍の一三三〇〇平米の展示・ポスター・休憩スペースを確保し、日矯学会展示実績のある一〇〇社以上の商社・メーカーに九月三〇日を締切りとする展示趣意書(展示要項)を送った。

その結果、八二社八八六小間の申し込みがあった。また企業広告のための豊富なスポンサーシップメニューを用意し、パッケージメニューとして、ゴールド、シルバー、ブロンズのスポンサーも募集した。その結果ゴールドスポンサー二社、シルバースポンサー二社、ブロンズスポンサー一社の申し込みがあり、他多くの企業からスポンサーシップメニューの募集をいただいた。

二〇二〇年に入り、新型コロナウイルスが世界中に感染が広がり始め、二月頃より大規模なイベント開催の是非をどう判断するか問われるようになる。

四月七日の実行委員会では開催形式変更について話し合われ、また、I O Cとも同様の話し合いが持たれた。そして五月十三日、日矯学会理事会にて9th I O Cの開催形式変更について、予算を除いて承認され、バーチャル開催に向けて大きく舵を切るこ

ととなった。

日本は最終の詰めと国内外の申込者を増やす方法が議題の中心となっていく。

日本の矯正歯科界において過去最大規模の世界大会から、まったく未知のバーチャルWeb開催への変更は、限られた時間の中で大変な作業となっていく。商社展示においては、対面での情報提供、商品説明、商品を手に触れていたく事は必須であり、過去最大展示小間数の二倍を集めた申込小間数が大幅に減少することは否めない。また、Web上でどのように商社展示を展開していくかが問題で、ゼロからの再構築となった。

一〇月四日、大会当日の申込数は五七四九名、東京医科大学名誉教授の黒田敬之先生による基調講演に始まり、一三〇講演、ポスター七〇〇演題、出展商社四三社によるバーチャル展示がスタートした。オンラインデマンド配信が終了する一月三日までの申込数は六二八二名(国内四三七三名、海外一九〇九名)となった。バーチャル商社展示へのアクセス数は一万五〇五六回という結果となった。

まずは器材協議会役員にバーチャル展示を実感してもらうため、六月一八日、臨時役員会を開催し、企画運営会社のコンダレに依頼して、イメージならびに展示要項概要の説明を行った。続いて六月二二日の大会実行委員会にてバーチャル展示要項を説明し、リアル展示に申し込みがあった国内商社七〇社へ送信する旨、報告を行った。

過去に例のない出展社数、出展小間数、展示面積、日本調の展示会場、多くの会社にスポンサーシップ協賛メニューに申し込んでいただけよう企画したスポンサーシップ展示が実現の直前でバーチャル展示へ。時間が少なくアイデアも出せないまま、実行委員会の先生方、大会事務局の(株)コンダレの皆様のお知恵を拝借して何とか無事終了することができた。

展示申込締切りを七月二一日とし、七月末時点で四二社の申込(最終的には四三社)があり、八月の大会実行委員会ではプロモーション+ナビゲーション動画案、商社展示に対するW F O提案事項への対応について報告を行った。

誘致活動から一〇年を費やした9th I O C横浜大会は、社会経済活動を大幅に制限するC O V I D 19により波乱含みの展開となった。二〇二〇年六月からはW F O常任理事である森山先生、大会長である小野先生がW F O幹部と毎週末Z O O M会議に参加され、その内容を協議するため9th I O C実行委員会も毎週Z O O M会議がメンバーの時間調整がつく夜に開催されるようになった。

9th IOC実行委員会（敬称略）

WFO常任理事/JOS理事長：森山啓司
 委員長：小野卓史
 副委員長：齋藤 功 五十嵐一吉
 財 務：大坪邦彦
 募 金：嘉ノ海龍三 小川清史
 プログラム：山城 隆 槇宏太郎
 AHPプログラム：新井一仁
 会 場：横関雅彦 広報：延島ひろみ
 参加登録：陶山 肇
 行事接遇：野村泰世 吉田教明 島田正
 バーチャル会場：西井 康
 展 示：大石邦雄 宮島 勝
 幹 事：松本芳郎
 JOS理事長幹事：辻美千子
 オブザーバー：東堀紀尚 芳賀秀郷
 〈名誉国内顧問〉 三浦不二夫(故人) 黒田敬之
 後藤滋巳 石川博之 清水典佳

実行委員会は二〇二〇年に二六回開催されたが、六月から一〇月四日開催までの間は、実に二〇回のZOOM会議、森山先生、小野先生はその倍以上の時間を費やされ、JOSの立場とWFO幹部の迷惑のズレを調整するのに大変な対応をされていた。それを見るにつけ、実行委員会メンバーは何としてでもこの大会を成功させなければとの思いが募っていったように思う。

二〇二一年初の実行委員会が一月一九日に開催され、この委員会が最後の大会実行委員会となった。

五団体矯正歯科懇談会

一 国が認める矯正専門医制度設立に向けて一

二〇二〇年三月に開催予定であった矯正歯科統一専門医二次審査と筆記試験は、新型コロナウイルス感染症防止対策のため延期となつてしまつた。しかしながら、国民の矯正歯科に関する環境を向上させるためにも統一専門医制度の確立は喫緊の課題であつた。

そのような中、9th IOCの会場予定であつたパシフィコ横浜が使用できないようになり、充分広い会場で新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で審査業務を実施できる環境が整い、9th IOCのバーチャル開催に合わせ二〇二〇年一〇月五日〜七日筆記試験、症例審査と口頭試問が行われることになった。審査員四一名を含む三〇五名が受講し、一二月に開催された第一五回日本矯正歯科専門医機関暫定運営委員会で審議がなされ、受験者の通過可否が通知されている。

本邦においては複数の学会が矯正歯科専門医制度を運用していたため、国が認める唯一の専門医制度を設立できなかった。そのため国が認める専門医制度設立のために五団体矯正歯科懇談会を立ち上げ、矯正歯科界が大きく動き始めた。

一〇年以上かけた矯正歯科の専門医制度に関する議論が制度の確立に向け急速に進んでいった経緯を、五団体の一員としての器材協議会の立場で追っていく。

矯正歯科の統一専門医制度の確立を見据えた五団体矯正歯科懇談会は、二〇一七年(平成二九年)五月一日に器材協議会前会長(当時)の小川清史氏の声掛けにより、厚労省担当官も交えて始まつた。その五年前にも小川氏が器材協議会会長時に、矯正歯科界を取り巻く環境が大きく変わりつつあつたことから、日矯学会後藤滋巳理事長(当時)と相談し、日本における矯正歯科界の現在将来に向けての問題点、方向性等について、産学臨合同による意見交換の懇談会を行つたことがあつた。

五月一日以降、二回にわたり忌憚のない議論が交わされ、一〇月二日の第四回懇談会において以下のように取りまとめられた。

〈懇談会立ち上げの経緯〉

- 一、矯正歯科を取り巻く様々な問題
- ・ 歯科矯正治療に関わる不適切な広告／ホームページによる患者の誘引、勧誘
- ・ 十分な技量・知識・経験を習得していない歯科医師が行う矯正歯科治療によるクレームの急増
- ・ 治療契約の中途契約や転医の際の治療費の返金に関するトラブルの多発

- 二、消費者庁消費者委員会(特定商取引法専門調査会)による矯正治療の規制に関する国民の関心

三、いわゆる「三団体懇談会」における専門医制度に関する議論の停滞

こうした矯正歯科を取り巻く状況を危惧した歯科関連団体が中心となつて、議論再開を提起し、厚労省に相談。その結果、矯正歯科

専門医制度に関する三団体懇談会に参加する日本矯正歯科学会、日本矯正歯科協会、日本成人矯正歯科学会に加え、日本矯正歯科学会の協力団体である日本臨床矯正歯科医会、および日本歯科矯正器材協議会の五団体の代表者による、懇談会が立ち上げられた。

〈本懇談会におけるこれまでの議論の整理〉

- 一、矯正歯科を取り巻く様々な問題について
- ・ 問題点を抽出し、それらに対する各団体の取り組みを相互に紹介した。その結果、日本矯正歯科学会が進めている取り組みを中心として、五団体が一致協力して改善に取り組むことが確認された。

- 二、消費者庁消費者委員会(特定商取引法専門調査会)による特定継続的役務提供を含めた国民の関心について

・ 五団体が協力して、国民に対して良質な矯正歯科治療を提供するための具体的な対応を検討するなど、矯正歯科界全体として努力することで規制を回避することが確認された。

- 三、いわゆる「三団体懇談会」における専門医制度に関する議論が停滞していることについて

・ いったん三団体懇談会における議論とは切り離し、五団体懇談会で矯正歯科に関する専門医制度について議論を行う。

・ 将来は広告可能な専門医の対象となることを視野に入れつつ、まずは統一された矯正歯科に関する専門医制度の立ち上げを目指す。

・ 専門医制度準備会(仮称、後述)での議論を経て設置される専門医認定機関(仮称)が審

査、認定を行う形式とする。

・専門医の趣旨から、書類のみでの認定は不適切であり、認定は必ず症例審査および筆記試験を経たものとする。

・新たな統一された専門医制度の運用が開始された時点で、三団体が現有する専門医制度は名称の変更（専門医という名称を含まないものへ）、あるいは廃止する方向で検討する。

・専門医制度の大枠は本五団体懇談会において合意／決定し、詳細については専門医制度準備会において検討する。

こうした問題の解決に向けて協議を行い、歯科界および国民／社会に向けた提言を取りまとめることを懇談会の目的とする。

その後、提言は以下のように決まった。提言・国民に安心・安全な矯正歯科治療を提供するために

一、関連法規等の確認と遵守

① 医療法、歯科医師法、医薬品医療機器法等の関連法令

② 医療広告ガイドライン、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針等

③ その他、COI（利益相反）、返金に関する指針等

二、口腔の形態改善と機能向上に寄与

① 適切な診査・診断の実施

② 学術的根拠に基づく治療の実践

③ 治療後の長期安定性への配慮

三、統一された専門医制度の確立

① 国民が理解しやすい制度

② 専門性と質を担保しうる制度

二〇一九年二月一日、第九回懇談会にて第一回矯正歯科統一専門医制度の資格条件、試験内容が承認され、審査員は、最終的に一〇月二七の審査員審査において各団体推薦の四名が確定された。また、予算も具体的に議論されている。

四月八日、第一〇回懇談会において、申請・審査WG／筆記試験問題作成WG／規則会則WGへ三団体より四・二・二の割合で人員構成を行い、矯正歯科医学会より各一名オブザーバーとして参加が認められる。

第一一、一二回と規則案が議論され、一三回懇談会にて日本矯正歯科専門医機関専門医制度規則案はほぼ合意、倫理規定も合意となった。また、審査日程も申請二〇一九年一月一日～二月二日まで、筆記試験二〇二〇年三月一五日、症例審査第一グループ三月二四、二五日と第二グループ二五、二六日と決定した。

ほとんど準備が整った二月末、新型コロナウイルス感染拡大に伴い筆記試験の中止が決定。五月末、9th IOCの会場として予約していたパシフィコ横浜会場がWeb開催となったことで空きができ、ソーシャルディスプレイを十分に確保したスペースが保てることから、同会場での統一専門医審査の实地提案がなされ、実地条件等が審査された。

七月初め、二次審査および筆記試験の一〇月、パシフィコ横浜での開催が決定し、日程・概要は以下のように決まった。

・一〇月五日午前・午後、六日午前・統一専

門医症例審査第一グループ）

・一〇月六日午後・筆記試験

・一〇月七日午前・午後、八日午前・統一専門医症例審査第二グループ）

二〇二〇年一月九日、第一五回懇談会では日本歯科専門医機構理事長の今井裕先生による「矯正歯科専門医研修について」と題したWeb講演が行われた。また、試験結果ならびに日本歯科専門医機構認証を得るための流れについて報告があった。

現在国が認める専門医制度を設立するため、専門医機構との会合を続けている。

専門医認証に向けて会合を進めてきた懇談会のメンバーは別表の通りである。

五団体矯正歯科懇談会メンバー（敬称略）

日本矯正歯科学会	: 清水典佳・森山啓司・齋藤功・五十嵐一吉・居波徹・野村泰世
日本成人矯正歯科学会	: 小谷田仁・武内豊・鈴木敏正・松野功
日本矯正歯科協会	: 和島武毅・深町博臣・池元太郎・宮下勝志
日本臨床矯正歯科医会	: 稲毛滋自・野村聡・島田正・平木建史・吉野成史
日本歯科矯正器材協議会	: 大石邦雄・宮島勝
厚生労働省	: 担当官 2名
日本歯科材料工業協同組合	: 小川清史（世話人）

矯正歯科に係るISO認証基準の作成

ISOは国際標準化機構(International Organization for Standardization)の略称で、各国の国家標準化団体で構成される。スイスのジュネーブに本部を置き一九四七年に設立された。一六二カ国の標準化団体で構成され国際的な標準である国際規格を策定している。約二万の規格は工業品、技術、食品安全、農業、医療など全ての分野を網羅している。ISOの標準は不良品を最小限に抑え、生産性を向上させる。また、異なる市場の製品を直接比較できるようにすることで企業は新しい市場に参入しやすくなり公正な基準により世界貿易の発展を支援する。日本は一九五二年、日本工業規格(JIS)を策定している日本工業標準調査会(現・日本産業標準調査会)が加盟している。

ISO規格を策定する二五〇以上の技術委員会(TC: technical committee)日本では専門委員会がある。歯科分野はISO/TC106(Dentistry・歯科)の国際会議は毎年開催国を変えて開かれている。第一回は、一九六三年英国マンチェスターで開催された。日本のTC106への参加は一九七七年第一三回オタワ会議からである。

TC106には、現在以下のSC(subcommittee 分化委員会)で構成されている。

SC1 Filing and Restorative Material (充填・修復材料)

- SC2 Prosthodontic Material(補綴材料)
- SC3 Terminology(用語)
- SC4 Dental Instrument(歯科器具)
- SC6 Dental Equipment(歯科器械)
- SC7 Oral Care Products(オーラルケア用品)
- SC8 Dental Implants(歯科用インプラント)
- SC9 Dental CAD/CAM System(歯科用CAD/CAMシステム)

各WG活動の進め方は、参加国から規格の提案がなされ、新規作業項目と認められると作業原案が提出される。その作業原案に関して参加希望国から意見を収集して委員会原案が作成される。委員会原案は参加国に配布され、各国の専門機関・委員会の内容が吟味された結果を集計、整理した資料を基にWGで検討が重ねられる。具体的には、市販されている製品の提供を受け、規定した試験項目や試験方法に従って実際に計測試験が行われる。こうした検討を行った上で国際規格案にまとめられる。

国際規格案は再度、参加国に配布され各国の審査を受けた後、最終国際規格案となり、最終採決に付されISO規格として採用される。活動・作業はメール等で報告が回るが、年次総会ではその結果報告、その場での議論検討、その後の予定が話し合われる。

歯科矯正用器具については、一九九七年第三三回バンコク大会でSC1内にWG13(Orthodontic Products 矯正用品)が新設されることが決定した。

一九九八年第三四回ロンドン会議で一

ワイヤー、二・ブラケット・チューブ、三・エラストティックの優先順位で検討を進めることが決まる。

二〇〇〇年第三六回パリ会議においてワイヤー/ブラケット・チューブはWG13に、エラストティックはWG14として討議されるようになった。以降毎年の会議で作業原案、委員会原案が討議検討される。

二〇〇六年第四三回北京大会にて矯正用ワイヤーがISO規格15481となる。以降定期的見直し改正作業が行われている。エラストティックは最終規格案が投票に回付することになり、翌二〇〇七年にはISO2160(矯正エラストマ補助用品)として規格になる。

二〇〇九年第四五回大阪会議ではWG13とWG14の併合する提案がなされた。

二〇一一年第四七回フェニックス会議では新作業項目の矯正用スプリングが討議され、日本は市場が小さいために投票は棄権しコメントのみの提出となった。WG16矯正用接着試験の初めての会議が開催されている。二〇一三年、WG16は中止となる。

二〇一四年第五〇回ベルリン会議のWG13&14では矯正用ワイヤーの修正国際規格案が一〇〇%の賛成でISO12014として発行するとの報告がなされた。また前年ドイツから提案の矯正用アンカースクリューが採択されWG17が設置される。

二〇一六年第五一回トロムソ会議で日本は棄権したが、コイルスプリングの規格がISO17254として発行される。

二〇一七年第五三回香港会議にて、WG14はWG13に統合されることとなった。

二〇一八年第五四回ミラノ会議のWG17&SC8/WG1合同会議では矯正用アンカースクリューがISO19023・2018として発行。業務を終えWG17は解散となる。WG13(矯正用品)でのブラケット・チューブ最終規格案を投票に回付することとなり、翌年ISO270として発行される。

二〇二〇年は、コロナの影響でバーチャル会議となり、WG13の会議は行われていない。

ISO国際会議を支える日本国の意見をまとめるにあたり、日本歯科材料工業組合内の

日本歯科材料工業協同組合
JIS原案作成委員会 構成

技術担当理事	亀水忠茂(亀水化学工業(株))
技術委員長	村松寛昭(日本歯科材料工業協同組合)
議長	山崎 裕(株)ロッキーマウンテンモリタ)
委員	高田 守(トミー(株))
	三國憲彦(トミー(株))
	野末しのぶ(サイブロンデンタル(株))
	松島三広(株)トミーインターナショナル)
	高藤朋子(株)バイオデント)
	鳥光麻美(株)バイオデント)
	岩澤幸次(一般財団法人日本規格協会)
用語部会	出山 恵(株)オムニコ)
事務局	輿石嘉弘(日本歯科材料工業協同組合)

技術委員会／第四規格部会／矯正WGに器材協議会の所属企業を中心とする企業から多くのメンバーの参加を得てボランティア活動が続けられている。

特に二〇一〇年に発行したISO27020 Dentistry-Bracket and tubes for use in orthodonticsをJISに制定すべく、二〇一三年八月一日付で一般財団法人日本規格協会より、厚生労働省に申出がなされ、二〇一四年三月にJIST6532・2014 歯列矯正用ブラケットおよびチューブとして発行された。

別表の構成表が当時のJIS原案作成委員会のメンバーとなっている。

◇ 第三部

日本における矯正歯科テクニツクの導入（一九七〇年）

第1章 日本における口蓋裂 矯正歯科治療の保険導入へ

昭和大学名誉教授

福原達郎

私が初めて口蓋裂患者の矯正治療に着手したのは当時の勤務先であった東京医科歯科大学時代に、六〇年も前のことである。むろん、当時はまだ口蓋裂学会など結成される状態ではなかった。

私は一九六三年、幸いにフルブライト奨学金を得てシカゴ大学に留学したが、同大学には歯学部はなく、ゾラ記念歯科病院で研修することになった。ここは、国際的研究雑誌「Dental Research」の発行元で、非常に研究中心の強い若い研究者の集まる施設であること

はご存知のことと思う。

私は、いろいろ口蓋裂に関する研究所や施設を見て回ることができた。研究所によっては私が行っていた不完全口蓋裂を含めた遺伝学的研究の研究発表をさせられることもあった。口蓋裂の断層レントゲンなども珍しかったのだろうか？

その年の一月二二日、当時の大統領ケネディの暗殺事件がガラスであった。私は、自宅の昼食を中止し、持っていたソニーの携帯テレビを持って急ぎ医局に駆けつけて見せたところ、古参の医局員が帰国の時には売ってくれと頼まれたりしたものである。当時は日本のカメラとテレビには高い人気があった。医局の年配の掃除婦は、アメリカにはいろんな人がいるからねとつぶやいていたことを思い出す。

シカゴ大学から帰国後、当時、大阪大学口

腔外科の教授だった宮崎正氏らと学会設立に尽力し、ようやく日本でも口蓋裂の外科や矯正治療が進んで注目されるようになり、医学部の耳鼻科や形成外科を含め医科との総合一貫治療も始まった。

ただ、この一貫治療で問題になったのは、ほとんどの専門科目の支払いが健康保険で済んだのに対し、歯科矯正だけが自費扱いだったことである。矯正治療の保険導入が大きな問題になり、参議院社会労働委員会のコロンビヤ・トップ議員(本名・下村泰)などの支援もあった。矯正歯科学会にも保険導入の委員会ができ、私も学会で発言し、七年かかって保険導入が認められることになった。今では歯科関係の先天異常はすべて健康保険が適用される。

矯正関係の点数は、他科と比べても決して

Table with 4 columns: 第一編 第七号 (Section), 第百一編 国会社会労働委員会議録 第三十号 (Meeting Title), and several columns of names and addresses.

Table with 4 columns: 第一編 第七号 (Section), 第百一編 国会社会労働委員会議録 第三十号 (Meeting Title), and several columns of text and names.

第101回国会衆議院社会労働委員会会議録 (1984年(昭和59年)8月)

悪くはない。現行の自費治療費を一〇で割って料金をしたようなもので、私には現行の自費料金をより安くする考えはない。保険導入によって歯科矯正もやっと正規の医療と肩を並べるようになったという見方で、歯科矯正治療が社会医療としての市民権をいただけたと

考えている。昔は親が口蓋裂児を殺すなどという悲劇もあつた(毎日新聞社『谷間の口が裂けた』)。今では考えられないことである。当時は専門医もおらず、可愛い赤ちゃんの口が裂けていくということ、周囲にとつては大変な事件

だったのだと思う。この治療を我々矯正歯科医も担当することになって、身内からは奇異な目で見られたこともあつた。今では、矯正治療は単にお金持ちのための審美治療という見方はすっかりなくなり、嬉しい限りである。

「何をしたんだ!」と怒鳴るのが精いっぱい、足のふるえがとまらない。恵子さんは「分からない」「許して」という言葉を繰り返して、ヘタヘタと座り込んでしまった。ともかく一刻も早く病院へ運ぶことだと気づき、竹田さんは自分の車で近くの病院に和美ちゃんを運び込んだ。が、すでに死んでいた。竹田さんの両手にすっぽり入りそうな和美ちゃんの小さな体は病室のベッドに動くことなく横たわったまま、全身の力が抜けていく自分に「大変なことになった。しつかりしなければ」といさかせながら、やっとの思いで家に戻ってみると、病院から連絡を受けた苦小牧警署が恵子さんから事情を聴いている。そして半狂乱気味の恵子さんをパトカーに乗せ、警署へ連行していった。長男ら三人の子供たちはすっかりおびえ、部屋の片すみで泣きじゃくっている。昭和五十年五月二十五日夜のことだった。

二十五日午後六時五十分ごろ、苦小牧市の建築業、竹田洋一郎さん(三〇)が勤めから帰ったところ、自宅二階の六畳間で妻恵子(二七)が寝間着姿のままぼう然と立っており、足元で三月に生まれたばかりの三女和美ちゃんが仮死状態になっていた。和美ちゃんは市内の病院に運ばれたが、間もなく頭がい骨骨折で死んだ。死因に不審な点が多いと病院から連絡を受けた苦小牧署で調べたところ、恵子が殺したことが分り、二十六日午前一時半すぎ殺人の疑いで逮捕した。和美ちゃんは口が裂けて、恵子はふだんから気にしており、和美ちゃんと一緒に死にたいと口走るなど思いつめており、日中から和美ちゃんを押し入れに寝かせる日が多かったという。二十五日は洋一郎さんが出かけた後、朝から酒を飲み、和美ちゃんの将来を悲観して発作的に押し入れにあった茶箱に和美ちゃんの頭をぶつけ、殺したらしい。

同署は二十六日和美ちゃんの遺体を北大で解剖する。(毎日新聞五十年五月二十六日付け朝刊の北海道社会面から)

和美ちゃんが生まれたのは三月三日のひなまつり。出産の連絡を受け、竹田さんが喜びいさんで飛んでいったところ、看護婦は「女のお子さんでしたよ」というだけ。わが子になかなか会わせてくれない。変だなど感じ始めた二日後、医師に「相談したいことがあるので」と呼ばれた。「治るので心配はないが、実は、口が裂けた赤ちゃんでした」と重々しく宣告された時、竹田さんは「またか」と目の前が真っ暗になったという。

悲劇……その現実
「男の子だから、顔より心」と自分にも妻にもいい聞かせてきた。が、今度の赤ちゃんは女の子。あまりのショックに医師の言葉がうつろに響く。医師の部屋を出てから、病院の保育室で対面したわが子は、かわいいというより哀れで仕方がなかった。「早くベビーの顔をみたいわ」と産後のベッドで楽しみにしている妻になんと説明したらいいのか。ようやく話を切り出した時、恵子さんは悲しみをこらえるためかフトン

け合っている」というスピーチ・セラピストの伊東節子さん。
週間スケジュールを見ても、週四回の母子個別指導が組み入れられている。そして手書きの案内書「四つ葉のクローバー」を親たちにプレゼント。口が裂けた症状、手術前の注意、言語環境などについて分かりやすく書かれており、伊東さんは「こうした案内書が、産婦人科病院に置かれ、母親のショックと不安を取り除いてやることも一つの方法」と語る。
また、川崎市の郊外にある聖マリアン病院は四十九年に完成したばかりだが、すでに二百人近い子供たちが治療を受けている。形成外科 言語治療室、そして医療相談員とチーム医療に近いシステムがとられており、歯科矯正科だけがない。
同病院形成外科の萩野洋一教授は「一人前の社会人になるまで責任をもって世話をしやる心が一番大切。生まれながらハンディキャップを背負った子を治してやるのが医師の使命です」と、やはり「仁術」を説く。治療に関係なく月一回は親子を通院させ、悩みやグチの聞き役、あるいは、相談相手になってやるのが大切という。子供が成長につれ、傷跡が恥ずかしい、就職できない、という「青春の悩み」に耳を傾け、助言してやるのも医師の仕事の一つだ、とさえ主張する。

現在、口が裂けた患者を取り巻く医療体制の中で、一貫したチーム医療を組めない一つの大きなネックとなっているのは専門医不足が極端な歯科矯正科。それでも、新潟大歯科矯正科の福原達郎教授は医学専門誌の中で「口が裂けた患者の歯科的環境は暗く悲慘だ。大学病院矯正科外来に占める口が裂けた患者の比率は確実に増加の一途であり、正規の不正咬合患者の治療を圧迫している」という。残念ながら、現在、矯正科の中で、積極的に口が裂けた患者に取り組んでいる人は少ない」と、切り捨てられた医療現実を指摘。その打開策として「口が裂けた異常咬合に対して、矯正科医に寄せられている期待の背景を熟知することがなによりも必要。ものがかめない、よくしゃべれない、醜い顔で恥ずかしいという子供たちの声なき心の叫びを知ることから、医療としての歯科矯正治療が始まるのではないかと」と矯正医自らの立上りを呼びかけている。

スウェーデン・ウプサラ大学形成外科のスターグ教授が「日本の医師の技術は素晴らしいはず」というように、個々の水準は国際レベルに近いものだろう。ところが、一番ポピュラーな先天性異常といわれ、出現率も高い口唇・口蓋裂の子供たちには十分な医療行為が施されていない。ある形成外科医が「私が整形に手を置いていた時には、生命に心配のない児唇などは三分間で手術した。傷口がどうだろうと、おさがればいいだろうといった外科医にありがちな荒っぽさでみていた。いまは同じ児唇を縫うのに三時間以上はかかる」と語るように、子供たちの心の悩みや障害を無視してきたためではないだろうか。
医療からも、福祉からも切り捨てられてきた子供たちに救いの手を差し伸べるためには、親たちの運動だけではなく、いままこ医療に当たる側からの「告発」が必要だ。チーム医療に限らず、子供が立派な社会人として復帰できるよう、不満な環境があれば親たちと一緒に立ち上がり、専門的観点から行政に訴え、働きかけていく時代が一日も早く訪れるべきだろう。

同委員会で社会党の村山富市議員が児唇・口蓋裂患者の実情をめぐり発言。その中で当時新潟大学・歯科矯正科教授であった筆者の主張と取り組みをとりあげ、医療対応の必要性を指摘した。

第2章 日本における矯正歯科 テクニックの導入(一九七〇年)

スタンダードエッジワイズテクニック
よこさわ歯科矯正
与五沢文夫

EdgewiseはE.H.Angleにより考案され、一九二八年に発表された矯正装置である。Dr.Angleは長年にわたり矯正装置の開発に取り組んでいたが、Edgewiseは最終的に考案した矯正装置である。Edgewiseという名称は、それ以前に開発したRibbon archと称した装置に使用した長方形の主線(Rectangular wire)を九〇度回転させ、Edgewise面を歯面に向けて使ったことに由来する。ちなみに長方形の矯正線の断面の長い面をFlatwiseといひ、短い部分をEdgewiseと呼ぶ。もちろん、当初にStandard Edgewiseなる名称などはなかった。一九七〇年代初期の頃のアメリカ社会は発展途上であり、矯正治療も価値ある医療として社会に受け入れられていたこともあって、矯正歯科医は多忙で仕事の効率化を求めている。そのような時期に、Band製作の過程を省き直接Bracketを歯面に接着するDirect Bonding法が開発された。さらに省力化を進め、各歯のBracketの形を変えることにより、歯の位置や大きさに合わせて調節する作業を道具に置き換え、さらに主線にArch form

の形状を付与することにより、術者の判断や技術で行う作業を省くような手段を導入していった。

そのようなシステムが考案されたことから、考案者の名を冠したシステムが多数誕生したが、それらの装置をStraight archとよぶようになり、原型であるEdgewiseをいつしかStandard Edgewiseとよぶようになったのだろう。このような道具に判断や技術を不要とする方策は、アメリカを主体に合理主義に拍車がかかり、さらにその方向をめざして進むこととなる。

私は、矯正装置としてStandard Edgewiseを使用する。個々の症例に術者の考えを忠実に表現したい場合は、Standard Edgewiseが良い。術者の意図を表現することが容易だからだ。私はBegg法の講習会を受講するために渡米したが、Edgewise法を見て、極めて短い期間の中でEdgewise法に転換することを決めた経緯がある。手法の違いは矯正に対する考え方にも違いが生じるものである。

私がStandard Edgewiseを使用するその理由を次に述べる。

1. 矯正歯科治療の複雑性

矯正歯科臨床は極めて繊細で複雑な個々の人間に対する医療であるため、矯正歯科医は矯正歯科臨床に必要な学識を持つことと同時に鍛錬された技の習得が必須で、その上で臨床、経験を積み重ね、技術のさらなる習熟を経ながら人間性を磨き自身の感性を高めていく必要があると、私は考えて

いる。ゆえに、矯正歯科臨床は無駄を省く努力は必要だが、そのために質を犠牲にしてはならないと考えるからである。

2. 個体差を配慮

さらに、不正咬合の形態の多様性や個体間の差を重要視しているため、歯列の形状の違いや不正咬合の形の違いなどに個別の調整が必要と考え、一律に与えられた平均値による形状がかえって邪魔になるからである。さらに加えて、Over correctionの概念を使う意味も含み、診療時には必ず治療前の石膏模型を参考として主線の屈曲を行う。

3. 生体としての対応

道具に頼る矯正臨床の思考回路を、生体の反応を中心とした医療に転換する必要性を感じている。矯正歯科治療は道具が治すのではなく、術者の経験に基づく判断によってなされるものである。その技と判断ができるのが矯正歯科医たる由縁である。

矯正歯科学は、一部において機械論的理解形式が優れるが、人が人に対して行う精神を含んだ生物学的な医療である。進歩といわれる用語の使い方は多岐にわたるが、矯正歯科材料や治療法においても進歩とは何かを考えられ、持続可能な社会(Sustainable society)を思考し始められるようになるだろう。コンピュータやAIに対する考え方は今後二分され、科学技術の両義性(Ambiguity)が論じられるようになり、それらが矯正歯科医療の世界にも表出してくるだろうと思っている。AIが人智を超えたとき、矯正歯科医は不要となる。

バイオプログレッシブセラピー

根津矯正歯科クリニック

根津 浩

バイオプログレッシブ法が講習会を通して本邦に導入されたのは、ロッキーマウンテン・モリタ(RMM:現JM Ortho)社が本法の創始者であるRobert M. Ricketts先生を招聘して、一九七八、七九年、笹川記念館(東京都町)にAdvanced Orthodontics コースを開催したことに始まる。当時は、マルチバンド法が定着し、矯正歯科専門開業医が漸増する一方、生物学的な背景にもとづく矯正診断法が希求された時代で、受講生も三五〇名を超え大変盛況であったことが思い出される。

一九七九年、RMM社は、Ricketts先生の共同研究者でゼロベース・オルソドントエイクスの提唱者であるCarl F. Gugino先生を招き、バイオプログレッシブ法のゲジノ・コースをスタートさせた。兩年の難解な講演は、当時、東北大学助教授の三谷英夫先生により解説された。その後、一九八〇〜一九八二年の三年間は、米国の卓越した矯正歯科医で、一九七〇年代にEdgewise mechanicsのスエヒロ法を通して矯正臨床の発展に貢献されたHito Suyehiro先生が、解説と通訳を務められた。私と永田賢司先生は、一九七八年のCalifornia州でのRicketts Advanced Orthodontics 二週間コースを受講

した。私は、引き続き一九七九年、一九八〇年のCalifornia州での Drs. Bench、Gugino、Higers先生によるApplied Mechanics I & IIを修了した後、三谷先生のご推薦をいただいて、一九八〇年以降のコースインストラクターを拝命し、永田賢司先生は一九八二年よりインストラクターを務められた。野坂桂子氏を通訳に迎え、以来二〇一八年までの四〇年間、Gugino先生は毎年一、二回来日され、さまざまなテーマで計一五七回ものコースを開催し、受講生は延べ四〇〇名を超えたものと思われる。一九八六年以来、BSCの有能



Dr. Gugino、Dr. Suyehiroを囲む筆者ら(1980年)

な先生方にインストラクターとしてサポートをお願いし、教育チームを形成してきた。講習内容も毎年のように進化してきた。新世紀を迎えBioprogressive Philosophyと Zerobase Orthodonticsの二つの体系を融合し、これをZerobase Bioprogressive Philosophyと称する。本法は、歯列弓分割化のテクニクの特徴のほか、難易度に応じた診断と治療の個別化、成長予測法の適用とVTP (Visual Treatment Planning)設定、段階的な治療術式、不正咬合の機能とメカニカル両面からのアンロッキング、咬合理論、保



Dr. Ricketts、Dr. Gugino、福原達郎日矯会長
BSC Suyehiro Memorial Lectureにて(1990年)



三浦不二夫先生、Dr. Gugino を囲む菊池、末石らの演者
(国際大会、2012年)

定理論を含む広範な体系の一つで、ファイロソフィー、メカニクス、ミックスデンティション、オックルージョン、機能不全のトレーニング、臨床診査などテーマは多岐にわたる。

ファイロソフィー・コースの修了者によって構成されるバイオプログレッシブ・スタディクラブ(BSC)会員の現状に即した講習内容の編成のために、現在、コース主催者はGugino先生、後援はJM Ortho社とBSCとなっているが、開業業務にあたるJM Ortho社には、主催当時と何ら変わることなく、全面的にサポート



右より三谷英夫、永田賢司各氏と筆者(2017年)

をいただいている。バイオプログレッシブ・ファイロソフィーの導入に契機を与え、四〇年以上にわたり長年お世話いただいているJM Ortho社の社を挙げてのご支援に対しては、心より感謝申し上げます。

また、近年は、かつてGugino先生がアメリカの3M社の役員であったことから、3Mジャパン社にもコースのご協力をいただいていることにも改めて御礼申し上げます。

二〇一九年はGugino先生の体調不良のため急遽キャンセルとなり、多くの皆様方にご迷惑とご心配をおかけし、二〇二〇年は



Gugino Course風景(2018年)

コロナ禍のために開催できなかった。しかし、Gugino先生には、全面Virtual開催となった9th IOCおよびAPOC、JOSの会議において、力強いWeb講演をいただいた。二〇二一年以降も、先生が再度来日されることを希望しているところである。

なお、本コースの将来は、BSCを主体とした講師陣の若い力を注入し、継続、発展するものと期待している。

矯正臨床の発展にとって貴協議会各社と矯正歯科医との協同活動は大変重要であると思われ、今後ともご指導、ご鞭撻を願います。

レベルアンカレッジ・システム

大阪歯科大学名誉教授

川本達雄

私と、レベルアンカレッジ・システム(LAS)の開発者であるDr. Terrell L. Rootとのお付き合いは、先生が本法を開発される以前の一九七四年に始まる。当時、南カリフォルニア大学(USC)で歯科矯正臨床研修中の中西洋介先生(西宮市開業)の紹介で、私が同大学を訪れた時、Dr. Rootは臨床教授として(一)自分のテクニク(standard edgewise)を卒後研修生に教えておられた。また、彼は当時、Tweed Courseのインストラクターを務めており、一九七七年には同コースのプレジデントに就任されている。さて、私が初めてLASのアイデアをDr. Rootから直接聞いたのは、一九八〇年の八



レベルアンカレッジ・システム
開発者のDr. Root

月にUSC近くのUniversity HILTONで朝食を取っている時だった。Dr. Rootと初めてお会いしてから六年経っていた。この時は木下善之介教授(当時)、中西洋介先生と一緒でした。Dr. Rootは、新しく開発したLASのアイデアを話している間に、だんだんと興奮してきて声が大きくなり、レストランの他の客から苦情が出るほどだった。LASは、アンカレッジ(固定)を中心に考えた治療法ということだった。その時、Dr. Rootは、LASのアイデアを日本の矯正医に伝えたいというお気持ちがあり、私たちにその旨を伝えた。



Dr. Rootの講習会風景(1982)

Dr. RootからLASのアイデアを聞いた翌年の一九八一年八月、中西先生と私はDr. Rootの勧めでモンロビアのユニテック本社は見学に行くことになった。面白いことに、当日ユニテック本社を案内してくれたスタッフは、先週までオームコ社の社員だったと言っていた。ビジネスにおける日本とアメリカの違いに驚いた。

その時案内されたユニテック本社では、間もなく開催予定の日本での第一回LAS講習会に備えて、忙しく準備をしており、治療に使うオースフォーム・アーチフォームのナイティノール・ワイヤー、LASの



Dr. Rootのデモ風景



Japanese-French Joint meeting (1994)

ブラケットなどを製造している現場に立ち会ったりした。ここでは、女性職員がブラケット・ベースとLASブラケットを指定の角度で一つ一つ熔接しているのを見て驚いた。日本での第一回LAS講習会が三か月後に迫っているので、間に合うかどうか心配したものである。



当時のインストラクターとユニテック ジャパンの皆様
(米国3M UNITEK本社前、1994年)

様々な準備段階を経て、一九八一年の一月に東京と大阪で初めてのLAS講習会がDr. RootとDr. Sagehornによって開催された。
後年(一九九四年)、再びユニテック本社を訪れる機会があったが、ここでは20(数値制御)の機械が精密なLASブラケットを

自動的に作っているのを見て、時代の流れを感じた次第である。

第一回LAS講習会の後は、しばらくの間、大阪歯科大学・歯科矯正学講座の主催で講習会が開催されたが、その後は愛知学院大学歯学部・歯科矯正学講座の強力なご協力をいただいた。また、日本各地(名古屋、札幌、広島、福岡、金沢、九州、仙台)、さらにはフランス(パリ)、韓国(ソウル)、台湾(台北)など外国でもLAS講習会が行われ、好評を博した。

第五回の講習会まではDr. RootとDr. Sagehornが、その後、Dr. Greear、Dr. Loosがインストラクターを務めたが、第一回の講習会からは日本のインストラクターが担当した。その後関与した日本人インストラクターは数多いため、すべての方々のお名前を挙げることはできないが、それぞれLASの発展のために貢献していただき、今に至っていることを誇りに思っている。

Dr. Rootが一九九七年九月二八日に逝去された後も、LASの講習会は現在まで四〇年近く続いている。このように長期にわたってLASの講習会が続いてきた背景には、ユニテックジャパン(当時)のご協力が見逃せない。初期のころから、LASソサエティ事務局として常にご支援いただいた。当時の古屋雄三社長はじめ、徳美康夫様、中村公昭様、伊藤京子様、桑原勉様には格別お世話になった。併せて関係の皆様感謝申し上げる次第である。



Dr. Alexander のインタビュー記事を紹介した
三金工業(三金オームコ)の機関紙 DON
(DENTA ORTHODONTICS NEWS, No.5, 1981/9)

Dr. R.G. "Wick" Alexander (以後、Wick) は一九七九年、札幌にて行われた日本矯正歯科学会における特別講演の演者として初来日し、「The Vari-Simplex Discipline」(VSD) というタイトルで講演をされた。以来、その治療方法および概念が日本の多くの矯正歯科臨床医の間で注目されるようになった。

一九八一年には初回のベシックコースが開催され、それ以後二〇一七年まで毎年 Wick が来日して講習会が開かれてきた。一九八五年にそれまでの受講者の中の有志が発起人となり VSD 研究会が誕生した。一

アレキサンダー ディシプリン
浅井矯正歯科

浅井保彦



「アレキサンダーの矯正臨床」出版を記念して - Wick & Janna, 顧問の
福原達郎元昭和大学教授、出口敏雄元松本歯科大学教授と(1985年)

九八九年に治療体系名が VSD から "The Alexander Discipline"へと改称されたのを機に、一九九〇年からアレキサンダー研究会 (Alexander Discipline Study Club of Japan)へと名称を改めて現在に至る。この間に解説書や翻訳書および症例集アトラスの出版、また中国、メキシコ、ブルガリア等での継続した講習会等の活動を行ってきた。一方、海外諸国のアレキサンダー研究会とも交流を重ねている。

以下、研究会の活動や運営を支えていた
だいた企業各社との関わりを年代を追って
振り返ってみる。



右から中澤孝夫、近藤悦子、Wick、出口敏雄の各氏と筆者
(1992年)

デンツプライシロナ(サンキンオームコ) (研究会幼少期)

三金オームコ社は第一回のアレキサンダーコースを主催し、研究会を発足時より一〇年間にわたって支えていただいた。この間の経緯は日本歯科矯正器材協議会の二〇周年記念誌「矯正歯科業界の歩み」(三六〇四三ページ)の記述に譲る。筆者の思い出は、一九九五年に三金工業社が米オームコ社製品の取り扱いを終了した後、新たに設置された矯正事業部で国産の優れた製品の開発に七年間携わったことである。なかでもゴールドスロットクリアブラケットのシリーズにはアレキサンダータイプもあり、二〇年以上



ADI (Arlington, Texas) にて(2016年)

にわたって現在も多くの臨床家に愛用されているのはとても嬉しいことである(二〇二一年五月より、モリタデンタルプロダクツに製造販売が移行)。

オームコジャパン(研究会青年期)

一九九五年、米オームコ社製品の取り扱いが三金工業オームコ事業部からサイプロン・デンタルに移行したのを機に、アレキサンダーコースの開催および研究会の事務局もオームコジャパンに移った。ここから一〇年余り研究会の活動は一挙に国際性を帯びてきた。ADI (Alexander Discipline International) が米国で七回開催され、またAAO(ダラス)、APOC(台北)、北京国際

正崎学会等での学会発表も行った。これらはオームコ社のサポートを受けてのものだった。

二〇〇七年三月、Wickとオームコ社との契約が終了するとの突然の知らせに私たちは驚き、今まで企業に頼っていたコースの開催や研究会の実施をどうするか議論を重ねた。会員の誰もがWickの来日と研究会の継続を希望し、結局自主運営による手作りの講演会と研究会の開催を行うことになった。懇親会では前年まで大変お世話になったオームコジャパンの方々をお招きして感謝の意をお伝えしたが、セレモニーの際にはWickはじめ関係者の目に涙が溢れていた様子が今でも思い出される。

バイオデント(研究会成人期)

研究会の自主運営が二年間続いた後、二〇〇九年にWickがAmerican Orthodontics(以後AO)社と契約を結んだのを機に、一連のコースの開催等をバイオデント社が行うことになり、研究会の事務局も引き受けていただくことになった。そのお陰で二〇一四年にはホテル椿山荘東京において、長期安定性の研究をテーマに、研究会設立三〇周年を盛大に祝う記念大会を挙行することができた。

WickとAO社との契約は二〇一六年をもって終わることになり、またWickもさすがに年齢に抗えず、残念ながら二〇一七年一月が最後の来日講演となった。しかし、研究会の会員の熱意と使命感はまったく冷めることがなく、Wickが来日できなくなっ

た後も、二〇一八、一九年は研究会主催のベシックコースを含めた研究会の通常活動を活発に行った。二〇二〇年はコロナ禍により計画した事業はできなかったが、コ



Wickと一緒に最後の研究会-神戸(2017年)



Wick近影-彼のオフィスにて筆者と
(2019年)

ロナが収束した後の時代に、私達は従来の事業を復活させるだけではなく、新しくチャレンジする企画を現在模索中である。幸いなことに、現在も研究会の事務局はバイオデント社内に置かせていただき、事務作業のサポートもしていただいていることは大変有難いことである。

アレキサンダー研究会が三五年間も研究活動が続けてこられた背景には、こうした強力なサポートをしていた企業および社員の方々の献身的なご協力があったからこそと、改めて感謝申し上げたい。(本稿を書いているあいだも、特に大きな貢献を下さった何人もの方々のお顔を思い浮かべているが、お一人でも漏らさないようあえて個人名を挙げるのを控えた。)

最後に貴会のご発展に向けてWickの好きな言葉を添えたい。

「And Now...on to the future!」

ストレートワイヤー
エッジワイズシステム(SWES)

古賀矯正歯科クリニック

古賀正忠

日本歯科矯正器材協議会四〇周年に寄せて、SWESについて書く機会をいただいた。SWESはその起源がL. F. Andrewsにあり、現実的な臨床面でこの流れを牽引、進化させたのはR. H. Roth、R. P. McLaughlinである。そこで、この三人の先生方との交流における私の体験を中心に筆を進めたいと思う。

Andrews先生のSWA開発動機は極めて興味深い。彼は当時の矯正歯科医の資格目標であるABO症例をつぶさに検討した結果、矯正治療結果が不統一であることに気



「ストレートワイヤー法」出版記念会にて
Dr. Andrewsと筆者



著書にサインをするDr. Andrews



FACEユースの実習
左からDr. Sugiyama、筆者、右に谷田部先生

付く。そこで静的治療目標を模索した結果、矯正治療経験のない天然歯正常咬合が矯正治療目標であると看破する。分析の結果「正常咬合の六つの鍵」を発見、歯冠上のFACC、FAポイントそして咬合平面との計測からStraight-Wire Appliance(SWA)の開発、製品化にこぎつけた。

さて、私のSWESとの連繋は、一九七五年Las Vegasで行われたL.F. Andrews先生とR. H. Roth先生とのジョイントコースの講習会に、谷田部賢一先生と参加したことから始まる。この講演会で提示されたすばらしい症例にショックを受けた。帰国後、SWAの臨床評価を重ねながら、この基礎研究たる日本人正常咬合の解析が行われた(瀬畑(茂木)悦子、谷田部賢一)。

この経緯の中でAndrews先生を日本に招聘する計画が持ち上がり、一九八二年にAndrews Foundation主催、東京歯科大学

矯正学教室後援の形で講習会を行い、同時に東京矯正歯科学会の特別講演も企画された。また一九九三年四月には「STRAIGHT WIRE-The Concept and Appliance」邦訳出版のため再来日、講演が行われた。

一方、矯正装置のSWES思想を模索していたR.H.RothはAndrewsのSWAを知り、「こんなアイデアがあったのか!」と共鳴して(天然歯正常咬合を矯正治療の目標にしてSWA開発をしたこと)、SWAを全面的にとり入れただけでなく、「静的咬合の六つの鍵」が機能咬合の要件を満たすと主張した。Rothは簡素化したSWESとしてのRoth Set Upと機能咬合を掲げて世界中で講演を行った。AndrewsはSWESの基本原理をほとんど完成させたが、その後このシステムの標準化(治療効果のための整理)が必然的に起こり、Roth Set Upはこの第二世代に相当し世界中に普及した。日本ではジョ



Dr. Rothのデモ

ンソンエンドジョンソン社傘下(一九八五年)のA-Company(創設はAndrews)を松風が引き継ぎ全面的なサポートを行った。私は谷田部先生と、米国サンフランシスコで行われたFoundation for Advanced Continuing Education(FACE、一九八六〜一九八八、R.M. Sugiyama先生が同級であった)を受講後、池田和巳先生がRoth-Williams日本コースをマネージされるまでの間、日本でのRothシステム展開に協力した。この後、Andrews、Rothの体験を基礎に、日本(アジア)に根ざしたSWEESの展開に思いを巡らせるようになった。

この時期に接するようになったのがR.P. McLaughlin先生である。彼はAndrewsの直弟子で、SWEESの標準化、システム化をさらに進めており、私たちのPPAS矯正歯科臨床研究会が描いていたSWEESの発展型を臨床で生かしていることを知った。日本での講演会は一九九三年から始まり、San DiegoのMcLaughlin二年間コースに有志と参加し研鑽を重ねた。McLaughlinは



Dr. McLaughlinによるワイヤーフォーミングのデモ

MBTシステム(スリーエムジャパンユニテック)を経て、私たち日本の情報を取り入れた、SWEES第五世代としてのMcLaughlin Bennett System 50(フォーレスタデント、松風)を展開中である。

二〇二〇年一〇月のJCO米国臨床医調査は、preadjusted prescriptionを用いる米国の矯正歯科医は多数を占めるようになり、その中で四二%がMcLaughlinのシステムを用いている、と報じており「ブラケットスロットが歯の位置のゴールを持つ」というSWEES基本思想の世界的な認知が窺える。

以上、SWEESの展開について概略を述べた。私は極めて幸運なことに、SWEESの三巨人と、その全盛期に親密に交流する



Dr. McLaughlin(後方中央)とPPAS矯正歯科臨床研究会の先生方

ことができた。この先生方から教授された知的刺激と情報は膨大で心から感謝している。これも関連の器材協議会各社の協力のおかげである。そして現在では、各社は商品のみならず学術情報の提供も行っており矯正歯科発展への貢献度は極めて高い。改めて各社のご努力に感謝するとともに、SWEESの日本における展開に終始、尽力した宮島勝氏とサポートの松永倫典氏に敬意を表したい。

矯正歯科界は常に過渡期の連続と思える。COVID-19禍での困難な時期を科学的研鑽と矯正歯科への情熱で切り抜け、日本と世界の矯正歯科、そして日本歯科矯正器材協議会がさらに発展することを祈念します。

歯科矯正用アンカースクリューの開発

カノミ矯正歯科クリニック

嘉ノ海龍三

矯正歯科治療の基本原則である歯の移動に関しては、歯と歯を互いに固定源として用いる相互移動や顎外固定を用いる歯の移動などが一般的である。以前からこれらの方法において、多くの場合は動かしたくない歯に加強固定を用い、動かしたい歯を特定して移動させていた。加強の目的で併用する顎外固定においても患者の協力が不可欠であった。

一九七〇年代に入ると、補綴用を使用するインプラントを歯科矯正の固定源に利用した論文が諸外国で多数散見するようになったが、どれも症例を選ぶ傾向にあった。それらは欠損歯があり、その部分に補綴用インプラントを埋入して、それを固定源に使用するというような内容であった。

一九八〇年代になると、歯列外にインプラントを埋入してそれを矯正の固定源に使用し、矯正が終わるとそれを撤去するという報告が出てきたが、埋入も撤去も容易にできるものではなく、患者にはかなりの侵襲が伴うものであった。

私は自家歯牙移植や外傷歯の再植を数多く手がけた経験から、歯のアンキローシスとインプラントの固定との類似点に気が付いていたので、補綴用インプラントほど大きくなく

でも歯科矯正の固定の目的で使用できるのではないかと考え、調べてみることにした。

当時、歯科用インプラントは認定医ブームで、あちこちで一〇〇時間セミナーを開催していた。私は日本歯科先端技術研究所のインプラント認定一〇〇時間コースを受講し、インプラントを用いた固定のメカニズム(オステオインテグレーション)に関してある程度の知見を得た。

歯の外傷時に起こる骨性癒着は、歯根膜が欠損して起こる歯と骨との癒着であるが、ある種の金属(チタン等)でも同様に骨との合着が起こる。しかし、それは部分的に起こる現象で、電顕で見ると必ずしも全体が合着しているわけではない。それでも強い咬合力に堪え得るわけだから、その力を利用すれば容易に歯を動かす固定源として利用できるのは当然のことのように思えた。

しかし、当時の補綴用インプラントは少なくとも直径が3.5mm、長さが15.0mmと大きく、どこにでも埋入できるものではない。そこで何とか小さくして歯科矯正用に使用できないものかと考え、当時、デンツプライ三金社の谷口社長に直談判して試作品の製作にこぎつけた。

まず困ったのは大きさの設定だった。前例がないため、小さくといってもどれぐらいの大きさが必要か?そこで形成外科医に相談して、アペルト症候群の頭蓋の固定に用いるマイクロプレート(四穴連続)&マイクロスクリュー(直径1.0mm、長さ5.0mm)を使用してみることにした。これが



K1-systemの導入

当時は最小のものであった。四穴プレートを二つに切断して、一方をマイクロスクリューで留め、もう一方の穴を利用して歯科矯正の固定源として利用することにした。さらに大きな問題は、確証があっても実際に誰に試すかという臨床上の治験の壁であった。私の咬合、前突過蓋の歯列不正が



K1-system

あり、下顎の前歯が舌側に倒れ、上顎の口蓋歯肉に接触して、偶に口蓋歯肉からの出血があった。

そこで自ら治験者になって、その効果のほどを試すことにした。まず下顎全体にブラケットを接着してワイヤーを通し、レベリングを開始した。次に下顎前歯根尖の下方60mmの部位に切開を入れ、骨膜を剥離してマイクロプレートを一本のマイクロスクリュー(チタン製、直径1.0mm、長さ50mm)で留めて再縫合をし、三カ月間待つてオステオインテグレーションができるのを待つことにした。

その間、下顎前歯のレベリングを粛々と遂行して、0.16×0.22 Nit Wireまで進めた。そこで再切開してマイクロプレート的一端



WIOC2017でのご挨拶

に、008のリガチャーを通し、下顎前歯の中央に結紮した。約二週間に一度リガチャーを捻じり上げて、下顎前歯全体に歯根膜の厚みに圧下力を加えた。約六カ月で、約60mmの圧下に成功した(この内容は一九九七年発行のJCOに掲載された)。

これで十分に機能することは証明できたので、歯科矯正用アンカースクリューの大きさを、直径1.2mm、長さを40mm、60mm、80mmの三種類にして、マイクロプレートの部分を引っ張る方向に合わせて自由に回転できるようにアバットメントとして着脱式にし、それが二〇〇〇年にデンツプライ三金から「K-1」として発売された。

その後の厚労省との認可についての経緯は皆さんのご存知の通りである。



近東矯正も併催し盛況となった。

このように試行錯誤の末、アンカースクリューの発売に漕ぎつけ、紆余曲折を経て、今では矯正歯科治療において標準的な治療法となり、色々なタイプの歯科矯正用アンカースクリューが開発され、世界の矯正歯科の発展に寄与していることは非常に嬉しく思うとともに、その一端を担えたことを誇りに思っている。

その中で、二〇一七年に9th WIOC (World Implant Orthodontic Conference)を主催し、盛況に終わられたことは非常に感慨深く、矯正器材協の方々のご協力の賜物と思っている。改めて厚く御礼を申し上げます。

さらに、矯正器材協の方々のご協力のもと、今後の日本の矯正歯科界が益々発展することを願ってやまない。



図1 Begg先生の診療室で

マイオフィアंकシヨナルセラピー

大野矯正クリニック

大野肅英

このたび日本歯科矯正器材協議会が、創立40周年を迎えられましたことをお祝い申し上げます。我が国の矯正治療技術の発展は、矯正歯科材料や治療器具の進歩と密接に関わっている。一九六一年に榎恵元教授がBegg法、三浦不二夫元教授がTajima法を日本に導入した流れが矯正テクニック改革へのターニング



図2 Begg法のStage III

ポイントであった(図1~3)。

一九七二年から七五年にかけて、日系の矯正歯科医 Dr. スエヒロがEdge-wise法の講習会を開催し、拔牙症例に適したマルチバンドテクニック全盛時代になった。一九七〇年代に三浦不二夫元教授によりDB(Direct Bonding)法が開発され、金属バンドから解放された。

一九六〇~七〇年代は、主に外国から技術を吸収する時期であった。当時の若い矯正歯科医は、マルチバンドテクニックを習得すれば拔牙治療に有効な手段になると期待したのである。それまでのFKO(機能的

矯正装置)、舌側孤線装置、双線孤線装置などでは、拔牙症例は解決できなかったからである。

舌突出癖による混合歯列期の開咬症例には、当時ハビットブレイカーを装着するという対症療法であった。永久歯列期の開咬症例には、垂直ゴムを使用し、舌圧と垂直ゴムによるジグリング作用により前歯根の吸収や治療の後戻りなどの苦い経験をした。当時は、知識が不足していたのである。

こうした数々の舌突出癖による開咬症例の苦い経験から、私はMFTに関心を持った。Rogersが一九一八年に筋訓練法を発表して



図3 日本矯正歯科学会でポスター発表を行う榎恵教授

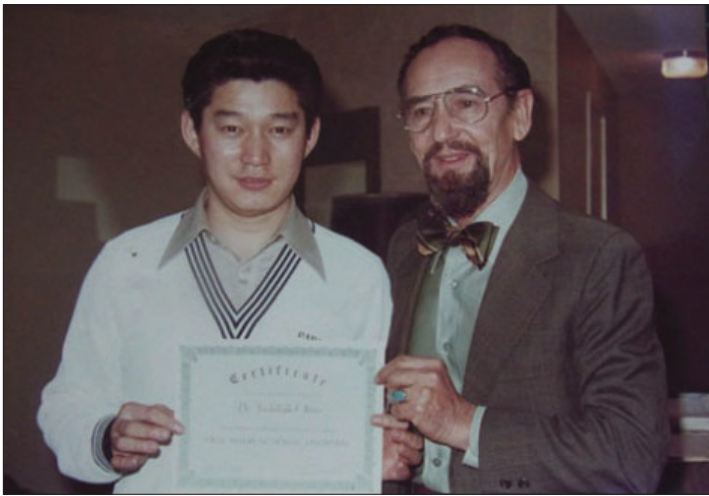


図4 Barrett先生の講習会をツーソンで受講(1978年)

以来、アメリカでは一九六〇年代に言語療法士のMr. BarrettやMr. Zickefooseらが筋肉を効率的に訓練する口腔機能療法にグレイドアップしていた。言語療法士のBarrettがMosby社から『Oral Myofunctional Disorders』を発刊した時、私は一九七八年二月にアリゾナ州ツーソンでMFT講習会を受講した(図4)。

その後、友人の矯正歯科医や小児歯科医から、Mr. Barrettを日本へ招いてほしいと依頼を受けた。Mr. Barrettの承諾は得たものの、スポンサーが見つからない時、ミツバの先代小川清社長に矯正歯科界のためになるのなら引き受けてもらい、第一回のM



図5 Barrett先生を招いてMFT講習会(1979年秋)

F T講習会が一九七九年一月に実現した(図5、6)。

当時の矯正歯科界は治療メカニクス全盛時代であり、MFTに対しては冷ややかな反応であった。受講生が集まるかどうか分からない講習会を引き受けてくれた小川清社長の決断に感謝している。

Mr. BarrettとMr. Zickefoose夫妻が講習会で来日した時には、数校の歯科大学でボランティアによる協力が得られ、MFTに対する評価も変わっていった。また、東京歯科大学の山口秀晴元教授のMFTへのご協力により、大学人の評価も変わっていった。

Mr. Barrettによる一九七九年の第一回の



図6 Zickefoose先生、山口秀晴先生と筆者

MFT講習会から、後を引き継いだMr. Zickefoose夫妻により一九八一年から約四〇年間、計二十数回、日本での講習会が開催された。その間、受講生をフォローするMFT研究会は二〇一三年に発足し日本口腔機能療法学会へ昇格、今では約一〇〇人の歯科衛生士や歯科医師がこの学会に所属している。近年、口腔機能の維持・向上に対する国民の関心が高まっているが、MFTの日本への導入がその大きな契機となった。何よりも、口腔機能訓練が歯科衛生士の新しい役割となったことは大きな喜びである。

アライナー型矯正テクニック

昭和大学歯学部歯科矯正学講座教授

榎 宏太郎

私は一九九八年に、3DCTを用いた顎骨骨密度解析の共同研究のため、UCSF (University of California, San Francisco) の矯正科に留学した。米国でもレジデントの多くは裕福ではなく、奨学金返済に追われるためアカデミアに残る若手は多くない。それでも、深夜の研究室では冗談を言い合いながら将来の夢を語り合っていた。



図1 UCSF 歯科矯正学講座 A. J. Miller 教授と筆者(1998)

帰国際に病院内で最後の講義を依頼されたため、お叱りを覚悟で、講演タイトルを「How to become a rich Orthodontist?」とした。矯正歯科医として豊かな人生を送るためには臨床とともに研究も続けなさい、という願いを込めたからである。内容は、3Dシミュレーションの有用性やバイオメカニクスの重要性を紹介し、21世紀は必ず三次元情報を扱う時代が到来するということであった。このタイトルに惹かれたのか、矯正科以外の先生まで参加され、セミナールームは立ち見が出るほどだった。

帰国後もUCSFとは交流を続け、一〜二年ほど経った頃、恩師のMiller教授から、「私が在籍していた時のレジデントが大学院修了後にある会社に入り、君の話していたことができるようになった、と言っていい」という知らせをいただいた。私は半信半疑だったが、数カ月後に教授とともにPalo Alto市のその会社を訪れてみた。

平屋のあまり近代的には見えない社屋



図2 UOP 歯科矯正学講座 B. Boyd 教授

の受付で守秘義務にサインさせられた時には、「何を大袈裟な」と内心では訝しく思っていた。

しかし、内部で二億円近い値段のレーザーリソグラフィ装置が二〇台も並んでいるのを目にして非常に驚かされた。スタンフォード大学の院生が立ち上げた小さなベンチャー企業がこの規模の投資を受けることができた米国の経済システムと、多くの投資家が透明な矯正装置の必要性を認めている、ということに矯正歯科医として衝撃を受けたからである。

その後、旧知の仲であったUOP (University of the Pacific) のBoyd教授の勧めもあり、本校はアジア地区で初めてこの透明なアライナー

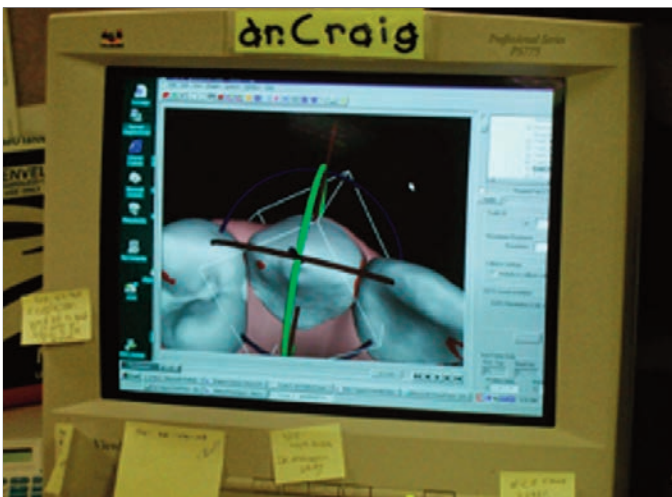


図3 初期のシミュレーション画像
モニターがブラウン管



図4 日本で初めてアライナーを用いた抜歯症例

ーを導入した。

当時は、英語での発注はもろろんのこと、一症例ごとに成田の税関から「これは何人分の治療装置ですか?」という問い合わせに答えなければならず、大変苦労した。

現在でも、そんなものでは治らないと言う専門医や、これで何でも治せるだろうと言う一般臨床医が見受けられる。しかし、そのどちらも正しくはない。どのような矯正装置であっても、その有用性は、適応と禁忌を見分ける術者の診断能力と、不測の事態に対処できる専門的技

能に依存するからである。

最近では、アライナーの普及に伴って問題症例もかなり増えているようである。それは、おそらく、矯正診療の基礎を学ばずに安易に導入する臨床医の増加と、負の側面を明示せずに普及のみを進める商業主義に原因があるのではないだろうか。

今後は、より安全な治療法へと導くことが我々の責務であり、その問題から目を逸らさずに真摯に向き合う企業こそが新たなビジネスチャンスを得られるであろうと考えている。

◇ 第四部

歯科矯正企業各社の沿革―未来への軌跡

株式会社アソインターナショナル

設立年月日 一九八二年四月

代表者 阿曾敏正

〒一三〇〇一一

東京都中央区二丁目一八 第二中央ビル

営業所 大阪支社、名古屋支社、新潟支社

電話 〇三―三五四七―〇四七一

FAX 〇三―三五四七―〇四七五

URL <https://www.aso-inter.co.jp>

一九八二年四月、現代表の阿曾敏正は東京都墨田区に、独りで矯正専門の歯科技工所「ASO DENTAL」を創業した。当時は矯正歯科で開業している歯科医院は少なく、矯正技工の技術と知識を学ぶため、阿曾は積極的に国内外の講習会等にも参加。矯正技工所としての資質を高めた。

一九八六年四月には、米国サンフランシスコFACE'S Dr. ロス、Dr. バスター、Dr. コルベット、Dt. ゴードンからナソロジカルスプリント、ポジショナーを学び、いち早く日本に導入。翌五月、中央区銀座に本社を移転した。

一九八八年には株式会社を改組し、四年後には「株アソインターナショナル」に社名を変更、一九九六年には現所在地の中央区銀座二丁目本社を移転するなど、着々と地歩を固めていった。そのエネルギーな活動で矯正歯科技工士としての阿曾は名を知られるようになり、翌一九九七年、埼玉歯科技工士専

門学校の非常勤講師に就任した。

さらには生産拠点を海外にも求め、二〇〇五年にはまずアメリカ向けの「ASO International Hawaii, Inc」を設立。国内では、第一回 Clear Aligner セミナーを開催するとともに、国内初のシステム化されたマウスピース型矯正装置「クリアアライナー」の発売に踏み切った。続いて、二〇〇六年には東アジア向けの生産拠点「ASO International Shanghai, Inc」を設立。翌年には西日本の製作拠点およびサービス体制向上のため、大阪支社を設立した。

同時期に海外では初めてクリアアライナーセミナーをハワイで開催した。

二〇〇八年には、世界のクリアアライナーメーカーで構成する国際協議会(CAIC)を発足させ、自ら会長に就任。発足記念講演会を開催。

翌年、アメリカ最大の矯正学会、アメリカ矯正歯科学会(AAO)へ初出席。その年には、オセアニア地区の製作拠点として「ASO International Melbourne, Inc」を設立した。



(株)アソインターナショナル
本社ビル



アソアライナーの製作過程

二〇一〇年には、新潟支社を大規模生産工場とするために移転。品質向上、生産能力の体制拡充を図った。同年、「Clear Aligner」から切り替え、独自の製作ソフトを開発して、精度と生産性を飛躍的に向上させた自社ブランド「Aso Aligner」の発売を開始した。

二〇一二年には、中部地区のサービス体制向上に向けて名古屋支社を設立し、国内の生産ネットワークの拡充を高める一方、ヨーロッパへの製作拠点として「ASO International Istanbul, Inc」を設立した。

翌二〇一三年には、品質管理、情報セキュリティシステムの維持と改善を図るべく、国際規格であるISO13485を取得。同



年、赤坂まつの矯正歯科院長の松野功先生と共同で、ハイブリットコアの特許を取得して、本社にデジタルセンター開設。翌年には製作工程をデジタル化し、精度を向上させた「AsoAligner Digital」の発売を開始した。また、革新的な矯正治療法「SH療法」を開発した星岡才賢先生との間で、二〇一五年、拡大装置スライデックスの特許を共同で取得した。

二〇一七年は、米国AO社より「HARMONY リンガルシステム」を買収。さらに、海外展開のグローバル化を図るため、新たな生産拠点として「ASO International Manila, Inc」を設立し、生産体制の拡充を加速した。同年、国際規格であるISO13485をはじめ、



ASO International Manila, Inc
フィリピン(マニラ)

MDSAP(TUV SOD)、アメリカFDAのCEマーキング、フィリピンFDAを取得。品質管理を徹底するための体制構築を進めた。また、カナダPWG社と業務提携し、透明で審美性、耐久性に優れたリテーナー用ワイヤーであるクリアボウ、設計、製作まで一貫してデジタル化した「フルデジタルハイモニー」の発売も開始した。

二〇一八年には、アジア圏の製作拠点として「ASO International Taiwan, Inc」設立。そして、二〇二〇年には、CADで設計、メタルプリンターで製作したカスタマイズドバンド、リンガルアタッチメントの定番とも言えるべき「リンガルロック」の製作、発売も始めた。

有限会社ウイルデント

設立年月日 一九九七年二月一八日

代表者 渡辺秀治

〒五三〇〇〇四六

大阪市北区菅原町一〇三二

DAX西天満七階

電話 〇六―六三六七―〇〇七三

FAX 〇六―六三六七―〇〇七六

URL <http://www.willdent.com/>

一九八四年九月に設立した矯正歯科専門ラボであるオーソデントを操業するにあたり、カスタムメイドの商品のみを扱うメリット、デメリットが浮き彫りになり、平均化をねらう目的で既製商品製造および販売に着眼・着手することが起業のきっかけとなる。

その結果、アイデアが商品化実現される魅力に魅かれたことと商品を産み出す情熱が会



(有)ウイルデント
企業ロゴ

社全体に芽生え、歯ブラシをはじめとする商品ラインナップの追加を加速し、企画・開発に力をいれるようになる。

一九九七年二月、創始者である森嶋重昭が(有)ウイルデントを設立する。主力商品に予防歯科商品(歯ブラシ)を据え、一般歯科用品の輸入・製造販売を開始した。

・テーパー仕様PALII歯ブラシ(矯正用)の開発・販売

・幼児用歯ブラシNEWママ、ママ(練習用、仕上げ磨き用)、キッズ、ジュニアの開発・販売

・医療生協用歯ブラシDailyCare(モンゴル共



モアクリーンシリーズ
(アダルト、コンパクト、スリム、チャイルド)

和国支援用)の開発・販売

・二段植毛仕様モアクリーン歯ブラシ(アダルト、コンパクト、スリム)の開発・販売

・幼児用歯ブラシのモアクリーンシリーズ、チャイルド(六角フラット毛)の開発・販売
本格的に予防歯科商品の開発・販売に意欲を示し、大学とのタイアップもはかり、唾液検査液を手掛ける。

二〇〇二年七月、岡山大学小児歯科の下野教授の推奨のもと、(株)モリタのOEM商品として、唾液緩衝およびカリエスリスクテスト機能を有するCAT21シリーズ(FAST, BUF)の製造・販売を開始する。



CAT21 シリーズ



Dr. X チョコレート

二〇〇四年四月、本社移転(同北区菅原町小西ビルから現DAIX西天満ビル)。
 歯科業界発信で患者が受け入れやすい食品は何かとガム以外のものを検討した末、チョコレート(Dr. X)を開発することになる。
 発売時期に並行し、商品名と同名の人気ドラマも放映されたことにより話題性に富んだ商品となった。
 (※品質を保つ温度管理の難易度が高い理由で現在は販売中止)
 二〇一一年一月、歯科医院専売Dr. Xチョコレートの開発・販売。
 一般診療に関わる技工士、衛生士が使用す



スケーラー マッキー1

る消耗品で少しでも安価かつ品質が良い商品を探し、海外のデンタルショーにも積極的に参加し商品の選定に努める。これを機に輸入業務の増加につながる。
 二〇一一年六月、技工用品(ロビンソンブラシ、カッティングジスク)の輸入・販売。
 二〇一一年一〇月、大阪S J C D衛生士コースダイレクター牧江様指導・監修のもとスケーラーマッキー1の製造販売を開始。
 矯正歯科診療での需要を目的にしたり、インプラントスクリーンの輸入販売を手掛ける。



モアスキャン

二〇一二年六月、第一種製造販売業許可を取得し高度管理医療機器(クラスⅢ)のインプラントアンカー(ネオアンカー)の輸入製造販売開始。
 二〇一六年三月、CAD/CAM需要に伴い、歯科技工用光学印象採得補助材料モアスキャンの輸入製造販売。
 二〇一八年六月、代表取締役役に渡辺秀治、取締役役に辻田秀俊が就任。
 二〇一八年七月、創始者である森嶋重昭の逝去。
 原点に戻り、口腔衛生に関する商品・設備の整備、ブラッシュアップをはかる。



クリーンベンチ



充填の様子

二〇一九年七月、CAT21充填・製造専用クリーンベンチ特設。デジタルロボメーター、電動ピット増設



鼻うがい(FLO)

二〇一九年八月、CAT21シリーズ製造元の(有)ナミテックの製造技術を引き継ぎ業務統合をはかる。
 コロナ禍のもと、手軽に少しでも予防できる商品はないものかと模索した結果、ウイルス対策商品の一環として鼻うがい商品を取り入れる。
 二〇二〇年六月、大網(株)を総発売元とする鼻うがい(FLO、サイナスケア)の輸入製造販売開始。
 今後の抱負としては、商品ラインナップの軸はブレることなく、時代のニーズに柔軟に対応できる社風を取り入れ、企画・開発に力を一層注いでいきバリエーションの追加に努めていきたいと思っている。



Dr. Kim ヘッドランプ

(株)岡部の創業は二〇一三年一月。岡部真一が福岡市南区にて(株)岡部メディカル事業部設立、「For the patient」を念頭に、患者様、先生方、スタッフの皆様にお役に立てるような歯科材料、歯列矯正器材をご提供したいということを念頭に日本はもとより、世界中を走り回って、様々な製品を上市。

(株)岡部の初取り扱い製品となる「Dr. Kim

株式会社岡部

設立年月日 二〇一三年一月

代表者 岡部真一

〒八二五〇〇四一

福岡市南区野間四一四三二

電話 〇九二五六一八一八九八

FAX 〇九二五六一八〇七〇

URL <https://okabe18.co.jp/>



OKABE IPR ソリューション

「ヘッドランプ」の日本国内販売権を取得。国内販売開始、のちに目玉製品となる(現在国内販売台数一万台)。

二〇一三年五月、ストリップピン専用コントラハンドピース「EG-50VT」販売開始。より安全にIPRを行えるようストリップピン専用コントラによるソリューションを提案。

二〇一三年七月、アメリカカ ORTHO TECHNOLOGY 社製品を中心とした歯列矯正器材の販売を開始。

主な製品は「ハイスピードインタープロキ



日本矯正歯科学会出展

シマルスターターキット」、「ダイヤモンド3ディスクイントロキット」、「インタープロキシマルダイヤモンドストリップス」等である。

IPRを行う上でバーヤディスク、ハンドストリップス等色々なソリューションを提供し、IPRに関する選択肢を広げる。

第七二回日本矯正歯科学会参加・初出展。創業以来上市した製品を多くの先生にご紹介する初披露目の場となる。

二〇一五年二月、韓国の矯正メーカーI社と取引開始。I社と共同でアライナーセミナーを開催、Dr. Oを韓国に招待し、講演を行う。日韓歯科医師の情報交流の場を提供するとともに新しい矯正材料を日本の先生に紹介。

二〇一五年三月、オリジナル自社製品の開発に伴い、ドイツ・IDS 初出展。世界中の



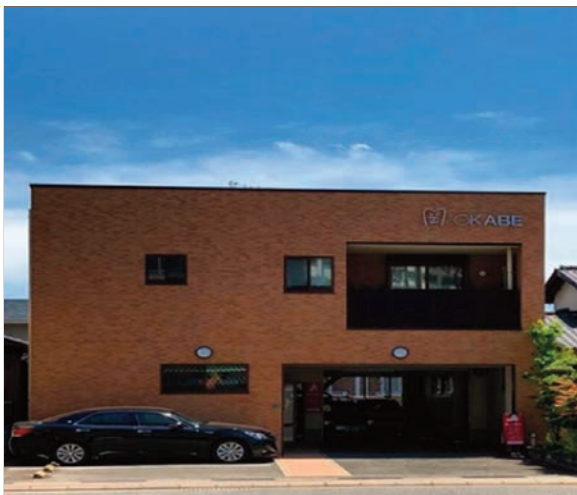
ドイツ・IDS初出展

歯科医師、歯科関係者に(株)岡部のオリジナル製品を紹介、商談を行う。

二〇一五年五月、韓国の矯正メーカーO社とオリジナルストリップングチップを手掛ける。日本薬事取得および販売開始。

O社は大きな自社工場を持ち、数多くの歯科材料を製造、韓国国内外に販売をしている。

二〇一五年六月、韓国の矯正メーカー兼商社S社と取引開始。S社はアメリカOrtho-technology社の韓国総代理店であり、数多い矯正材料を取り扱っている。鋼製小物、アク



本本社屋

セサリー等のライナップ追加。

二〇一五年七月、韓国企業との取引増加により、韓国支店開設。

二〇一五年一月、二月のアライナーセミナーに続き、韓国にて二回目のセミナーを企画・運営。

二〇一六～二〇一七年、国内外の学会・展示会・地方会等多数参加、情報提供および製品紹介を行う。

二〇一八年四月、旧社屋の老朽化や社員および物流の増加により、本社を「福岡市南区長住」から「福岡市南区野間」に拡張移転。

二〇一八年八月、日本歯科矯正器材協議会入会。同月、NY大学Dr.Sのセミナーを企画運営。

二〇一九年一月、Dr.Hr.Dr.Sのセミナーを企画運営。



口腔内スキャナー G-Oral Scan

二〇一九年一月、韓国矯正材料メーカーW社と取引開始。IPR関連製品のラインアップ追加・変更、今後の製品開発について意見交換。

二〇二〇年九月、口腔内スキャナーG-Oral Scan正規販売代理店。GOS販売開始。

二〇二〇年一月、国内累積販売一万台「Dr.Kimヘッドランプ」をはじめ、IPRを中心とした歯列矯正材料は多くの先生方にご好評いただいている。

今後、既存の製品ラインアップを維持しつつ、今後のトレンドとなりえるであろうデジタル矯正分野にも力を入れたいと考えている。

有限会社オーソデントラム

設立年月日 一九八六年二月一日

代表者 外口和美

〒一〇三〇〇一三

東京都中央区日本橋人形町二一七一五

日本橋トグチビル

営業所 東京日本橋

電話 〇三五六五二一三三三三

FAX 〇三五六五二一三三三三

URL <http://www.ortho.co.jp/>

欧州を代表するメーカーとの提携

(有)オーソデントラムは、一九八六(昭和六一)年二月東京都荒川区にて創業され、一九八七(昭和六二)年六月ドイツのデントラム社と業務提携し輸入代理店となる。一九九九年(平成一一)年十二月、東京都日本橋人形町に移転、業務を拡大する。

欧州最大の矯正器材の製造会社であるデントラム社は多彩なテクニクに対応する製品を製造しており、一九九〇(平成二二)年には世界の純チタン製レマタイトンブラケット、顎間ゴムではラテックスフリーエラスティックを世界に先駆け販売開始する。これに伴い金属アレルギー、ラテックスアレルギーをもつ患者にも安心して治療を施せる材料提供が可能になった。

舌位と呼吸に着目した治療法の紹介

一九九三(平成五)年九月、イギリスよりジ

ョン・ミューを招聘し「自然成長誘導矯正法」の講演会が東京にて開催される。バイオプロック装置を使用し顔面の成長を誘導する治療法は、生体の成長発育を重視し、その過程における正しい舌位と顎位、気道の確保を目的とする治療法である。

現在も結成されたスタディーグループによりこの治療理念のもと、研鑽が続けられている。また、一九九八(平成一〇)年九月にはベルリンのフンボルト大学矯正学教授ミートケ、臨床矯正医のガイスを招聘し、「不正咬合とTMDの関連および不正咬合の早期診断に関する医学的ベースからの見直し」と題した講演会も開催。



Dr. J. Mew

米国矯正器材メーカーとの提携

一九九六(平成八)年六月、新たにアメリカのカリフォルニア州に本社をおくオーソオーガナイザーズ社と輸入代理店契約を締結し、それまでのヨーロッパの矯正器材に加え、アメリカの矯正器材が加わることとなる。のち二〇〇八(平成二〇)年には同国のヘンリーシ

ヤイン社がオーソオーガナイザーズ社ほか二社を傘下にし、ヘンリーシヤインオーソドニクス社となる。

オーソオーガナイザーズ社以来取り扱うメタルブラケット、バックルチューブの一連の製品にはニッケルフリー素材が採用されており、さらにコネチカット大学矯正科教授ラビンドラ・ナンダにより改良されたCNAワイヤー(Beta IIIチタン)の販売開始により、前出の純チタンブラケット、ニッケルフリー製品およびラテックスフリーエラスティック製品と合わせ、それぞれのアレルギーをもつ患者のみならず、矯正治療を受ける多くの患者に対し、さまざまな危険因子を取り除くことに成功している。

生体親和性と時代的ニーズに合った材料

二〇〇〇(平成一二)年、アメリカCDB社と提携しポリウレタンと合金の素材的な特徴を生かした審美ブラケット(コンポジットGoldスロットブラケット)を発売した。この製品は、メデイカルグレードポリウレタン製のためビスフェノールAを含まず、環境ホルモン溶出による為害作用をクリアしている。さらにスロットには18Kゴールドを採用、ニッケルを含まずニッケルに敏感な患者にも使用できるブラケットである。これと同時にメタルスロットを付さないメタルフリーブラケットとセラミックブラケットも同時に発売されている。これらの製品はのちにオーソデントラム社の提案により二度の品質改良が加わり、アイパスII、アイパスIIゴールド

スロット、ワイオスIIと製品名も新たに変更されている。



iPass II ブラケット

さらに白須賀直樹先生の指導によりブラケットポジションニングの正確性と治療の質を高めるSWline(特許)を備えたアイパスSWブラケット、SWチューブを二〇二一(平成二三)年に発売し、現在も多くの臨床医に評価され使用されている。



SW ブラケット



SWチューブ



白須賀直樹先生

新しい発想による治療メカニクス

二〇二二(平成二四)年三月スペインの臨床医ルイス・カリエールを招聘し、彼により開発された「カリエールモーション装置のメカニクスと臨床」と題し講演会を開催する。講演会は今までの治療概念に一石を投じるもの

となる。それは、犬歯から大臼歯をユニットとして移動し、上下顎関係を治療初期にI級へ改善するという衝撃的なものであった。二〇一七(平成二九)年九月には東京マングリンホテルにて国際シンポジウムが開催されている。その後の講演会にも日本全国より多くの臨床医がカリエールモーション装置と臨床の可能性を求めて多くの臨床医が参加している。



CarriereMotion 装置3タイプ
CIIメタル、CIIクリア、CIII



Dr. L. Carriere

口腔筋機能改善による早期治療の実現

二〇一四(平成二六)年八月フランスのダニエル・ロレー先生を招聘し彼により開発されたEFl ine(マウスピース型装置)の紹介と早期治療における口腔筋機能改善について理論と多数の症例をもとに講演会を開催した。この装置は歯並びやかみ合わせに関係する悪習癖を取り除き、正しい顎の発育、顔面筋の成長を促し、口腔環境を改善させることを目的とする装置である。これにより矯正専門医のみならず、小児歯



カリエールシンポジウム(2017年)



Dr. D. Rollet



EFl ine Guide

科医に至る多くの臨床医に早期治療の重要性など多くの影響を与えた。EFl ineの販売により乳歯列期から永久歯列期に及ぶすべての年齢層の患者へ対応できる製品を備えることとなる。
今後も探求心を忘れず、常に製品の改良、改善をこころがけ、人に優しいをコンセプトに安心して使用できる製品を提案していくことがオーソデントラムの企業理念である。

株式会社オーティカ・インターナショナル
 設立年月日 一九九二年七月
 代表者 クニヤードルシール
 〒一六〇〇〇二二
 東京都新宿区新宿一〇九一五
 新宿御苑さくらビル四階
 電話 〇三―三三―五三―三三六七六
 FAX 〇三―三三―五三―三三八三〇
 URL <http://orthika.jp/>

一九九二年七月、東京都新宿区に設立。
 主な取扱製品：Myofunctional Research Co. 以下MRC社(オーストラリア)製品、G&H Wire Company(アメリカ)製品、GESTENCO(スウェーデン)製品、Ortho Arch(アメリカ)製品等。
 二〇〇三年三月、オーティカ・インターナショナルの前身である株メディカから続く第三回 Dr. John Flutter 講習会を東京都八重洲口にて開催。当時のメインテーマである、顔面成長および歯列への筋機能の影響は現在でも変わっていない。

講師であるDr. John Flutter は一九七一年にロンドン大学を卒業後、同じくロンドンにて歯科矯正学を実践しながら主にオーストラリア、ヨーロッパ、米国等で多くの口腔歯科整形学科のコースに参加。その後オーストラリアに移住し、子どもの自然成長にフォーカスした歯列咬合誘導を目的とする「Early Treatment Centre」を開院。オーストラリア

口腔顔面整形外科協会、会長、支部長を歴任。自然成長誘導法について多くの国で講演し、「Form、(形態)・Function、(機能)・Posture、(姿勢)をキャッチフレーズに機能、姿勢が形態に与える重要性を講演してきた。また、呼吸の重要性についてもいち早く多くの歯科医師に訴えてきた。その背景にはDr. John Mew の自然成長誘導法やウクライナの医師 Dr. Buteyko の影響が強くある。

二〇〇六年十一月、第二回 Dr. Chris Farrell 講習会を開催。Dr. Farrell はMRC社CEOおよび筋機能矯正装置 Trainer・Myobrace 開発者であり、第一回のメインテーマは「二一世紀のマイオファンクショナル・アプライアンスの開発」であった。

Dr. Chris Farrell は一九七一年にシドニー大学を卒業後、一九七七年よりイギリスに渡り一般歯科医師兼、歯列矯正医として研鑽を



第12回 Dr. Chris Farrell 講習会

積んだ。一九八六年にオーストラリアに戻るまで顎関節障害と歯列矯正学について Dr. John Mew(イギリス)、Dr. John Witzig(アメリカ)、および Dr. Hinz(ドイツ)らの多くの著名な研究者と関わり、そこで大きな影響を受けた。一九八九年にMyofunctional Research Co. を設立し、筋機能矯正装置の開発と商品化に取り組んだ。Trainer を世界に発表し、その後も Myobrace, Myosa, MyoTALEA 等の多様な装置を開発し続けている。現在では世界一〇〇カ国以上で臨床に取り入れられている。Dr. Chris Farrell のフィロソフィーは成長期における子どもの本来、潜在的に持っている正しい成長を取り戻すことであり、そのために最優先すべきは歯ならびではなく「正しい機能の獲得」であるところ。

二〇〇七年十一月、第二回 Dr. Chris Farrell 講習会を開催。不正咬合への筋機能アプロ



MRC 筋機能矯正アプライアンス



第20回 Dr. John Flutter 講習会



四ツ谷 Myobrace Training Center

チをテーマに講演、早期クラスⅢ級用是正装置として新製品I-3(Interceptive Class III)を紹介。受け口の問題を遺伝的な要因として片づけるのではなく、まず機能の問題を是正し、形態を抑制するという意味合いが含まれている。

二〇一一年二月、成長期における不正咬合の早期治療を目的としたクリニックMRC Clinics(現Myobrace Member)メンバー制度を日本の歯科医院に紹介。筋機能アプライアンスと専用の教育教材を用いて専任のEducatorが子どもの機能、呼吸改善のトレーニングを並行するという全く新しい治療システムとしてスタートされた。

二〇一六年三月、Dr. John Flutter 講習会の二〇回記念の講習会を開催。講習会参加者数はのべ二五〇〇名以上となった。
二〇一七年一〇月、東京都新宿区四ツ谷にMyobrace Training Centerを設立。オーストラリア Upper CooneraにあるMega Clinicを

模倣して日本のモデルとして歯科医院に公開を始めた。

二〇一七年四月、Myobrace Member Educator向けの第一回Educatorトレーニングコースを開催。筋機能矯正治療において患者自身が問題を理解し、長期間に渡って協力を得るためにはEducatorの存在が必須であり、その考えに賛同し始めた歯科医院が全国各地より集まった。

二〇一七年八月、矯正器材販売会社として(株)オーティカマイオソースを設立。
二〇一七年八月、DynaFlex社(アメリカ)の代理店として矯正器材の輸入販売を開始。
二〇一八年八月、Lancer Orthodontics Inc.(アメリカ)の日本総代理店としてLancer社の矯正器材の輸入販売を開始。

二〇一八年八月、モデルルームにおいてMyobrace System 治療導入セミナーを開始。
二〇一八年一月、第七一回日本矯正歯科学会学術大会、商社展示ブース内において

Myobrace System 筋機能矯正治療の紹介を行う。
二〇二〇年一月、第一回Dr. Derek Mahony 講習会を開催。メインテーマを小児OSSAS(閉塞性睡眠時無呼吸症候群)における歯科矯正の重要な役割とした。

Dr. Derek Mahonyはシドニーを拠点に三〇年以上臨床を行ってきた矯正専門医であり、キャリアの早い段階で筋機能矯正治療が歯科矯正治療において患者に劇的な効果を与えることを学んだ。それ以来、固定式アプライアンスと筋機能アプライアンスを組み合わせたアプローチが最も良い結果と安定性をもたらすということを唱えてきた。

また、近年では世界的に子どもの気道の問題が注目される中、歯科医師、歯科矯正医が小児の呼吸障害に対してどのような包括的医療を提供すべきかを歯科、医科の垣根を越えたチーム医療の必要性と共に紹介した。

二〇二一年四月、無料のMRC Webinarを配信。著名な先人達がすでに数十年前より警鐘していた口呼吸や筋機能障害が頭蓋顔面の成長に影響を及ぼすことをエビデンス含め紹介した。また、FDI(国際歯科連盟)が二〇一八年に出した世界規模の睡眠呼吸障害の問題についてグローバルな解決策を紹介した。

弊社は長年にわたり講習会を通して成長期の子どもの歯ならびに対し生物学的なアプローチの重要性を紹介し続けている。歯科矯正治療が単に見た目の歯ならびの改善では無いことを古い概念にとらわれず、いち早く多くの子どもに医療として提供される様、広く情報を発信していきたい。

カボデンタルシステムズ株式会社
オームコジャパン

設立年月日 一八九一年

(オームコは一九六〇年)

代表者 坂野弘太郎

〒一四〇〇〇〇一

東京都品川区北品川四一七三三五

御殿山トラストタワー一五階

営業所 ショールーム(東京、大阪、名古屋、福岡)

サービスステーション(札幌、仙台、大阪物流センター)

電話 〇三六八五九〇〇六五

FAX 〇三六八六六〇七三三

URL <https://www.kavo.co.jp/>

一九六〇(昭和三五)年、矯正医のための矯正材料開発を目的とした五人の矯正医により、カリフォルニア州に設立した米国オームコ社(ORMCO)の名称はOrthodontic Research & Manufacturing Companyの四〇の単語の頭文



Dr. Dwight Damon

字を由来としている。

一九七三(昭和四八)年、米国オームコ社の当時の親会社であったコンサイン・コーポレーション社と日本の(株)シンワとの間に代理店契約が整い日本国内の販売がスタート。

一九七七(昭和五二)年、販売権は三金工業(株)が設立したサンキンオームコ(株)に移行し、本格的な輸入と共に、Baylor College of DentistryのDr. R.G. Wick Alexanderの臨床教育の提供等が積極的に進められ、一九七九(昭和五四)年には日本矯正歯科学会札幌大会にてDr. Alexanderが初来日を果たす。

一九八一(昭和五六)年に第一回アレキサンダーセミナーが東京、大阪で開催され同セミナーはその後ほぼ二〇年余年間に渡り毎年開催されるとともに、一九八五(昭和六〇)年にはアレキサンダー研究会が発足。

一九八六(昭和六一)年一二月に社名を(株)オームコに変更、一九九三(平成五)年に三金工業内にオームコ事業部が設立。

一九九五(平成七)年九月、サイブロン・デントタル(株)にオームコジャパンを設立しオーム



デイモンシステム Damon Q2

コ社製品の取り扱いを三金工業のオームコ事業部から移行。

一九九六(平成八)年Dr. Dwight Damonが、パッシブセルフフライゲーションを採用したデイモンシステムを開発し矯正治療にインベーションをもたらす。その後世界中の矯正専門医の意見をもとに改良を重ね、Damon SL(一九九六年)、Damon 2(二〇〇一年)、Damon 3(二〇〇四年)、Damon 3MX(二〇〇五年)、Damon Q(二〇〇八年)、Damon Clear(二〇〇九年)、Damon Clear 2(二〇一四年)、Damon Q2(二〇一八年)と第八世代まで進化を続け、より多くの先生方のご支持を受けている。

二〇〇六(平成一八)年にダナハー・コーポレーション社の買収により、サイブロン・デントタル(株)はダナハーグループの歯科事業部門の傘下に移行。

二〇一三(平成二五)年一月一日にダナハーグループ企業であるカボデンタルシステムズ(株)とサイブロン・デントタル(株)のブランドであるオームコ、カーが統合。



デイモンシステム Damon Clear2



Dr. Giuseppe Scuzzo



竹元京人先生

二〇一四(平成二六)年にノーベルバイオケ
アがダナハーグループの傘下に加わったこと
により、ダナハーグループの歯科事業部門は
グローバル歯科業界にて最大の売上となった。
二〇一六(平成二八)年に竹元京人先生、
Dr. Giuseppe Scuzzo による、世界初のパッ
シブセルフライゲーション、スクエアスロ
ットのブラケットにリンガルストレートワ
イヤーを融合させたアリアスを発売。

二〇一八(平成三〇)年、Dr. McLaughlin、
Dr. Bennett、Dr. Trevisi の処方を発揮する
ために最適なインアウトでデザインされ、審

美性に高く、高強度、容易なボンディングが
特徴のオームコのストレートワイヤーシステ
ム、シンメトリークリアを発売。

二〇一九(令和元)年、ダナハー・コーポレ
ーション社からデンタル部門が分離独立(ス
ピンオフ)。カボ、カー、オームコ、ノーベ
ルバイオケアなど、すべてのデンタル事業が
エンビスタとして、九月一八日にニューヨー
ク証券取引所に上場企業として発足。

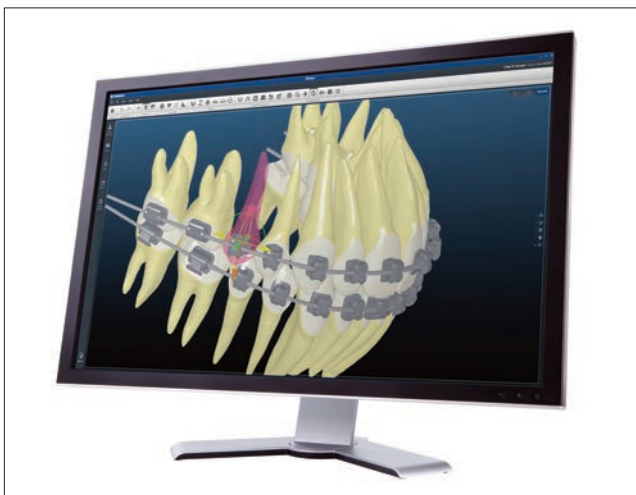
二〇一九(令和元)年一月一日、Dr.
Craig Andreiko が開発したインシグニアが歯
科矯正用治療支援プログラムおよびに構成品
について製造販売承認(承認番号: 30100BZX
00168000)を取得。ラビアル矯正治療にデジ
タル歯科矯正の技術を駆使したインシグニア



アリアス パッシブセルフライゲーション
スクエアスロット リンガルストレートワイヤーシステム

は、治療計画の策定を支援するソフトウェ
ア、当該ソフトウェアにより決定した治療計
画に沿って患者様個々に作成されたデザイン
、それにより作成された矯正用器材およ
び、矯正装置(ブラケット、チューブおよび
アーチワイヤー)およびこれらのポジショ
ニングを再現するためのジグで構成されるシ
テムで、新しい技術により、先生方に正確で
効率的なデザインをお届けするためのツール
を提供している。

二〇二〇(令和二年)に米国オームコ社は六
〇周年を迎え、ロゴなどを一新し、今後も先
生方、患者様へより一層ご満足いただける製
品・サービスをご提供していくために努力を
重ねている。



インシグニア
3Dデザイン画面

株式会社オーラルケア

設立年月日 一九八〇年

(一九九九年社名変更)

代表者 大竹喜一

〒一六〇〇〇一三

東京都荒川区西日暮里二一三二一九

電話 〇三三三八〇一〇一五

FAX 〇三三三八〇一〇一八

URL <https://www.oralcare.co.jp/>

一九八〇年十一月、米国TPオーソドンテイクス社の矯正歯科器具の日本輸入総代理店として、東京都台東区で設立。旧社名、(株)ティエイジヤパン。

一九八七年、社長の大竹喜一がスウェーデン・カールスタッド市でペール・アクセルソン博士の講義を聴講。「成人でも九七・七%歯を守る」という事実が衝撃を受ける。

一九八八年、アクセルソン博士の初来日講演を開催。エビデンスデータをもとにした「本当の予防」が明らかに。



Prof. Axelsson

一九九二年、ダグラス・ブラッター教授(スウェーデン王立マルメ大学歯学部名誉教授)初来日公演を開催。う蝕の発症と進行を防ぐ予防プログラムの普及を本格的に開始。一九九三年、アクセルソン博士の右腕と呼ばれ、世界で初めてPMTTCを患者さんに提供した歯科衛生士のブリギッタ・ニーストレン女史を日本に招聘、研修会を開催。以降毎年開催し、現在まで約一万三千人の歯科衛生士が学んだ。同年、PBT毛材を使った袋入り殺菌歯ブラシ「タフト24」を発売。また、リチャード・パークハウス(グランクリュード病院顧問矯正医)とトーマス・ロッキー(ケース・ウエスタン大学臨床教授)によるティップ・エッジ・ワーキングコースを一九九七年まで開催。この年、東京都荒川区東日暮里に移転した。



殺菌歯ブラシ「タフト24」

一九九五年、ワンタフトブラシ「プラウト」を発売。

一九九六年、拡大鏡「サージテル」を発売。シャーリン・ホワイト女史による矯正歯科医院経営セミナーを開催。高品質ワイヤー「VIM」などの矯正商品を次々に発売。

一九九七年、(株)ロツテと提携し、歯科専用「キシリトール」を発売。

一九九九年、(株)オーラルケアに社名変更。また、オーシー物流(株)(現・(株)オーシーメディアック)を設立。さらに、米国のレイントリー・エシックス社の矯正歯科器具の輸入・販売を開始。

二〇〇〇年、エシックス・プラスチックシートの研修会を開始。ジャック・シェリダン(ルイジアナ州立歯科大学教授)から引き継いだ宮井敏先生(フリーランス専門医)による実習コースを定例的に開催。同年、病院向け口腔ケア事業を開始。また、プロダクション機能を持つ(株)オーシープランニングを設立。歯科衛生士のためのメディア「タフトくらぶ」を創刊。さらに、カウコ・マキネン教授(フィンランド・トゥルク大学名誉教授)の初来日公演を開催。キシリトールに関する情報の発信と普及を本格化。

二〇〇四年、(株)サンギと提携し、歯科専用「アパガードリナメル」を発売。

二〇〇五年、国際シンポジウム「メインテナンス・ルネッサンス」を開催。同年、ハウスウエルネスフーズ(株)(旧・武田食品工業(株))と提携し、「乳酸菌L1137」含有食品「ラクデン



DH向けのメディア「タフト クラブ」

トプロ」(旧商品名:ラクデント)発売。
 二〇〇六年、ロイ・C・ペイジ博士(元ワシントン大学歯学部副学部長)が開発した歯周病リスク診断ソフトウェア「OHIIS」の提供を開始。

二〇〇八年、本社社屋を建設して現在地へ移転。

二〇一〇年、「フロアフロス」発売。「ジンジバル・プラークコントロール」の普及を本格化。

二〇一一年、(株)オーシーラポール(オーラケアコミュニケーションセンター/物流センター併設)を設立。また、ペール・アクセルソン博士の日本での公式最後となる「特別記録講演」を開催。さらに、熊谷崇先生(日吉歯科診療所)ファイナル公演をシロナデンタルシステムズ(株)、(株)ナカニシと共同主催。

二〇一二年からは、「シンポジウム」人口減

少社会における歯科医院の成長戦略」、講演会「スウェーデンで今直面している問題とその対策」「健康を中心とした人道的歯科医療」等を開催。歯科の新しいビジネスモデルについての発信を強化。

二〇一七年からは、「むし歯と歯周病の病因論」「常識を破り、プライドを貫く。患者が求める真の歯科医療を追求した予防歯科のレジエント」「MI(エムアイ)Motivational Interviewing In Dentistry 世界の医療界が変わった、MIの問いかけ話法」等の書籍を続けて刊行。

二〇一九年、(株)サンギと提携し、「薬用プラクリア」発売。

二〇二〇年、書籍「あふれる力。唾液がカギを握る! ——世界総マスク時代の健康法」を刊行。

二〇二一年一月、(株)ロッテと提携し、「噛む大切さ」を訴求した「味長続き キシリトールガム」を発売。二月、書籍「細菌を減らした『キレイな口』で、本当の健康を育む——今こそ、『リスクに強い身体づくり』の時代」を刊行。いつまでも元気で、自分らしく生きるためのケアを紹介。

創業以来、(株)オーラケアは歯科のビジネスモデルをアップデートし続け、誰もが口腔内を通して健康で豊かな人生を送れることを目指している。



本社社屋

株式会社ジーシーオルソリー

設立年月日 二〇〇八年四月一日

代表者 藤枝 淳

〒一七四一八五八五

東京都板橋区蓮沼町七六一

電話 〇三—三九六五—一六五三

FAX 〇三—三九六五—一六五七

URL <http://www.gscortholy.com/>

健康世紀実現に向けたビジョンと
矯正事業の設立

(株)ジーシーオルソリーの親会社である(株)ジーシーは、一九二一年に三名の若い創業者が、①国民生活に真に役立つものを。②製品に高度の技術が要求されるもの。③付加価値の高い製品づくりを。の三点のクライテリアの元、「ジーシー化学研究所」として設立された。

翌年一九二二年には待望の新製品「スタンダードセメント」を発売するものの、試用者から「使用に耐えず」というたいへん厳しい評価を受けた。科学的な理論は大切であるが、理論の上に需要家の要望を謙虚に取り入れ、需要家の身になってつくることが大切であると自戒し、「真の製品とは自己を空しうして相手の身になってつくったもの、いわば相依存存在である。」という社は「施無畏」を制定して口腔保健の向上に真に役立つための製品開発、普及が開始された。

その後、戦禍による困難な時代と戦後復興

の時代を経て、創業五五周年を迎えた一九七六年に静岡県小山町の富士山麓に富士小山工場が完成し量産体制が確立された。一九七七年にはガラスアイオノマー製品「フジアイオノマー」が完成し、欧米やアジアへの海外展開が加速された。

創業六〇周年を迎えた一九八一年には、「GQC(GC Quality Control)宣言」がなされ、その後の会社の根幹をなす品質経営に関する活動が開始された。一九九四年には歯科業界で初のISO9001の認証を国内で取得し、一九九四年には欧州拠点である「GCベルギー」にてISO9002を、一九九五年には米国拠点である「GCアメリカ」においてISO9001の認証を取得した。



第67回日本矯正歯科学会でのブース風景

一九九〇年代においては、一九九一年に社名を現在の「(株)ジーシー」と改称。社会のニーズの変化とともに、歯科界においても患者QOL改善への貢献が求められ、MI(最小侵襲)による少子高齢化社会に対応した歯科医療が求められるようになった。ジーシーにおいても、「健康世紀」の実現に貢献するためMIコンセプトを反映したガラスアイオノマー、予防製品などの新製品が発売された。

一方、ジーシーにとってほぼ手付かずとなっていた「歯科矯正」分野においても貢献できる包括的な歯科企業となることを目的に、二



ブラケット用接着剤「オルソリー グラスボンド」



バンド用セメント「オルソリー バンドペースト」

〇〇八年四月に熊木明彦を代表取締役として
歯科矯正事業を担う(株)ジーシーオルソリーが
設立された。患者様、歯科医療に従事する皆
様の“Smile”を大切に歯科医療の発展に貢献
していくことを目指し、“Your smile makes
us happy.”をCorporate Philosophyに掲げて
いる。

ジーシーのコア技術であるガラスアイオノ
マーをベースとしたブラケット用接着材
「GLASS BOND」、バンド用セメント「BAND
PASTE」を発売して、第六七回日本矯正歯科
学会商社展示に初出展をした。

二〇〇九年には歯科矯正用アンカースクリ

ュー「INDUCE MS」を発売、二〇一〇年には
セファロ分析、CBCTデータ解析ソフトウ
ェア「Dolphin Imaging」を発売した。

二〇一一年にマウスピース型矯正装置(技
工物)をお届けするサービス「TRANSCLEAR
System」をリリース。またブラケットやチュ
ープのポジショニング精度の向上を目的とし
たブラケットベース用レジン「KomonBase
RESIN」、マルチスロットによるコントロー
ル性とパッシブな矯正力で効率的な歯の移
動をもたらすジルコニア製ブラケット
「MANEWEVER」を発売した。

二〇一三年にプラスチックブラケットの接着
性を向上したブラケット接着材「UNIVERSAL
BOND」を発売した。二〇一四年にはジーシー
オルソリー二代目代表取締役社長として高江
洲義朗が就任。二〇一五年に歯科用硬質石
こう「BLANCSTONE」を発売、二〇一八年に
カスタムメイド型の装置をお届けするサービ
ス「ZERO SYSTEM」をリリース。またイン
ダイレクトボンディングに適したフローを有
するブラケット接着材「UNIVERSAL BOND
FLOW」を発売した。

二〇一九年にジーシーオルソリー三代目代
表取締役社長として藤枝淳が就任し、カス
タムメイド型矯正装置の作成のためのインタ
ラクティブなコミュニケーションプラットフォーム
「GC ORTHOLY Web Service」の開始
やIPR施術に最適な「IPR Bur」「Dentasonic」
の導入など包括的なソリューション提供と患
者のQOL向上への貢献を目指した活動を展
開している。

株式会社JM Ortho

設立年月日 一九七三年七月九日

代表者 山崎 裕

〒一〇一〇〇六一

東京都千代田区神田駿河台二一

御茶ノ水杏雲ビル一四階

営業所 大阪、福岡

電話 〇三―五二八―一四七七一

FAX 〇三―五二八―一四七二六

URL <https://www.jmortho.co.jp/>

会社の歴史

一九七三年、(株)モリタと米国の Rocky Mountain Orthodontics の合弁会社として(株)モリタ銀座本社内に(株)ロッキーマウンテンモリタとして事務所を開設。その後、一九七五年には(株)モリタとともに台東区上野に移転している。

親会社(株)モリタが一九六三年より総代理店として輸入販売していたRMOの矯正器材の国内販売を引き継ぎ、その後国内外の矯正器材を取り込みながら、独自の商品も開発して企業として成長してきた。成長と共に、一九八三年に神田淡路町に移転、さらに創立四〇周年の二〇一二年には現在の神田駿河台・杏雲ビルに移転している。

一九八二年には大阪営業所、一九九一年には福岡営業所を開設し、全国の先生方へのサービスを充実してきている。当初は本社内に商品在庫を持っていたが、取扱商品の増加に

伴い、二〇〇六年に松戸、二〇一九年には柏と物流センターも移転・拡大をして物流サービスの向上にも努めている。

企業として成長してきた結果、二〇一八年には合弁を解消し、社名を現在の(株)JM Orthoと改めた。

RMOの商品については引き続き日本の総代理店を務め、国内で独自開発をした商品を海外にも輸出することで、更なる発展を目指している。規模の拡大だけではなく、世界に通じる品質管理を目指して、二〇一六年にISO13485(本社)を取得し企業として自らを管理する体制も整えた。

取扱材料の歴史

RMOのオリジナル商品の一つCoCrの矯正用ワイヤー「エルジロイ」をスタートに、テクノロジーの進歩にあわせて、NiTiワイ



JM Ortho 受付

ヤー「オーソノール」等、サーマルアクチベイトNiTiワイヤー「サーマロイ」等、「TiMoワイヤー」ベンダロイ」等、SSワイヤー「ツルクローム」等々、先生方が臨床に合わせて選択いただけるような異なる素材の矯正用ワイヤーの品揃えをしてきている。

二〇一〇年に発売した「ゴムメタル」は豊田中央研究所開発の「TiNi」系の合金を矯正用ワイヤーに利用出来ないかという神奈川県歯科大学故長谷川信先生のご提案を受け、新規素材として生物学的安全性試験から始めた商品開発であった。時間と費用は掛かったが、今



ゴムメタルアーチワイヤー

も「ゴムメタルホワイト」、「ゴムメタルフロ
ッシュー」、「ゴムメタルワイヤーType II」
等々を生み出し、世界から注目される素材・
商品となった。その過程で多く関係者から多
くのことを学ぶことができ、企業として少し
厚みが増したと自負している。



ムーシールドM



ムーシールドS

今では常識となっている「ダイレクトボン
ディングシステム(DBS)」は一九七〇年発
売された「オルソマイト」によって確立されたと
言って過言ではないと思うが、一九八二年
には「オルソマイトスーパーボンド」を発売、
二〇一二年には「スーパーボンドオルソマイ
ト」にリニューアル、その間一九九二年に「M
CPボンド」、二〇一四年には光重合型接着
剤「LCオルソマイト」を発売することでDB
Sの歴史と一緒に歩んできている。スーパ
ーボンドは東京医科歯科大学の研究から生まれ
た商品だが、熱硬化性エラスチックチェーン
「FMリングレット」(一九八三年発売)も同大
学の研究成果で、世界中に販売されている。
常に産学共同で革新的な商品を開発する姿勢
を崩していない。



SAM2P 咬合器

造中止となったが、その素材のユニークさで
市場からの要望に応じて「シンシアブレース」
を二〇〇七年に発売することで、治療に求め
られる性能を持つ素材は生かし続けるべきだ
ということを学んだ。

一九九三年には従来のメタルブラケット
とは違う陶山 肇先生のアイデアである摩擦
の少ない「シナジイH・S・ブラケット」
を発売。特に日本国内における患者さんの
ニーズに合わせて開発されてきた審美ブラ
ケットの分野でもジルコニアセラミック以
外の素材ポリウレタンブラケット「アリス」
(二〇一二年)、セラミックブラケット「シグ
ネチャーⅢ」(二〇〇三年)「Eliクリア」(二
〇一一年)「C-line」(二〇一九年)、セルフラ
イゲーションセラミックブラケット「S-line」
(二〇一九年)とその時代の先端を行くテク



バイオスターⅦ

ノロジーで製造された審美ブラケットを発売してきている。

二〇〇九年には、「セルフライゲータイング リンガルブラケットシステムKSL」を発売。

二〇一六年には、従来の治療システムとは大きく違う治療を具現化する矯正用アンカレッジシステム「Istation」を発売したが、このシステムは進化し続けている。

一九九九年には早期治療の可撤式機能装置「キューシックスインクライン、タンゲリトレイナー」を発売し、Dr. Hal KussickおよびDr. Michael S Bubonを招聘しセミナーを開催するなど、商品と一緒に臨床方法の普及を始めている。その延長線上に二〇〇四年発売の「ムーシールド」、二〇一一年の「マルチファミリ」、二〇二〇年の「Uコンセプト」および「ムータン」の発売とアーリート



スポットウェルダ Type700

リートメント筋機能矯正装置の充実を図っている。同時に「反対咬合の早期初期治療のシンポジウム」を開催、柳澤宗光先生、金子和之先生、山木貴子先生、柳澤百子先生のセミナーを定期的開催することで情報の発信にも努めている。二〇〇三年に発売した矯正用リテーナー洗浄剤「リテーナーシャイン」の販売が毎年伸びるという相乗効果がある。一九八五年に発売した「3Dシステム」も早期治療に使用できる装置として、先生方の治療方法の幅を増やしていただくことにも努めている。

取扱器械等の歴史

(株)モリタからバトンタッチしたスポットウェルダ六六〇型は製造元を変更して二〇〇五年に後継器七〇〇型を発売することで、臨床の先生のみならず大学にも広く設置されている。

一九七八年に加圧成型器「バイオスター」の輸入販売を始めたが、改良が続けられ二〇一六年からは七代目のバイオスターとなっており、使用されるプレートも改良や新規材料が採用されている。二〇〇五年に発売した睡眠時のブラキシズムを測る「ブラックスチェッカー」も神奈川歯科大学の佐藤貞夫先生と共同開発させていただいた商品である。

一九七七年に故Dr. Robert M. Rickettを招聘し「Advanced course in orthodontic philosophy」講演会を開催、以来バイオプログラム診断の普及・研究活動に一貫して積極的に協力をし

ている。一九八五年にはRicketts分析を基本とする日本初のコンピュータによる顎顔面成長予測と患者管理プログラム「COAシステム」を発売し、現在は「COA5」とバージョンアップし、現在もDX時代に乗り遅れないようバージョンアップを計画している。

一九八五年から「SAMシステム」を発売し、一九八九年ウィーン大学当時歯学部長 Prof. Rudolf Slavicek を招聘して、「顎咬合機能の解析法講演会」を開催。一九九〇年から神奈川歯科大学 佐藤貞夫先生の「SAMシステムコース」の開催を始めており、咬合を学ぶには必須の咬合器「SAM」「アキシオグラフ」の販売と啓蒙を通して大学教育と臨床家の臨床支援に貢献してきている。

歯科医院で普及しているオートクレーブで消毒殺菌ができない矯正用器材も殺菌可能な矯正用ホルマリン殺菌器「ホルホープASKI 450R」を一九九五年に発売、現在は操作性・性能を改善した「ホルステリ20RM」になっている。術者の先生のみならず、患者の目線で商品・ソフトを開発・採用していくという企業姿勢はブレることなく生き続けている。

一九八五年に創刊された「矯正臨床ジャーナル」の総販売元となり、これまで開催してきたセミナー・講演会も含めて、数多くの開催イベント、発刊してきた本を通して情報発信・情報伝達にも努め、「美しい笑顔をサポートします」のスローガンのもと、医院の皆さんと企業の私達が患者さんをしつかりサポートしていくという思いを持ち続けて、総合的な活動を世界で進めていく。



(株)松風本社社屋

株式会社松風 営業部矯正課

設立年月日 一九九一年六月三日

代表者 秋山信也

〒一三〇〇三四

東京都文京区湯島三十一六一

電話 〇三三三八三二一八二四

FAX 〇三三三八三二七六八二

URL <http://www.shofu.co.jp/>

(株)松風の創業は一九二二年(大正十一年)五月、陶磁器や高圧硝子の製造販売を手がけていた三代目松風嘉定が松風陶歯製造(株)を設立、人工歯の製造販売および歯科材料の研究開発を開始。以降、歯科器材の総合メーカーとして製品の数々は国内外市場にそのシェアを拡大している。

一九八三年五代目松風嘉定がCI運動に取り組み「松風」に社名を変更。一九八九年大証二部、二〇〇七年東証二部、二〇一二年東証一部へ上場し、二〇二二年五月に創立百周年を迎える。

松風矯正課の設立

一九九一年三月、ジョンソンエンドジョンソン(以下J&J)日本人よりAカンパニー(以下A Co)製品の販売権を取得、矯正課を新設してストレイトワイヤーアプライアンス(以下SWA)を中心とした矯正歯科材料全般の販売活動を六月よりスタートさせた。

米国サンディエゴに本社を置くA Coは、SWAの開発者であるDr. Andrewsによって一九七〇年に設立された。A CoのAはアンドリュースの頭文字に由来している。

日本への製品導入は並行輸入の形で数社が販売を手がけていたが、一九八一年にA CoがJ&Jの子会社となり、一九八二年に東京矯正歯科学会の特別演者としてDr. Andrewsが初来日講演を行ったことをきっかけにJ&J



Dr. Lawrence F. Andrews

デンタル事業部にて、限定的な国内販売が開始、一九八五年後半より本格的販売が行われるようになった。

講演会で最新の矯正テクニックを紹介

製品の販売と並行して米国矯正医によるセミナーを開催、最新の情報、テクニックの紹介、普及に努めた。

一九八五年、Roth/フィロソフィーの日本での普及のため、Dr. Roth/Dr. Williams セミナーを開始、九〇年代に入り一層活発化した。二〇〇〇年三月、Dr. RothはA Coとの契約



Dr. Ronald H. Roth



Dr. Richard P. McLaughlin

を解消し、四月よりGACと契約。二〇〇五年一月二四日に癌のため死去。

一九九三年四月、「ストレートワイヤー法—基礎理論と装置—」の邦訳版の発行に併せ、著者であるDr. Andrewsを招聘し、出版記念講演会を開催した。

一九九三年六月、Dr. McLaughlinの来日初講演、以後一九九六年まで多彩なコース展開で四年間開催した。一九九四—一九九六年サンディエゴでのオフィスセミナーも開催した。一九九四年最初の邦訳版となる「プリアジャストエッジワイズ法—装置とメカニクス」を出版。一九九六年A—Coとの契約を解消し、3Mと契約した。

Dr. レイモンド・スギヤマセミナーは一九九二年、一九九六年、二〇〇一年と三回開催。Dr. マクナマラは一九九八年「早期矯正治療と顎機能矯正治療へのアプローチ」をテーマに東京と大阪で前年の「混合歯列期の矯正治療」邦訳出版記念講演会を行った。

一九九八年二月、アメリカのA—Coはサイブロンデンタルに買収され、オームコに吸



Dr. Raymond M. Sugiyama

収されたが、同社製品の販売は従前と変わりなく販売を継続している。

二〇〇九年三月、Dr. McLaughlinは3Mとの契約を解消、四月ウルトラデントと契約。それに伴い二〇一〇年三月松風はウルトラデントと矯正材料の日本での独占販売契約を結び、一〇月よりOPAL製品の販売開始。同時にDr. McLaughlinセミナーを東京並びにサンディエゴオフィスセミナーを再開。東京でのセミナーは、サンディエゴで開催される二年間コースを七回に分け毎回一六〇名の定員を満了す盛況な講演会が続いている。

二〇一六年九月、ウルトラデントのブラケット製造撤退に伴い、Dr. McLaughlinはフォレストデントと契約、それに伴い二〇一八年五月より松風はフォレストデントジャパンと協力しMcLaughlin/Bennett 5.0ブラケットの販売を開始、現在も継続してマクローフリンメカニクスの普及に努めている。

歯科矯正用アンカースクリュー「アブソア



Prof. Hee-Moon Kyung

ンカー」は二〇〇六年九月より発売を開始したが、松風にとって初となるクラスⅢ承認品目であったため、販売先エンドユーザーのトレーサビリティの徹底、取扱説明書の充実を図りつつ、教科書となるべく複数の邦訳本の出版、ハンズオンセミナーを重点的に行った。開発者の一人である韓国慶北大学歯科矯正学教授のHee-Moon Kyung先生、Park,Hyo-Sang先生、慶北大学ライブオペセミナー、ワールドMIA/アジアMIA紹介、また多くの日本の先生方によるセミナーも充実させ開催し、現在も継続している。

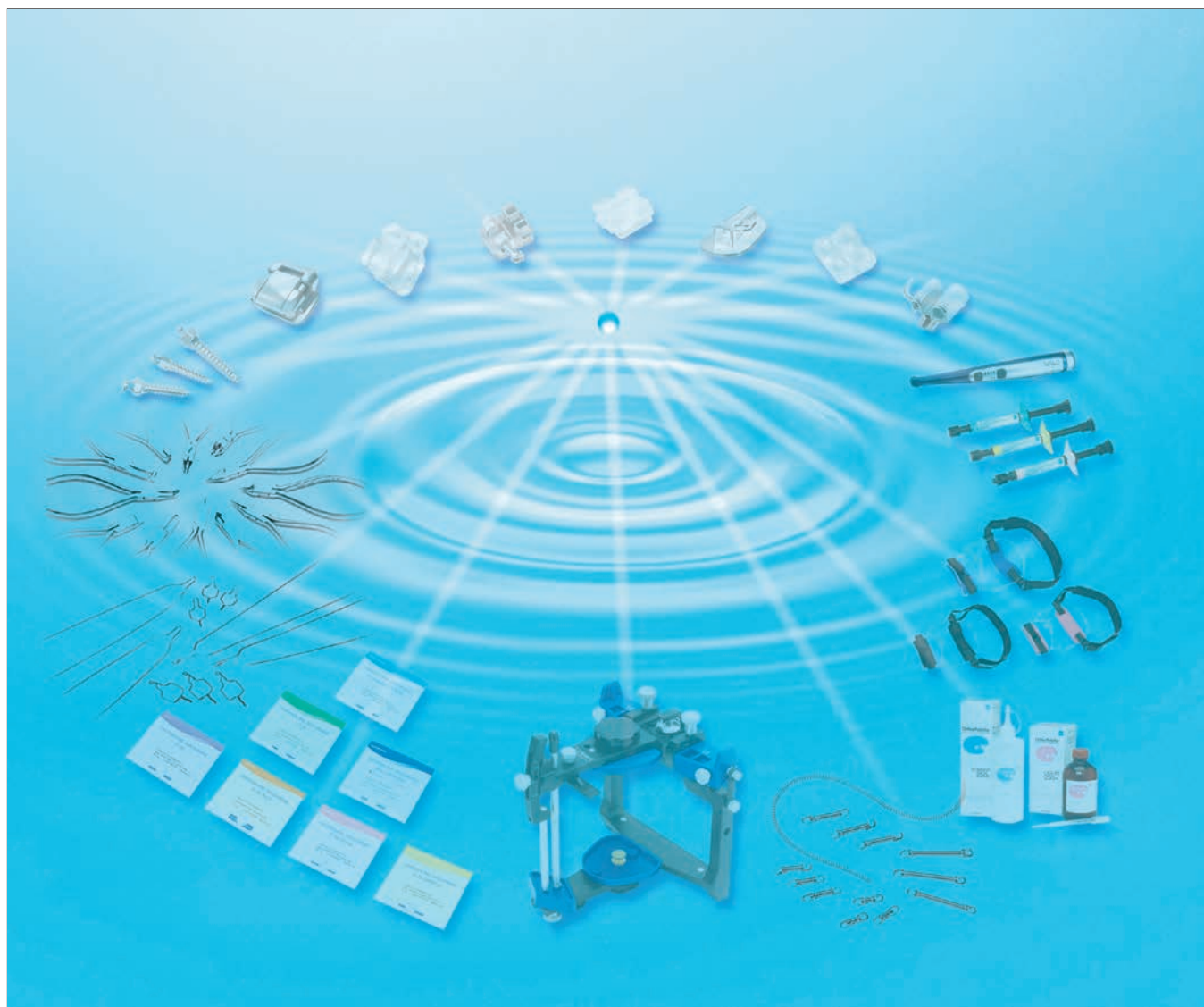
一九九一年から始まる矯正事業のスタートから以下の製品の販売を行っている。

取扱製品について

一九九一年よりA—Co製品、Dr. Rothからの強い要望から一九九二年よりパナデント咬合器、J&Jの口腔予防製品、一九九三年よりETMプライヤー（一九九七年まで）、ワンダーワイヤー（一九九八年まで）、一九九四年咬合器関連クイックスプリントシステム、一九九九年よりタスク社プライヤー、インダイレクトボンディングシステム「エミルマ」、ヘッドギア、K—ロック（二〇〇三年まで）、二〇〇二年より歯垢染色液体ハミガキ「ハミガキ上手プロ」、二〇〇三年より歯科矯正用即重レジン「オーソパレット」、「オーソラインアーチワイヤー」、「プレシブラケット」、二〇〇四年よりボンディング材除去用「ジェットカーバイドバー」、スポッ

トウエルダー「マイウエルダー」、二〇〇五年よりセルフェッチングボンディングシステム「ビューティオーソボンド」、二〇〇六年より歯科矯正用アンカースクリュー「アブソアンカー」、二〇一〇年「OPAL矯正製品」、二〇一四年よりレベリングクリアアタッチメント、二〇一八年よりフォレストアデント社McLaughlin/Bennett 5.0システム製品。そして二〇二〇年末よりパッシブセルフライゲーションブラケット「SHOFUSLブラケットジニアシステム」の販売を開始した。

松風は矯正事業発足以来、ストレートワイヤーテクニクの本流を日本に普及させることに努め、あわせてそのテクニクに伴う矯正材料の提供を行ってきた。これからもその流れを継続しつつ、歯科ユーザー並びに患者さんが求める情報と、安全で安心してご使用いただける矯正歯科材料を提供していききたい。



製品群

スリーエムジャパン株式会社
歯科用製品事業部 ユニテック製品グループ

設立年月日 一九六六年(ユニテック製
品グループ)

代表者 宮崎裕子

〒一四一八六八四

東京都品川区北白川六七一九

電話 〇三六四〇九五五一一

FAX 〇三六四〇九五八二二

URL <https://www.3mcompany.jp/>

3M/ja_JP/orthodontics-jp/

スリーエムジャパン(株)歯科用製品事業部
ユニテック製品グループの前身は、一九六
六年(昭和四一年)二月一日にスパバデン
タルプロダクツ(株)(代表 天野隆芳氏)とし
て、矯正歯科関連製品(ブライヤー、歯牙模
型、ハンドピース等)の輸出会社として設立
された。

その後、ユニテックスパバ(株)を経て一九
七四年(昭和四九年)九月にユニテック・ジ
ヤパン(株)(代表取締役 古屋雄三氏)となり、
米国ユニテック社製の矯正歯科材料を輸入
並びに国内販売を開始した。特に世界初の
ニッケルチタンワイヤー「ナイテノル」の発
売は、当時ほとんどステンレススチールワ
イヤールのベンディングで行われていた治療
システムに大きな変革を起こした。

一九八〇年前後より、講習会を頻繁に行う
ようになる。当時の米国矯正歯科界のオーソ
リティーを招聘して開催した講習会には、多

くの矯正歯科医の参加をいただいた。その
後、紹介された治療システムは国内における
研究会、スタディーグループの礎となり、現
在まで脈々と引き継がれている。

弊社が主催した講習会としては、一九七九
年のジェイムズ・アッカーマン教授による
「ストレートワイヤー法」、一九八一年のツイ
ードファンデーション元会長のテリル・ルー
ト先生による「レベルアンカレッジ・システ
ム講習会」、一九八四年のビンセント・ケリ
ー先生による「マルチ・リンガル矯正法」、同
年のトーマス・クリークモア先生による「ミ
ニ・ユニツインブラケット講習会」等、様々
なジャンルの講習会を開催した。

その中でも、ルート先生によるレベルア
ンカレッジ・システム(LAS)は、その後
毎年来日講演が行われ、一九八五年にL A
Sソサエティが設立された。以来、現在ま
でに毎年、講習会が開催され、一九九七年
にルート先生が他界された後も、日本の矯
正歯科医にその遺志が受け継がれ、現在に
至るまで活発な活動が行われている。



Dr. Terrell L. Root

また、一九九八年には、米国のリチャー
ド・マクロフリン先生を含む三名のドクタ
ーによって開発されたプリアジャステッド
アプライアンスシステムの「MBT」TMシステ
ムを解説する、マクロフリン先生の講習会
がスタートする。二〇〇九年まで多くの講
習会を開催し、日本においてもMBTTMシ
ステム研究会の創設が実現した。

これらの講習会と相まって、当時のユニ
テック社、現在のスリーエムジャパン(株)
は、様々なイノベーションな矯正歯科用製
品を世に送り出した。

一九八七年に発売された「トランセンド」SM
セラミックブラケットSMは、世界初の「審美
ブラケット」として、市場に大きな反響を呼
んだ。その後もメタルライナーの入ったこ
とにより審美性と機能性を兼ね備えた一九
九七年発売の「クリアティ」SMセラミックブ
ラケットSM、さらに二〇一三年の「クリアテ
ィ」SMアドバンスセラミックブラケットSMは
非常に微細なセラミック素材により、小型
化と機能性を両立させ、現在まで多くの矯



審美性と機能性を兼ね備えた
セラミックブラケット



クリアティ™
ウルトラSLブラケット

正臨床医から支持をいただいている。さらに、治療期間の短縮、チェアタイムの削減等が期待できるセルフライゲーションングブラケットの分野でも、他と一線を画したデザインと機能を持った製品を送り出した。「スマートクリップ™ブラケット」(二〇〇四年)および「クリアティ™SLセルフライゲーションングアプライアンスシステム」は、ニッケルチタン製のクリップをワイヤースロットの近遠心に配置し、ワイヤーをスロット内でパッシブにするセルフライゲーションを実現した。さらに、二〇一九年には「クリアティ™ウルトラセルフライゲーションングブラケット」を発売。高い審美性と、治療効率を高めるパッシブセルフライゲーションを両立した新しいブラケットである。

世界初のセラミックブラケットを発売した一九八七年には、米国スリーエム社の傘下となり、接着材の分野でも、様々な革新的な製品を上市し続けている。一九八八年、現在でも矯正歯科用光重合接着材として人



APC™ Flash-Free 接着材付き
アプライアンスシステム

気の高い「トランスボンド™光重合接着材」が発売された。

この光重合接着材の技術は、その後、一九九二年にそれまで世界で類を見ない、事前に接着材がアプライアンスのベースに塗布されている「APC™接着材つきアプライアンスシステム」として、全く新しい価値を生み出したのである。「APC™接着材つきアプライアンスシステム」は、接着材塗布の手間が省ける効率性の利点だけでなく、その脱落率の低さによる信頼性、個包装による感染管理と患者の安心感獲得、さらにパッケージのマーケティングによる在庫管理の容易さという価値も提供している。

この「APC™接着材つきアプライアンスシステム」は、その後、歯牙のフィット性を高めた「APC™II」(二〇〇一年)、接着材の色の変化で余剰を取りやすくし「APC™ PLUS」(二〇〇四年)、そして現在販売している余剰接着材の除去が不要で、脱落率を大幅に低減した「APC™ Flash-Free」(二〇一三年)と、進化し続けている。



インコグニト™アプライアンスシステム

リンガルの分野においても、ダーク・ピツヒマン先生が開発したカスタマイズ・リングル・アプライアンス・システムの「インコグニト™アプライアンスシステム」を二〇〇八年よりスリーエムで取り扱いを開始した。このリングルシステムは、デジタル技術を駆使し、患者個々の歯牙に合わせたアプライアンス、ワイヤーを作成する。その後、口腔内スキャナーの利用者拡大と相まって、多くの矯正歯科医が採用した。

スリーエムジャパン(株)は、3Mのもたらすイノベーションは明日をもっと豊かにします。というビジョンを持っている。矯正歯科に従事する全ての方々と患者様の豊かな明日のために、今後もイノベーションな優れた製品、サービスによって貢献していきたいと考えている。

ストローマン・ジャパン株式会社

設立年月日 二〇〇七年八月

代表者 嶋田 敦

〒一〇八〇〇一四

東京都港区芝五三三六七

三田ベルジュビル六階

営業所 大阪

電話 〇三六八五八一—八八

FAX 〇三六八五八一—四九五

URL <http://www.straumann.jp/>

立。獣医学における骨接合術が世界的に確立される。現在では、骨折に関しては動物にも人間と同様の治療が施されている。Fritz Straumannは、生涯をかけてAOVEET社のサポートを継続。

一九八〇年、Dr. hc. Fritz Straumann、Prof. Andre Schroederらが、口腔インプラント歯学のさらなる発展を目的として、International Team for Implantology (ITI)を設立。Straumannは、ドイツに初めて子会社を設立し、歯科事業をグローバルに展開。

一九九〇年、現在は創設者の孫であるThomas Straumannが、歯科用インプラントを中心としているInstitute Straumannを担う。

一九九八年、株式を公開。IPOによって、成長が加速。

二〇〇〇年、スイス、ヴィルレに工場を新設。サンティエとニードルフの製造を引き継ぐ。

二〇〇三年、生物学に基づく歯周組織の再生におけるバイオニアであるBiora社を

買収。
二〇〇四年、ヴァルデンブルクで創業されてから五〇年が経ち、本社をバーゼルに移転。

二〇〇七年、etkon社の買収を通してCAD/CAMを用いた補綴学の分野に参入。ストローマン・ジャパン(株)を設立。

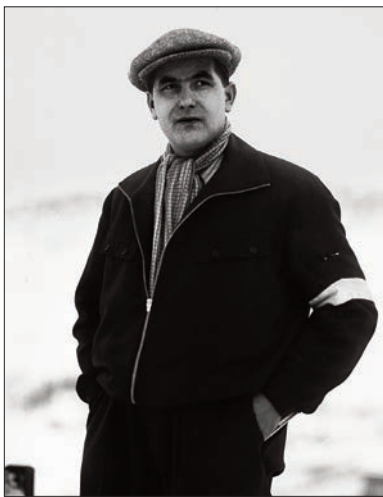
二〇〇九年、IVS Solutions AG社のデンタル事業を買収し、コンピュータガイドドサージェリー分野に参入。

二〇一一年、デジタルソリューションを開発し、オープンスタンダード・デンタルソフトウェアプラットフォームを構築するため、Dental Wings社に投資。

二〇一二年、ブラジルの歯科インプラント市場のリーダーであるNeodent社の株式の四



Thomas Straumann



P Reinhard Straumann



バーゼル本社



ClearCorrect

九%を取得。
 二〇一三年、急成長している歯置換ソリューションのプロバイダー、Creattech社とMedenika社の株式を取得。
 二〇一五年、Neodent社の株式の一〇〇%を取得。成田ミリングセンターを設立（日本）。
 二〇一七年、Straumann Group 設立。ClearCorrect社を買収。
 二〇一八年、Creattech社の株式の一〇〇%を取得し、アライナー矯正マーケットに本格参入。
 二〇一九年、フランスのインプラントメーカー Anthogyr社の株式の一〇〇%を取得。



ClearQuartz



Clearpilot

株式会社タスク

設立年月日 一九六八年二月二三日

代表者 塩田信吾

〒一一一〇〇〇一

東京都文京区白山二一三八一四

白山ビル

電話 〇三―五六一五―八八二七

FAX 〇三―五六―一五八八三七

URL <http://www.task-inc.net/>

世界水準を凌ぐ高い品質と機能

一九六八(昭和四三)年二月二三日、(株)塩田歯科器械製作所(現・(株)シオダ)の矯正関連を中心とした歯科器具類の輸出および国内販売会社として、(有)タスクを東京都北区に設立し、代表取締役塩田英雄が就任する。その後、一九九六(昭和八)年に有限会社を株式会社に変更した。二〇一〇年(平成二二)に塩田信吾が代表取締役に就任、現在に至る。タスク設立の母体となったシオダの前身で



ディスタルエンドカッター
フラッシュカット

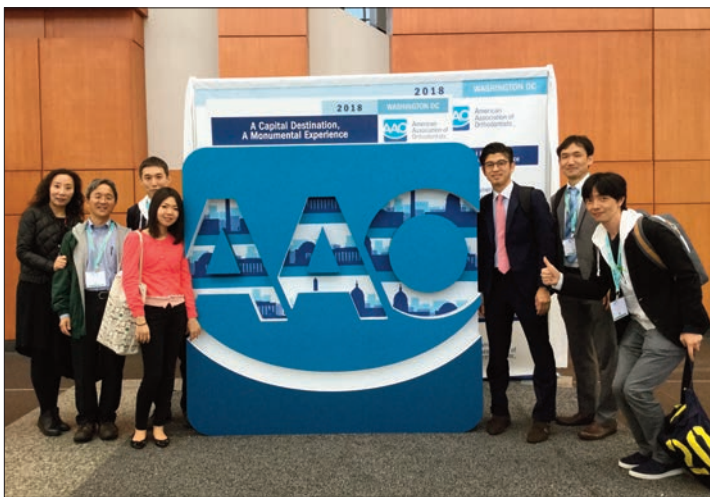


リバースドリガチャカッター
40°アングル

ある塩田歯科器械製作所は戦後間もない一九四六年(昭和二二)年、塩田光信が個人として歯科用鉗子、プライヤーをメインに国産のインスツルメントの製造を開始、八年後の一九五四(昭和二九)年に、正式に会社組織として(有)塩田歯科器械製作所を設立し本格的に製造を開始している。塩田光信は代表取締役に就任した。一九八二(昭和五七)年に(株)塩田歯科器械製作所に組織変更し、三年後の一九八五(昭和六〇)年には、塩田信博新社長就任に伴い塩田光信は会長に就任した。一九九五(平成七)年、社名を(株)シオダに改め、二〇一五年(平成二七)年に塩田信吾が代表取締役就任、現在に至る。タスク設立の翌年一九六九(昭和四四)年には、相手先ブランド名(OEM)で米国向け輸出を開始した。これらの輸出品は矯正器材先進国であった当時のアメリカにおいて、その品質、機能が高く評価され、一時は納期に間に合わず三万本余りのバックオーダーを抱えたこともあったという。

アメリカ向けに矯正用プライヤーを輸出する一方、三年後の一九七二(昭和四七)年には、自社ブランドとして「六〇シリーズ」の矯正用プライヤーを開発し、OEM製品だけでなく、タスクブランドとしての海外および国内市場へのアプローチを開始した。一九八〇(昭和五五)年に入ると、主に韓国、台湾を中心とする東南アジア方面への本格的輸出を開始した。

一九八一(昭和五六)年には、それまでの「六〇シリーズ」矯正用プライヤーに超硬チップをインサートしたベンディングプライヤー類が新たに加わり、ラインナップが一層充実した。



AAO 2018



日本矯正歯科学会横浜大会(2018年)

翌年の一九八二(昭和五七)年にヨーロッパ市場への本格的なアプローチを開始し、輸出を始めた。

前出のアメリカ、アジアに次ぐヨーロッパ市場への進出によって、世界の主要国に対する製品の供給が可能となった。

世界市場への進出を進める一方、新素材や先端的な加工技術による新製品の開発も積極的に進めた。

当時、加工が困難とされていたチタン製の矯正用プライヤーを世界に先駆けて開発したのは一九八五(昭和六〇)年である。その発売は一躍世界の話題となり、優れた機能と耐久性が高く評価された。

一九九〇年代(平成二年以降)に入ると、素材面、デザイン面、さらにコストパフォーマンスを考慮した新製品を次々と開発した。

一九九一(平成三年)にハイグレード「30シリーズ」矯正用プライヤーの販売を開始、二年後、新素材の超硬質合金をインサートし「30シリーズ」のグレードアップをはかった。

一九九三(平成五年)年六月、フラッシュユカットタイプのエンドカッター「30-550SF」を発売し、さらに一九九五(平成七)年ハイクオリティとロープライスをコンセプトとした「TSシリーズ」を発売、二〇〇〇年以降はハンドル形状を平らにし手にフィットしやすしい「PRORTHOシリーズ」、舌側矯正ブラケットの需要が高まり「リンガルプライヤー」などを開発した。

ユーザーの声を製品づくりに

インスツルメントは、目立たないが毎日使用され、使用目的をきちんとこなしていく、いわば「縁の下の力持ち」的存在である。

矯正テクニクの多様化、それにとりもなう新しい矯正材料の出現、これらが一つのサイクルとなって進歩発展を続けてきた矯正界、その中で矯正用プライヤーも不要になって姿を消したものの、また必要とされて新たに生まれてきたもの、さまざまである。

このような変革の中、タスクはシオダとともに常に市場に目を向け、市場の声に耳を傾け、その変化を捉え、それを消化し、新たな商品の開発に生かしている。

有限会社ティーピー・オーソドンテックス・ジャパン

設立年月日 一九九九年二月八日

代表者 大竹喜一

〒一四一〇〇二四

東京都北区西ヶ原一四六一三

横河駒込ビル

電話 〇三一九六一一三八〇〇

FAX 〇三一九六一一三八〇五

URL <http://www.tpoj.co.jp>

本社であるTPオーソドンテックス社は一九四二年に、「矯正治療における理想的な最終仕上げと保定」を目的とした「Tooth Positioner（トゥース・ポジショナー）」の開発者、歯科医師H.D. ケスリングによってアメリカインディア州に設立された。社名の「TP」はまさに「Tooth Positioner」を意味しており、七年以上経過した現在でも画期的なフィニッシング・アプライアンスとして、日本を始め世界五〇か国以上に提供され続けているサービスである。

一九八〇年（昭和五五年）、TPオーソドンテックス社製品の日本における輸入代理店として（株）TPジャパンが東京都台東区に設立された。設立当初は矯正歯科製品の販売だけではなく、クリス・ケスリング、リチャード・パークハウス、ラファエル・グリーンフィールド等、世界から招聘した講師による講演会、研修会等の開催などを通じて最新の矯正情報の提供を行ってきた。同時に予防歯科製

品の開発または輸入、販売をするようになっていたが、一九九九年（平成一年）にTPオーソドンテックス社の矯正歯科製品のみを取り扱う会社として、新たにTPオーソドンテックス・ジャパンを東京都北区に設立、予防歯科製品は（株）オーラルケアが継続して販売するというように事業を整理して現在に至る。

設立以来「ベッグ・テクニク製品」「ティップエッジ・テクニク製品」、また現在でも多くの先生方にご利用いただいている「クリンパブルフック」などのメタル製品を中心に販売してきたが、二〇〇三年（平成一五年）にセラミックブラケット「InVu」の発売を開始した。「InVu」は患者さんの個々の歯の色にマッチするという「Personalized Color-Matching（パーソナライズド・カラー・マッチング）」（以下PCM）という技術を採用、ブラケットを装

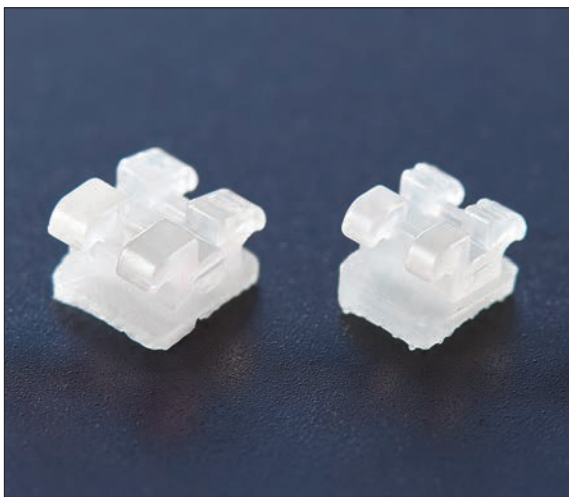


トゥース・ポジショナー

着しても違和感のない見た目を実現し、多くの患者さんから選ばれるようになっていく。

また、二〇〇七年（平成一九年）には唇側のみホワイトコーティングをして審美面とスムーズに動くという機能面両方を兼ね備えた「エステティック・ワイヤー」の発売を開始、その後も「InVu」や「エステティック・ワイヤー」と同時に使用できる「エステティック・クリンパブルフック」などの様々な白い製品を揃え、「楽しく、美しく、ファッショナブルなラビアル矯正」をコンセプトに展開してきた。

二〇〇八年（平成二〇年）、「InVu」他PCM製品を選んで「楽しく、美しく、ファッショナブルなラビアル矯正」で矯正治療を始めた患者さんを先生方からご紹介いただいていたインタビューを行い、その内容を「Joyful Voice」というニュースレターにして定期発行



InVu



Joyful Voice

を開始した。創刊号以来二〇二〇年末時点で五九号を発行し、その間登場していただいた患者さんの総数は八六名にのぼる。

「なぜ矯正治療をはじめようと思ったのか?」「なぜ「InV」を始めとする「PCM製品」を選んでもらえたのか?」「矯正治療期間中どのような心境や環境の変化が起きたのか?」などを、患者さん自身が語られた言葉を中心に発信、「なりたい自分」へと歩んでいくその姿と素敵な笑顔は、矯正治療を始めようかどうか悩んでいる人の背中を押し、治療を始める前の不安を前向きな気持ちに変え、また、現在矯正治療中の人には「そうそう」「私も同じ!!」と共感してもらえりような内容で、臨床の場での先生と患者様とのコミュニ



Good Selection

ケーションをお手伝いするようなツールとなっている。

また「PCM製品」以外の製品の紹介をする「Good Selection」というダイレクトメールを定期的に発行、当社製品を臨床でご使用いただいている先生方の感想や使い方のコツなどを直接インタビューさせていただいたものを記事にして、他の先生方にも共感していただけるような「活きた情報」をお届けしている。

今後も「InV」をはじめとする白い「PCM製品」で「楽しく、美しく、ファッションナブルなラビアル矯正」というコンセプトを製品だけではなく情報や歯科医院と患者さんとのコミュニケーションツールなどの提案を中心に活動をしていきたい。

株式会社デンタリード

設立年月日 一九九一年三月二五日

代表者 中山充悟

〒五三二一〇〇三三

大阪市淀川区新高一―一五

電話 〇六一六三九六一四四八

FAX 〇一一〇一四〇八九二

URL <http://www.interglobe-jp.com/>

一九九一年(平成三年)三月二五日、(有)ハクスイ興産設立。

白水貿易(株)の関連会社として、輸入歯科機材の卸売販売会社を設立。

白水貿易(株)は一九八七年(昭和六二年)よりドイツのデントウラム社製品の金属床用材料の輸入を始め、同製品を化粧品会社ポーラの傘下であった(株)科薬を通じ、技工所向けに販売していた。

一〇〇年以上の歴史をもつデントウラム社は、ヨーロッパ最大の矯正器材メーカーである。ドイツ南部、ポルツハイムに位置し、広大な敷地に四三〇名の従業員が静かな環境のもとで、商品の開発、製造、販売に従事している。デントウラム製品はいずれも厳しい品質管理が施され、国際品質保証規格に合格したものが日本をはじめ、世界各国に向けて輸出されている。

また、一九九六年に設立されたCDC(Center for Dental Communication)では連日多彩なセミナーが開催され、日々の診療に役立てられている。



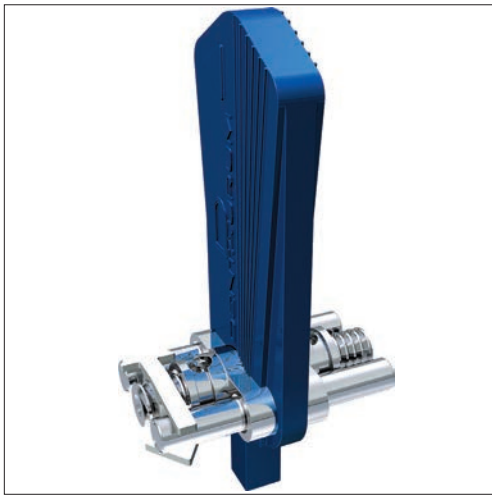
CDC 前景

一九九四年(平成六年)三月二五日(有)インターグローブに社名変更 代表取締役社長に中山登美子が就任。
一九九四年(平成六年)六月一日 主要取引先(株)科薬のデンタル事業撤退により、ドイツ・デントウラム社製品の販売業務を引き継ぎ、全国のユーザーへの直接販売を開始。



デントウラム全景

斬新かつ効率の良い流通をめざし、医院や技工所に直接販売する方式でお客様に常によりよい商品を安価に届け、このシンブルな流通にすることでリーズナブルな価格で商品をご提供することを可能にして、これまで聞くことが難しかったお客様から細かいご要望・ご意見、時には苦情を直接



主力商品である
エキスパンションスクリュー



主力商品であるハイラックスクリック

詳しくお聞きすることができると、いただいたご要望に迅速且つ丁寧に対応していくことができる。これらを実現することをコンセプトにスタートする。

一九九七年(平成九年)三月一日、東京営業所開設(東京都練馬区)。

一九九八年(平成一〇年)頃より、ドイツ・デントウラムの矯正器材の取り扱い準備を進める。

二〇〇〇年(平成一二二年)より本格的な矯正材の販売をスタートする。主要产品目であるエキスパンションスクリューをはじめ、ファッシーションセラミックブラケット、ウルトラミニトリムメタルブラケット、コバルトクロムワイヤー、ニッケルチタンワイヤー等の販売を始める。

二〇〇二年(平成一四年)よりデントウラム社製のデンタフォームバンド、即時重合レジオンオーソクリル、各種ブライヤー、エラスト

イックの販売を始める。

二〇〇五年(平成一七年)九月一日、東京営業所移転(東京都千代田区)。

二〇〇七年(平成一八年)、デントウラム社製バラエティーエキスパンションスクリューの販売を開始。

二〇〇八年(平成二〇年)よりデントウラム社製主力製品であるエキスパンションスクリューを使用したセミナー等を企画して主に大阪と東京にて開催する。

二〇〇九年(平成二二年)より日本各地でセミナーを開催。現在まで毎年開催している。

二〇一〇年(平成二二年)、デントウラム社製ディスクバリイブラケット、ディスクバリイ²ブラケット等の販売開始。

二〇一二年(平成二四年)、デントウラム社製SUS2スプリング、前方牽引装置フェイスマスク、セパレーター、エラストイック等の販売を始める。

二〇一二年(平成二四年)一月四日、(株)デンタリードに社名変更。

二〇一二年(平成二四年)八月二八日、東京営業所移転(東京都千代田区神田小川町一ー一 千代田小川町クロス12F)。

二〇一三年(平成二五年)、デントウラム社製色付きのカラーレジンを追加で販売を開始する。

二〇一四年(平成二六年)、デントウラム社製ディスクバリイスマート、ディスクバリイパールセラミックブラケット等の販売を開始する。

二〇一九年(令和元年)、デントウラム社製トーマスインプランカーの販売を開始

二〇二〇年(令和二年)九月四日、代表取締役社長に中山充悟が就任。現在に至る。

歯科矯正界の更なる普及と発展を目指し、定期的な実習会、講演会などを開催し、先生方の日々の臨床に役立てたいと思っている。

デンツプライシロナ株式会社

設立年月日 二〇一七年一月

代表者 佐伯広幸

〒一〇六—〇〇四—

東京都港区麻布台一—八—一〇

営業所 銀座シヨールム

電話 〇三—五七五—二〇五

FAX 〇三—二〇一—二〇六五九

URL <http://www.dentsplysirona.com/>

デンツプライシロナ(株)の前身である三金工業(株)矯正事業の歴史は、加藤信太郎が国立大阪工業試験所開放研究室に三金電化研究所を設立し「サン普拉チナ装身具用鋳」の開発を開始した一九二七年一月に遡る。

サン普拉チナの歯科用鋳が登場するのは一九三一年一〇月当時の東京市市政会館(現・日比谷公会堂)で開催された公開実験発表会においてである。

翌年には大阪市港区の田中歯科医院に歯科用「サン普拉チナ」の試験を依頼し、その翌年には日本歯科新聞に科学白金「サン普拉チナ」の第一号広告が掲載される。

歯科矯正材料の「サン普拉チナ」の歴史は一九三五年に始まる。東京高等歯科医学校(現・東京医科歯科大学)高橋新次郎教授の指導を受け、丸線、半円線、ろう線、バンドの製造を開始した。翌年には矯正用丸線半円型のチューブを、さらに一年後の一九三六年にはS Tロックを発売している。

戦後の一九四八年一〇月に三金工業(株)に

改組し、社長に加藤信太郎が就任した。矯正関連では一九五一年頃から、それまでの外部への製造委託を内部生産に切り替え、サン普拉チナチューブなどの矯正用加工品の自家製造を開始した。

戦後十年余を経過した一九五九年頃から一九七〇年にかけて、我が国における歯科矯正の進歩・発展に対応するため新たな矯正材料の開発を精力的に進めた。この間に開発した商品は「スポットウエルダー」「ろう線」「KTチンキヤップ」「エラスロイ矯正線」「タイポドント」「エツデワイズブラケット」「エツデワイズ角線」「角バツカルチューブ」などである。

この間、国産品の開発、販売と並行し海

外の優れた矯正器材の輸入販売に関わった。一九六三年にはドイツデントラム社のエクスパンション・スクリーンの取り扱いを開始し、一〇年後には同社のエツデワイズブラケット、バツカルチューブなどが販売品目に加わった。

一九六九年二月にアメリカのユニテック社との間で極東総代理店契約を締結し、同社製品の販売をスタートした。同社のバンド、ブラケット、チューブ、アーチワイヤー類は日本に初めて紹介されたフルバンドのエツデワイズテクニクの関連器材として、当時の矯正歯科医の注目を集めた。同社との契約は一九七五年まで終了しその後S W Aブラケットを中心



DS シュアスマイルラボ 外観(米国ダラス)



DS シュアスマイルラボ エントランスホール(米国ダラス)



DS 那須工場 外観(栃木県大田原市)

とするアメリカのAカンパニー社の輸入販売を開始した。

一九七七年六月、アメリカのオームコ社との業務提携を契機に(株)サンキンオームコを設立し同社製品の販売をスタートした。その後一九八六年には社名を(株)オームコに変更。一九九三年には三金工業内にオームコ事業部として統合され、一九九五年にオームコ製品の取り扱いを終了した。オームコ社製品取り扱い期間は製品販売の他アレキサンダーなど欧米の著名な矯正医を招聘し、セミナー、講演会を開催し普及活動に努めた。

一九九五年のオームコ社との契約終了後は三金工業(株)矯正事業部とし国産製品をさらに強化すべく国内における開発を再スタートした。それまでに蓄積したノウハウを結集し日本の優れた技術を存分に応用した製品を次々に開発し、多くの矯正医の支持を得るところとなる。

一九九六年に審美性・機能性・耐久性に優れた「クリアブラケット」、正確なポジシヨニングを可能とする「メタルブラケット」、口腔粘膜にやさしい「バッカルチューブ」などに加え、日本人の歯列弓形態に合わせた超弾性の「タイニロイアーチワイヤー」などを相次いで発売した。

一九九八年にクリアブラケットの「ゴールドスロット」、「タイニロイゴールド」[SUSゴールド]など「ゴールドデンフェニックス」の呼称のもとに一連の製品のゴールドカラー化をはかった。

一九九九年には他社に先駆け骨接合性インプラントを固定減とする新たな手法のためのミニスクリュー「KI」とプレート型の「SMAP」を発売。

二〇〇一年にアメリカのデンツプライ・インターナショナル・インクの資本参加により、デンツプライ・グループのメンバーとなり、社名をデンツプライ三金(株)に改める。

二〇〇四年にローフォース・ローフリクシヨンテクニツクの普及に伴い「クリアスナツプ」を発売。

二〇〇五年に本社を東京都港区麻布台に移転。

二〇〇九年には新素材ポリアミド樹脂を利用し従来のクリアブラケットに比べ審美性、耐久性の優れた「クリスタブレース7」を発売。

二〇一四年には更なる審美性向上の要求に応えるべく高分子技術を応用した歯冠色ワイヤー「タイニロイナノホワイトワイヤー」を発売。二〇一六年には「SUSワイヤーナノホワイト」を発売。

二〇一七年にシロナデンタルシステムズと合併しデンツプライシロナ(株)と社名を変更。

二〇一八年には歯科矯正のデジタルサービスであるSureSmileを販売しつつはOraMetric社を買収。

二〇二〇年八月、デジタルサービスを除く歯科矯正材料市場からの撤退を発表。歯科矯正ビジネスはアライナー矯正SureSmileシステムとその関連商品へ新たにビジネス展開することを発表した。



Orthodontics(歯列矯正)のorthoをデザイン化した
TOMYのシンボルマーク

株式会社トミーインターナショナル
 設立年月日 一九八三年二月一六日
 代表者 御代川和寿
 〒一〇一〇〇四七
 東京都千代田区内神田三一一一七
 日立神田ビル
 電話 〇三三二五八一三三三
 FAX 〇三三二五八一三三三五
 URL <http://www.tomy-ortho.co.jp/>

(株)トミーインターナショナルは、日本の矯正ニーズに即応できる製品の開発と供給を目的として、一九八三(昭和五八)年にトミー(株)の国内販売部門と(株)シンワの矯正部門が全面的に業務提携し、トミー製品の国内およびアジア、オセアニア地域における販売会社として設立された。



トミー株式会社 湯本工場

トミー株式会社(会社設立までの沿革)

アメリカからの歯科矯正用ブラケットの引き合いをきっかけとして一九五九(昭和三四)年、専用工作機械の開発に着手、一九六〇(昭和三五)年に第一号機を完成させる。翌年ブラケットの試作品が完成、大学病院において臨床試験を行い一九六二(昭和三七)年、矯正歯科材料の試作と研究を目的としてトミー研究所を設立する。

二年後、日本矯正歯科学会京都大会において研究所の調査資料や研究内容を「矯正材料の現状および将来」と題して発表、一九六六(昭和四一)年、トミー研究所を(有)トミーに改組し東京都調布市に設立、同時に医療用具製造販売の許可を取得する。この年の一〇月、最初の対米輸出が成約の運びとなり、米

国GAC International社との間で販売契約を締結する。

一九七四年(昭和四九)年、業容の急速な発展を背景として、福島県双葉郡大熊町に工場を移転。一九八一(昭和五六)年、有限会社から株式会社へと改組し、同時に増加する製造品種と生産量に対応するため福島工場第3期増設工事に着手する。

株式会社シンワ(会社設立までの沿革)

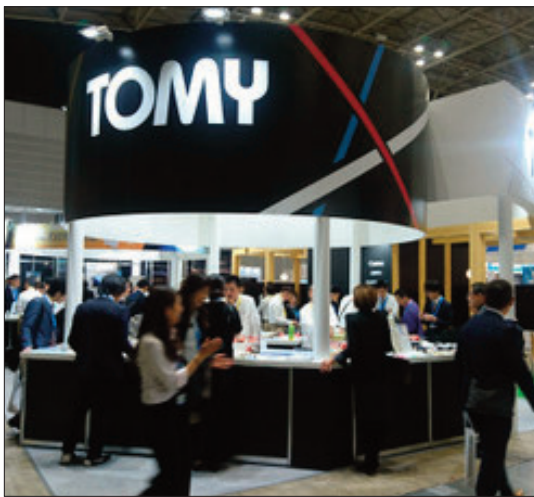
(株)シンワはその前身である木野歯科商會が歯科器材の製造を開始した日清戦争当時の一八九四(明治一七)年が創業となる。社名を木野歯科商會からシンワに変更したのは一九七三(昭和四八)年、同年六月に米国矯正器材メーカーのORMCO社製品ならびに器具メーカーDentronix社製品の国内販売に向けて輸入代理店契約を締結する。代理店契約の翌年、一九七四(昭和四九)年に開催された第33回日本矯正歯科学会・盛岡大会商社展示においてORMCO社、Dentronix社製品を初出展し好評を博す。

また、一九七五(昭和五〇)年一〇月、日本におけるエッジワイズ法の普及に大きく貢献したHio Suyehiro先生の講習會が近畿東海矯正歯科学会の主催で開催され、シンワはその開催準備ならびに後援に携わり、講習會を成功裡へと導いた。さらに翌年一月の九州歯科大学のDr. Suyehiro エッジワイズ講習會でも同様の成果を上げ、一九七七(昭和五二)年ORMCO社との販売契約終了まで製品の普及に携わった。



超弾性ニッケルチタンワイヤー
「センタロイ」&「L&Hチタン」

会社設立から今日に至る沿革・推移
一九八〇(昭和五五)年六月、トミーとシンワはTOMY製品の韓国への輸出代理店契約を締結、翌年には台湾への同契約を締結した。この契約を契機に両社の取引関係は急速に進展、一九八三(昭和五八)年一月、第71回FDI年次大会併催「デンタルエキスポ東京」に共同出展し、両社の絆を一層強固なものにしていった。この年の一二月、日本の歯科矯正学の進歩・発展と歯科矯正に対する社会的要請の高まりを背景に、日本の矯正ニーズに即応できる製品の開発と供給を目的として、トミーの国内販売部門とシンワの矯正部門が全面的に業務提携し、新たに矯正器材の専門商社、(株)トミーインターナショナルを設立、日本およびアジア、オセアニア地域におけるTOMY製品の販売を開始した。



日本矯正歯科学会商社展示風景

会社創業初年度の一九八四(昭和五九)年、第43回日本矯正歯科学会・倉敷大会の商社展示において、新素材、超弾性ニッケルチタンワイヤー「センタロイ」を発表した。従来のZn-Cu合金やステンレス、コバルトクロム合金等、どのワイヤーにもなかった超弾性と高弾性限界によって、国内はもとより広く世界の矯正医から高く評価されていた。
また、一九八六(昭和六一)年の第45回日本矯正歯科学会・千葉大会では、世界に先駆けて新開発のセラミックブラケット「クリスタライン」を発表、メタルの持つ強靱性、高精度、耐久性、矯正力の正確な伝達と、プラスチックの透明性、審美性を併せもった21世紀のブラケットとして好評を博した。同じ頃、メタルブラケットの究極といえる「マイクローアーチ」を発売する。強度限界を究めたTOMYの理論が精度、耐久性、審美性の向上

一九九五(平成七)年一月、小坂肇先生による「ストレートワイヤー法の基本理念と日本人に適した装置の開発・臨床」の第1回セミナーを東京で開催、同年、東洋人向けプリアジャステッド・アプライアンス「OPARK」を発売開始した。小坂肇先生の講演、セミナーは韓国、台湾、中国など海外でも開催され、



セミナーの様子

と違和感の軽減をもたらす最小のブラケットとして、TOMYの主要製品となっていた。
こうした新製品の提供に力を注ぐ一方、総合カタログの整備やホームページの立ち上げ、矯正セミナーの開催など、情報・サービスの提供などにも積極的に取り組み、さらに業容の一層の拡大に伴い、一九九四(平成六)年三月、福岡市博多区に福岡営業所を開設、一九九六(平成八)年三月、大阪市中央区に関西地区の営業拠点として大阪営業所を開設した。

二〇二〇年二月、東京において「矯正治療後の保定と長期安定性を考える」をテーマに42回目のセミナーが開催された。

二〇〇〇(平成一二)年には海外の情報としてRothフィロソフィーの神髄に迫る「Dr. Roth / Dr. Williams 2dayコース」を東京と大阪で開催し好評を博した。

また、田村元先生による「ローフリクションセミナー」を二〇〇九(平成二一)年に開催、同年一二月「ローフリクションシステムT21」を発売開始、フルパッシブで歯牙移動をスムーズに行い、審美性、口腔衛生に優れ、ワイヤーを結紮しない画期的なキャットプスブラケットシステムとして注目を浴びている。

一九九六(平成八)年、日本矯正歯科学会の事業推進に功労のあった個人または団体に贈る同学会功労賞が創設され、第1回受賞者として取締役会長(当時)川口健太郎が受賞、その後、二〇〇二(平成一四)年一〇月、代表取締役(当時)木野和雄が受賞、さらに二〇一二(平成二四)年九月、代表取締役 御代川和寿が学会功労賞を受賞している。

二〇〇〇(平成一二)年に入りセルフライゲータインディングブラケットとして発売されたクリッピーは、メタルの持つ強靱さと精度に優れた「ミニクリッピー」、ミニクリッピーをさらに小型化し、ロジウムコーティングで審美性を高めた「マイクロミニクリッピー」、セラミックにより審美性を高めた「クリッピーC」、舌側用に特化した「クリッピーL」などTOMYセルフライゲータインディング

の長所を集結しシリーズ化を図っていった。また、装置の審美化に対応できるような、高い透明度を誇る透光性セラミックブラケット「クリスタライン」、メタルインサートハイブリッドプラスチックブラケット「エスタMB」、透明性を重視したポリアミド製ブラケット「ポリルミエール」、ロジウムコーティングが施されたアーチワイヤー「ホワイトワイヤー」など歯牙と適合し、自然な口元を演出する装置の開発に努めている。

TOMYは創立以来、矯正器材の総合メーカー、サプライヤーとして日本の優れた技術を充分に発揮した製品を次々と開発、国内はもとより海外の矯正医から幅広い支持を得、今後もより良い矯正器材の研究と開発、そして製品を提供することにより国民の健康を守り、矯正歯科の発展に貢献できる企業でありたいと願っている。



セルフライゲータインディングブラケット「クリッピーシリーズ」



YDM日暮里ビル外観

株式会社バイオデント

設立年月日 一九八六年一月二一日

代表者 藤巻広道

〒一六〇〇一三

東京都荒川区西日暮里二二三一十九

YDM日暮里ビル

電話 〇三五六〇四〇九八〇

FAX 〇三三三八〇一七五六〇

URL <http://www.biodent.co.jp/>

一九八六年一月二一日、歯科用インストルメント国内有数のメーカーである(株)山浦製作所(現：YDM)の矯正歯科用器材販売会社として設立され、代表取締役社長として山浦彰一が就任。
一九八八年、ウイスコンシン州に本社および



COBY

自社工場を有するアメリカ屈指の矯正歯科材料専門メーカーであるAmerican Orthodontics社の国内販売代理権を取得し、同社製品の輸入ならびに販売を開始。

製品の販売と並行して、アメリカから矯正医を招聘し、セミナーを開催し最新の情報、テクニクの紹介、普及に努めた。

一九九九年に大阪、二〇〇一年に福岡に営業拠点を開設し、全国に販売を展開。

二〇〇四年に北区田端から荒川区西日暮里のYDM日暮里ビルに本社を移転し、自社内でセミナーを開催できるようになる。

二〇〇四年、矯正用インプラントアンカーとしての薬事承認許可取得に伴い、「ISA」の販売を開始し、全国各地でセミナーを開催。また、ライズ社のセファロ分析支援ソフトの販売を開始し、取扱品目を拡大。



Empower2クリア / Empowerチューブ

二〇〇七年、大石邦雄が代表取締役社長に就任し、「美しい歯ならびをクリエイトする」を経営方針とし、矯正歯科専門の総合販売会社を目指す体制が新たにスタート。二〇〇九年ヤマウラ・ホールディングスの設立に伴い、一〇〇%子会社となる。

市場の審美のニーズに対応すべく、二〇〇八年にYDM社製ジルコニアセラミックブラケット「COBY」を、二〇〇九年にAO社製サファイアセラミックブラケット「radiance」を販売開始。

AO社がDr. Alexanderと契約したことに伴い、二〇〇九年にDr. Alexander来日三〇周年記念イベントに共催、日本のアレキサンダー研究会と契約しプリンシプルコースを開始、以降毎年開催を続けている。

矯正用インプラントアンカー適応拡大申請



歯科矯正用アンカースクリュー

から始まり、「歯科矯正用アンカースクリュー」として一般的な名称が新設されるまで業界の取りまとめに尽力した結果、二〇一二年「ISA」が薬事承認許可を取得、歯科矯正用アンカースクリューの先駆けの会社として開発力の高さを遺憾なく発揮し、臨床の様々なニーズにお応えするべく二〇一四年に「D-PAS JP」、二〇一七年に「B-max」と、バリエーションを拡げている。

現在、市場でトレンドとなっているセルフライゲーション審美ブラケットについても、二〇一四年にA O社製の「Empowerクリア」を販売し、主力製品となっており、現在は二世代目の「Empower 2クリア」として販売している。

また、A O社製のバツカルチューブは、セルフライゲーション「Empowerチューブ」を



ifit/LPチューブ

はじめとして、ifit/LPチューブなど、使いやすさと機能性の高さから大変高い評価をいただいている。

ワイヤーも、ロジウムコーティング審美FITワイヤー「iCONIX」はじめ、さまざまな種類を取り揃えている。

ソフトウェアも、ライズ社のセファロ分析画像管理ソフト「WinCeph」、矯正歯科患者管理システム「OD-Works」、骨年齢評価プログラム「CASMAS」などを拡充し、また二〇一八年よりRay Japan社の正規代理店としてCT・デジタルレントゲン機の取り扱いを開始。

近年急速に伸びているアライナー関連の製品として、YDM社製の各種プライヤーやリムーバー、ユーティリティボタン、チューニングシートなど先生方と一緒に様々

な器材開発を積極的に進め、市場に提供し続けている。

セミナーは、自社セミナー室において二〇〇八年より佐藤亨至先生によるGP向けセミナー「基礎から学ぶエッジワイズ法」、深沢真一先生によるコルチコトミーセミナーを開始し、本吉満先生および有島常雄先生による歯科矯正用アンカースクリューセミナーなどの主催セミナーを増やし、二〇一七年には集大成として第一回BIODENTサミット in 六本木アカデミーヒルズを開催。

二〇二〇年、新たに藤巻広道が代表取締役社長に就任し、先生方の臨床のお役に立てる商品・セミナー・サービスのご提供を第一に目指す矯正歯科専門の総合販売会社として、今後のデジタル矯正への流れに対応すべく、さらなる飛躍を期している。

有限会社バルビゾン

設立年月日 一九九一年六月

代表者 星野 司

〒二七三〇〇〇五

千葉県船橋市本町五十八ー五

アメニティプラザ

電話 〇四七ー四六〇ー七七八ー八

FAX 〇四七ー四六〇ー七七八ー九

URL <http://www.barbizonortho.com/>

(有)バルビゾンは、一九九一年六月、歯科材料の輸入・販売を目的として設立され、代表取締役星野 勝氏が就任した。

一九九三年にペインリンソースセンターで開発された顎関節症の心理分析用プログラムソフトである「TMJスケール」(ノースカロライナ州)の取り扱いを開始。

同年八月に厚生労働省より医療用具輸入販売業の許可を得る。

一九九五年にOSCAR社(インディアナ州インディアナポリス)のニッケルチタンワイヤー、ステンレスワイヤー、メタルブラケット等の製品の輸入・販売を開始。

同年CDB社(ノースカロライナ州リランド)のセラミックブラケットを中心としたブラケット製品の輸入販売を開始。

一九九六年にFlexMedics社(グリーンウッド)の「フレックスアーチ」の輸入販売を開始。弊社の主力製品でもあるこの「フレックスアーチ(ニッケルチタンワイヤー)」は、一九九六年の当初より、日本人

の歯列弓の平均値をもとに、日本人に最も適している形状を特別に選定しているため、現在も根強い人気の製品である。昨今では、それ以外にもユーロフォームやスタンダードフォーム等一〇種類以上にも及ぶ多様なアーチ形状が取り揃えられているのに加え、スプールタイプも加わり、多様化するニーズに対応できるアーチ形状や種類を紹介している。

一九九七年の発売以来現在も変わらぬ人気商品である「バンドロック」「ウルトラバンドロック」は、確かなバンディングと簡単なリムービングと言う一見相反する特性を備

えたセメントである。それ以外にも多種多様な接着剤関係を製造販売している。

二〇〇〇年二月、代表取締役に星野 司が就任。

二〇〇八年、MidAtlantic社より「リルペリット」の輸入販売を開始。非可撤式の装置を使用中の患者さんの口腔衛生に着目したリルペリットは、患者さんの立場に立った観点から作られた機器である。口腔粘膜を傷つけにくい柔らかい素材で、折りたたむ形状のスクレーパーは、現在も小児矯正の分野で人気を博している。

二〇一〇年、G&H社(インディアナ州)の



フレックスアーチ



リルペリット



オーソチュー

ニッケルチタンワイヤー、ステンレスワイヤーの輸入販売を開始した。ステンレスワイヤーで定評のある同社ではあったが、その中でも日本では「審美的にコーティングされたZiLiリバースカーブワイヤー」は、現在も高評価をいただいている。それに加え同年、ODP社(カリフォルニア州サンディエゴ)のメタルブラケット、セラミックブラケット、セルフライゲーションブラケット、バツカルチューブ、バンド、アタックメント等の診療に必要な機器全てを網羅できる製品の輸入販売も開始。特にセルフライゲーションブラケット「アジリティーブ



アジリティーブラケット

ラケット」は、キャップを取り外すとツインプラケットとして使用でき、また交換用として用意されたキャップを再装着して、セルフライゲーションブラケットに戻して使用することが出来る画期的なブラケットである。翌年には、ODP社のニッケルチタンワイヤーとステンレスワイヤーの輸入販売も開始。特にニッケルチタンワイヤーは価格と品質のバランスが人気となっている。同二〇一〇年、LEWA社(ドイツ)のスクリーンの輸入販売を開始。二〇一五年、PROPEL社(カリフォルニア)の製品の輸入販売を開始。



マンチーズ

ア)の製品の輸入販売を開始。二〇一八年より、マンチーズの取り扱いを開始。他にも、昔から変わらぬプライヤーメーカーのORTHOPLI社、NOLAヘッドギアのグレートレイク社、アライナー関連の製品をより多く紹介しているALLURE社と、幅広く取引をしている。当社は今年で三〇周年を迎える。設立当時から変わらぬ顧客重視の姿勢で、ドクターと患者さん双方から喜ばれる満足度の高い製品をこれからも紹介し提供を続けていくことにより、矯正界に貢献していきたい。

フォレストudent・ジャパン株式会社

設立年月日 二〇〇六年二月十七日

代表者 桑原 勉

〒一〇七-〇〇五二

東京都港区赤坂二-〇-二二

生駒硝子ビル二階

電話 〇三六二七七一六九八〇

FAX 〇三三三五六八八八六四

URL <http://www.forestudent.co.jp>

フォレストudent・ジャパン(株)は、二〇〇六年ドイツ FORESTADENT社の日本総代理店として創業する。

二〇〇八年一月、会社を品川区西五反田に移転し、医療機器輸入のため製造販売業、製造業、そして医療機器販売業の業許可を取得し、日本におけるFORESTADENT社の歯列矯正器材の輸入・販売を本格的に開始する。

同年、千葉県幕張で開催された第六七回日本矯正歯科学会大会に初出展。以後、毎年大会での展示を行う。

二〇〇八年八月、日本語版の「フォレストudent歯列矯正器材カタログ Vol.1」を発売。

二〇〇八年一月、イタリアの著名な矯正歯科医であるDr. Vittorio Cacciafestaを招き、東京・品川において「2Dリングシステムーシンプルリングシステムセミナー」を開催する。

二〇〇八年、当時FORESTADENT社の代名詞であった「フォレストudentエクспан

ションスクリュー」の販売を開始する。

二〇〇九年六月、会社を現在の港区赤坂に移転、本格的な営業活動を開始する。

二〇〇九年四月、Anna-Barbara Bimler-Rhodes氏を招き、東京で「ビムラー(Bimler)ベーシックコース」を開催。

二〇〇九年には多くの歯列矯正用器材の販売を開始。主な製品は「フォレストudentバックルチューブ」、「フォレストudentニッケルチタン ワイヤー」、「フォレストudent ステンレススチールワイヤー」、「フォレストudent スプリント ブラケット」、「フォレストudent エステティックラインブラケット」、「フォレストudent クイックブラケット」、「フォレストudent クイックリアー ブラケット」など。

二〇一〇年一月、保田好秀先生、保田好隆先生による「スケルトンタイプの大装置を用いた矯正治療セミナー」を東京と大阪で開催。同セミナーは以後、毎年各地で年四回〜五回を定期的に開催することとなる。また一二月には韓国のJang Yeol Lee先生を招いて東京で「2Dリングシステム 臨床セミナー」を開催。

二〇一〇年、「歯科矯正用レジジン材料トラスクA」の販売を開始。

二〇一一年、ドイツで矯正歯科技工を専門に行っているMr. Dieter Petermannを日本に招き、日本の歯科技工士向けのセミナー「ファンクショナルアプライアンス 技工セミナー」を開催し、多くの技工士さんが参加される。また、一月には大阪でAnna-Barbara

Bimler-Rhodesさんをお招きし「ビムラー(Bimler)ベーシックコース」を開催。

二〇一一年には吸引式歯科技工用成型器「トラックV」やその他のほかのトラックフォイルのラインアップを揃え、トラックサーミフォーミングシステムとして販売を開始する。

二〇一二年一月、東京でDr. Vittorio Cacciafestaによる「セルフライゲーションブラケット導入による治療メカニクスの変化」セミナーを開催。

二〇一二年、コンベンショナルなセラミックブラケットの「フォレストudentグラムブラケット」の販売を開始。

二〇一四年二月、ドイツのDr. Christian Sander、日本の里見優先生らと「BJAバイ



スケルトンタイプの拡大装置を用いた矯正治療セミナー



FORESTADENT International Meeting



日本矯正歯科学会大会(横浜)展示ブース(2018年)

ジャンピングアプライアンスセミナー」を東京で開催。

二〇一四年八月にはオールセラミックのセルフブライゲーションブラケット「フォレストアデント トウルークリアー」の販売を開始。

二〇一四年一〇月、横浜で開催されたWORLD DENTAL SHOW 2014に出展。

二〇一六年四月、東京で「デンタルモニタリングセミナー」を開催。

二〇一七年二月にスペインの矯正歯科医 Dr. Domingo Martín Salvador を招き、東京で「FACE エボリューション システム 二日間コース」を開催。

二〇一七年六月、ドイツ Pforzheim にて

「Forestadent Sales Meeting 2017」に参加。

二〇一七年一〇月、歯列矯正用アンカースクリュー「オーソロジーピン」の薬事承認を取得、国内販売を開始。

二〇一八年、フォレストアデントブラケットシステムとして McLaughlin Bennett 50 System をリリース。同システムの製品として新たに「フォレストアデント グラムブラケット」、「フォレストアデント スプリントブラケット」、「フォレストアデント バックルチューブ」、「フォレストアデント ニッケルチタンワイヤー」の追加製品の販売を開始。さらに、二〇一九年には新たに「フォレストアデント S アーチワイヤー」、「フォレストアデント バ

ンドプリウエルド」の追加販売を行う。

二〇一九年三月、米国の著名な矯正歯科医 Dr. Richard P. McLaughlin を招いて東京で二日間コースを開催、McLaughlin Bennett 50 System を紹介する。

二〇一九年四月にはブラジルの矯正歯科医 Dr. Hugo Trevisi を招いて「トレビシシステムセミナー」を東京で開催。

二〇二〇年七月、加圧式歯科技工用成型器「トラックP」、および「トラックPe」の販売を開始。

二〇二〇年十一月、(株)アソインターナショナルとの共同開発により「リンガルロック」の販売を開始。

株式会社プロシード

設立年月日 一九九八年二月六日

代表者 大串和幸

〒一五〇〇〇〇二二

東京都渋谷区渋谷二一〇一三

東信青山ビル

電話 〇三五四六八一六六六

FAX 〇三五四六八一六五〇

URL <http://www.proseedcorp.com/>

(株)プロシードは一九九八年一月、現代表の大串和幸により医療機器の輸入販売で創立。三菱商事(株)と業務委託契約を締結した。

一九九九年、ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)との業務提携により、前立腺肥大症に対するレーザー治療器「インディゴ」の販売を開始。その後、業務提携範囲を顎顔面分野に広げ、生体内分解吸収性骨接合材「フィクソープ」の販売も始める。後にこの製品の取り扱いが当社の矯正事業に大きな影響を与えることになる。

二〇〇〇年には米国R-Med社との販売代理店契約を締結し、輸入販売業の業許可を取得。

翌年、「フィクソープ」の販売活動を通じて知りえた韓国 JEIL Medical Corporation 社と「デュアル・トップ オートスクリュー」の日本総代理店契約を締結し、販売準備を開始。二〇〇四年にはその固定用内副子としての国内薬事承認を取得し、口腔外科領域で「A H」タイプを顎間固定用として販売を開始。

「JA」タイプが矯正歯科領域で使用され始めた。

二〇〇五年には、植木和弘先生を中心に「TAD 臨床研究会」が発足し、インプラント矯正に関する研究および臨床応用への試み、臨床医へのセミナーも始まる。当社も歯科矯正臨床の発展を目的とした活動に対して協賛する。

二〇〇六年には、「デュアル・トップ オートスクリューII」の薬事承認を取得し、口腔外科領域で「BH」タイプ、矯正歯科領域で「JBG1G2」のラインナップを整えた。二〇〇七年には、広島大学の丹根一夫教授と



電動トルクドライバー ORTHONIA

共同で、矯正用ミニインプラントの基礎研究および安定した植立条件に関する研究を開始。大谷淳二先生、砂川紘子先生によるこの共同研究から、スクリューの安定に回転トルクと速度が大きな要因のひとつであることが証明され、回転トルクと速度をコントロールできるスクリュー植立デバイスの開発を「JEIL Medical Corporation」社に提言し、電動トルクドライバー「ORTHONIA オルソニア」の開発に寄与いただくこととなる。

そして、二〇一〇年に電動トルクドライバー「ORTHONIA オルソニア」の国内販売を開始する。



デュアル・トップ オートスクリューⅢ
ラインナップ

二〇一一年には、「TAD 臨床研究会」より『インプラント矯正アトラス』（植木和弘先生監修）が出版される。

こうした大学や開業医による研究や臨床の蓄積が認められて、二〇一二年、厚生労働省より歯科矯正用アンカースクリューが新規登録された。「デュアル・トップ オートスクリューⅢ」が国で最初の国内販売を始めた。当社主催の歯科矯正用アンカースクリューのセミナーもスタートした。

二〇一三年には、「デュアル・トップ オートスクリューⅢ」のヘッド形状のラインナップが八種類に拡充され、さらにサイズラインナップも充実してリニューアルされ、同時に滅菌されたアンプルタイプの「デュアル・トップ オートスクリューⅢ（滅菌）」も販売を開始した。『インプラント矯正アトラス』（植木和弘先生監修）第二巻が発刊された。

そして、口蓋へ植立される症例が増えたことを受けて、二〇一五年には、より精密かつ正確な技工作業をサポートする「デュアル・



デュアル・トップ オートスクリューⅢ
（滅菌）

ル・トップ オートスクリューⅢ 印象採得器材」の販売を開始した。

二〇一七年には、世界のインプラントエキスパートが一堂に会した9th WIOC (World Implant Orthodontic Conference in KOBE・嘉ノ海龍三大会長)において、「若手矯正歯科医によるTADsアワード〜Rising Star Awards on TADs」を共催し、多くの優秀な先生にご発表いただいた。

さらに二〇一九年には、リングル矯正歯科治療に焦点を当てたセミナー「リングル矯正にアンカースクリューを使いこなす」を開始。その年には、主旨にご賛同いただいた



セミナー風景

九大学の矯正学教室（奥羽大学、大阪大学、岡山大学、鹿児島大学、東京歯科大学、東北大、北海道医療大学、松本歯科大学、明海大学）との共著による『歯科矯正用アンカースクリューを用いた矯正歯科治療アトラス』（植木和弘先生監修）が発売された。時を同じくして、口蓋用の矯正用アタックメント「ビートル」（佐藤廉也先生開発）の販売を開始。翌年からそのハンズオンセミナーもスタートした。

今後もより良い製品の開発を継続し、歯科矯正治療を通じて多くの人々の笑顔のために貢献していきたいと考えている。



ビートル



与五沢先生と先代小川 清社長

一九七三年、それまで山浦製作所(現・株
ワイディエム)でブライヤー類の製造に携わ

歯科材料の製造現場から独立

株式会社ミツバオースソプライ
設立年月日 一九九九年
代表者 小川清史
〒一七〇〇〇〇二二
東京都豊島区巢鴨二一六四
メゾンカタヤマ
電話 〇三三三九四九〇〇六六
FAX 〇三三三九四九〇〇九〇
URL <http://www.mitsuba-ortho.com/>



Dr. Hito Suyehiro

一方、当時、ワシントンDCで矯正歯科専
門開業していたDr.ヒト・スエヒロの、日本
におけるエッジワイズ講習会をお手伝いさせ
ていただいたこともあり、一九七九年より与
五沢文夫先生(東京都港区・専門開業)与五沢

(株)ミツバ設立の翌年、一九七八年に、大野
爾英先生(神奈川県横浜市・専門開業)の紹介
によりアメリカのDr.バレットを招聘し、筋
機能療法(MFT)の講習会を開催した。

講習会を継続開催
エッジワイズ法、MFTを中心に

ついていた小川清が、矯正歯科材料専門小売
業のミツバ医療用具を、埼玉県桶川市に設
立した。設立当初は、主として欧米製の輸
入矯正歯科材料などを大学の矯正科や開業
医へ納入していた。創業五年後の一九七七
年に(株)ミツバを設立、小川清が代表取締役
に就任する。改組に伴い、一九七七年には、
東京営業所を豊島区巢鴨に設立した。



ジックフーズ先生ご夫妻

矯正歯科研究会が主催する「エッジワイズ講
習会・箱根」を現在まで後援している。
一九八一年には、サクラメントの口腔筋機
能療法の専門家である、ジックフーズ夫妻を
招聘し、筋機能療法(MFT)コースを開催し
た。夫妻のコースはその後、継続し、受講者
数は五〇〇〇人に達している(のべ23回)。
筋機能療法(MFT)コースは、ベシッ
ク・コースとアドバンスに分かれ、ベシ
ック・コースでは、診断と舌突出癖の分類
と原因、舌位、基本的なエクササイズが、
アドバンス・コースでは、低年齢、成人な
どの特別なケースに対応するエクササイズ
の実際が明らかにされた。またジックフー
ズの第一線からの引退を期に、このコース



(株)ミツバオーソサプライ創立10周年感謝の集いにて

は言語療法士であり筋機能療法士でもあるジュリー・ジックフーズが引継ぎ、今後も継続実施の予定である。一九八二年、(社)日本歯科工協会、大東京歯科用品商協同組合に入会し、翌年、医療用具製造業の許可を得る。また、同年、日本歯科材料工業協同組合に入会した。

業容の拡大と業界での地歩を固めつつあった一九八六年、小川清社長が逝去した(享年四七歳)。

その二年後の一九八八年に、(株)ミツバオーソサプライを設立する。

設立を機に、ミツバは製造専門部門とし、新しく設立したミツバオーソサプライが小売部門を担当するよう、業務を分掌する新



記念講演会

体制を築いた。代表取締役社長には、(株)ミツバに小川妙子、(株)ミツバオーソサプライには小川清史が、それぞれ就任する。

新製品の開発に意欲

設立から二年後の一九九〇年、車のバネ材などを製作する鉄鋼メーカー、鈴木金属工業(株)(千葉県習志野市)並びに、当時の昭和大学矯正科主任教授、福原達郎先生と共同し、ステンレスワイヤーを開発、販売を開始した。

さらに、一九九八年には、(株)三菱製鋼(東京都中央)とMIIM金属材料インジェクション・ブラケットを共同開発した。金属微粉末と射出成形を結合させた新しい技術を導入することにより、小さな精密部品の、より自由な形状設計が可能になり、その最先

端技術は注目を集めた。二〇〇一年よりよりレオーネ社(伊)の矯正歯科材料全般、二〇〇九年よりダイソン社(韓国)よりブラケット(メタル、プラスチック、セラミック)等のアタッチメント・ワイヤー(SS、NITI、コーティング)各種の取り扱いを始める。さらに同年、(株)パイロットコーポレーションと契約し同社製造のジルコニア製ブラケット(Lレブラケット・与五沢文夫先生考案)の販売を開始する。

企業記念講演会として一九九九年、ミツバオーソサプライ設立一〇周年記念講演会を、都ホテル東京で開催した。ミツバの時代から数えると二五周年である。

「日本の矯正歯科、現在、過去、未来」「早期治療」の二題をテーマに、シンポジストとして花田晃治先生、柴崎好伸先生を、パネリストには大学の助教授をはじめ多数の専門開業医の協力を得て開催した。福原達郎先生を統括シンポジストとするこのシンポジウムには、折からの医療経済界の景気の低迷もあったが、その参加者は二五〇名にものぼった。

また、シンポジストとして与五沢文夫先生、浅井保彦先生、篠倉均先生、谷野隆三郎先生をお招きし二〇〇〇年に、第二回講演会を「矯正歯科界の現状」をテーマに、都ホテル東京で開催した。

二〇〇三年三月には創立一五周年を記念し15th Anniversaryシンポジウムを都ホテル東京において開催した。「シンポジウム1 矯正歯科臨床の未来」シンポジスト後藤滋巳先生、パネラーとして横宏太郎先生、宮



展示会



(株)ミツバオーソサプライ創立15周年感謝の集いにて

澤健先生、府川俊彦先生、星隆夫先生、洪澤龍之先生。

「シンポジウムⅡ 女性歯科医(矯正)の現状と明るい将来」シンポジスト筒井照子先生、パネラーとして井上裕子先生、寺田康子先生、五味京子先生、延島ひろみ先生、森田明子先生、太田紀子先生、高根ユミ先生にご講演をお願いし多くの矯正歯科界の先生方を中心に歯科界の学臨産の皆さんにご参加をいただいた。

小川清史は二〇一四年日本歯科矯正器材協議会会長(二期半)を退任後、二〇二一年二月現在、業界団体の役職として(社)日本歯科商工協会歯科問題担当理事、日本歯科材料工業協同組合専務理事、日本歯科矯正器材協議会特務理事等。

また、学会・歯科医師会関連の活動として(公社)日本矯正歯科学会医療問題検討委員会、倫理裁定委員会、学術大会運営委員会の委員。矯正歯科界五団体からなる五団体矯正歯科懇談会代表世話人、(公社)日本歯科医師会歯科活性化会議委員、日本歯科医学会オンライン推進WG委員等を拝命しており二〇一三年(公社)日本矯正歯科学会より学会特別功労賞、二〇二一年(社)日本歯科商工協会より会長表彰、また同年東京都より薬事関連事業への貢献が認められ感謝状を受ける。

今後も日本の矯正歯科界を柔軟な発想と培った経験で更なる活性化させる存在となることが(株)ミツバオーソサプライのビジョンである。

メディア株式会社
 設立年月日 一九八二年二月三日
 代表者 辻 啓延
 〒一三〇〇三三
 東京都文京区本郷三二二六―六
 NPG本郷三丁目ビル8F
 電話 〇三五六八四―二五〇〇
 FAX 〇三五六八四―二五〇六
 URL <https://www.media-inc.co.jp/>

コンテンツから生まれた
 「歯科電子カルテシステム」

メディア(株)は、一九九〇年に歯科電子カルテシステムの販売を開始した。この歯科電子カルテシステムは、一九八五年に発刊した書籍「歯科保険診療のプログラミング」(図1)で編纂された歯科診療の流れの網羅的なコンテンツに基づき、更に診療処置ごとに必要なカルテ記載内容のデータベースを構築したうえで設計された製品であった。

単なる「レセコン」としてではなく、真に診療の記録として、現場ニーズに応える「歯科のための電子カルテシステム」の創造を目指し、今日に至っている。

「矯正歯科の保険診療の専門性」に応える
 システムの開発・リリース

しかしながら、矯正歯科の世界においては、矯正の保険診療を行う医療機関も少なく、不採算市場という壁に阻まれて、矯正歯



図1

科システムを開発する会社はなかった。この状況下で、矯正歯科保険診療を行う先生方から、専門システムの開発要望を数多くいただいていた弊社では、矯正歯科保険診療の礎を創られた昭和大学歯学部歯科矯正教室のご協力に支えられて、歯科保険矯正に対応するシステム開発を開始した次第である。とはいえ、矯正歯科保険診療の現場において簡単に迅速な入力を行っていたため、一般的な電子カルテ入力とは全く別の新しい入力方法を開発する必要があった。その入力方法とは、

- (1) 保険適応疾患を標準マスタとして整備
 - (2) 処置の流れの入力を矯正装置の名称から選択
 - (3) 矯正装置を選択したのちは、診療の流れに沿って保険算定ルールに従ったカルテ記述をナビゲート
- ということであった。
- この独特な診療入力法に基づいた弊社の歯科保険矯正電子カルテは、その後二〇〇五年にリリースされたクラウド型の歯科電子カルテシステム「エポック」シリーズによって広く歯科保険矯正の専用システムとしてご好評をいただくことが出来た(図2)。

矯正歯科の保険診療書籍の発刊

ところで、当時は、保険矯正に関する書籍等刊行物もなく、殊に矯正の保険点数に関する解説本も見当たらなかった。



図2



図3

コンテンツ開発を軸としたIT製品の開発という手法は弊社の特徴ともいえるべきものだが、保険改定に伴うその都度のシステム改修の基礎として、弊社では「矯正歯科保険診療マニュアル」を出版しようという企画に着手した次第である。この書籍企画は、その後ご縁をいただき、二〇〇五年に「矯正歯科保険診療マニュアル 基礎編」（日本矯正歯科学会医療問題検討委員会編）として発刊されることになった(図3)。

当時の日本矯正歯科学会理事長の相馬邦道先生が書かれた「矯正歯科保険診療マニュアル 2007年版」序文(ごあいさつ)には、こう記されている。

《…ご賢察いただくまでもなく、矯正歯科における保険診療を必要としている患者も多数存在します。そういった患者福祉のためにも、矯正歯科保険診療制度を遵守し、大切に育てていく必要があります。したがって、適切な保険診療を行うために必要な知識を学ぶメディアを設けることは、日本矯正歯科学会として最も基本的な責務と考えるところです。…》

「電子カルテシステムWith」 「Withエポック」で昇華された保険矯正専用システム

弊社の保険矯正専用システムは、二〇二一年現在、「電子カルテシステムWith」、「クラウド版電子カルテWithエポック」に搭載され、歯科保険矯正診療を行う多くの先生方にご利用いただいている。

お客様からは、

「矯正歯科の保険診療に特化して、保険請求の…できたらいいなが、全て搭載されている。」

「保険矯正の実施に必要な病名・矯正装置からのパターン入力が可能。ここまで対応できているメーカーは他にない。」

といった言葉を頂戴するに至った。

その進化の程は、是非、弊社Webサイト(「メディア保険矯正」で検索)またはユーチューブ公式チャンネル(「youtubeメディア」で検索)に掲示した矯正歯科オートデモ動画でご確認いただきたい。

メディア(株)の歯科電子カルテシステムはタイムリーに対応し続け、「患者福祉のためにも、矯正歯科保険診療制度を遵守し、大切に育てていく」ことの一助となることを追求していく。

株式会社モリムラ

設立年月日 一九八七年七月一日

代表者 森村 豪

〒一〇〇〇〇五

東京都台東区上野三十一七一〇

電話 〇三―五八〇八―九三五〇

FAX 〇三―五八〇八―九三五一

URL <http://www.morimura-jpn.co.jp/>

一九四六年(昭和二十一年)、群馬県太田市に森村潔が森村歯科商店を創立する。森村潔は、東京・新宿の貿易会社三栄商会の歯科部門に勤務していたが、戦災により同社が解散を余儀なくされた。太田市に家族と共に疎開し、しばらくは農家を行っていた。戦後の復興が進むにつれて、商機到来との判断のもと、前職経験を活かして創立された経緯がある。創立当初は、郡山の高橋製作所のインストルメント類やピジョン陶歯などを群馬県内の小売店を対象に販売していた。

一九五六年(昭和三十一年)、販路拡大のため、東京・日暮里に移転した。

一九六一年(昭和三十六年)、個人商店を(有)森



(株)モリムラ新社屋ビル

村歯科商會に改組し、本社を台東区小島町に移転した。

この頃、堀江銈一先生が主宰する総義歯製作についての実習研修会の事務方を務め、実習用器材を販売した。やがて研修内容をまとめた堀江銈一先生著「堀江式総義歯調整法」が出版された。さらにこの時期に日本歯科用品卸商業組合に加入した。当時の有力な国内メーカーはすでに代理店制度を確立しており、新興の森村歯科商會が国産品を掲げて市場に入り込む余地はなく、必然的に海外製品を率先して販売した。当時、(株)ニュージヤパン(大阪)が輸入する Kerr, Calk, Karo 製品など優れた製品があった。顧客数の飛躍的な増加とともに売上も急伸して、手狭になった本社は、小島町から上野五丁目に移転した。

一九七一年(昭和四十六年)、米国バトラー社製品の取扱いが始まり、先端をいく海外予防歯科製品器材が次々と紹介された。

一九七七年(昭和五十二年)、バトラー社製品のイメージアップと普及を目的に共同制作した「オーラルハイジーンへの道」(監修・北海道大学歯学部教授鈴木武先生、岩手医科大学歯学部教授片山 剛先生)の英語版がパリで開催されたFDI第八回国際歯科フィルムフェスティバルでグランプリを受賞した。

一九七八年(昭和五十二年)、再び社屋が手狭になり、上野三丁目に移転した。

一九七九年(昭和五三年)、(有)森村歯科商會の社名を(株)モリムラに改称し、森村潔が代表取締役会長、森村浩治が代表取締役社長に就任した。また、森村潔の永年の夢であった買

易会社の(株)エイコーを姉妹会社として設立し、代表取締役社長に森村浩治を就任させた。当時、矯正歯科治療の関心度は低く、米国TPオーソドンティクス社を主に矯正歯科関連製品を当面の取扱製品とした。日本歯科大学新潟校 亀田晃教授を講師に迎え研修会を開始して、着実に顧客数を増やしていった。同研修会の修了者で構成された日本ベツグ法研究会会員数も飛躍的に増大した。その後、一般歯科材料として、米国プリムス社・ハイビリーライナーを輸入販売した。

一九八〇年(昭和五五年)、予防歯科の気運をさらに高めるために、英国ニューキヤッスル・アポインタイン大学のジェンキンス教授を招聘し「予防歯科特別講演会」を東京・日比谷の日生会館にて開催した。また、矯正歯科製品の販売や研修会、講演会の開催を主な業務として、(株)ティピイジヤパンが設立され、山口吉昭が代表取締役に就任した。

一九八三年(昭和五八年)、矯正歯科分野の裾野をさらに広げるため亀田晃教授の特別講演会「MTMの理論と実際」を開催した。この講演会は矯正歯科と一般歯科との距離を埋めることに大きく寄与した。さらにビデオ「MTMの臨床テクニク」を製作した。

一九八六年(昭和六一年)、矯正治療の患者説明用ビデオ「矯正治療ってなあに」シリーズを、一九九五年(平成七年)には「う蝕と歯周病を予防する。」を製作して販売した。また、同時期に「最新の臨床報告を世界から」をコンセプトとした季刊誌「クリニカル・M・リポート」も刊行した。さらにモリムラは同町内



研修室

にMETビルを竣工して(株)エイコーと(株)ティビジャパンはMETビルに移転した。

一九八八年(昭和六三年)、スウェーデン・イェテボリ大学の教授で、カールスタット予防歯科センター所長のパール・アクセルソン博士を招聘し東京の読売ホールにて「予防歯科特別講演会」を開催した。北欧における疫学調査に基づいた予防歯科活動の実際が紹介され、同時にPMTTC技法がはじめて紹介された。アクセルソン博士は、翌年の一九八九年、一九九一年、一九九五年と相次いで来日し各地の講演を通じて、日本の予防歯科活動に寄与した。

一九九五年(平成七年)、歯科衛生士を対

象に唾液検査によるカリエスリスク管理ならびにPMTTC技法を修得するための「木曜セミナー」の定期開催を開始した。これによりカリエスリスクの管理とPMTTC技法は矯正分野を含む各分野の臨床に広く応用されはじめた。

一九九五年(平成七年)、米国ダンビル社と取引が開始した。当時は接着歯学が急速に発展している時期であり、同社の開発したチェアサイド用サンドブラスター・マイクロエッチャーは、接着強度の向上の一助になった。現在も多くの先生方の日頃の臨床にご愛用されている。さらに二〇〇一年にコンタクトマトリックスが開発され、二級窩洞コンポジットレジン充填の簡便化や機能形態回復に寄与した。その後、歯科大学の教育カリキュラムに採用された。

一九九六年(平成八年)、ピッツバーグ大学歯学部長ジョン・B・スズキ博士を招聘して特別講演会「歯周病の基礎と臨床・宿主応答の視点から」やニューヨーク大学教授ジョン・グイネット博士による「最新の接着歯学の基礎と臨床」、オウル大学 マルク・ラルマス教授による「う蝕の病因にもとづいた予防歯科臨床の実際」を相次いで開催した。

一九九七年(平成九年)、ジョン・カンカ博士による「いま接着が歯科診療をかえる高品質な修復治療をめざして」を開催した。この時期より米国ビスコ社の保存修復材料製品の扱いを開始し、ボンディング材・オールボンド二やフロアブルレジン・エリートフローなどを順次販売した。

一九九九年(平成十一年)、高田泰先生(北海道釧路市・文苑こども歯科クリニック院長)による「臨床医のための咬合育成ゼミナール」を開催した。

二〇〇一年(平成一三年)、(株)ミツバオーソサプライド社よりイタリア・レオーネ社を紹介していただき、また同製品の販売代理店として、(株)ミツバオーソサプライド社と販売契約を締結して、エキスパンションスクリー、ブラケット、ワイヤー類など矯正歯科製品の取扱いを開始した。

二〇〇三年(平成一五年)、当時、(株)白元(現白元アース)と共同開発して、キタラーゼ酵素や優れた発砲力の特徴を有した義歯洗浄剤・スマイルデントを自社ブランドとして販売を開始した。

二〇〇三年(平成一五年)、森村和彦が代表取締役社長、森村浩治が代表取締役会長に就任した。

二〇〇五年(平成一七年)、二〇〇一年に発刊を休止していたクリニカルMレポートをMレポートと改名し、さらにタブロイド版に刷新して、海外臨床報告を中心に情報提供を再開して今日まで継続している。

二〇〇八年(平成二〇年)、フェニックスデンタル社・スーパースील(知覚過敏抑制材料)を認証取得して販売開始した。さらに開発者である元アラバマ大学歯学部バイオマテリアル学講座チャールリーコックス教授を招聘して、主要都市で講演会を開催した。

二〇〇九年(平成二一年)、(株)ミツバオーソサプライド社より韓国ダエソンメディカル社製



千田教授・富士谷准教授・サー社長
ジョイント講演会(2013年)

品の輸入代行委託があり、同社のプラスチック、ジルコニア、セラミックブラケットの取扱いを開始した。さらに今日までに「E-CO」テーピングワイヤー類など順次製品ラインアップを追加している。

二〇一一年(平成二三年)、モリムラ本社を上野三丁目のMETビルに移転する。

二〇一二年(平成二四年)、(株)モリムラおよび(株)エイコーの代表取締役 森村繁雄の逝去および森村和彦の退任により、森村豪が代表取締役に就任した。

二〇一三年(平成二五年)、ビスコ社・セラルC(覆髄材)の発売に伴い、愛知学院大学歯学部 千田彰教授、富士谷盛興准教授とともにビスコ社ビジョンサー社長によるジョイント講演会「歯髄をまもる、歯をまもる 意義と臨床」を開催した。MTA系材料(ケイ酸カル



エドマクラレン・大河先生ジョイント講演会-1
(2016年)

シウム)と高親水性モノマーを含有した新しい光重合型直接覆髄材の修復治療効果の研究結果について紹介がなされた。

二〇一四年(平成二六年)、業務拡大のため、隣接ミカビルを購入する。

二〇一六年五月(平成二八年)、ダンビルマテリアル社・ペリオスコピーシステム(歯科用内視鏡)の発売に伴い、可視化で行うデブライドメントなど全く新しい歯科内視鏡を用いた歯周治療の研修会を開催した。

二〇一六年六月(平成二八年)、UCLA大学・エドマクラレン教授と大河雅之先生(代官山アドレス歯科クリニック)を講師にお迎えして、「審美歯科のホットな話題 PSDとBFEPとそのテクニック」のジョイント講演会を開催した。MIに則しさらに接着歯学を多用した世界水準のポーセレンベニアレス



エドマクラレン・大河先生ジョイント講演会-2
(2016年)

トレーションの紹介がなされた。さらに大河雅之先生のベニアレストレーション・ハンズオンコースの定期開催を開始した。

二〇一六年一〇月(平成二六年)、米国バイオクリアマトリックス社と取引開始に伴い、日本大学歯学部教授 宮崎真至先生、秋本尚武先生(秋本歯科診療所)を講師にお迎えして、ブラックトライアングル、正中離開など前歯部修復ハンズオンセミナーの定期開催を開始した。

二〇二一年(令和三年)、昨年末に新社屋が竣工して、本年より業務を開始した。新設した研修室は、マイクロスコープ、マイクロモーター、エアハンドピースなどを完備し、矯正だけでなく各分野の最新歯科治療を研修できる施設とした。今後ともさらなる歯科医療の発展に寄与できるように努めて参ります。



一九〇六年創業のヨシダグループは、現存する日本最古の歯科機械メーカーとしての誇りを胸に、全国の歯科医院や大学・病院等の歯科医療従事者に向けて様々な製品

株式会社ヨシダ

設立年月日 一九六一年五月

代表者 山中一剛

〒一〇八五〇七

東京都台東区上野七六一九

電話 〇三三三八四五一二九五

FAX 〇三三三八四五一二七二六

URL <http://www.yoshida-dental.co.jp/>

やサービスを提供してきた。

一九〇六年、故山中卯八により、東京都墨田区に借工場で「ユニット」と呼ばれる診療台、歯の切削や研磨や歯石除去等に用いられる精密機械の「ハンドピース」など歯科機械器具の製造工場として吉田鉄工所を開業（その後、一九四八年に株吉田製作所を設立）。

一九六一年、株吉田製作所の営業部門を分離独立させ、株ヨシダの前身となる吉田販売(株)を設立。

一九六四年、世界的なスポーツイベントの宿舎に最新の歯科医療機器一式を提供。

一九六六年、海外歯科機械メーカーと技術・販売の提携をする。

一九六九年、ヨシダグループの関連会社として、吉田精工(株)を設立。



ユニット

一九七九年〜八一年、医院様により安心して機械を使っていたために修理を専門に行うデンタルサービスヨシダを設立。さらにロジスティックの拡充、製品の保管管理を目的にヨシダ倉庫(株)を設立。

一九八四年、歯科用診療台の主力ブランドとして「エクシード」シリーズの販売開始。

一九八五年、最新の治療方法でもある「レーザー機器」歯科用レーザーの販売を開始。現在でも進化を続け、現在では50%近くの高シェアを占める商品に成長。

一九九〇年、歯科用レントゲン製造工場として株エム・デイ・ヨシダを設立。

二〇〇〇年、ヨシダグループの歯科用コンピュータ・システム開発を行う部門として株ヨシダデンタルシステムを設立。その後、レセプトを始め、電子カルテ入力、患者管理が一括でできるシステム構築へ成長。

二〇〇二年、歯科用診療台の主力最高機種として「エクシードef」を販売開始。

翌年、グッドデザイン賞受賞。
二〇〇五年、歯科業界にCTが使われるよ



オペレーター

うになり、歯科用CTとして「ファインキューブ」を販売開始し、診査・診断に大きな変革をもたらした。

二〇〇六年、ヨシダグループ創業一〇〇周年を迎える。

二〇一二年、主力製品の歯科用ユニット、歯科用画像診断機器の製造の効率化と世界の製造拠点の大本となる工場の構築を目的として茨城県阿見町の茨城工場、敷地面積三三〇〇〇㎡のMMC(マザー・マニファクチャラー・センター)設立。

二〇一七年、ヨシダグループ創業一一周年を迎える。

二〇二〇年、八〇倍まで拡大でき、4Kモニターを搭載したデジタルマイクロスコープ「ネクストビジョン」を発売。



ネクストビジョン

株式会社YDM

設立年月日 一九四八年三月

代表者 山浦元裕

〒一四一〇〇一四

東京都北区田端六一五二〇

電話 〇三三三八二七五四〇七

FAX 〇三三三八二七七八九一

URL <http://www.ydm.co.jp/>

一九四八年三月、(株)YDMは、山浦慶治が戦前に工場支配人として務めていた鳥光歯科器械店の繋がりを活かし、プレス工研社として歯科用器具の製作を始めたことが創業の始まりとなる。

一九五一年四月、プレス工研社を解散し、新たに山浦歯科器械製作所を設立。歯科用器械器具メーカーとして「産学共同」でのモノづくりを柱に、歯科大学とのパイプを築き、教育の現場ならびに臨床医の治療に添った製品開発、販売を進めていく。

一九五八年、株式会社を改組し、(株)山浦製作所を設立。この年、大阪大学教授・多賀谷正義博士と新型ハイカーボンステンレス「タグライト鋼」を開発。この素材が品質を飛躍的に高め、技術的な礎として主力製品となる各種インスツルメントが発売される。なかでも東京医科歯科大学と共同開発した「医歯大型矯正セット」は高く評価される。

一九六〇年、東松山工場(現在の埼玉事業部)を開設。生産体制の拡充を図る。
一九六五年、東京医科歯科大学の高橋新次

郎教授と三浦不二夫教授の共同監修による国内初の「矯正用マニュアル」を発刊。使用法の明記とともに矯正用歯科器械器具の総合カタログとしての意味合いを兼ね備えていた。

一九六九年、総合カタログ「YAMAMURA'S DENTAL INSTRUMENTS GENERAL CATALOGUE」の発刊。一般診療用の器具だけでなく、「ヤングプライヤー」や「ピンカッター」、「矯正用機械セット」等、矯正用の器具も多く掲載。

一九八四年、山浦彰一が代表取締役就任。時代やニーズの変化に柔軟に対応することを理念に掲げ、マニユファクチュアから近代経営へと発展。

一九九一年、社名を「株ワイデム・ヤマウラ」に変更。

一九九二年、東松山に新工場を落成。機械化による品質の向上を進めるため工場を拡張、大型NC旋盤やNCフライス盤、無酸化自動熱処理炉等を導入し、精密加工の自動化による品質の安定化を図った。

一九九六年、矯正用インスツルメントを掲載した矯正専門カタログを発行。

二〇〇四年、社名を「株YDM」に変更。



矯正用器械セット

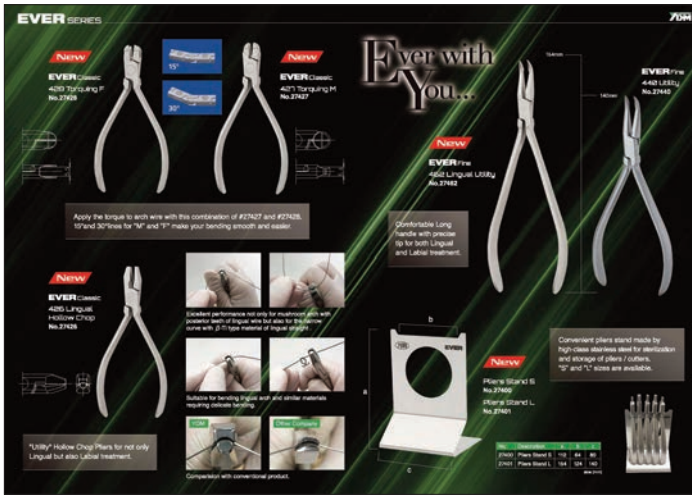
二〇〇七年、国際標準規格である「ISO 13485」を取得。医療機器メーカーとして一般医療機器から高度管理医療機器まで全ての医療機器の製造販売を行うことが可能となった。

二〇〇九年、山浦元裕が代表取締役に就任。高品質な製品を届けることで、日本だけでなく世界中の医療に貢献するため、グローバルな展開を進める。

矯正分野においてジルコニアセラミックブラケット「COBY」を開発。日本と海外で同時に発売を行う。



埼玉事業部新工場



EVERシリーズ

二〇一一年、アメリカ最大の矯正展示会であるアメリカ矯正歯科医協会展示会(AAO)に初出展。ブラケットや矯正プライヤーの普及に努めた。

二〇一三年、埼玉事業部新工場を設立。五軸制御マシニングセンターを導入し、より高い品質・精度の製造を可能にした。

二〇一六年、矯正プライヤー「EVERシリーズ」を発売。日本のみならず、世界中の矯正医から高い評価を受けている。

医療機器メーカーとして、矯正治療を通じて多くの人々の健康はもちろん、人生を豊かにできる製品を今後も提供していきたい。

◇第五部

日本齒科矯正年表

日本齒科矯正器材協議會 會務經過報告

矯正歯科業界の歩み

第7期 御代川会長		第6期 御代川会長		第5期 古屋会長		期
2004年 (平成16年)度	2003年 (平成15年)度	2002年 (平成14年)度	2001年 (平成13年)度	2000年 (平成12年)度	1999年 (平成11年)度	年代
<p>【松風B1ホール】4月1日 ・会務/各委員会報告/予算承認 ・プラケット国内販売数量調査開始 (01~03年分) ・安永コンピュータシステム(株)/株プロシード入会で21社</p>	<p>【松風B1ホール】4月3日 ・会務/各委員会報告/予算承認 7期も御代川体制継続</p>	<p>【松風B1ホール】4月4日 ・会務/各委員会報告/予算承認 ・会則一部改正 ・矯正歯科医会広報プロジェクト講演会 ・(株)ランサーインターナショナル退会 ・(株)ヨシダ準会員として再度入会 ・(株)ティービーオーソドンティックスジャパンが入会し19社</p>	<p>【松風B1ホール】4月5日 ・会務/各委員会報告/予算承認 役員会推薦の御代川氏が第6期会長に決定 ・(有)バルビゾン、(有)インターグループ入会、18社</p>	<p>【松風B1ホール】4月12日 ・会務/各委員会報告/予算承認 ・三金北島氏に代わり猪股氏出席、副会長席は空席とする。 ・(株)ヨシダ退会、(株)日本歯科工業社入会、16社</p>	<p>【松風B1ホール】4月7日 ・会務/各委員会報告/予算承認 ・社会医療委員会を設置・小川委員長 ・矯正歯科医会総会時に商社製品説明の依頼 ・(株)モリムラ入会、16社</p>	総会
<p>【東京ガーデンパレス】8月2日 ・会務/各委員会報告</p>	<p>【松風B1ホール】7月31日 ・会務/各委員会報告</p>	<p>【松風B1ホール】7月31日 ・会務/各委員会報告 ・社会医療委員会より「医療用具業公正競争規約に関わる報告・医療用具貸出制限、医療機関等への経費援助制限」についての説明がなされた。</p>	<p>【鬼怒川ホテルニュー岡部】8月1~2日 ・会務/各委員会報告 ・「矯正歯科業界の歩み」編集経過報告 ・社会医療委員会「公正競争規約について」講演(日本歯科商工協会支部長・高橋勝美氏)</p>	<p>【軽井沢プリンスホテル】8月2~3日 ・会務/各委員会報告 ・器材協議会20周年記念誌制作の話が出る。</p>	<p>【鬼怒川温泉谷川ホテル】7月28~29日 ・会務/各委員会報告 ・会則改正を行う。</p>	夏季例会
<p>【東京ガーデンパレス】12月15日 ・会務/各委員会報告</p>	<p>【松風B1ホール】12月5日 ・会務/各委員会報告 「薬事並びに公正競争規約」についての講演</p>	<p>【松風B1ホール】11月26日 ・会務/各委員会報告</p>	<p>【松風B1ホール】12月3日 ・会務/各委員会報告 ・矯正歯科医会にて大々的な広報プロジェクトが始まる。 ・日矯学会でも「矯正歯科の日矯設立75周年記念大会」の啓発活動を考える会開催</p>	<p>【松風B1ホール】12月5日 ・会務/各委員会報告 ・講演「医療用具の公正取引について」 高橋勝美氏(公正取引協議会歯科支部委員長)</p>	<p>【松風B1ホール】12月10日 ・会務/各委員会報告</p>	冬季例会
<p>【63回福岡国際会議場】11月17~19日 担当校・九州大学 学会長・相馬邦道教授 大会長・中島昭彦教授 参加登録・3530名 展示・54社/183小間</p>	<p>【62回末鷲メッセ】10月8~10日 担当校・新潟大学 学会長・花田晃治教授 大会長・花田晃治教授 参加登録・3241名 展示・58社/214小間</p>	<p>【61回名古屋国際会議場】10月22~24日 担当校・朝日大学 学会長・花田晃治教授 大会長・丹羽金一郎教授 参加登録・3460名 展示・46社/206小間</p>	<p>【60回東京国際フォーラム】10月8~11日 担当校・東京医科歯科大学 学会長・花田晃治教授 大会長・相馬邦道教授 日矯設立75周年記念大会 参加登録・3615名 展示・64社/243小間 器材協のユニフォームを作成し、会員会社全員が展示初日に着用。</p>	<p>【59回大阪国際会議場】10月25~27日 担当校・大阪歯科大学 学会長・花田晃治教授 大会長・川本達雄教授 参加登録・3352名 展示・45社/183小間</p>	<p>【58回広島国際会議場】10月14~15日 担当校・広島大学 学会長・花田晃治教授 大会長・丹根一夫教授 参加登録・2939名 展示・61社/152小間</p>	日矯学会
<p>【32回千葉ホテルグリータワー1幕張】9月29~30日 会長・植木和弘先生 大会長・秋山讓先生 展示・24社/30小間、商品説明7社</p>	<p>【31回名古屋国際会議場】9月14~16日 会長・植木和弘先生 大会長・酒井優先生 展示・25社/35小間、商品説明7社</p>	<p>【30回東京シビックホール】9月22~24日 会長・篠倉均先生 大会長・尾崎武正先生 展示・25社/26小間、商品説明6社</p>	<p>【29回ネット仙台情報プラザ】9月14~16日 会長・篠倉均先生 大会長・三条勲先生 展示・21社/25小間 メイン会場にて初の商品説明会。特別講演後の1時間、7社の申し込み。</p>	<p>【28回神戸メリケンパーク】6月25~27日 会長・篠倉均先生 大会長・吉田建美先生 展示・25社</p>	<p>【27回福岡シーホークホテル】6月20~22日 会長・篠倉均先生 大会長・高木繁實先生</p>	矯正歯科医会
<p>【104回オーランド】4月30日~5月4日</p>	<p>【103回ホノルル】5月2~6日</p>	<p>【102回フィラデルフィア】5月3~7日</p>	<p>【101回トロント】5月4~8日</p>	<p>【100回シカゴ】4月29日~5月2日</p>	<p>【99回サンディエゴ】5月15~19日</p>	AAO

第五部◇日本歯科矯正年表 / 日本歯科矯正器材協議会 会務経過報告

第10期 小川会長	第9期 山崎会長	第8期 御代川会長	期
2010年 (平成22年)度	2009年 (平成21年)度	2008年 (平成20年)度	2007年 (平成19年)度
2006年 (平成18年)度	2005年 (平成17年)度	年代	
<p>【松風BIホール】4月5日 ・会務/各委員会報告/予算承認 フォレストアデントジャパン(株)入会、24社</p>	<p>【松風BIホール】4月16日 ・会務/各委員会報告/予算承認 互選にて第10期会長に小川清史氏決定 (株)ジーシー/メディア(株)入会 23社</p>	<p>【松風BIホール】4月3日 ・会務/各委員会報告/予算承認 ・中納先生(昭和大学)講演</p>	<p>【松風BIホール】4月11日 ・会務/各委員会報告/予算承認 役員会推薦により第9期会長に山崎裕氏が決定、新執行部スタート</p>
<p>【松風BIホール】7月25日 ・会務/各委員会報告 ・5月25日、日臨矯第1回プレースマイルコンテスト応募写真集「ハッピープレースマイル」に協賛し、会員会社に配布</p>	<p>【松風BIホール】8月17日 ・会務/各委員会報告 日矯学会後藤理事長講演会「学会と協力団体」</p>	<p>【ホテルエビナール那須】8月1日 ・会務報告・各委員会報告</p>	<p>【松風閣(静岡・焼津)】8月31日 ・会務報告・各委員会報告</p>
<p>【松風BIホール】12月14日 ・会務報告・各委員会報告</p>	<p>【松風BIホール】12月9日 ・会務報告・各委員会報告</p>	<p>【松風BIホール】11月29日 ・会務/各委員会報告 矯正分野と歯科医療機器と薬事法」と題して東京医科歯科大の園田先生講演</p>	<p>【松風BIホール】11月27日 ・会務報告・各委員会報告</p>
<p>【69回パシフィック横浜】9月27/29日 担当校・神奈川歯科大学 理事長・後藤滋巳教授 大会長・佐藤貞雄教授 参加登録・4414名 展示・65社/344小間</p>	<p>【68回福岡国際会議場】11月16/18日 担当校・九州歯科大学 理事長・後藤滋巳教授 大会長・山口和憲教授 参加登録・3896名 展示・57社/336小間</p>	<p>【67回幕張メッセ】9月16/18日 担当校・日本大学 理事長・後藤滋巳教授 大会長・清水典佳教授 参加登録・4134名 展示・59社/329小間</p>	<p>【66回大阪国際会議場】9月19/21日 担当校・大阪大学 理事長・相馬邦道教授 大会長・高田健治教授 登録者・3984名 展示・59社/194小間</p>
<p>【38回札幌コンベンションセンター】2月9/10日 会長・平木健一先生 大会長・中野耕輔先生 展示・31社/44小間、ランチョン説明12社</p>	<p>【37回宮崎フェニックス】9月22/23日 会長・平木健一先生 大会長・陶山肇先生 展示・32社/42小間、ランチョン説明11社</p>	<p>【36回ヤマハリゾートつま恋】10月14/15日 会長・平木健一先生 大会長・大川覚先生 展示・34社/42小間、ランチョン説明11社</p>	<p>【35回栃木県総合文化センター】11月14/15日 会長・平木健一先生 大会長・菊池誠先生 展示・32社/40小間、ランチョン商品説明会8社</p>
<p>【110回ワシントンDC】4月30日/5月4日</p>	<p>【109回ポストン】5月1/5日</p>	<p>【108回デンバー】5月16/20日</p>	<p>【107回シアトル】5月18/22日</p>
<p>【106回ラスベガス】5月5/9日 ※ニューオリンズ開催予定がハリケーンのためラスベガスへ開催地を変更</p>			
<p>【総会】</p>	<p>【夏季例会】</p>	<p>【冬季例会】</p>	<p>【日矯学会】</p>
<p>【松風BIホール】4月11日 ・会務/各委員会報告/予算承認 ・第8期も御代川執行部が継続可決 ・伊藤学而先生講演</p>	<p>【松風BIホール】8月2日 ・会務/各委員会報告</p>	<p>【松風BIホール】11月29日 ・会務/各委員会報告 ・新潟大学名誉教授花田晃治先生「これからの矯正歯科と器材協議会の役割」講演</p>	<p>【64回パシフィック横浜】10月12/14日 担当校・鶴見大学 学会長・相馬邦道教授 大会長・平下斐雄教授 参加登録・4031名 展示・62社/273小間 器材協ブースにて記念品、啓発ポスターの配布、ドリンクサービスを行う。</p>
<p>【松風BIホール】11月29日 ・会務報告・各委員会報告</p>	<p>【松風BIホール】11月29日 ・会務報告・各委員会報告</p>	<p>【65回札幌コンベンションセンター】9月13/15日 担当校・北海道大学 学会長・相馬邦道教授 大会長・飯田順一郎教授 参加登録・3604名 展示・59社/216小間 商社展示ガイドブックと大会参加章ネットワークを作成、配布する。</p>	<p>【33回広島プリンスホテル】9月7/8日 会長・池森由幸先生 大会長・花岡宏先生 展示・29社/40小間、商品説明7社 広報活動の一環として記念すべき第1回目の「プレースマイルコンテスト」が始まる。</p>
<p>【松風BIホール】11月29日 ・会務報告・各委員会報告</p>	<p>【松風BIホール】11月29日 ・会務報告・各委員会報告</p>	<p>【34回新横浜プリンスホテル】10月25/26日 会長・池森由幸先生 大会長・高橋ユミ先生 展示・33社/45小間 この会よりランチョン商品説明会11社</p>	<p>【105回サンフランシスコ】5月20/24日</p>

第12期 宮島会長		第11期 小川会長			期
2015年 (平成27年)度	2014年 (平成26年)度	2013年 (平成25年)度	2012年 (平成24年)度	2011年 (平成23年)度	年代
<p>【松風BIホール】4月3日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会務報告/各委員会報告 ・予算承認 ・会則改正 ・(株)日工社/ (株)トクヤマ/ 安永コンピュータシステム(株)退会、23社 	<p>【松風BIホール】4月4日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会務報告/各委員会報告 ・予算承認 ・役員会にて第12期器材協議会会長に宮島勝氏推薦、総会にて承認される。新執行部スタート ・(有)ウイルデント入会、26社 	<p>【松風BIホール】4月3日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会務報告/各委員会報告 ・予算承認 ・協力団体である日矯学会、矯正歯科医会との役員改選と器材協議会の役員改選時期を合わせるため小川体制を1年延長すること が決定 	<p>【松風BIホール】4月11日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会務報告/各委員会報告 ・予算承認 ・講演会「プロモーションコード」高橋勝美氏 ・(株)メデイカ退会、(株)オーテイクインターナショナル入会、25社 	<p>【松風BIホール】4月7日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小川会長 第11期役員改選 ・会務報告/各委員会報告 ・予算承認 ・(株)トクヤマ入会、25社 	総会
<p>【松風BIホール】8月2日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会務/各委員会報告 ・日矯学会倫理裁定委員会活動報告 ・中村委員長(鶴見大教授)小川特務理事・プロモーションコード説明 	<p>【松風BIホール】7月30日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「栃木県口ベ倶楽部」 ・「カスタムメイド矯正装置」についての報告 	<p>【松風BIホール】8月7日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会務/各委員会報告 	<p>【松風BIホール】8月2日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会務/各委員会報告 	<p>【松風BIホール】8月4日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会務報告/各委員会報告 	夏季例会
<p>【ハートビエ熱海】12月2日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会務/各委員会報告 	<p>【松風BIホール】11月29日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会務/各委員会報告 ・講演会「医薬品医療機器等法施行直後の今しなければいけないこと」(株)M A ライディングサービス 代表 山本敬路氏 ・会員会社43名参加 ・ISO/TC106第50回 年次会議報告 東京歯科大 学坂本輝雄先生 	<p>【松風BIホール】1月10日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会務/各委員会報告 	<p>【松風BIホール】12月13日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会務/各委員会報告 	<p>【松風BIホール】12月14日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会務/各委員会報告 	冬季例会
<p>【74回福岡国際会議場】11月18~20日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当校・福岡歯科大学 ・理事長・石川博之教授 ・大会長・石川博之教授 ・参加登録・4701名 ・展示・66社/433小間 	<p>【73回藤原メッセ】10月20~22日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当校・日本大学松戸歯学部 ・理事長・石川博之教授 ・大会長・葛西一貴教授 ・参加登録・4901名 ・展示・67社/415小間 	<p>【72回長野県松本文化会館/松本市総合体育館】10月7~9日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当校・松本歯科大学 ・理事長・後藤滋己教授 ・大会長・山田一尋教授 ・参加登録・4046名 ・展示・60社/338小間 	<p>【71回マリオス/アイーナ/アイヌアリーナ】9月26~28日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当校・岩手医科大学 ・理事長・後藤滋己教授 ・大会長・三浦廣行教授 ・参加登録・3501名 ・展示・59社/304小間 ・学術会場と展示会場が徒歩圏外となったため、初めてシャトルバス運行で会場間を移動手段とする。 	<p>【70回名古屋国際会議場】10月17~20日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当校・愛知学院大学 ・理事長・後藤滋己教授 ・大会長・後藤滋己教授 ・参加登録・4441名 ・展示・65社/364小間 ・18日ジャパンナイト開催 ・企業プレゼンテーション始まる。 	日矯学会
<p>【43回メトロポリタン長野】2月24~25日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長・富永雪穂先生 ・大会長・堀内敦彦先生 ・展示・35社/49小間、ランチョン説明12社/スタッフ説明1社 ・今回よりスタッフ対象の商品説明も行う。 	<p>【42回名古屋国際会議場】2月11~12日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長・富永雪穂先生 ・大会長・菅沼興明先生 ・展示・37社/48小間、ランチョン説明11社 	<p>【41回仙台国際センター】2月12~13日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長・富永雪穂先生 ・大会長・曾矢猛美先生 ・展示・33社/39小間、ランチョン説明17社 	<p>【40回東京学術総合センター】2月6~7日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長・浅井保彦先生 ・大会長・市川和博先生 ・41社/53小間、ランチョン説明会15社 ・記念大会につき、歴代会長の表彰式があった。 	<p>【39回大阪国際交流センター】2月9~10日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長・浅井保彦先生 ・大会長・浜中康弘先生 ・展示・38社/46小間、ランチョン説明13社 	矯正歯科医会
<p>【115回サンフランシスコ】5月15~19日</p>	<p>【114回ニューヨーク】4月25~29日</p>	<p>【113回フィラデルフィア】5月3~7日</p>	<p>【112回ノルホルム】5月4~8日</p> <p>9th I O C 横浜大会決定</p>	<p>【111回シカゴ】5月13~17日</p>	AAO

第五部◇日本歯科矯正年表 / 日本歯科矯正器材協議会 会務経過報告

第15期 大石会長		第14期 大石会長		第13期 宮島会長		期
2021年 (令和3年)度	2020年 (令和2年)度	2019年 (平成30、令和1年)度	2018年 (平成30年)度	2017年 (平成29年)度	2016年 (平成28年)度	年代
<p>【松風BIホール】3月29日 ・役員会開催総会は中止 書面による予算決議</p>	<p>【松風8F会議室】3月26日 ・会務/各委員会報告 ・新型コロナウイルスの影響で役員会は開催 するが総会は中止、書面による予算関連、 第15期役員人事案の議決権の行使を決定</p>	<p>【松風BIホール】4月16日 ・会務/各委員会報告 ・予算承認 ・(株)岡部/株ASOホールディングス/スト ローマンジャパン(株)入会、26社</p>	<p>【松風BIホール】4月3日 ・会務/各委員会報告 ・予算承認 ・14期大石新会長の下、新執行部スタート ・PMDA谷城氏による「3次元ソフト」説 明会 ・「医療機器業公正競争規約について」歯科商 工プロモーションコード委員会森村豪委員 長による説明会</p>	<p>【松風BIホール】4月4日 ・会務/各委員会報告 ・予算承認</p>	<p>【松風BIホール】3月29日 ・会務/各委員会報告 ・予算承認 第13期宮島新執行部承認、役員改選</p>	総会
<p>【松風BIホール】8月17日 ・役員会ZOOM会議</p>	<p>【松風8F会議室】8月4日 ・役員会開催、例会は中止</p>	<p>【京都モリタ】8月22日 ・会務/各委員会報告</p>	<p>【松風BIホール】8月7日 ・会務/各委員会報告</p>	<p>【松風BIホール】8月29日 ・会務/各委員会報告 黒田東京医科歯科大学名誉教授講演会</p>	<p>【松風BIホール】7月26日 ・会務/各委員会報告 ・2017年WIOC神戸大会説明 (嘉ノ海先生) ・プロモーションコード説明会 ・9th IOCプロモーションビデオ鑑賞</p>	夏季例会
<p>【松風BIホール】11月29日 ・役員会開催、例会はZOOM M会議</p>	<p>【松風8F会議室】12月8日 ・役員会開催、例会はZOOM M会議</p>	<p>【松風BIホール】12月4日 ・会務/各委員会報告</p>	<p>【松風BIホール】12月11日 ・会務/各委員会報告</p>	<p>【松風BIホール】12月6日 ・会務/各委員会報告 五十嵐一吉先生(日矯学会 常務理事)講演会(日本の矯 正歯科界を取り巻く問題点 および日本矯正歯科学会の 取り組みについて)~IOC 2020に向けて~</p>	<p>【かんぽの宿熱海本館】 11月29日 ・会務/各委員会報告</p>	冬季例会
<p>【80回パシフィコ横浜】 11月3~5日 担当校・昭和大学 学会長・森山啓司教授 理事長・横宏太郎教授 参加登録・426名 展示・50社/50小間 1社1小間に制限</p>	<p>【79回/9th IOC/12th APOC 併催パシフィコ横浜】10月4日 6日、オンデマンド配信10月7日 11月3日 担当校・東京医科歯科大学 理事長・森山啓司教授 大会長・小野卓史教授 参加登録・6282名 展示・43社(WEB展示) 出展商社へのアクセス総数15056回</p>	<p>【78回長崎ブリックホールほか】 11月20~22日 担当校・長崎大学 理事長・森山啓司教授 大会長・吉田教明教授 参加登録・3997名 展示・65社/107小間 学術会場の空きスペースを使用</p>	<p>【77回パシフィコ横浜】 10月30日/11月1日 担当校・日本歯科大学 理事長・森山啓司教授 大会長・新井一仁教授 参加登録・5327名 展示・78社/477小間 2020年9th IOCのプレ大会 的位置づけ</p>	<p>【76回さっぽろ文芸館/ロイトン 札幌】10月18/20日 担当校・北海道医療大学 理事長・清水典佳教授 大会長・溝口到教授 参加登録・4504名 展示・69社/390小間</p>	<p>【75回アステイ徳島】11月7~9日 担当校・徳島大学 理事長・清水典佳教授 大会長・田中栄二教授 参加登録・3952名 展示・62社/59スペース 学術会場の空きスペースを使用、 スペース貸とする。</p>	日矯学会
<p>【49回札幌ハイブリッ ド開催】 2月17~18日 会長・野村泰世先生 大会長・今井徹先生 WEB展示・16社</p>	<p>【48回静岡WEB開催】 2月17~24日(WEB 配信) 会長・稲毛滋自先生 大会長・片岡護先生 WEB展示・20社</p>	<p>【47回浦和ロイヤルパ インズホテル】 2月19/20日 会長・稲毛滋自先生 大会長・坂寄正美先生 展示・39社/47小間、企 業プレゼンテーション12 社/スタッフ説明1社</p>	<p>【46回横浜モントレー/ ロイズホテル】 2月20/21日 会長・稲毛滋自先生 大会長・島田正先生 展示・38社/46小間、 企業プレゼンテーション 14社/スタッフ説明 2社</p>	<p>【45回ホテルグランビ ア岡山】2月21/22日 会長・稲毛滋自先生 大会長・土屋公行先生 展示・38社/46小間、 企業プレゼン14社/ス タッフプレゼン1社</p>	<p>【44回ヒルトン成田】 2月22/23日 会長・富永雪穂先生 大会長・土屋俊夫先生 展示・35社/41小間、 企業プレゼンテーショ ン12社/スタッフ説明 2社</p>	矯正歯科医会
<p>【121回ポストン】 6月25~27日 WEB開催</p>	<p>【120回アトランタ】 5月1~5日 WEB開催</p>	<p>【119回ロサンゼルス】 5月3~7日 5月6日、ジャパナイ ト開催(9th IOCアピ ール)</p>	<p>【118回ワシントンDC】 5月4~8日</p>	<p>【117回サンディエゴ】 4月21~25日</p>	<p>【116回オーランド】 4月29日/5月3日</p>	AAO

1998年 (平成10年)度	1997年 (平成9年)度	1996年 (平成8年)度	1995年 (平成7年)度	1994年 (平成6年)度	1993年 (平成5年)度	1992年 (平成4年)度	1991年 (平成3年)度	年代
【第39回北海道歯科医師会館】 6月14日 宇賀見学会長	【第38回北海道歯科医師会館】 6月8日 宇賀見学会長	【第37回北海道歯科医師会館】 6月30日 宇賀見学会長	【第36回北海道歯科医師会館】 6月11日 宇賀見学会長	【第35回北海道歯科医師会館】 6月12日 宇賀見学会長	【第34回札幌歯科会館】 6月13日 布施勝司学会長	【第33回札幌歯科会館】 6月14日 布施勝司学会長	【第32回札幌歯科会館】 6月16日 布施勝司学会長	北海道
【第14回横手ふれあいセンター】 5月30～31日 山口敏雄学会長 河原田武史大会長	【第13回岩手県自治会館】 5月24～25日 山口敏雄学会長 石川富士郎大会長	【第12回山形市中央公民館】 6月29～30日 山口敏雄学会長 遠藤隆一大会長	【第11回弘前文化センター】 5月20～21日 山口敏雄学会長 荒内俊大会長	【第10回仙台国際センター】 5月21～22日 山口敏雄学会長 三谷英夫大会長	【第9回えびすグランドホテル(福島市)】 5月29～30日 石川富士郎学会長 北浦洋一大会長	【第8回盛岡市中央公民館】 5月30～31日 石川富士郎学会長 三条勲大会長	【第7回宮城県歯科医師会館】 5月25～26日 石川富士郎学会長 遠藤孝大会長	東北
【第57回ニッショーホール】 7月2日 一色泰成学会長	【第56回ニッショーホール】 7月1日 納村晋吉学会長	【第55回ニッショーホール】 7月9日 納村晋吉学会長	【第54回ニッショーホール】 7月11日 黒田敬之学会長	【第53回ニッショーホール】 7月12日 黒田敬之学会長	【第52回ニッショーホール】 7月2日 鈴木祥井学会長	【第51回ニッショーホール】 7月12日 鈴木祥井学会長	【第50回ニッショーホール】 7月11日 桑原洋助学会長	東京
【第13回ホテルニューオータニ長岡】 6月21日 出口敏雄学会長 赤柴豊英大会長	【第12回新潟県歯科医師会館】 7月6日 出口敏雄学会長 杉山道男大会長	【第11回松岡大図書館】 7月19～20日 亀田晃学会長 犬飼啓元大会長	【第10回リジョンプラザ上越】 7月15～16日 亀田晃学会長 亀田晃大会長	【第9回富山県歯科保健医療総合センター】 7月17日 亀田晃学会長 福井洋大会長	【第8回上田文化センター】 8月1日 花田晃治学会長 宮下貞夫大会長	【第7回日歯大新潟校】 8月9日 花田晃治学会長 亀田晃大会長	【第6回山梨厚生年金会館】 7月7日 亀田晃学会長 鎌田巖大会長	甲北信越
【第40回京都テルサ】 5月24日 渡辺修学会長 平野護大会長	【第39回大津市生涯学習センター】 7月6日 吉田建美学会長 多田一夫大会長	【第38回名古屋市中区中小企業振興会館】 6月16日 吉田建美学会長 渡辺修大会長	【第37回千里ライフサイエンスセンター】 6月18日 川本達雄学会長 川本達雄大会長	【第36回兵庫歯科医師会館】 6月19日 川本達雄学会長 吉田建美大会長	【第35回J.R.和歌山J.A.ビル】 6月13日 川本達雄学会長 有本隆行大会長	【第34回四日市文化会館】 6月14日 丹羽金一郎学会長 山本克己大会長	【第33回朝日大学】 6月16日 丹羽金一郎学会長 浅井保彦大会長	近東
【第41回高知城ホール】 7月12日 花岡宏学会長 佐々木盛夫大会長	【第40回福山グランドホテル】 7月12～13日 丹根一夫学会長 河底晴一大会長	【第39回広島国際会議場】 7月14日 丹根一夫学会長 花岡宏大会長	【第38回松山市総合コミュニティセンター】 7月9日 中川皓文学会長 井村嘉男大会長	【第37回高松市市民文化センター】 7月10日 中川皓文学会長 山田勲大会長	【第36回呉市つばき会館】 7月11日 河田照茂学会長 山野智要之亮大会長	【第35回徳島歯科医師会館】 7月12日 河田照茂学会長 武田慎也大会長	【第34回岡山大学歯学部】 7月14日 中後忠男学会長 西島克己大会長	中四国
								九州

第五部◇日本歯科矯正年表 / 日本歯科矯正器材協議会 会務経過報告

2006年 (平成18年)度	2005年 (平成17年)度	2004年 (平成16年)度	2003年 (平成15年)度	2002年 (平成14年)度	2001年 (平成13年)度	2000年 (平成12年)度	1999年 (平成11年)度	年代
【第47回北海道歯科医師会館】 6月11日 堀井常彰会長	【第46回北海道歯科医師会館】 6月12日 堀井常彰会長	【第45回北海道歯科医師会館】 6月13日 堀井常彰会長	【第44回北海道歯科医師会館】 6月15日 堀井常彰会長	【第43回北海道歯科医師会館】 6月16日 堀井常彰会長	【第42回北海道歯科医師会館】 6月10日 堀井常彰会長	【第41回北海道歯科医師会館】 6月11日 堀井常彰会長	【第40回北海道歯科医師会館】 6月13日 宇賀見学会長	北海道
【第22回秋田市文化会館】 6月10～11日 浅野央男学会長 大村克彦学会長	【第21回山形テルサ】 6月11～12日 三谷英夫学会長 小林廣行学会長	【第20回仙台国際センター】 5月15～16日 三谷英夫学会長 菅原準二学会長	【第19回八戸地域地場産業振興センター】 5月31日～6月1日 三谷英夫学会長 板垣正樹学会長	【第18回ビックパレットふくしま】6月8～9日 三谷英夫学会長 田辺俊昭先生	【第17回若手医科大学付属歯環器医療センター】 5月26～27日 三谷英夫学会長 内田英夫学会長	【第16回奥羽大学】 5月13～14日 三谷英夫学会長 氷室利彦学会長	【第15回仙台国際センター】 5月29～30日 山口敏雄学会長 糠塚重徳学会長	東北
【第65回有楽町朝日ホール】 7月6日 葛西一貴学会長	【第64回有楽町朝日ホール】 7月21日 葛西一貴学会長	【第63回有楽町朝日ホール】 7月8日 葛西一貴学会長	【第62回有楽町朝日ホール】 7月17日 平下斐雄学会長	【第61回有楽町朝日ホール】 7月11日 平下斐雄学会長	【第60回有楽町朝日ホール】 7月12日 柴崎好伸学会長	【第59回有楽町朝日ホール】 7月6日 柴崎好伸学会長	【第58回有楽町朝日ホール】 7月15日 一色泰成学会長	東京
【第21回ウィング・ウィング高岡】6月11日 林俊郎学会長 寺田康子学会長	【第20回松歯大図書館】 6月12日 篠倉均学会長 堀内敦彦学会長	【第19回湯沢パークホテル】 5月30日 篠倉均学会長 村上一志学会長	【第18回ホテルニューオータニ長岡】5月25日 小林則夫学会長 澤秀一郎学会長	【第17回シテイプラザ紫玉苑(甲府)】6月16日 小林則夫学会長 三木正夫学会長	【第16回富山市市民プラザ】 6月24日 松浦侃学会長 林俊郎学会長	【第15回新潟県歯科医師会館】 7月2日 松浦侃学会長 篠倉均学会長	【第14回ホテル国際21】 6月27日 花田晃治学会長 北川原健学会長	甲北信越
【第48回大阪国際交流センター】 6月18日 北井則行学会長 神原敏之学会長	【第47回名古屋国際会議場】 6月12日 後藤滋巳学会長 伊藤和明学会長	【第46回長良川国際会議場】 6月20日 後藤滋巳学会長 日置茂弘学会長	【第45回大阪国際会議場】 6月15日 和田清聡学会長 嘉ノ海龍三学会長	【第44回名古屋国際会議場】 6月16日 和田清聡学会長 後藤滋巳学会長	【第43回尼崎市総合文化センター】6月10日 平野護学会長 大嶋脩学会長	【第42回千里ライフサイエンスセンター】6月18日 平野護学会長 和田清聡学会長	【第41回岐阜文化センター】 6月20日 渡辺修学会長 鈴木善雄学会長	近東
【第49回高知城ホール】 7月8～9日 植木和弘学会長 秋山謙三学会長	【第48回サンポートホール高松】 7月2～3日 藤沢達郎学会長 豊島雄一学会長	【第47回広島厚生年金会館】 7月3～4日 藤沢達郎学会長 今田義孝学会長	【第46回徳山市市民館保健センター】7月5～6日 藤沢達郎学会長 山下公明学会長	【第45回松山市総合コミュニティセンター】7月13～14日 藤沢達郎学会長 久保田晃学会長	【第44回徳島大学長井記念ホール】7月14～15日 花岡宏学会長 森山啓司学会長	【第43回島根県歯科医師会館】 7月8～9日 花岡宏学会長 吉田滋美学会長	【第42回岡山県国際交流センター】7月11日 花岡宏学会長 神野時有学会長	中四国
【第1回九州大学医学部百年講堂】2月11～12日 中島昭彦学会長 中島昭彦学会長								九州

矯正歯科業界の歩み

2015年 (平成27年)度	2014年 (平成26年)度	2013年 (平成25年)度	2012年 (平成24年)度	2011年 (平成23年)度	2010年 (平成22年)度	2009年 (平成21年)度	2008年 (平成20年)度	2007年 (平成19年)度	年代
【第56回北海道歯科医師会館】 6月21日 今井徹会長	【第55回北海道歯科医師会館】 6月15日 今井徹会長	【第54回北海道歯科医師会館】 6月16日 正木史洋会長	【第53回北海道歯科医師会館】 6月17日 正木史洋会長	【第52回北海道歯科医師会館】 6月19日 正木史洋会長	【第51回北海道歯科医師会館】 6月20日 正木史洋会長	【第50回北海道歯科医師会館】 6月21日 正木史洋会長	【第49回北海道歯科医師会館】 6月8日 正木史洋会長	【第48回北海道歯科医師会館】 6月10日 堀井常彰会長	北海道
【第31回山形テルサ】 6月13～14日 水室利彦学会長 里見優大会長	【第30回コラッセふくしま】 5月24～25日 水室利彦学会長 清水義之大会長	【第29回弘前文化センター】 5月25～26日 水室利彦学会長 広瀬寿秀大会長	【第28回東北大学長陵会館】 5月19～20日 水室利彦学会長 山本照子大会長	【第27回東北大学長陵会館】 5月19～20日 水室利彦学会長 山本照子大会長	【第26回いわて県民情報交流センター「アイーナ」】 5月22～23日 浅野央男学会長 中野廣一大会長	【第25回郡山市市民交流プラザ「ビックアイ」】 6月20～21日 浅野央男学会長 水室利彦大会長	【第24回仙台国際センター】 5月31日～6月1日 浅野央男学会長 江保得志大会長	【第23回若手医科大付属循環器医療センター】 6月30日～7月1日 浅野央男学会長 三浦廣行大会長	東北
【第74回有楽町朝日ホール】 7月16日 清水典佳学会長	【第73回有楽町朝日ホール】 7月10日 清水典佳学会長	【第72回有楽町朝日ホール】 7月18日 森山啓司学会長	【第71回有楽町朝日ホール】 7月12日 森山啓司学会長	【第70回有楽町朝日ホール】 7月20～21日 佐藤貞雄学会長	【第69回有楽町朝日ホール】 7月15日 佐藤貞雄学会長	【第68回有楽町朝日ホール】 7月16日 鐘ヶ江晴秀学会長	【第67回有楽町朝日ホール】 7月17日 鐘ヶ江晴秀学会長	【第66回有楽町朝日ホール】 7月5日 葛西一貴学会長	東京
【第30回来鷲メッセ】 7月19日 小幡明彦学会長 齋藤功大会長	【第29回松岡大図書館】 6月15日 齋藤功学会長 宮崎顯道大会長	【第28回日歯大新潟歯学部】 5月26日 齋藤功学会長 寺田員人大会長	【第27回新潟県歯科医師会館】 6月10日 澤秀一郎学会長 大木葉孝宜大会長	【第26回松岡大図書館】 6月5日 澤秀一郎学会長 小嶋勤大会長	【第25回新潟県歯科医師会館】 6月27日 堀内敦彦学会長 長谷川雅大会長	【第24回新潟県歯科医師会館】 6月21日 堀内敦彦学会長 阿部裕子大会長	【第23回松岡大図書館】 6月8日 堀内敦彦学会長 小幡明彦学会長	【第22回新潟県歯科医師会館】 6月10日 堀内敦彦学会長 宮井敏大会長	甲北信越
【第57回大阪国際会議場】 6月7日 北井則行学会長 松本尚之大会長	【第56回名古屋国際会議場】 6月29日 北井則行学会長 吉田光志大会長	【第55回長良川国際会議場】 6月16日 宮澤健学会長 大山照彦大会長	【第54回大阪大学コンベンションセンター】 6月17日 宮澤健学会長 高田健治大会長	【第53回大阪大学コンベンションセンター】 6月5日 嘉ノ海龍三学会長 中川浩一大会長	【第52回千里ライフサイエンスセンター】 6月13日 嘉ノ海龍三学会長 中川学大会長	【第51回名古屋国際会議場】 6月14日 大浦寿哉学会長 田中進平大会長	【第50回長良川国際会議場】 6月8日 大浦寿哉学会長 北井則行大会長	【第49回千里ライフサイエンスセンター】 7月1日 北井則行学会長 足立敏大会長	近東
【第58回サンポートホール高松】 7月12日 柄博治学会長 住谷栄二大会長	【第57回宇部市文化会館】 7月2～3日 柄博治学会長 丸山文章大会長	【第56回倉敷市民会館】 7月6～7日 二宮隆学会長 土屋公行大会長	【第55回広島県民文化センター】 7月7～8日 二宮隆学会長 柄博治大会長	【第54回松山総合コミュニケーションセンター】 7月2～3日 二宮隆学会長 道田寿彦大会長	【第53回米子コンベンションセンター】 7月11日 二宮隆学会長 三原理功大会長	【第52回徳島郷土文化会館】 7月4～5日 植木和弘学会長 勝瀬昭三郎大会長	【第51回県民文化センターふくやま】 7月5～6日 植木和弘学会長 渡辺八十夫大会長	【第50回岡山大学創立50周年記念館】 7月15～16日 植木和弘学会長 山城隆大会長	中四国
【第10回長崎大学医学部記念講堂】 3月7～8日 陶山肇学会長 鈴木弘之大会長	【第9回沖縄県市町村自治会館】 2月8～9日 陶山肇学会長 崎原盛貴大会長	【第8回九州歯科大学講堂】 2月2～3日 黒江和斗学会長 山口和憲大会長	【第7回別府国際コンベンションセンター】 2月4～5日 黒江和斗学会長 曾根崎壽大会長	【第6回福岡歯科医師会館】 2月26～27日 石川博之学会長 佐藤英彦大会長	【第5回かこしま県民交流センター】 1月30～31日 石川博之学会長 宮脇正一大会長	【第4回アバンセ(佐賀市)】 2月21～22日 石川博之学会長 成富貞行大会長	【第3回長崎ブリックホール】 3月1～2日 石川博之学会長 吉田教明大会長	【第2回宮崎市民プラザ】 2月17～18日 中島昭彦学会長 土持正大会長	九州

第五部◇日本歯科矯正年表 / 日本歯科矯正器材協議会 会務経過報告

2021年 (令和3年)度	2020年 (令和2年)度	2019年 (平成30、令和1年)度	2018年 (平成30年)度	2017年 (平成29年)度	2016年 (平成28年)度	年代
【第62回WEB開催】 6月27日 佐藤嘉晃会長	【第61回誌上開催】6月21日 佐藤嘉晃会長	【第60回北海道歯科医師会館】 6月16日 宇治正光会長	【第59回北海道歯科医師会館】 6月17日 宇治正光会長	【第58回北海道歯科医師会館】 6月18日 宇治正光会長	【第57回北海道歯科医師会館】 6月19日 宇治正光会長	北海道
【第37回WEB開催】 5月29日～6月11日 曾矢猛美学会長 山口優大会長	【第36回】 中止	【第35回奥羽大学】 5月25～26日 曾矢猛美学会長 福井和徳大会長	【第34回仙台国際センター】 5月26～27日 曾矢猛美学会長 曾矢猛美大会長	【第33回にぎわい交流館AU (あう)】5月13～14日 水室利彦学会長 安藤葉介大会長	【第32回いわて県民情報交流 センター「アイーナ」】 5月14～15日 水室利彦学会長 佐藤和朗大会長	東北
【第80回WEB開催】 7月15～22日 新井一仁学会長	【第79回WEB開催】 7月9日 見逃し配信日7月16日 新井一仁学会長	【第78回有楽町朝日ホール】 7月11日 横宏太郎学会長	【第77回有楽町朝日ホール】 7月12日 横宏太郎学会長	【第76回有楽町朝日ホール】 7月13日 中村芳樹学会長	【第75回有楽町朝日ホール】 7月14日 中村芳樹学会長	東京
【第36回WEB開催】 6月27日～7月10日 齋藤功学会長 高橋功次朗大会長	【第35回WEB開催】 7月12日 齋藤功学会長 岡藤範正大会長	【第34回日歯大新潟校】 7月7日 寺田康子学会長 和田仁志大会長	【第33回新潟県歯科医師会館】 7月1日 寺田康子学会長 朝日藤寿一大会長	【第32回松歯大図書館】 7月9日 山田一尋学会長 松田泰明大会長	【第31回新潟県歯科医師会 館】7月3日 山田一尋学会長 栄枝浩介大会長	甲北信越
【第63回大阪国際交流センター】 6月20日 ハイブリット大会 居波徹学会長 大浦寿哉大会長	【第62回】 中止	【第61回ウイングあいち】 7月7日 山城隆学会長 飯田資浩大会長	【第60回長良川国際会議場】 7月1日 山城隆学会長 北井則行大会長	【第59回神戸国際会議場】 7月2日 松本尚之学会長 山城隆大会長 9thWIOC併催	【第58回大阪大学コンベンシ ョンセンター】7月17日 松本尚之学会長 永田裕保大会長	近東
【第64回WEB開催】 7月12日～8月6日 谷本幸太郎学会長 金俊熙大会長	【第63回誌上開催】 谷本幸太郎学会長	【第62回くれ絆ホール】 7月6～7日 田中栄二学会長 香川国和大会長	【第61回岡山大学】 7月7～8日 田中栄二学会長 上岡寛大会長	【第60回あわぎんホール】 7月16～17日 田中栄二学会長 田中栄二大会長	【第59回高知県民文化ホール】 7月6～7日 田中栄二学会長 廣瀬久三大会長	中四国
【第16回】 中止	【第15回熊本市民会館】 2月8～9日 吉田教明学会長 山部耕一朗大会長	【第14回アクロス福岡】 2月16～17日 吉田教明学会長 高橋一郎大会長	【第13回かこしま県民交 流センター】 2月17～18日 吉田教明学会長 山形圭一朗大会長	【第12回ニューウエルシ テイ宮崎】3月18～19日 陶山肇学会長 川越仁大会長	【第11回福岡県歯科医師 会館】2月6～7日 陶山肇学会長 石川博之大会長	九州

日本歯科矯正年表―各分野一覽 (参考文献: 日本矯正歯科学会設立75周年記念出版「日本の歯科矯正の歴史」、日矯学会誌、各地区学会誌、日本臨床矯正歯科医会誌)

年	矯正歯科学界	矯正歯科材料	大学/学会 設立
1840~1945年	<p>一八四〇年一月、米国にて世界で最初の歯科大学であるボルティモア歯科大学が開設、五三年までに四校になる。</p> <p>一八六〇年後半頃より歯科大学の新設ラッシュ、五七校に。</p> <p>一八八〇年 Kingsley 「Oral Deformities」公表。</p> <p>一八九二年 榎本積一が日本で最初の矯正治療症例報告。</p> <p>一九〇〇年 Angle 著 The Edward H. Angle School of Orthodontia 設立。また同年アメリカ矯正学会 (American Society of Orthodontists) を組織。</p> <p>一九〇一年 第一回大会をセントルイスにて開催。</p> <p>一九〇〇年から一九〇一年にかけて、「東京歯科医学院講義録」が出版され、歯科矯正部分は青山松次郎が担当。</p> <p>一九〇二年四月から一九〇四年二月にかけての第三版では矯正学序論を血脇守之助、各論を佐藤運雄が担当。</p> <p>一九〇八年 アングルススクール卒業の寺木定芳が東京歯科医学専門学校(現東京歯科大学)の歯科矯正学講座を担当。その後一九一四年から榎本美彦が担当した。</p> <p>寺木は一九一五年から日本歯科医学専門学校へ移り一九二七年まで勤務。</p> <p>一九二六年 八月、ニューヨークで第一回国際歯科矯正学会 (I.O.C.) 開催</p> <p>一九二六年 一〇月、日本矯正歯科学会創立</p> <p>【日本矯正歯科学会】 会長: 榎本美彦、副会長: 岡田満、幹事: 岩垣宏</p> <p>【東京矯正歯科学会】 会長: 木暮篤太郎、副会長: 高橋新次郎、幹事: 多胡謙治</p> <p>【大阪矯正歯科学会】 会長: 秦種三郎、副会長: 池澤俊夫、幹事: 岩鶴俊男</p> <p>一九三二年 四月一〇日、東京基督教青年會館にて日本矯正歯科学会第一回学術大会開催(榎本美彦会長)</p> <p>一九三三年 一月一日付で日本矯正歯科学会誌第一巻発刊</p> <p>一九三六年 日本矯正歯科学会創立一〇周年記念式立講演会を日本医師会館において開催</p> <p>一九四一年に第六回矯正歯科学会が開催されて以降、戦争により学会活動も休止状態となり、日矯歯誌も一九四三年第一一巻以降、一九五二年第一二巻まで休刊となる。</p>	<p>一八四九年 米国にて White, S.S. が歯科材料会社を設立</p> <p>一八六一年 S.S. White 社と改名、Dental Cosmos の発行</p> <p>海外歯科器材の輸入と普及に貢献したエスエス・ホワイト社の日本代表であった石井房次郎氏が矯正用器材も紹介。</p> <p>一九三二年 第一回矯正歯科学会において、側方拡大装置、矯正用ゴムリング、ルーペンとチューブ装置、定圧送風器などの装置や器材に関する講演、リボンアーチ、舌側矯正装置などのデモが行われた。</p> <p>商社展示も行われ、ジーシー化学研究所(現ジーシー(株)、丸善(株)/森田歯科商店(現(株)モリタ)、歯苑社代理部(現(株)シエン社)、鳥光歯科器械店の各社が出展</p> <p>高橋新次郎先生の要望により三金電化研究所によって開発されたニッケルクロム合金「サンブラチナ」を改良しロー線、前歯用・臼歯用バンドメタル、次いで矯正用丸型チューブなどが開発された。一年後には「STロック」も完成。</p> <p>一九三五年</p>	<p>一八九〇年 高山歯科医学院発足 高山紀齋</p> <p>一九〇〇年 高山歯科医学院が血脇守之助氏に委譲され、東京歯科医学院に改称</p> <p>一九〇七年 東京歯科医学専門学校: 一九一四年 榎本美彦教授</p> <p>一九〇七年 共立歯科医学専門学校 中原市五郎</p> <p>一九〇九年 日本歯科医学専門学校: 一九一〇年 北村一郎教授</p> <p>一九一六年 東洋歯科医学専門学校 佐藤運雄</p> <p>一九一七年 大阪歯科医学専門学校: 一九三七年 太田寛教授</p> <p>一九二〇年 東洋歯科医学専門学校: 一九二〇年 佐藤運雄教授</p> <p>一九二一年 九州歯科医学専門学校: 一九四七年 横田成三教授</p> <p>一九二二年 日本大学専門部歯科: 一九二〇年 佐藤運雄教授</p> <p>一九二六年 一〇月、日本矯正歯科学会創立</p> <p>一九二八年 東京高等歯科医学専門学校: 一九三七年 高橋新次郎教授</p> <p>一九三二年四月: 日本矯正歯科学会が東京基督教青年會館にて開催(榎本美彦学芸会長)</p> <p>一九三二年五月: 東京矯正歯科学会発会</p>

年	矯正歯科界	矯正歯科材料	大学/学会 設立
1946~1989年	<p>一九四六年 学校教育法により、それまでの歯科専門学校が歯科大学となる。</p> <p>一九四八年 医師法、歯科医師法、歯科衛生士法が公布され、業事法が成立。</p> <p>一九五一年 日本歯科医師会は日本歯科医学会を結成、その傘下に矯正学も矯正歯科部会として活動を開始する。</p> <p>一九五八年 大阪での日本歯科医学会矯正部会にて、全国四地区学会(東京/近畿東海/中四国/西日本)を構成単位とする学会組織(四三五名)として再発足する。</p> <p>一九五九年 七月札幌医科大学において第一回総会が開かれ、正式に日本矯正歯科学会という名称になる。この大会で北海道矯正歯科学会が誕生する。</p> <p>矯正治療の新しい考え方とテクニックが一九五〇〜一九六〇年代相次いで導入。</p> <p>岩垣先生「ユニバーサル・アブライアンス」、高橋先生「ツインワイヤー・アブライアンス」、榎先生「ベック法」「三浦先生」ジャラバック法」</p> <p>一九五五年 岩垣矯正歯科学研究所を開設</p> <p>一九六一年 高橋矯正歯科学研究所を開設</p> <p>一九六六年 ダイレクトボンディングシステム(DBS)の研究スタート</p> <p>一九六七年 Dr. Hito Suyehiro 来日、米国矯正事情について講演</p> <p>七〇年東京歯科大学にてエッジワイズタイプドント講習会開催</p> <p>一九七二年 Dr. Robert Ricketts 初来日、その後七七年、七八年講習会開催</p> <p>一九七三年 日本臨床矯正歯科学会発足(初代会長は大坪淳造先生)会員数は約一〇名</p> <p>一九七七年 Dr. Terrell Root 初来日 一九八一年より定期的にレベルアンカレッジシステムのセミナー開始</p> <p>一九七八年 医療法改正により「矯正歯科」の診療科名標榜が認可</p> <p>一九七九年 Dr. Carl Guggino 来日、バイオプログレッシブ講習会開始</p> <p>一九七九年 Dr. Wick Alexander 来日、一九八一年より講習会開始</p> <p>一九八一年 ジックフーズ夫妻によるMFTコース開始</p> <p>一九八二年 Dr. Lawrence F. Andrews 来日、講演</p> <p>一九八二年 唇顎口蓋裂に起因する咬合異常の矯正歯科治療に健康保険が導入される</p> <p>一九八五年 Dr. Ronald H. Roth 来日講習会開始</p> <p>一九八五年 Dr. Young H. Kim 来日講習会開始</p> <p>一九八八年 Dr. Per. Axelsson 来日講習会開始(予防歯科P.M.T.C技法(紹介))</p> <p>一九八九年 Dr. Rudolf Slavicek 来日講演会</p> <p>一九八九年 外科矯正治療に健康保険が導入される</p>	<p>戦後いち早く、石井房次郎氏によってエスエス・ホワイト社のセメントが矯正用材料として輸入される。</p> <p>一九四八年 山浦製作所が創業</p> <p>一九五一年 三金工業(株)サンプラチナチューブなどの矯正用加工品の自家製造を開始。一九五九年頃より本格的に矯正器材の開発に取り組み。</p> <p>一九五四年 (有)塩田歯科器械製作所が設立</p> <p>一九五八年 山浦製作所が設立。インスツルメント用に新型ハイカーボンステンレス「タグライト鋼」を開発。東京医科歯科大学と「医歯大型矯正セット」を共同開発</p> <p>一九六一年 トミー(株)ブラケットの試作品完成</p> <p>一九六二年 矯正歯科材料の試作と研究を目的としてトミー研究所が設立される。</p> <p>一九六三年 三金工業(株)によるデントラム社のエクスパンジョンスクリーを取り扱い開始</p> <p>一九六三年 ユー取り扱い開始</p> <p>一九六六年 スバパデンタルプロダクツ(株)設立。プライヤー、歯牙模型、ハンドピースなどの米国輸出</p> <p>一九六七年 三金工業(株)によるユニテック製品の輸入開始</p> <p>一九六八年 (株)塩田歯科器械製作所は国内外販売会社タスクを設立し、プライヤーOEM輸出開始</p> <p>一九六九年 三金工業(株)によるユニテック製品の輸入開始</p> <p>一九七三年 (株)シンワによるオムコ製品の国内販売開始</p> <p>一九七三年 モリタとロッキーマウンテン社の合弁会社(株)ロッキーマウンテンモリタ設立</p> <p>一九七三年 ユニテックスバパ(株)は日本で初となる矯正歯科専門技工所を開設</p> <p>一九七五年 世界初のニッケル・チタン製ワイヤーの販売開始</p> <p>一九七七年 オムコ製品の販売権はシンワから三金工業(株)へ移りサンキンオムコ設立</p> <p>一九七七年 (株)ミツバ設立</p> <p>一九八〇年 (株)モリムラは矯正材料販売会社として(株)ティエイジャパン設立</p> <p>一九八〇年 二月一日矯正器材連絡会結成、一六社によりスタート</p> <p>一九八三年 ジョンソンエンドジョンソン(株)Aカーバン1製品販売開始</p> <p>一九八三年 トミーの国内販売部門と(株)シンワの矯正部門は全面的に業務提携しトミーインテリナショナル設立</p> <p>一九八四年 ランサーインテリナショナル設立販売開始</p> <p>一九八四年 オートソ社創業</p> <p>一九八六年 オートソオガナイザーズジャパン設立、販売開始</p> <p>一九八六年 ドイツのデントラム社の輸入総代理店として(有)オートソデンナム社設立</p> <p>一九八六年 山浦製作所は矯正器材販売会社(株)バイオデントを設立</p> <p>一九八八年 (株)バイオデントはアメリカンオートソデンティクス販売代理店取得販売開始</p> <p>一九八八年 (株)ミツバオートソサプライ設立</p> <p>一九八九年 (株)メデイカはフォレストダデント社の販売権取得</p>	<p>一九五一年 大阪大学歯学部……………一九五三年 高橋新次郎教授</p> <p>一九六一年 愛知大学歯学部……………一九六二年 飯塚哲夫教授</p> <p>一九六四年 神奈川歯科大学……………一九六四年 高濱靖英教授</p> <p>一九六五年 岩手医科大学歯学部……………一九六五年 石川富士郎教授</p> <p>一九六五年 東北大学歯学部……………一九六五年 坂本敏彦教授</p> <p>一九六五年 新潟大学歯学部……………一九六八年 福原達郎教授</p> <p>一九六五年 広島大学歯学部……………一九六八年 山内和夫教授</p> <p>一九六七年 北海道大学歯学部……………一九七〇年 入江通暢教授</p> <p>一九六七年 九州大学歯学部……………一九七一年 高濱靖英教授</p> <p>一九五五年三月…西日本矯正歯科学会発会(横田成三学会長)</p> <p>一九五八年五月…近畿東海矯正歯科学会発会(滝本和男学会長)</p> <p>一九五八年一月…中四国矯正歯科学会発会(対木佳次学会長)</p> <p>一九五九年七月…北海道矯正歯科学会発会(佐々木洋学会長)</p> <p>一九七三年 鶴見大学歯学部……………一九七一年 大坪淳造教授</p> <p>一九七五年 日本大学松戸歯学部……………一九七一年 岩澤忠正教授</p> <p>一九七七年 城西歯科大学※(1)……………一九七〇年 清村寛教授</p> <p>一九七七年 岐阜歯科大学※(2)……………一九七一年 岸本正教授</p> <p>一九七二年 日本歯科大学新潟歯学部……………一九七二年 日置誠教授</p> <p>一九七二年 松本歯科大学……………一九七二年 中後忠男教授</p> <p>一九七二年 東北歯科大学※(3)……………一九七二年 西口定彦教授</p> <p>一九七三年 福岡歯科大学……………一九七三年 松本先生教授</p> <p>一九七六年 徳島大学歯学部……………一九七六年 河田照茂教授</p> <p>一九七七年 昭和大学歯学部……………一九七七年 福原達郎教授</p> <p>一九七七年 鹿児島大学歯学部……………一九七七年 伊藤元彦教授</p> <p>一九七八年 東日本学園大学歯学部※(4)……………一九七八年 佐藤元彦教授</p> <p>一九七九年 長崎大学歯学部……………一九七九年 入江通暢教授</p> <p>一九八〇年 岡山大学歯学部……………一九八一年 中後忠男教授</p> <p>一九七三年一月…日本臨床矯正歯科学会発会(大坪淳三会長)</p> <p>一九八五年一月…東北矯正歯科学会発会(石川富士郎学会長)</p> <p>一九八六年四月…甲北信越矯正歯科学会発会(花田晃治学会長)</p> <p>※(1) 一九八八年明海大学に学名変更</p> <p>※(2) 一九八五年朝日大学に学名変更</p> <p>※(3) 一九八九年奥羽大学に学名変更</p> <p>※(4) 一九九四年北海道医療大学に学名変更</p>

1990~2020年	年
<p>一九九三年 Dr. John Mew 来日講演 一九九三年 Dr. Richard P. McLaughlin 来日。講習会開始 一九九三年 Dr.リチャード・パークハウス来日。講習会開始 一九九四年 Dr.ラファエル・グリーンフィールド来日。講習会開始 二〇〇〇年 一〇月、矯正インプラントセミナー開催 二〇〇一年 一月、三金工業(株)世界初矯正用アンカースクリュー、アンカープレート発売 二〇〇一年 Dr. Dwight H. Dannon 来日。講習会開始 二〇〇三年 Dr. John Flutte 来日。講演会開始 二〇〇六年 Dr. Chris Farrell 来日。講演会開始 二〇一一年 Dr. L. Carriere 来日。講演会開始 二〇一二年 五月、AAOホルル大会で二〇二〇年9th I O C Cの横浜開催が決定 二〇一二年 七月、官報にて「歯科矯正用アンカースクリュー」が一般的名称として告知される 二〇一四年 四月、歯科矯正用アンカースクリューに健康保険が導入される 二〇一七年 五月、五団体矯正歯科懇談会が始まる 二〇二〇年 一〇月、COVID-19の影響により9th I O C C横浜大会はバーチャルWEB開催となる</p>	<p>矯正歯科界</p>
<p>二〇一八年 二〇二〇年 一九九七年 一九九九年 一九九九年 二〇〇〇年 二〇〇一年 二〇〇六年 二〇〇七年 二〇〇八年 二〇一三年 二〇一七年</p> <p>メデア(株)歯科電子カルテシステムの販売開始 四月一日に矯正主要メーカー、商社一三社による「日本歯科矯正器材協議会」が発足 (株)松風はジョンソンエンドジョンソンメデイカルよりA-1カンパニー製品の販売権を取得 (株)バルビゾン設立 (株)ASO DENTAL創業 オームコ製品の販売権は三金工業(株)からサイブロンデンタル(株)へ移行 (株)オーソデントラム社はオーソオメガナイザー社と輸入総代理店契約を締結 オーソデントは(株)ウイルデント設立 (株)プロシード創業 (株)ティビイジャパンは(株)オーラルケアに社名変更 (株)ティイーピーオーソドントティックジャパン設立 白水貿易(株)子会社の(株)インターゲットグループはデントラム社矯正用器材の販売開始 三金工業(株)は米国デントップライの子会社となりデントップライ三金(株)に社名変更 ドイツフォレストアデント社の日本総代理店としてフォレストアデントジャパンが創業 ストローマンジャパン設立 (株)ジーシーオルソロジー設立 (株)岡部創業 デントップライ三金(株)は親会社のデントップライとシロナデンタルシステムズとの合併によりデントップライシロナ(株)に社名変更 (株)ロッキーマウンテンモリタは米国ロッキーマウンテンとの合併を解消し(株)IM Orthoに社名変更 デントップライシロナ(株)はデジタル歯科矯正分野への投資集中のため従来からある矯正材料(ブラケット、ワイヤー、エラストマーなど)の製造から撤退</p>	<p>矯正歯科材料</p>
	<p>大学/学会 設立</p>

日本歯科矯正器材協議会 会務経過報告

一九九七(平成九)～二〇二〇(令和二)年度

第四期(平成九～一〇年度)

平成九年(1997年)

四月八日	日本歯科矯正器材協議会(以下、器材協議会)第七回通常総会が開かれる。会長に古屋氏が選出される。	六月二五日	第五回日本成人矯正歯科学会大会においてEラインビューティフル大賞受賞者の清水美砂さんに北島副会長より記念品として、HOYA製クリスタルガラスが贈呈される。	八月一九日	大会長に挨拶ならびに打ち合わせを行う。その後予定大会会場を下見する。日本M E A W研究会大会の事前打ち合わせで(株)ロッキーマウンテンモリタ福岡営業所の中村(宏)氏が当協議会からの担当として参加する。
四月九日	器材協議会親睦ゴルフ大会が鎌ヶ谷カントリークラブで開かれ、八社が参加する。	六月三〇日	第二回役員会が東京グリーンホテルお茶の水で開催される。午後四時三〇分より、日矯学会の執行部の先生方との会合および夕食会が東京グリーンホテル水道橋で開催される。	八月二六日	第五六回日矯学会大会の準備委員会(昭和六)に古屋会長、御代川委員長、小川副委員長、梅津委員が出席する。
四月一五日	第五六回日本矯正歯科学会(以下、日矯学会)大会の準備委員会(昭和六)に御代川氏、小川氏が出席する。	七月八日	第五六回日矯学会大会の準備委員会(昭和六)に御代川委員長、小川副委員長が出席する。	八月二九日	当協議会会員(株)オーソガナイザーズジャパンの退会届けを受理。理事による受理決定後、会員に知らせる。
四月一七日	古屋会長のもと、以下の新執行部がスタートする。 会長・古屋雄三 副会長・北島喜彦 専務理事・御代川和寿 渉外理事・小川清史 会計理事・宮島勝 監事・山浦彰一 相談役・山下道男	七月一四日	午後五時三〇分より、日本臨床矯正歯科学会(以下、矯正歯科学会)の執行部の先生方との会合および夕食会が八重洲富士屋ホテルで開かれ、役員が出席する。	九月二日	日本成人矯正歯科学会会長佐藤元彦先生の御尊父が逝去され、古屋会長名で弔電を送ると共に「生花」をお届けする。
五月二〇日	第五六回日矯学会大会の準備委員会(昭和六)に御代川理事、小川理事が出席する。	七月一六日	役員会の下部組織として、会則検討委員会が設置され、会員に案内される。	九月九日	第五六回日矯学会大会の件で、東京フォーラムで行われた打ち合わせ会に大会準備副委員長の小川理事、梅津委員が出席する。
五月二二日	サイブロン・デンタル(株)オームコジヤバンの中澤氏の御尊父が逝去。小川理事、器材協議会からの「ご仏前」を届ける。	七月一八日	第一回会則検討委員会が開催される。	九月一六日	第五六回日矯学会大会の最終準備委員会(昭和六)に御代川委員長、小川副委員長、梅津委員が出席する。
五月二八日	平成九年度第一回役員会が上野東天紅にて開催される。	八月四日	第五六回日矯学会大会の準備委員会(昭和六)に御代川委員長、小川副委員長、梅津委員が出席する。	九月二〇日	第二〇日、二二日の第七回日本M E A W研究会大会に当会より六社が出席する。
六月五日	役員会の下部組織として、平成九年度学術大会準備委員会が設置され、会員に案内される。 委員長・御代川和寿 副委員長・小川清史 委員・梅津雄一	八月五日	第二回会則検討委員会が開催される。	九月二五日	学術大会準備委員会にHOYAヘルスケア(株)の鈴木伸彦氏が新委員として選任され、会員に案内される。
六月一三日	書面臨時総会が行われ、会則の「役員」の項の変更議案が会員に配布され、賛成多数で決議される。	八月六日	平成九年度夏期例会が群馬県・水上館で午後四時より行われ、続いて六時より会員懇親会が開かれる。	九月二八日	第五七回日矯学会大会の三谷大会長、菅原事務局長および日矯学会の担当理事である花田総務理事、亀田財務理事との初めの会合が東京フォーラム内で開かれる。
六月	JOP六月号に器材協議会の「新執行部」の案内が掲載される。	八月	前日の夏期例会に続き、会員親睦ゴルフコンペが初穂カントリークラブ白沢高原コースで行われる。	九月二九日	第五六回日矯学会大会が東京フォーラムで開催され、当協議会より一六社が出席する。
六月一九日	第五六回日矯学会大会の会場下見会が東京フォーラムで行われる。	八月一九日	日矯学会誌八月号の「JOS info letter」に当協議会の執行部および会員名簿が掲載される。	三〇日	

- 一〇月二〇日 第二五回矯正歯科医会大会が新潟市・オークラホテル新潟で開催され、当協議会より一四社が出席する。
- 一〇月二〇日 第三回役員会がオークラホテル新潟で午後三時三〇分より開催される。また、午後五時より第五七回日矯学会大会の件で財務理事の亀田先生との打ち合わせが日本歯科大学新潟歯学部内で行われる。
- 一二月二一日 第五七回日矯学会大会の打ち合わせのため、大会準備委員会の御代川委員長、小川副委員長および、古屋会長が東北大学を訪問、三谷大会長、菅原事務局長、(株)インターグループと初会合をもつ。
- 一二月二二日 第四回役員会が午後二時より開催される。スリーエムユニテック(株)の古屋氏のご母堂が逝去。北島副会長、当協議会からの御霊前を届ける。
- 一二月二〇日 スリーエムユニテック(株)の古屋氏のご尊父が逝去。北島副会長、当協議会からの御霊前を届ける。
- 一二月二二日 平成九年度冬季例会および、忘年会が池袋・サンシャインシティエスカイヤクラブで開催される。会則変更が承認される。
- 平成一〇年(1998年)
- 一月九日 日矯学会伊藤会長、花田総務理事、亀田財務理事、菅原大会事務局長との第五七回大会の打ち合わせ会に古屋会長、御代川委員長、小川副委員長が出席する。
- 一月二三日 第五回役員会が開かれる。会則変更が承認される。
- 一月三〇日 当協議会の会則変更が会員に配布される。
- 三月五日 日矯学会伊藤会長より古屋会長宛、学会大会における商社展示の業務依頼の手紙を受領。伊藤会長に受諾の返事をする。同時に当協議会会員にそのコピーを配布する。
- 七月二二日 学術大会準備委員である梅津雄一氏および鈴木伸彦氏の辞任により、平成九年度の残り期間および、一〇年度の学術大会準備委員会(御代川委員長、小川副委員長、山浦委員)を会員に連絡する。
- 三月二一日 副委員長、山浦委員、古屋会長が出席する。矯正歯科医会理事との会議が開かれ、役員全員が出席する。
- 四月一五日 平成一〇年度第一回役員会が(株)松風で行われる。
- 四月一六日 引き続き同会議室で、第八回通常総会が開かれる。平成九年度会務報告、会計報告が行われ、平成一〇年度会計予算と共に承認される。
- 四月一七日 器材協議会親睦ゴルフ大会が鴻巣カントリークラブで開かれ、九社が参加する。
- 六月二一日 日矯学会の平成一〇年度第一回学術大会運営委員会に当協議会の大大会準備委員会・御代川委員長、小川副委員長および、古屋会長が出席する。
- 六月二二日 第五七回日矯学会大会・第二回商社展示準備委員会が開かれ、インターグループより飯村、菅原、所、各氏が、器材協議会・学術大会準備委員会より御代川、小川、山浦、古屋、各氏が出席する。
- 六月二二日 第二六回矯正歯科医会大会が北海道・北広島プリンス・ホテルで開催され、器材協議会より一三社が出席する。
- 六月二二日 第二回役員会(臨時)が北海道・北広島プリンスホテルで行われる。
- 六月二八日 第六回日本成人矯正歯科学会大会においてEラインビューティフル大賞受賞者の佐藤藍子さんに古屋会長より記念品として、HOYA製クリスタルガラスが贈呈される。
- 七月二二日 BSC大会の商社展示打ち合わせ会が京王プラザホテルで行われ、大会準備委員会の指示により古屋氏が出席する。
- 七月一三日 MEAW研究会大会の商社展示打ち合わせ会がヨコスカ・ベイサイド・ポケットで行われ、大会準備委員会の指示によりスリーエムユニテックの桑原氏が出席する。
- 七月一六日 第三回咬合誘導研究会大会が愛知学院大学内で行われ、器材協議会より一〇社が出席する。
- 七月二九日 第三回役員会および、平成一〇年度夏期例会が箱根湯ノ花温泉ホテルで開催される。一三社出席。大会準備委員会の「プレゼントコーナー」担当委員として宮島氏が
- 七月三〇日 選任される。また、今後、日矯学会大会、矯正歯科医会大会の商社展示を除き、他の展示会での当協議会としての業務は行わないことが議決される。
- 八月二一日 器材協議会親睦ゴルフ大会が箱根湯ノ花ゴルフで開かれ、九社が参加する。
- 九月二二日 第五七回日矯学会大会・商社展示会場内「プレゼントコーナー」の打ち合わせ会が(株)松風で行われる。
- 九月三〇日 第四回役員会がスリーエムユニテック(株)で行われる。
- 一〇月二二日 第五七回日矯学会大会が仙台市の仙台国際センター、商社展示がスポーツセンターで開催され、当協議会より一五社が出席する。
- 一〇月二一日 第五八回日矯学会大会の山口事務局長との初の会合が大会・商社展示会場内で開かれ、役員全員が出席する。
- 一二月一六日 日矯学会の平成一〇年度第三回学術大会運営委員会が午前一〇時〜午後四時まで東京駅ルビーホールで開催され、古屋会長および、学術大会準備委員会の御代川委員長、小川副委員長が出席する。
- 一二月四日 第五回役員会、平成一〇年度冬季例会および、忘年会が池袋・サンシャインシティエスカイヤクラブで開催され、会員一社が出席する。
- 一二月一四日 矯正歯科医会執行部との会合が八重洲富士屋ホテル内で行われ、役員全員が出席する。
- 平成一一年(1999年)
- 一月二六日 平成一〇年度第六回役員会がスリーエムユニテック(株)で行われる。
- 三月二九日 三金工業(株)矯正事業部の北島氏のご尊父が逝去。古屋会長、当協議会からの御霊前を届ける。
- 四月七日 第六回役員会が(株)松風で開催される。なお、理事会において(株)モリムラの入会が承認される。
- 四月七日 第五期(平成一一〜一二年度)
- 四月七日 第九回通常総会が開かれる。会長に古屋氏が選出される。
- 四月八日 器材協議会親睦ゴルフ大会が取手国際ゴ

四月二二日	ルフ場で開かれ、一〇社が参加する。古屋会長のもと、以下の新執行部および、委員会が構成され、会員に通知される。会長・古屋雄三 副会長・北島喜彦 専務理事・御代川和寿 渉外理事・小川清史 会計理事・宮島勝 特務理事・山下道男 監事・山浦彰一 学術大会準備委員会・委員長・御代川和寿 副委員長・山下道男 社会医療委員会委員長・小川清史 副委員長・宮島勝 会則検討委員会委員長・北島喜彦 副委員長・長谷川栄一	七月二八日	第一回会則委員会が鬼怒川・谷川ホテルで開催され、北島委員長、長谷川副委員長、宮島委員、外口委員が出席する。第三回役員会が鬼怒川・谷川ホテルで開催される。	三月二六日	小川大会準備委員が出席する。午後五時より、矯正歯科医学会の執行部の先生方との会合がグラントヒル市ヶ谷で開催され、古屋会長、御代川理事、小川理事が出席する。 （株）ヨシダが退会する。
四月二五日	副委員長・長谷川栄一 午後五時より、矯正歯科医学会の新執行部の先生方と初めての会合が東京駅クラブ内で行われる。	一〇月二五日	平成一一年度夏期例会が鬼怒川・谷川ホテルで開催され、会員一五社が出席する。	三月三一日	午前一〇時より第五回役員会が（株）松風で行われる。
四月一九日	平成一一年度第一回役員会が開催され、六月二二日の北海道矯正歯科学会主催の「第四〇周年記念大会市民公開講座」の広告に協賛する（金五〇〇〇〇円）ことが決定される。	一〇月一四日	第五八回日矯学会大会が広島市の国際会議場で開催され、当協議会より一六社が出席する。	四月二二日	平成一二年度第一〇回通常総会が（株）松風で行われる。
五月七日	理事会に於いて、（株）日本歯科工業社の準会員としての入会が承認される。	一〇月一五日	第五九回日矯学会大会の川本大会長、神原事務局長との初の会合が大会・商社展示会場内で開かれ、大会準備委員会委員全員および会長が出席する。	四月二三日	平成一一年度会務報告、会計報告が行われ、平成一二年度会計予算と共に承認される。
六月二二日	第二七回矯正歯科医学会大会が福岡市・シーパークホテル&リゾートで開催され、器材協議会より一三社が出席する。	一一月二四日	日矯学会の平成一一年度第三回学術大会運営委員会が午後一時～四時まで東京駅ルビーホールで開催され、古屋会長および、学術大会準備委員会の御代川委員長、山下副委員長が出席する。	六月一八日	第八回日本成人矯正歯科学会大会においてEライオンビュティフル大賞受賞者の宮沢りえさんに古屋会長より記念品として、HOYA製クリスタルガラスが贈呈される。
六月二二日	第二回役員会（臨時）が福岡市・シーパークホテル&リゾートで行われる。	一一月二六日	学術大会準備委員会が（株）ワイデイエムで行われ、御代川委員長、山浦委員、小川委員および、古屋会長が出席する。	六月二六日	第二八回矯正歯科医学会大会が神戸市・神戸メリケンパークオリエンタルホテルで開催され、器材協議会より一三社が出席する。
六月二七日	第七回日本成人矯正歯科学会大会においてEライオンビュティフル大賞受賞者の天海祐希さんに北島副会長より記念品として、HOYA製クリスタルガラスが贈呈される。	一一月二四日	十一月一七日に（株）ヨシダ器材事業部の武田氏のご母堂が逝去。小川理事、当協議会からの御仏前を届ける。	六月二七日	第二七日、第一回学術大会準備委員会が開催され、器材協議会より一三社が出席する。
七月一五日	第一回大会準備委員会が八重洲倶楽部で開催され、インタースタールから菅原氏、当委員会から御代川委員長、山下副委員長、山浦委員、小川委員および、当協議会の古屋会長が出席する。	一一月二〇日	第四回役員会、平成一一年度冬季例会が（株）松風にて開催され、また、忘年会が「小福」で行われ、会員一五社が出席する。	八月三日	器材協議会親睦ゴルフ大会が軽井沢七二ゴルフ場で開かれ、八社が参加する。
七月二二日	第一回社会医療委員会がミッパオソナプライで開催され、小川委員長、宮島副委員長、御代川委員、武田委員が出席する。	一一月二七日	三金工業（株）矯正事業部部長の北島氏が他部門に移動し、代わり猪股氏が当協議会での三金工業（株）の担当責任者になったため、当協議会での副会長および、会則検討委員長の職を辞任する。	九月一八日	第五九回日矯学会大会の神原事務局長、インタースタール、関係各社との打ち合わせ会が大阪国際会議場で行われ、大会準備委員会より御代川委員長が出席する。
		平成一二年（2000年）	会長に副会長空席および、会則検討委員会・長谷川委員長就任の連絡を行う。	一〇月四日	第二回大会準備委員会がスリーエムユニテック（株）で行われ、インタースタールより菅原氏、久保氏が出席、大会準備委員会より御代川委員長、山下副委員長、小川委員、山浦委員および、古屋会長が出席する。
		一月六日	第五九回日矯学会大会の会場打ち合わせ会が大阪国際会議場で行われ、大会側から川本大会長、神原事務局長、インタースタールから今仲氏、当協議会より、古屋会長、	一〇月二四日	大会準備委員会、御代川委員長および小川委員は午前九時～午後九時商社展示会場基礎設営に立ち会い、大会準備委員会

一〇月二五日
御代川委員長、山下副委員、小川委員、山浦委員および古屋会長が最終打ち合わせを行う。
第五九回日矯学会大会が大阪市の大阪国際会議場で開催され、当協議会より一五社が出席する。

一〇月二七日
第六〇回日矯学会大会の相馬大会長および、藤田事務局長との初の会合が大会会場内で開かれ、大会準備委員会より御代川委員長、山下副委員長、小川委員および、古屋会長が出席する。

一二月五日
第三回役員会、平成一三年度冬期例会が俣松風で開催され一五社が出席する。同時に、公正取引協議会・歯科支部委員長であるオムニコ社長、高橋勝美氏による「医療用具の公正取引について」の講演が行われる。引き続き、忘年会が湯島の「小福」で行われる。

一二月八日
日矯学会の平成一三年度第五回学術大会運営委員会が午後一時から東京・ホテル国際観光三階会議室で開催され、学術大会準備委員会の御代川委員長、小川委員が出席する。

平成一三年(2001年)
一月二九日
日矯学会・平成一三年度第一回学術大会運営委員会に当協議会を代表して、大会準備委員会の御代川委員長、小川委員および古屋会長が出席、挨拶のみ行う。

一月三〇日
平成一三年度第四回役員会がスリーエムユニテック(株)で行われる。

二月二〇日
午後三時より、日矯学会・矯正歯科の啓発活動を考える会(議長・国内渉外後藤理事)が東京・ホテル国際観光三階会議室で行われ、古屋会長、御代川専務理事および、小川渉外理事が出席する。

三月二二日
一二月より平成一二年度第五回役員会・理事会がホテルニュー神戸で開かれる。理事会において、御インタグループの進会員としての入会および、御バルビゾンの正会員としての入会が承認される(平成一三年四月一日付け)。午後二時より平成一二年度臨時総会が同ホテルで開催され、御代川和寿氏が平成一三年度、一四年度の当会の会長に選出される。

三月三〇日

(株)ロッキーマウンテンモリタにおいて、「日本の矯正歯科商社の変遷をまとめる件」のため、天野隆芳氏、鈴木正三氏、北島喜彦氏を招き、座談会を催す。

第六期(平成一三〜一四年度)

四月二日
第六期(平成一三、一四年度)新執行部ならびに各準備委員長を選任、会員に通知する。また、新執行部選任の挨拶状を日矯学会評議員、矯正歯科医会理事等に発送、挨拶文を記事にて、JOP、日本歯科新聞、日矯学会ニューズレター等に掲載する。

四月五日
平成一三年度第一回役員会ならびに第一回通常総会が(株)松風にて開催され、平成一二年度会務報告、会計報告が行われ、平成一三年度予算案が承認される。

四月一六日
日矯学会・平成一三年度第二回学術大会運営会議に御代川会長、小川商社展示運営委員長が出席し、新執行部の挨拶をする。

四月二四日
第一回会則検討委員会が行われ猪股委員長、塩田・森村各委員が出席する。

六月六日
日矯学会・国内渉外委員会より矯正治療の保険に関わる材料費の調査依頼があり、オームコ、ユニテック、ロッキーマウンテンモリタ、ミツバオソサプらい、トミーインターナショナル各社製ワイヤーの価格(定価)を取りまとめ報告する。

六月七日
第一回編集委員会がロッキーマウンテンモリタで行われ、山崎委員長、三上、山下各委員が出席する。

六月二四日
第一回商社展示運営委員会がミツバオソサプらいで行われ、インタグループより菅原、久保氏が出席、運営委員会より小川委員長、山崎副委員長、宮島、古屋各委員、御代川会長が出席する。

七月五日
第九回日本成人矯正歯科学会大会においてEライオンビューティフル大賞受賞者の黒木瞳さんに、HOYA製クリスタルガラスを贈呈する。

七月二二日
第二回役員会、ならびに矯正歯科医会・新執行部との懇談会を八重洲富士屋ホテルにて開催する。
七月三十一日
(株)松風にて、第三回役員会開催。日矯学会大会における協議会との共同企画であるパ

七月二二日

ネルデイスカッションの打ち合わせを行う。東京矯正歯科学会大会会場においてパネルディスカッションの講師である稲岡勲先生、秋元秀俊先生と打ち合わせを行う。御代川、小川、山崎、宮島、猪股、古屋の各理事・役員および相馬教授が出席。

七月二三日

第二九回矯正歯科医会東北大会商社展示の件で運営委員会より小川委員長、宮島委員が盛岡市において打ち合わせを行う。
八月二日
平成一三年度第四回役員会、夏期例会が鬼怒川ホテルニュー岡部で開催され、一七社が出席する。例会終了後公正取引協議会日本歯科商工協会支部支部長高橋勝美氏による「公正競争規約について」の説明会を行う。器材協議会親睦ゴルフ会がヒートダイゴルフクラブプロイヤルコースで開催される。

八月二日

九月二〇日

第二九回矯正歯科医会大会が仙台市で開催、御代川、中澤、小川、宮島、猪股、古屋の各理事が集まり臨時役員会を行う。
九月二二日
第二回商社展示運営委員会がミツバオソサプらいで行われ、インタグループより菅原氏が出席、運営委員会より小川委員長、宮島、古屋各委員、御代川会長が出席する。業界史「矯正歯科業界の歩み」が完成、リストに基づき全国の歯科大学、日矯学会評議員、矯正歯科医会メンバー等に配布する。

一〇月二日

日矯学会・第二回矯正歯科の啓発活動を考える会(議長・国内渉外・後藤理事)が東京・ホテル国際観光三階会議室で行われ、古屋広報委員長、御代川会長、小川専務理事が出席する。
一〇月八日
日矯学会大会商社展示準備中、御代川、中澤、小川、山崎、宮島、猪股、古屋各理事が集まり臨時役員会を行う。

一〇月八日

第六〇回日矯学会大会が東京国際フォーラムにおいて学会設立七五周年記念大会として開催され、商社展示において総小間数二四三小間、出展企業六四社による過去最大規模の出展、初の試みとして器材協議会のユニフォームを作成し、展示初日に着用した。展示期間中、事務局として器材協議会ブースを設置、業界史ならびに患者啓発ポスターを展示し、患者啓発を行うにあ

- 一〇月九日
つてのアンケートを実施した。夕方より行われた学会主催「インターナショナルフレンドシップパーティ」を後援する。
- 一〇月一〇日
学会期間中第六一回日矯学会大会の丹羽大会長、日置事務局長との初の会合が開かれ、役員が出席する。
- 一〇月一一日
学会との共同企画による七五周年記念パネルドイスカッション「矯正歯科と医療経営環境」が岡部陽二、稲岡勲、秋元秀俊、後藤滋巳、花岡宏、府川俊彦先生をパネラーに、御代川会長が座長となり開催された。
- 一二月一日
第五回役員会が榊松風で行われ、第六〇回日矯学会大会の反省点を討議する。
- 一二月二七日
社会医療委員会より各会員宛てに「公正競争規約の確認書」を通知する。
- 一二月三日
第六回役員会、平成一三年度冬期例会が榊松風で開催され、新たに入会のヨシダを含め一九社が出席する。また、例会終了後忘年会が「小福」にて行われた。
- 一二月一六日
日矯学会・学校歯科保健委員会(筒井照子委員長)が東京・ホテル国際観光で開催され御代川会長、小川専務理事が出席し、第六一回日矯学会大会での市民公開講座およびそれに伴う患者啓発について討議する。
- 平成一四年(2002年)
二月一四日
第七回役員会を東京・八重洲倶楽部で開催し「患者啓発」を中心に討議、その後八重洲富士屋ホテルにおいて開催された矯正歯科医会による「啓発事業説明会」に出席する。
- 三月一七日
日矯学会・平成一四年度第一回国内渉外委員会が八重洲・富士屋ホテルにて開催され日矯学会から後藤、筒井国内渉外理事、相馬広報委員長、小坂学校歯科保健副委員長、石川、居波、音矢委員、野代幹事が出席、器材協議会古屋広報委員長、御代川会長、小川専務理事と共に矯正治療啓発についてのポスター制作の討議をする。
- 三月二九日
第三〇回矯正歯科医会東京大会の打ち合わせを矯正歯科医会・実行委員である各務肇、堀内哲、有泉俊郎の各先生と共に器材協議会・商社展示運営委員会小川、山崎、古屋、宮島、古屋各委員、御代川会長が出席し御茶ノ水・山の上ホテルにおいて行う。
- 四月四日
平成一四年度第一回役員会ならびに第一二
- 回通常総会が榊松風にて開催され、平成一三年度会務報告、会計報告が行われ、平成一四年度予算案が承認される。総会終了後、矯正歯科医会広報委員理事平木建史先生、委員長池森由幸先生による「広報プロジェクトについて」の講演が行われる。
- 四月二六日
日矯学会・矯正治療啓発ポスター製作にあたり、相馬邦道教授より紹介のあった東京芸術大学デザイン科を古屋広報委員長、御代川会長が訪問、デザインを担当される田崎冬樹先生と打ち合わせを行う。
- 五月二六日
日矯学会・平成一四年度第二回国内渉外委員会が東京国際フォーラム会議室にて開催され日矯学会から後藤、筒井国内渉外理事、相馬広報委員長、小坂学校歯科保健副委員長、石川、居波、曾矢、北河原各委員、野代幹事が出席、器材協議会古屋広報委員長、御代川会長、小川専務理事とともに矯正治療啓発についてのポスター製作の討議をする。
- 六月一三日
第一回商社展示運営委員会がミツバオーソサプライドで行われ、インターグループより菅原氏が出席、運営委員会より小川委員長、山崎副委員長、宮島、古屋各委員、御代川会長が出席する。
- 六月二〇日
歯科材料組合品質管理担当理事オムニコ高橋勝美社長を講師に、厚労省より通達があった「医科向け医療用具添付文書の記載要領」の説明会を榊松風にて開催する。
- 六月二三日
第一〇回日本成人矯正歯科学会大会においてEラインビューティフル大賞受賞者の米倉涼子さんに記念品としてHOYA製クリスタルガラスを贈呈する。
- 七月二二日
平成一四年度第二回役員会ならびに夏期例会が榊松風にて開催され、一九社が出席する。例会終了後、上野広小路今半にて懇親会を開催する。
- 八月二六日
日矯学会・矯正治療啓発ポスターが完成、学会事務局より全ての会員に学会誌・Orthodontic Waveと共に配布される。
- 八月二九日
東京・文京シビックホールにおいて第三〇回矯正歯科医会大会打ち合わせ会が行われ、運営委員会より小川委員長、宮島委員、御代川会長が出席し大会執行部と打ち合わせ
- 九月二日
初を試みとして第六一回日矯学会大会商社展示案内書を作製し、学会事務局より大会プログラム・抄録集と共に学会会員に発送する。
- 九月二二
第三〇回矯正歯科医会記念大会が東京・文京シビックホールで開催され、広報特別事業に協賛、商社展示費用と共に協賛金を支払う。
- 一〇月二二
日矯学会大会展示準備中、平成一四年度第三回役員会を開催する。
- 一〇月二二
第六一回日矯学会大会が名古屋国際会議場において開催され総小間数二〇六小間、出展企業四七社による商社展示が行われた。また展示会場において事務局として器材協議会ブースを設置、記念品、学会啓発ポスターを配布し、ドリンクサービスを行った。学会期間中、第六二回日矯学会大会の花田大会長、森田事務局長との初の会合が開かれ、理事、役員が出席した。
- 一〇月二四日
矯正歯科医会・執行部と当協議会役員との懇談会を八重洲富士屋ホテルにて開催する。
- 一一月一八日
日矯学会より、古屋雄三前会長および木野和雄トミーインターナショナル代表取締役
- 一一月二五日
に学会功労賞が授与される。
- 一一月二六日
第四回役員会、ならびに平成一四年度冬期例会が榊松風で開催され、一八社が出席する。また例会終了後忘年会が池之端「運風」にて行われた。
- 平成一五年(2003年)
一月二三日
第五回役員会、ならびに矯正歯科医会・執行部との懇談会が八重洲富士屋ホテルにて開催される。
- 二月二日
日矯学会相馬会長新執行部の初理事会が東京国際フォーラムで開催され、御代川会長、小川専務理事が挨拶に出向く。
- 二月七日
第一回協議会ホームページ委員会が銀座モリタラウンジで行われ、山崎委員長、宮島・森村各委員が出席する。
- 三月六日
日矯学会、啓発・広報委員会(筒井照子委員長、居波徹副委員長)が新たに発会し、第一回委員会が東京駅ルビーホールで開催、当協議会から古屋広報委員長、御代川会長、小川専務理事が出席する。

- 三月七日 第二回ホームページ委員会が銀座モリタラウンジで行われ、山崎委員長、宮島・森村各委員、御代川会長が出席する。
- 三月十九日 第六二回日矯学会大会の件で花田大会長、森田事務局長と当協議会・小川運営委員長ならびに御代川会長が新潟大学に向向き打ち合わせ、会場の朱鷺メッセの下見を行う。
- 第七期(平成一五〜一六年度)
- 四月三日 再任された御代川会長および執行部による平成一五年度第一回役員会ならびに第一三回通常総会が(株)松風にて開催、平成一四年度会務報告、会計報告が行われ、平成一五年度予算案が承認される。
- 四月九日 社会医療委員会を(株)松風で開催、宮島委員長、山崎、小川各委員、御代川会長が出席し、薬事に関わる諸問題を討議する。
- 五月一日 第二回役員会ならびに矯正歯科医会新執行部との懇談会が八重洲富士屋ホテルにて開催される。
- 五月二九日 日矯学会・第二回啓発・広報委員会が東京駅ルビーホールで開催され器材協議会から古屋広報委員長、小川専務理事が出席する。
- 六月三日 第三回ホームページ委員会兼第三回役員会を銀座モリタラウンジで開催、山崎委員長、宮島・森村各委員ならびに役員が出席する。
- 六月一日 日本歯科材料工業協同組合技術委員会のデンツプライ三金泰美治主席研究員ならびにニッシン田中康夫顧問を講師に平成一七年施行予定の改正薬事法に関わる説明会、検討会を(株)松風にて開催する。
- 六月一八日 日矯学会・学術大会運営委員会が八重洲富士屋ホテルにおいて開催され、器材協議会より小川商社展示運営委員長、山崎副委員長、御代川会長が出席する。
- 六月二二日 第一一〇回日本成人矯正歯科学会大会においてEラインビューティフル大賞受賞者の水野真紀さんに記念品としてHOYA製クリスタルガラスを贈呈する。
- 七月二日 第一回商社展示運営委員会がミッパオーソサプライで行われ、インターグループより菅原氏が出席、運営委員会より小川委員長、山崎副委員長、宮島、古屋各委員、御代川会長が出席する。
- 七月三日 平成一五年度第四回役員会ならびに夏期例会が(株)松風にて開催され、一八社が出席する。例会終了後、懇親会を開催する。
- 八月二九日 日矯学会・矯正治療啓発ポスターが完成、学会事務局より全ての会員に学会誌・Orthodontic Waveと共に配布される。
- 九月一日 第六二回日矯学会大会商社展示案内書を作成し、学会事務局より大会プログラム・抄録集と共に学会会員に発送する。
- 九月一五〜一六日 第三一〇回矯正歯科医会大会が名古屋国際会議場で開催され、広報特別事業に協賛、啓発雑誌「ジュニアの矯正歯科BOOK」に広告掲載する。
- 一〇月七日 日矯学会・学術大会運営委員会が新潟・朱鷺メッセで開催され小川展示準備委員長が出席する。
- 一〇月八日 日矯学会大会展示準備中、平成一五年度第五回役員会を開催する。
- 一〇月八〜一〇日 第六二回日矯学会大会が新潟・朱鷺メッセにおいて開催され総小間数二一七小間、出展企業五八社による商社展示が行われた。また展示会場において事務局として器材協議会ブースを設置、記念品、学会啓発ポスターを配布し、ドリンクサービスを行った。
- 一〇月一〇日 学会期間中、第六三回日矯学会大会の九大・中島大会長、名方事務局長との初の会合が開かれ、理事、役員が出席した。
- 一一月二七日 第六回役員会ならびに商社展示運営委員会を湯島「じん宮」にて行う。
- 一一月二八日 改正薬事WGによる組合・規格部会からの説明会を日本歯科器械会館にて行う。
- 一二月五日 第七回役員会、ならびに平成一五年度冬期例会が(株)松風で開催され、一九社が出席、例会および公取協指導・審査委員会高橋委員長の「薬事ならびに公正競争規約」についての講演が行われた。また例会、講演会終了後忘年会が湯島「じん宮」にて行われた。
- 平成一六年(2014年)
- 一月一五日 第八回役員会、ならびに矯正歯科医会・執行部との懇談会が八重洲富士屋ホテルにて開催される。
- 一月二六日 日矯学会・学術大会運営委員会が東京駅ルビーホールにて開催され、御代川会長、小川専務理事が出席、第六三回福岡大会の打ち合わせを行う。
- 二月一九日 日矯学会・平成一六年度第一回啓発・広報委員会が東京駅ルビーホールにて開催され、古屋広報委員長、御代川会長、小川専務理事が出席する。
- 三月四日 商社展示運営委員会をミッパオーソサプライにて開催し、小川委員長、山崎副委員長、宮島、古屋委員、御代川会長が出席、第六三回日矯学会福岡大会商社展示についての打ち合わせを行う。
- 三月八日 第三二回矯正歯科医会千葉大会の件で宮島渉外理事、御代川会長が事務局長の高嶺矯正歯科を訪問、打ち合わせを行うとともに会場のホテルグリーンタワー幕張の下見を行う。
- 四月一日 平成一六年度第一回役員会ならびに第一四回通常総会を(株)松風にて開催、平成一五年度会務報告、会計報告が行われ、平成一六年度予算案が承認される。また初めての試みとして広報委員会による過去三カ年に亘るブラケットの国内販売数量調査「矯正患者市場調査」が行われた。
- 五月二〇日 日矯学会平成一五年度第二回啓発・広報委員会東京駅ルビーホールで開催され、器材協議会から古屋広報委員長、小川専務理事、御代川会長が出席し、日矯学会福岡大会での市民公開講座、大会ラウンドテーブルディスカッション、学会ホームページ、啓発ポスターについての検討が行われた。
- 六月八日 平成一六年度第二回商社展示運営委員会がミッパオーソサプライで行われ、インターグループより菅原氏が出席、運営委員会より小川委員長、山崎副委員長、宮島、古屋各委員、御代川会長が出席する。
- 六月一四日 日矯学会・平成一六年度第二回学術大会運営委員会が東京駅ルビーホールにおいて開催され、器材協議会より小川商社展示運営委員長、御代川会長が出席する。
- 六月二五日 平成一六年度第三回商社展示運営委員会がミッパオーソサプライで行われ、イン

七月一五日
 ターグループより菅原氏が出席、運営委員会より小川委員長、山崎副委員長、宮島、古屋各委員、御代川会長が出席する。
 矯正歯科医学会執行部と賛助会員ならびに器材協議会との懇談会が八重洲富士屋ホテルにて開催される。

八月二日
 平成一六年度第二回役員会ならびに夏期例会が湯島・東京ガーデンパレスにて開催され、一九社が出席する。例会終了後、懇談会・懇親会が同会場にて行われた。

九月一三日
 矯正歯科医学会広報特別事業に協賛、啓発雑誌「歯と歯並び」のなるほどBOOKに広告掲載する。また臨時役員会を御代川会長、中澤副会長、古屋、小川、猪股理事の出席でスリーエムユニテック会議室において開催し、広告掲載のMOOK本の協力会社名の取扱いについて協議する。

九月一五日
 矯正歯科医学会・平木広報理事あて御代川会長、古屋広報委員長名でMOOK本の協力会社名の取扱いについて質問状を提出する。

九月二九
 第三二回矯正歯科医学会大会がホテルグリーントワー幕張で開催され、例年通り商社展示、商品説明会の協力をする。日矯学会・矯正治療啓発ポスター作成に協力し完成、学会事務局より全ての会員に配布される。

一〇月一五日
 第六三回日矯学会大会商社展示案内書を作成し、学会事務局より大会プログラム・抄録集と共に学会会員に発送する。

一一月一六日
 日矯学会・学術大会運営委員会が福岡・西鉄グランドホテルで開催され小川展示運営委員長が出席する。

一一月一七日
 福岡国際会議場において日矯学会大会展示準備中、役員による展示打ち合わせ会を開催する。

一一月一七
 第六三回日矯学会大会が福岡国際会議場・福岡サンパレスにおいて開催され総小間数一八五小間、出展企業五四社による商社展示が行われた。また展示会場において事務局として器材協議会ブースを設置、記念品、学会啓発ポスターを配布し、ドリンクサービスを行った。

一一月一八日
 学会初日終了後、第四回役員会ならびに商社展示運営委員会を福岡「稚加菜」にて行う。

一一月一九日
 学会期間中、第六四回日矯学会大会の鶴見大・平下大会長、戒田事務局長との初の会合が開かれ、理事、役員が出席した。

一一月二日
 矯正歯科医学会・広報委員会が渋谷プラッツジャパン会議室において開催され古屋広報委員長が出席する。

一一月三日
 日矯学会・学術大会運営委員会がグランドヒル市ヶ谷において愛学大・後藤新運営委員長のもと開催され御代川会長、小川展示運営委員長が出席する。

一一月五日
 第五回役員会ならびに平成一六年度冬期例会が湯島・東京ガーデンパレスにて開催され、二〇社が出席する。例会終了後、懇談会・懇親会が同会場で行われた。

平成一七年(2005年)
 二月七日
 日矯学会・学術大会運営委員会が東京駅ルビーホールにて開催され、御代川会長、小川専務理事が出席、第六四回横浜大会の打ち合わせを行う。

二月一八日
 日矯学会新執行部による理事会が新橋・第一ホテルにおいて開催され、御代川会長、小川、山崎、猪股理事が顔合わせの挨拶をする。

第八期(平成一七〜一八年度)

四月二日
 平成一七年度第一回役員会ならびに第一五回通常総会を(株)松風にて開催、第八期(平成一七年度、一八年度)を御代川執行部が継続することを可決、また平成一六年度会務報告、会計報告が行われ、平成一七年度予算案が承認された。引き続き広報委員会による第二回ブラケットの国内販売数量調査(矯正患者市場調査)が行われ、その後、鹿児島大学名誉教授伊藤学而先生をお招きし、「これからの矯正歯科と器材協議会の役割」のタイトルのもと講演会が開催された。

四月二六日
 日矯学会・平成一七年度第一回啓発・広報委員会が東京駅ルビーホールで開催され、器材協議会から古屋広報委員長、御代川会長が出席し、日矯学会横浜大会での市民公開講座、学会ホームページ、啓発ポスターについての検討が行われた。

六月二日
 矯正歯科医学会有限責任中間法人設立に伴う報道記者発表会が大手町「Level XX」で開催され、古屋広報委員長、御代川会長が出席する。

六月九日
 矯正歯科医学会・旧執行部と器材協議会会員による懇談会が品川プリンスホテルにおいて開催される。

七月一四日
 平成一七年度第一回商社展示運営委員会がロッキーマウンテンモリタ会議室で行われ、インターグループより菅原氏が出席、運営委員会より小川委員長、山崎副委員長、宮島、古屋各委員、御代川会長が出席する。

八月二日
 平成一七年度第二回役員会ならびに夏期例会が(株)松風にて開催され、一九社が出席する。例会終了後、懇親会が神田須田町「ぼたん」にて行われた。

九月七
 第三三回矯正歯科医学会大会が広島プリンスホテルで開催され、例年通り商社展示、商品説明会の協力をする。会期中第三回役員会を開催、企業広告のあり方について討議する。

九月三〇日
 日矯学会・矯正治療啓発ポスター作成に協力し完成、学会事務局より全ての学会会員に配布される。

一〇月一二日
 日矯学会・学術大会運営委員会がパシフィコ横浜会議センターで開催され小川展示運営委員長、御代川会長が出席する。また同日夜日矯学会・啓発・広報委員会ならびに市民公開講座反省会がみならい橙家で開催され古屋広報委員長、御代川会長が出席する。

一〇月二二日
 第六四回日矯学会大会商社展示ガイドブックならびに大会参加章ネックストラップを作成し、大会受付において参加会員に配布する。また商社展示会場設営中、役員による展示打ち合わせ会ならびに第四回役員会をパンパシフィックホテルにおいて開催する。

一〇月二二
 第六四回日矯学会大会がパシフィコ横浜において開催され総小間数二七三小間、出展企業六二社による商社展示が行われた。また展示会場において事務局として器材協議会ブースを設置、記念品、学会啓発ポスターを配布し、ドリンクサービスを行った。

一〇月一四日
 学会期間中、第六五回日矯学会大会の北

一〇月一四日
 学会期間中、第六五回日矯学会大会の北

- 海道大学・飯田大会長、佐藤事務局長との初の会合が開かれ、理事、役員が出席した。
- 二月八日
矯正歯科医会・広報委員会が渋谷カサヤビル会議室において開催され古屋広報委員長が出席する。
- 二月九日
第五回役員会ならびに平成一七年度冬期例会が榎松風において開催され、新潟大学名誉教授花田晃治先生をお招きし「これからの矯正歯科と器材協議会の役割」のタイトルのもと講演会が開催された。その後湯島「江知勝」において懇親会が行われた。
- 二月二二日
日矯学会・学術大会運営委員会が都市センターホテルにおいて開催され、小川展示運営委員長、御代川会長が出席する。
- 二月二三日
小学館より矯正歯科医会監修のMOKK「キッズの歯並びすくすくスクール」が器材協議会会員各位にそれぞれ二〇部、無料配布される。
- 平成一八年(2006年)
二月三日
平成一八年度第一回日矯学会・学術大会運営委員会が八重洲・富士屋ホテルにて開催され、小川展示運営委員長、御代川会長が出席する。
- 二月二七日
第二回日矯学会・学術大会運営委員会が湯島・ガーデンパレスホテルにて開催され、小川展示運営委員長、御代川会長が出席する。
- 四月三日
平成一八年度第一回商社展示運営委員会がミツバオーソサプライ会議室で行われ、インターグループより菅原、京野氏が出席、運営委員会より小川委員長、中澤、山崎、宮島各委員、御代川会長が出席する。
- 四月四日
平成一八年度第一回役員会ならびに第一六回通常総会を榎松風にて開催、平成一七年度会務報告、会計報告が行われ、平成一八年度予算案が承認された。引き続き各委員会からの報告があり、その後、広報委員会による第三回ブラケットの国内販売数量調査(矯正患者市場調査)が行われた。
- 五月二五日
矯正歯科医会第一回ブレイススマイルコンテスト応募写真集「ハッピーブレイススマイル」に協賛、会員各位に配布される。
- 六月九日
第二回商社展示運営委員会が東京駅ルビーホールで行われ、インターグループより菅原、京野氏が出席、運営委員会より小川委員長、中澤、山崎、宮島各委員、御代川会長が出席する。
- 六月二二日
矯正歯科医会・広報委員会が渋谷カサヤビルで開催され第二回ブレイススマイルコンテスト審査ならびに広報委員会に御代川広報委員長、大島、大石委員が出席する。
- 七月三日
平成一八年度第三回日学会・学術大会運営委員会が東京駅ルビーホールで開催され小川商社展示運営委員長、御代川会長が出席する。
- 七月二〇日
矯正歯科医会執行部と器材協議会役員による懇談会が渋谷FORUMS会議室において開催され、当協議会役員ならびに広報委員が出席する。
- 七月二五日
平成一八年度第二回役員会ならびに夏期例会が榎松風にて開催され、二〇社が出席する。例会終了後、懇親会が上野公園「韻松亭」にて行われた。
- 八月八日
矯正歯科医会・広報委員会が渋谷カサヤビルで開催され、器材協議会より御代川広報委員長、大島、大石委員が出席、また夕方より恵比寿ウェスティンホテルにおいて開催された第二回ブレイススマイルコンテスト表彰式ならびに懇親会に出席する。
- 八月三一日
日矯学会・矯正治療啓発ポスター作成に協力し完成、学会事務局より全ての学会会員に配布される。
- 九月一三日
日矯学会・第四回学術大会運営委員会が札幌コンベンションセンターで開催され小川展示運営委員長、御代川会長が出席する。同日夕方第三回役員会ならびに展示打ち合わせ会を札幌コンベンションセンターにて開催する。第六五回日矯学会大会商社展示ガイドブックならびに大会参加章ネットワークを作成し、大会受付において参加会員に配布する。
- 九月一三
九月一五
第六五回日矯学会大会が札幌コンベンションセンターにおいて開催され総小間数二一六小間、出展企業五九社による商社展示が行われた。展示会場において事務局として器材協議会ブースを設置、記念品、学会啓発ポスターを配布した。
- 九月一五日
学会期間中、第六六回日矯学会大会の大阪大学・高田大会長、山城事務局長との初の会合が開かれ、理事、役員が出席した。
- 九月二二日
第三四回矯正歯科医会大会が新横浜プリンスホテルで開催され、例年通り商社展示、商品説明会で協力する。今回の商品説明会の中、初めての試みとして器材協議会より薬事・行政の講演を山崎副会長が行う。
- 十一月二〇日
第一回インプラントアンカミーティングをロッキーマウンテンモリタ会議室において開催し、関係各社が集まり意見交換をする。
- 十一月二七日
日矯学会・第五回学術大会運営委員会が八重洲富士屋ホテルにおいて開催され、小川展示運営委員長、御代川会長が出席する。
- 十一月二九日
第四回役員会ならびに平成一八年度冬期例会が榎松風にて開催され、その後湯島「ステラ」において懇親会が開催された。
- 平成一九年(2007年)
一月二二日
日矯学会・平成一九年度第一回大会運営委員会が東京国際フォーラム会議室において開催され、小川展示運営委員長、御代川会長が出席する。委員会終了後、器材協議会第五回役員会ならびに薬事行政委員会を開催し、薬事行政に関わる問題を討議する。
- 二月二日
日矯学会・矯正歯科材料安全対策検討班(班長・東歯大山口教授)と器材協議会薬事行政委員会との第一回ミーティングが水道橋東歯大会議室において開催される。
- 三月二日
日矯学会・矯正歯科材料安全対策検討班と器材協議会薬事行政委員会との第二回ミーティングが水道橋東歯大会議室において開催される。
- 三月二〇日
第二回インプラントアンカミーティングがロッキーマウンテンモリタ会議室において開催され、関係各社が集まり意見交換をする。
- 三月二二日
日矯学会・第二回大会運営委員会が砂防会館会議室において開催され、小川展示運営委員長、御代川会長が出席する。

第九期(平成一九〇二〇年度)

四月九日	古屋前会長がリタイアされるにあたり現役員にて慰労会を「じん宮」にて開催。	九月七日	榊松風にて営業責任者ならびに薬事担当者を対象に公正競争規約説明会を開催。講師・日本歯科商工協会プロモーションコード委員長高橋裕美氏
四月二一日	器材協議会総会を榊松風に開催。会長に山崎裕氏、新執行部スタート 会長・山崎裕、副会長・御代川和寿(広報)／宮島勝(薬事)、専務・小川清史(学会・商社展示)、渉外・大石邦雄、財務・大島雅之、監事・中澤孝夫 厚労省訪問	九月一〇日	厚労省より歯科医学会に調査依頼のあった保険適用申請品調査表を日矯学会経由で提出。品目は①STロック、②保険適用申請済みのセラミックブラケット、樹脂ブラケット。
四月二二日	① 器材協議会新役員あいさつ ② インプラントアンカーの申請について 二課長通知について	九月一九日	第六六回日矯学会大会が大阪国際会議場にて開催。担当校大阪大学、登録者三九八四名、出展五九社／一九四小間
四月二三日	厚労省より「顎口腔機能診断料の施設基準に係る取扱い」について通知あり。翌日日本歯科医師会会長名にて都道府県歯科医師会会長宛てに、より詳細な説明と周知依頼ならびに四月二三日時点で保険適用となっている「顎運動検査機器」、「咀嚼筋筋電図検査機器」一覧が発信された。	一〇月三〇日	「矯正用インプラントアンカー(仮称)適応拡大の要望書」が日矯学会相馬理事長名にて厚労省医薬食品局長、医政局長宛てで提出される。
五月二八日	ロッキーマウンテンモリタにて午前、役員会①日矯学会大会展示、②保険適用材料について 午後、役員ならびに関連会社責任者ならびに薬事担当者①インプラントアンカー状況報告、②プリウエルド薬事取得実態調査、器材協議会としての対応について ロッキーマウンテンモリタにて、薬事担当者対象・プリウエルド薬事申請について、各社対応とするか器材協議会で取りまとめ業界意向として厚労省PMDAに打診するか協議。	一〇月二七日	第三五回矯正歯科医学会大会が栃木県総合文化会館で開催される。 器材協議会冬季例会を榊松風に開催。「韻松亭」にて懇親会。
六月一四日	当者対象・プリウエルド薬事申請について、各社対応とするか器材協議会で取りまとめ業界意向として厚労省PMDAに打診するか協議。	平成二〇年(2008年)	IA(インプラントアンカー)委員会。日矯学会のインプラントアンカー適応拡大要望書への厚労省からの回答に対してミーティングを行う。
六月二四日	第一五回日本成人矯正歯科学会にてEーライインビュートイフル大賞副賞を優香さんに授与。	二月八日	山崎会長、宮島IA委員長、小川専務理事、大串氏、高藤氏にて厚労省との面談。インプラントアンカーに関する海外論文二三編、海外承認一四品、セミナー資料を提出。
七月二九日	日矯学会による有限責任中間法人設立記念講演会開催。器材協議会役員会に出席依頼があり役員出席。	四月三日	総会を榊松風に開催。保険点数改正に伴い矯正材料の保険診療に関わる講演を「保険診療と矯正器材」と題して昭和大学の中納先生に行ってもらった。
七月三二日	薬事行政委員会開催。商品ラベル表示ならびにパンフレット表示について公正競争規約に沿っているか。	四月一七日	矯正歯科医学会との役員懇談会。
八月三二日	夏季例会を静岡県焼津市の「松風閣」にて開催。前日懇親ゴルフ。	五月二日	IA委員会。インプラントアンカー適用拡大サマリーの概要、各社製品一覧表、歯科大学へのインプラントアンカー使用状況のアンケート調査表の作成を行う。
		五月九日	日矯学会後藤理事長、医療問題検討委員会森山委員長にアンケート調査依頼書を提出。以降インプラントアンカー(仮称)適用拡大サマリー作成のため頻りにIA委員会を開催(五月七日、六月五日、六月一日(園田先生面談)、六月二七日、七月三一日、九月三日(園田先生面談)、九月五日(園田先生面談))。
		六月二九日	矯正歯科医学会との合同役員会を東京ステーションカンファレンスで開催。
		六月二二日	第一六回日本成人矯正歯科学会Eーライインビュートイフル大賞副賞を釈由美子さんに授与。
		六月三〇日	日矯学会大会運営委員会に小川、宮島理事で参加。
		七月八日	厚労省への「インプラントアンカー(仮称)適用拡大サマリー」四部を提出する。以降、公知性を示す論文の取りまとめ作業に入る。
		八月一日	ホテルエビナール那須にて夏季例会開催。翌日塩原カントリークラブで懇親ゴルフ。
		九月一六日	第六七回日矯学会大会(担当校・日大)四一三四名登録、出展五九社／三二九小間。
		一〇月一三日	第三六回矯正歯科医学会静岡大会(ヤマハつま恋)開催。
		一〇月二三日	厚労省との面談。適用拡大サマリー最終案のチェックをお願いする。
		一〇月二七・三〇日	厚労省指摘内容の検討ミーティング。役員会ならびにIA委員会。サマリー最終まとめ。
		一一月二六日	厚労省へ、修正サマリーを提出。
		一一月五日	材料組合理事長名で器材協議会へインプラントアンカー適応拡大要望に関する要望書を受け取る。
		一二月一〇日	榊松風に冬季例会。「矯正分野と歯科医療機器と薬事法」と題して東京医科歯科大の園田先生に講演いただき。「韻松亭」にて懇親会。
		一二月二一日	東京八重洲クラブにて日矯学会学術大会運営委員会に小川、宮島理事出席。
		平成二二年(2009年)	緊急役員会。一月四日、日矯学会医療問題検討委員会森山委員長、坂本委員、器材協小川氏が厚労省審査課へ新年の挨拶での件。
		一一月二九日	IA委員会開催。現状報告。
		一一月二五日	日本歯科材料工業協同組合会議室にて、歯科材料問題検討委員会委員長の由田委員長より矯正用インプラントアンカー適応拡大

- 三月三日
材料組合の要望を受け、器材協議会役員会／IA委員会ミーティング。五社に材料組合の「社（GC）」を入れて、材料組合とも協力して作業を進めることに對する役員会、IA委員会へ了承を求める。
- 三月五日
富士屋ホテルで開催、小川、宮島理事が出席。
- 五月一五、二七日、六月二日
日矯学会大会運営会社インターグループと学会展示について（小川会長、宮島展示運営委員長）。
- 六月三日
（株）松風にて商社展示運営委員。（役員）日矯学会大会展示について。
- 六月二五日
矯正歯科医会大会運営委員会出席（小川会長、宮島展示運営委員長）。
- 六月二六日
役員会開催。同日夜富士屋ホテルにて三団体（日矯学会、矯正歯科医会、器材協議会）理事懇談会。協力団体として相互協力していく。
- 七月二三日
（株）松風にて商社展示運営委員会（役員）。
- 七月二八日
富士屋ホテルにて日矯学会学術大会運営委員会（小川会長、宮島展示運営委員長）出席。
- 八月一七日
（株）松風にて器材協議会夏季例会。日矯学会後藤理事長講演会「学会と協力団体」を開催、懇親会を「小福」にて行う。
- 九月二二日
第三七回矯正歯科医会大会（宮崎、フェニックス・シーガイア）（陶山大会長）開催、三二社三二コマ。
- 九月二五日
合同代表者会議が厚労省で行われる。PMDAから担当部長・担当審査官、日矯学会から後藤理事長・森山常務理事・宮澤理事長幹事・川元先生、業界からは、矯正器材協から小川会長・大石理事行政理事・高藤氏（バイオデント薬事担当者）、材料組合から由田委員長が出席。
- 一〇月二日
バイオデント社にて六社の薬事担当者、関係者会議。
- 一一月一六日
第六八回日矯学会大会が福岡国際会議場にて開催。主幹校九州歯科大学、山口大会長。五七社三三六小間の出展。一五日に小倉井筒屋バスホテルホールにて市民公開講座開催。
- 一一月九日
器材協議会冬季例会（株）松風。続いて役員会および例会を開催、また懇親会を「今半」にて行う。
- 平成二三年（2010年）
二月一日
富士屋ホテルにて日矯学会学術大会運営委員会出席（小川会長、宮島展示運営委員長）。
- 二月一六日
器材協議会役員会。矯正歯科医会広報からの依頼で広報キャラバン・ブレイススマイルコンテストについてのプレゼンテーションをブラップジャパンが行う。
- 二月一八日
矯正歯科医会例会後、大会運営委員会出席（小川会長、宮島展示運営委員長）。
- 三月二日
富士屋ホテルにて日矯学会学術大会運営委員会出席（小川会長、宮島展示運営委員長）。
- 三月九日
日矯学会後藤理事長、森山委員長、坂本部長にてインプラントアンカーガイドラインを厚労省へ提出される。
- 三月一七日
バイオデントにて薬事行政委員会開催。
- 四月五日
（株）松風にて役員会、総会を開催。
- 四月二六日
富士屋ホテルにて日矯学会学術大会運営委員会出席（小川会長、宮島展示運営委員長）。
- 五月二〇日
商社展示運営委員会。
- 六月
「矯正用インプラントアンカー（仮称）ガイドライン第二版」日矯学会から厚労省へ提出される。
- 六月一〇日
バイオデントにて薬事行政委員会。
- 六月一七日
商社展示運営委員会。
- 六月二三日
日本歯科器械会館にてISOミーティング。
- 六月二三日
渋谷カサヤビルにて矯正歯科医会大会運営委員会。
- 六月二七日
第一八回日本成人矯正歯科学会Eーラインビューティフル大賞副賞を井上和香さんに授与。
- 六月二八日
富士屋ホテルにて日矯学会学術大会運営委員会出席（小川会長、宮島展示運営委員長）。
- 七月
第四回合同会議（厚労省、PMDA、日矯学会、器材協議会）申請に向けてのプロセスを相談。
- 八月一〇日
厚労省面談。
- 八月一八日
バイオデントにて役員会ならびに夏季例会を開催、また懇親会をホテルラングウッド「ベルベテ」にて行う。
- 九月
「矯正用インプラントアンカー（仮称）の適応拡大の申請書（案）」を器材協議会から厚労省へ提出。品目仕様再検討の指示あり。
- 九月二七日
第六九回日矯学会大会がパシフィコ横浜（主幹校：神奈川歯科大佐藤教授）にて開催、四四一四名登録、六五社三四四小間申込。二六日、市民公開講座が産貿センターにて開催。
- 一一月
第五回合同会議（厚労省、PMDA、日矯学会、器材協議会）試験方法と申請に向けての
- 三月三日
について会合の依頼を受け面談。
- 四月二日
厚労省面談。「このサマリーを元にして先生に作成してもらったかどうか。操作的側面、臨床的側面、現存治療法との比較、スクリーンを使用することに有効性がある等々文章としてのストーリー性を持たせる。」とのアドバイスを受ける。
- 四月三日
中澤氏、井出氏送別会。会場「ステラ」出席一五名。
- 四月六日
ミツバにてインプラントアンカー（仮称）適用拡大サマリー見直し作成作業について会合。
- 四月七日
アラインテックノロジー社松尾氏、福村氏との面談。（小川、宮島理事）インビザラインの販売方法について説明を聞く。
- 四月八日
東京歯科大坂本先生との面談（新薬事行政担当の大石委員長、旧担当の宮島理事）。サマリー作成の依頼。サマリーは日矯学会安全対策部会で検討を進める。ガイドラインに関しては、医療問題検討委員会に外部の先生（大学関係者）を加え、作業グループを作って進める予定とのこと。
- 四月一六日
役員会ならびに総会を開催。第一〇期小川体制スタート。
- 四月二三日
会長：小川清史、副会長：大石邦雄（医療問題検討）、総務：外口和美、渉外：宮島勝（商社展示運営）／大島雅之（業界）、広報：小林功一、監事：御代川和寿
- 四月二七日
日本歯科器械会館にて薬事行政委員会。新体制の紹介・顔合わせ、今後の進め方について。
- 富士屋ホテルにて日矯学会学術大会運営委員会に小川会長、宮島商社展示運営委員長出席。

二月一〇日	プロセスを相談。 ㈱松風にて役員会。	平成二四年(2012年)	一月一六日	富士屋ホテルにて日矯学会大会運営委員会 （小川会長、宮島展示運営委員長）。	一月二六日	学術会場と展示会場が離れており、初の試 みでシャトルバスを運行。
二月一四日	㈱松風にて役員会ならびに冬季例会を開催、 また懇親会を「小福」にて行う。	二月八日	矯正歯科医学会大会運営委員会（小川会長、宮 島展示運営委員長、商社プレゼン説明会。	二月一三日	㈱松風にて役員会および冬季例会を開催、 終了後懇親会を「韻松亭」にて行う。	プリンスホテルにて矯正歯科医学会とのミー ティング。
二月二〇日	富士屋ホテルにて日矯学会学術大会運営委 員会出席（小川会長、宮島展示運営委員長）。	二月九、一〇日	第三九回矯正歯科医学会大阪大会開催（大阪国 際交流センター）。	二月一七日	歯科器械会館にて玉置先生によるISO報 告会。	㈱松風にて役員会および夏季例会を開催、 また懇親会を「伊豆菜」にて行う。
平成二三年(2011年)		二月三日	㈱松風にて商社展示運営委員会、IA委員 会開催。	二月二五日	富士屋ホテルにて日矯学会大会運営委員会 （小川会長、宮島展示運営委員長）。	日矯学会市民公開講座参加（松本市中央公 民館）。
二月六日	富士屋ホテルにて日矯学会大会運営委員会 （小川会長、宮島展示運営委員長）。	四月一一日	㈱松風にて役員会、総会および「プロモーション コード」高橋勝美氏講演会を開催、終了 後懇親会を「小福」にて行う。	二月六日	矯正歯科医学会大会連絡会出席。	松本市文化ホールにて日矯学会大会運営 委員会出席（小川会長、宮島展示運営委 員長）。
二月七日	㈱松風にて役員会、午後IA委員会、進捗 状況報告会。	五月四日	AAOハワイ大会において9th IOC横浜 開催が決定。	二月七 （八日	矯正歯科医学会東京大会開催（学術 総合センター）、記念大会に付、歴代会長の 表彰式があった。	㈱松風にて役員会および総会を開催、また 懇親会を「小福」にて行う。
二月九日	第三八回矯正歯科医学会札幌大会開催（札幌コ ンベンションセンター「SORA」）。	五月二二日	㈱松風にて「五団体矯正歯科関連懇談会」 開催。小川会長が日矯学会後藤滋巳理事 長（当時）と相談し、日本成人矯正歯科学 会武内豊理事長、日本矯正歯科学会深町 博臣会長、矯正歯科医学会浅井保彦会長に 趣意書を送り、日本における矯正歯科学界 の現在将来に向けての問題点、方向性等 について産学臨合同での意見交換の懇談 会を行った。	四月三日	㈱松風にて役員会および総会を開催、また 懇親会を「小福」にて行う。	協賛団体である日矯学会、矯正歯科医学会と の役員改選と器材協議会の役員改選時期を 合わせるため今年度も小川体制を継続する ことが決定。
第一期(平成二三〜二五年度)		六月二二日	ベルサール九段にて矯正歯科医学会例会。例 会后大会連絡会出席（宮島委員長）。	三月一四日	矯正歯科医学会第四一回仙台大会会場下見参 加（宮島委員長）。	富士屋ホテルにて日矯学会大会運営委員会。 日本歯科器械会館にてアンカースクリュー ISOミーティング。
四月七日	㈱松風にて役員会および総会を開催、第一 期役員改選。	六月二六日	㈱松風にてIA委員会、商社展示運営委 員会。	五月二九日	東京ガーデンパレスにて矯正歯科医学会との 合同役員会。	富士屋ホテルにて日矯学会大会運営委員会 出席（小川会長、宮島展示運営委員長）。
六月六日	富士屋ホテルにて日矯学会学術大会運営委 員会出席（小川会長、宮島展示運営委員長）。	六月二二日	インターゲットグループ本社にて学会展示に関す るミーティング。	五月一七日	日本歯科器械会館にてアンカースクリュー ISOミーティング。	中央区区民会館にて矯正歯科医学会との合同 理事会、また懇親会が行われた。
六月八日	東京ステーションコンファレンス東京にて 矯正歯科医学会大会運営委員会出席（小川会 長、宮島展示運営委員長）。	七月一日	第二〇回日本成人矯正歯科学会Eーライン ビューティフル大賞副賞を武井咲さんに 授与。	七月一一日	㈱松風にて役員会および夏季例会を開催、 また懇親会が行われた。	㈱松風にて役員会および夏季例会を開催、 また懇親会を「伊豆菜」にて行う。
八月四日	㈱松風にて役員会および夏季例会を開催、 また懇親会を「ステラ」にて行う。	七月九日	富士屋ホテルにて日矯学会大会運営委員会 出席（小川会長、宮島展示運営委員長）。	七月八日	富士屋ホテルにて日矯学会大会運営委員会 出席（小川会長、宮島展示運営委員長）。	中央区区民会館にて矯正歯科医学会との合同 理事会、また懇親会が行われた。
八月一八日	中央区産業会館にて矯正歯科医学会との合 同役員会。	八月二日	㈱松風にて役員会および夏季例会を開催、 終了後懇親会を「ピストログラッソ」にて 行う。	七月七日	㈱松風にて役員会および夏季例会を開催、 また懇親会を「伊豆菜」にて行う。	㈱松風にて役員会および夏季例会を開催、 また懇親会を「伊豆菜」にて行う。
一〇月一六日	第七〇回日矯学会市民公開講座。	七月九日	盛岡市マリオス／アイーナ（学術）、アイス アリーナ（展示）にて第七一回日矯学会大会 開催（主幹校・岩手医科大、三浦廣行教授。 三五〇一名登録、五九社三〇四小間申込）。	一〇月六日	日矯学会市民公開講座参加（松本市中央公 民館）。	松本市文化ホールにて日矯学会大会運営 委員会出席（小川会長、宮島展示運営委 員長）。ホテル翔峰にて大会長招宴（器材
一〇月一七	名古屋国際会議場にて第七〇回日矯学会 大会（主幹校・愛知学院大（後藤教授）開催、 四四四一名登録、六五社三六四小間申込。 一七回大会長招宴、一八日JAPANN IGHT）。	九月二六 （二八日	盛岡市マリオス／アイーナ（学術）、アイス アリーナ（展示）にて第七一回日矯学会大会 開催（主幹校・岩手医科大、三浦廣行教授。 三五〇一名登録、五九社三〇四小間申込）。	一〇月七日	松本市文化ホールにて日矯学会大会運営 委員会出席（小川会長、宮島展示運営委 員長）。ホテル翔峰にて大会長招宴（器材	松本市文化ホールにて日矯学会大会運営 委員会出席（小川会長、宮島展示運営委 員長）。ホテル翔峰にて大会長招宴（器材
一一月一四日	㈱松風にて役員会および冬季例会を開催、 懇親会を「小福」にて行う。	二月二八日	矯正歯科医学会大会運営委員会（小川会長、宮 島展示運営委員長、商社プレゼン説明会。	二月二八日	矯正歯科医学会大会運営委員会（小川会長、宮 島展示運営委員長、商社プレゼン説明会。	矯正歯科医学会大会運営委員会（小川会長、宮 島展示運営委員長、商社プレゼン説明会。

- 一〇月二五日 長にてミーティング。
日歯大にて第七七回日矯学会大会展示について日歯大新井大会長とミーティング。コングレにて同大会展示についてミーティング(宮島会長、大石展示運営委員長)。
- 一〇月二七日 榑松風にて矯正歯科医大会連絡会(宮島会長、大石展示運営委員長)。
- 一〇月二八日 榑松風にて「スマップシステム」の矯正用アンカーとしての申請についてミーティング(宮島会長、小川理事、高江洲氏、三上氏)。
- 二月六日 徳島県郷土文化会館にて日矯学会市民公開講座出席。
- 二月七日 大会運営委員会。I O C W G 委員会。終了後、役員会。
- 二月七日 アスティとくしまにて第七五回日矯学会大会(主幹校・徳島大、田中栄二大会長)開催。参加登録三九五二名、六二社出展五九小間。九日・I O C 財務・募金・展示合同WGミーティング。
- 二月二九日 かんぽの宿熱海本館にて役員会および冬季例会開催、終了後懇親会を行う。翌日懇親ゴルフ(西熱海ゴルフコース)。
- 二月一日 中央区八丁堀区民館にてプレスマ最終審査、矯正歯科医会、器材協議会合同委員会。プレスマのテーマを器材協議会会員会社募集し、五七テーマの応募があった。
- 二月一九日 国際フォーラムにてI O C 合同委員会。
- 二月二二日 第七六回日矯学会札幌大会会場下見(宮島会長、大石展示運営委員長)。
- 平成二九年(2017年)
- 一月三〇日 東京国際フォーラムにて大会運営委員会(宮島会長、大石展示運営委員長、小川理事)。
- 二月二日 I O C W G 委員会(宮島会長、小川理事)。
- 二月二日 ヒルトン成田にて矯正歯科医大会連絡会出席(宮島会長、大石展示運営委員長)。
- 二月二二日 第四四回矯正歯科医会千葉大会開催(ヒルトン成田)。
- 二〇二二日 二二日・懇親会後、矯正歯科医会との広報委員会。ポスター・チラシは器材協議会にて試作、見積もり、最終校正。応募五七テーマのうち、一三テーマが推薦される。一三回のテーマは「もつと！輝く笑顔！」に決定。残りのテーマは以後のプレスマのテーマに使用する予定。
- 二月二七日 K K R ホテル東京にてI O C W G ミーティング(宮島会長、小川理事)。
- 三月二日 大手町サンケイプラザにて矯正歯科医会プレスセミナー(宮島会長、大石展示運営委員長、小川理事)。
- 三月二三日 中央区京橋区民館にて矯正歯科医会との広報委員会。
- 四月四日 榑松風にて役員会および総会を開催、また懇親会を「牛の達人」にて行う。
- 四月六日 第七八回日矯学会長崎大会会場視察(体育館・ブリックホール・新聞ホール)。
- 四月一三日 東京国際フォーラムにて第二回I O C 財務・募金・展示合同ミーティング。
- 五月一日 榑松風にて矯正歯科の統一専門医制度の確立を見据えた五団体矯正歯科懇談会が器材協議会小川前会長の声掛けにより厚労省担当官も交え始まる。
- 五月二日 五団体とは公益社団法人日本矯正歯科学会(理事長・清水典佳先生)、特定非営利法人日本成人矯正歯科学会(理事長・小谷田仁先生)、一般社団法人日本矯正歯科学会(会長・和島武毅先生)、公益社団法人日本臨床矯正歯科医会(会長・富永雪穂先生)、日本歯科矯正器材協議会(会長・宮島勝)。
- 五月八日 榑松風にて日矯学会大会商社展示収支についてインターグループとのミーティング。
- 五月二二日 インターグループにて日矯学会大会商社展示収支に関わる税金について安達会計事務所 所の安達先生とミーティング。
- 六月八日 メルバルク大阪にて矯正歯科医会例会出席。終了後、大会連絡会(宮島会長)。
- 六月一六日 東京ビックサイドにてI O C 準備委員会。
- 六月二四日 第二五回日本成人矯正歯科学会(東京ビックサイド)で開催。Eライオンビューティフル大賞副賞を岡田結実さんに授与。
- 六月二六日 K K R ホテル東京にて日矯学会大会運営委員会(宮島会長、大石展示運営委員長、小川理事)。
- 七月二日 神戸国際会議場にて第五九回近東矯正歯科学会/9th W I O C 開催。
- 七月一三日 中央区京橋区民館にて矯正歯科医会との広報合同委員会(宮島会長、山崎広報委員長、御代川委員、三上氏)、器材協働が担当している業務内容を説明。
- 七月二〇日 中央区久松町区民館にて矯正歯科医会との合同理事会。終了後、懇親会。
- 七月二四日 榑松風にて第二回五団体矯正歯科懇談会(小川前会長、宮島会長、大石副会長)。
- 八月二四日 榑松風にて第三回五団体矯正歯科懇談会(小川前会長、宮島会長、大石副会長)。
- 八月二九日 榑松風にて役員会、夏季例会および黒田先生講演会(会員会社社員も参加可)を開催、また懇親会を「銀座アスター」にて行う。
- 八月三一日 第四六回矯正歯科医会神奈川大会会場視察(大石展示運営委員長、近藤理事)。
- 九月六日 榑松風にて第七七回日矯学会大会ならびに9th I O C 商社展示に関するコングレとのミーティング(宮島会長、大石展示運営委員長)。
- 九月二三日 榑松風にて日矯学会大会展示についてインターグループとミーティング。
- 九月二四日 ロッキーマウンテンモリタにてプレスマ一次審査ミーティング。応募四七〇点から一点を選出。
- 一〇月二日 榑松風にて第四回五団体矯正歯科懇談会(小川前会長、宮島会長、大石副会長)。
- 一〇月二五日 北海道経済センターにて日矯学会市民公開講座、二〇七名の参加、相談コーナーにて過去最高の六六組七七人が応募し相談を受ける。器材協議会より第一〇回プレスマ記念誌とライオン歯磨きセットを提供。
- 一〇月一八日 日矯学会大会運営委員会。商社展示運営委員会。I O C 準備委員会。スポンサーシップ募集要項の金額設定、今後のスケジューリングを報告。エルムガーデンにて大会長招宴(役員全員)。
- 一〇月一八日 さっぽろ文芸館/ロイトン札幌/札幌市教育文化会館にて第七六回日矯学会札幌大会(主幹校・北海道医療大学、溝口)到大会長開催。参加登録四五〇四名、六九社三九〇小間。二〇日・矯正歯科医会大会連絡会、プレスマの二次審査、八四六票から最優秀賞一点、優秀賞二点、大会賞一点を採択。
- 一一月九日 中央区銀座区民館にて矯正歯科医会との合同理事会、プレスマ関連中心に議論、終了後懇親会が行われた。
- 一一月六日 榑松風にて役員会、冬季例会および五十嵐一吉先生(日矯学会常務理事)講演会、日本の

令和元年(平成三一年)(2019年)
 九月三〇日 (大石会長、宮島I O C担当、三上展示運営委員長、小川理事)。
 二月一日 バイオデントにて第九回五団体矯正歯科懇談会(小川元会長、宮島前会長、大石会長)。
 二月七日 東京国際フォーラムにて平成三一年度第一回学術大会運営委員会(大石会長、三上展示運営委員長、小川理事)。
 二月一九日 横浜ローズホテルにて矯正歯科医会平成三〇年度第三回大会連絡会(大石会長、三上展示運営委員長)。
 二月二〇日 横浜ローズホテル/モントレーホテルにて第四六回矯正歯科医会横浜大会開催。
 二月二〇日 横浜ローズホテルにて第一四回ブレースマイルコンテスト表彰式(大石会長)。
 三月四日 K K Rホテル東京にて平成三一年度第一回I O C実行委員会(大石会長、宮島I O C担当、三上展示運営委員長、小川理事)。
 四月八日 (株)松風にて第一〇回五団体矯正歯科懇談会(小川元会長、宮島前会長、大石会長)。
 四月一六日 (株)松風にて役員会および総会を開催、終了後懇親会を行う。
 五月六日 A A Oロサンゼルス大会にてJapan N i g h t開催(和食K A T S U Y A)、受付ならびに接遇の協力。
 五月一七日 東京セントラルコンファレンスセンターにて二〇一九年度第二回I O C実行委員会(大石会長、三上展示運営委員長、小川理事)。
 五月二二日 (株)松風にて第一一回五団体矯正歯科懇談会(小川元会長、宮島前会長、大石会長)。
 六月六日 メルパルク大阪にて矯正歯科医会二〇一九年度第一回大会連絡会(大石会長、三上展示運営委員長)。
 七月一日 K K Rホテル東京にて平成三一年度第二回学術大会運営委員会(大石会長、三上展示運営委員長、小川理事)。
 七月一八日 オフィス東京にて矯正歯科医会との合同役員会。終了後、懇親会を行う。
 七月二二日 バイオデントにて第二回五団体矯正歯科懇談会(小川元会長、宮島前会長、大石会長)。
 八月二二日 モリタ京都支店にて役員会および夏季例会を開催、懇親会を「柚家」にて行う。
 九月一一日 第一三回五団体矯正歯科懇談会(小川元会長、宮島前会長、大石会長)。
 九月二七日 ステーションコンファレンス東京にて二〇

二〇年第四回9th I O C実行委員会(大石会長、宮島I O C担当、三上展示運営委員長、小川理事)。
 九月三〇日 K K Rホテル東京にて平成三一年度第三回学術大会運営委員会(大石会長、三上展示運営委員長、小川理事)。
 一〇月九日 (株)松風にて器材協議会役員会①二〇二〇年I O C大会、②第七八回日矯学会長崎大会、③器材協四〇周年誌について。
 一一月一九日 長崎ブリックホールにて二〇二〇年第五回I O C実行員会。
 一一月二〇日 長崎ブリックホールにて平成三一年度第四回学術大会運営委員会(大石会長、三上展示運営委員長、小川理事)。
 一一月二〇日 長崎ブリックホールにて矯正歯科医会二〇一九年度第二回大会連絡会(大石会長、三上展示運営委員長)。
 一一月二〇日 長崎ブリックホールにて第七八回日矯学会大会長崎大会(主幹校:長崎大学、吉田教明大会長)開催。参加登録三九九七名、六五社一〇七小間。二日夜、懇親会(ガーデンテラス長崎ホテル&リゾートグランドテラス)が行われた。
 一一月二〇日 (株)松風にて役員会および冬季例会を開催、懇親会を「東天紅」にて行う。ストロマーン・ジャパン(株)が入会し、二六社となる。
 一一月二〇日 (株)松風にて第一四回五団体矯正歯科懇談会(小川元会長、宮島前会長、大石会長)。
 一一月二〇日 (株)松風にて東京臨床出版の富久社長を迎え器材協議会四〇周年記念誌制作キックオフミーティングを行う。
 令和二年(2020年)
 二月四日 東京フォーラムにて二〇二〇年度第一回I O C実行委員会(大石会長、宮島I O C担当、三上展示運営委員長、小川理事)。
 二月二二日 東京国際フォーラムにて令和二年度第一回学術大会運営委員会(大石会長、三上展示運営委員長、小川理事)。
 二月一八日 浦和ロイヤルバインズホテルにて矯正歯科医会二〇一九年度第三回大会連絡会(大石会長)。
 二月一九日 浦和ロイヤルバインズホテルにて矯正歯科医会第四七回さいたま大会開催。第一五回ブレースマイルコンテスト表彰式(大石会

長。器材協議会役員会)。
 三月四日 (株)松風にてコングレとI O C商社展示ミーティング。
第一五期(令和二)三年度
 三月二五日 新型コロナウイルス感染拡大を受け情報収集・分析・対策の検討を目的に9th I O C実行委員会内に危機管理WGを設け第一回会合が行われる。
 三月二六日 (株)松風にて総会役員会、新型コロナウイルスの影響で総会は中止、書面による予算関連、第一五期役員人事案の議決権の行使を決定。第一五期役員改選。
 四月七日 会長:大石邦雄、総務:藤枝淳(広報担当)、渉外:桑原勉(商社展示担当)、財務:河手雅弥、特務:小川清史、監事:宮島勝(9th I O C担当)、相談役:御代川和寿/山崎裕東京フォーラムにて二〇二〇年第二回I O C実行委員会(大石会長、宮島I O C担当、小川理事)。新型コロナウイルスの影響でオンライン出席も可能なZ O O Mによる会議を開催。当日、緊急事態宣言が発令され、大会の中止かW E B開催にするか協議。展示W Gメンバーの三上氏がデンツプライシロナ社退職によりメンバーを降りることになった。また、この頃から、いろいろな学会、矯正歯科地区学会の中止、W E B開催の連絡が入るようになる。
 五月六日 第三回I O C実行委員会をZ O O Mによるオンライン開催(大石会長、宮島I O C担当、小川理事)。第二回実行委員会の協議をもとに四月末のW F O E Cミーティングで実行委員会の報告を行い中止かW E B開催の選択を提案した旨、報告があった。W E B開催となった場合の予算作成、リアル開催との比較検討が行われた。商社展示においても、W E B展示となった場合、どのような方法があるのか情報収集が始まる。
 五月一八日 *以降W E B開催までのI O C実行委員会は二二回までZ O O Mによるオンライン開催となる。
 第三回危機管理W G会合。小野委員長より、危機管理W Gメンバーだけでなく実

五月二八日	行委員会／オブザーバー委員も含め情報共有したいとの提案で出席(大石会長、宮島I O C担当、小川理事)。商社展示がWEB開催となった場合の展示料収入の見積もりを提案する。	七月二〇日	先生、大石会長、宮島I O C担当、小川理事、Z O O Mより齋藤先生、五十嵐先生)、国際色豊かなWEB展示にするにはどうすれば良いか。	九月二四日	第二一回I O C実行委員会(Z O O M)。
六月一日	第四回I O C実行委員会。会場、催し物、その他キャンセル費用の概算、併催となる第七八回日矯学会大会の方針等協議。Z O O M会議にて令和二年度第二回学術大会運営委員会(大石会長、桑原展示運営委員長、小川理事)。	七月二七日	第一二回I O C実行委員会、メール会議。バーチャル展示申込状況、展示ナビゲーションビデオの作成を行う。	九月三〇日	第二二回I O C実行委員会(Z O O M)。
六月二日	榊松風にて役員会。9 th I O C商社展示に関わるスポンサーシップはWEB機器展示会のみとすることが決まる。	七月三〇日	第一三回I O C実行委員会(Z O O M)。展示二次要項、ツールキットの送付。Z O O M会議にて令和二年度第三回学術大会運営委員会(大石会長、桑原展示運営委員長、小川理事)。	一〇月四日	第二三回I O C実行委員会(Z O O M)。
六月四日	第五回I O C実行委員会。小野委員長、森山W F O理事が毎週W F O E Cミーティングを行われている関係で実行委員会(L O C)も以降毎週開催となる。	八月三日	展示プロモーション/ナビゲーションビデオ作成、今後修正を行う。	一〇月五日	第二四回I O C実行委員会(Z O O M)。
六月二一日	Z O O M会議にて矯正歯科医会二〇二〇年度第一回大会連絡会(大石会長、桑原展示運営委員長)。	八月四日	第一四回I O C実行委員会(展示プロモーション/ナビゲーションビデオ作成、今後修正を行う)。	一〇月七日	第二五回I O C実行委員会(Z O O M)。
六月二二日	第六回I O C実行委員会。	八月二二日	第一五回I O C実行委員会(Z O O M)。展示プロモーション/ナビゲーションビデオの意見。	一〇月二三日	第二六回I O C実行委員会(Z O O M)。
六月二六日	第七回I O C実行委員会。バーチャル商社展示出展募集要項を提出。W F Oより出展企業リストの依頼があり提出。	八月二六日	第一六回I O C実行委員会(Z O O M)。展示プロモーション/ナビゲーションビデオの修正。	一〇月二九日	第二七回I O C実行委員会(Z O O M)。
七月二日	第八回I O C実行委員会。開催期間、プロモーションビデオ、R T D開催、統一専門医審査の会場をパシフィコで行うことについて協議。六月二九日のW F Oオフィサーミーティングで、商社展示では海外企業が「展示に参加している」というモチベーションを感じるよう配慮してほしい旨、依頼があったとの報告を受ける。	八月二八日	第一七回I O C実行委員会(Z O O M)。榊松風にて役員会。出展企業向けバーチャル展示説明会をZ O O Mで開催。	一一月一六日	第二八回I O C実行委員会(Z O O M)。
七月九日	第一〇回I O C実行委員会(バーチャル会議)。会期確定…一〇月四〜六日、オンデマンド開催一〇月七〜一〇月三日。商社展示の案内は六五社へ要項送付した旨、報告。締切は七月二一日。	八月二九日	第一八回I O C実行委員会(Z O O M)。展示プロモーション/ナビゲーションビデオ完成し展示企業へ告知。	一一月二八日	第二九回I O C実行委員会(Z O O M)。
七月一四日	第一一回I O C実行委員会。バーチャル展示について欧米の親会社ならびに関連会社へ情報提供を行う。	九月三日	役員会(I O C大会WEB展示/四〇周年記念誌について)。	一二月二一日	第三〇回I O C実行委員会(Z O O M)。
七月一五日	東京医科歯科大学にて商社展示に関するミーティング(小野先生、森山先生、松本	九月八日	第一九回I O C実行委員会(Z O O M)。出展各社展示画面への入力完了、九月八日に器材協議会にてすべてチェック、必要に応じて修正依頼。出展四三社へ一名参加登録無料を案内予定。登録者申込D M用チラシ印刷完了、コングレから器材協議会の企業に送付し、納品書、請求書に同封してもらい参加登録者を増やすことに協力する。	一二月二九日	第三一回I O C実行委員会(Z O O M)。
		九月一〇日	第二〇回I O C実行委員会(Z O O M)。	令和三年(2021年)	
		九月一七日		一月九日	第二七回I O C実行委員会。
				二月二日	Z O O M会議にて令和三年度第一回学術大会運営委員会(大石会長、桑原展示運営委員長、小川理事)。
				二月一七日	矯正歯科医会第四八回静岡大会、WEB開催。
				三月一六日	パイオデントにて五団体矯正歯科懇談会。
				三月二五日	Z O O M会議にて矯正歯科医会二〇二〇年度第三回大会連絡会(大石会長、桑原展示運営委員長)。

日本歯科矯正器材協議会歴代役員・委員長一覧

第8期	第7期	第6期	第5期	第4期	第3期	第2期	第1期	期	年
2005~6年 (平成17~18年)	2003~4年 (平成15~16年)	2001~2年 (平成13~14年)	1999~2000年 (平成11~12年)	1997~8年 (平成9~10年)	1995~6年 (平成7~8年)	1993~4年 (平成5~6年)	1991~2年 (平成3~4年)		
御代川和寿	御代川和寿	御代川和寿	古屋雄三	古屋雄三	山下道男	山下道男	山下道男	会長	
中澤孝夫/山崎裕	中澤孝夫	中澤孝夫	北島喜彦	北島喜彦	古屋雄三	古屋雄三	山中喜彦	副会長	
小川清史	小川清史	小川清史	御代川和寿	御代川和寿	御代川和寿	御代川和寿	-	理事 専務	
-	-	-	-	-	-	-	御代川和寿	理事 総務	
宮島勝	宮島勝	宮島勝	小川清史	小川清史	小川清史	小川清史	-	理事 渉外	
猪股康	猪股康	-	宮島勝	宮島勝	宮島勝	宮島勝	古屋雄三	理事 財務(会計)	役員
-	山崎裕	山崎裕	山下道男	-	-	-	-	理事 特務	
-	-	-	-	-	-	-	-	理事 広報	
古屋雄三	古屋雄三	古屋雄三	山浦彰一	山浦彰一	山中喜彦	山中喜彦	山浦彰一	監事	
-	-	-	-	-	-	-	-	相談役	
小川清史	小川清史	小川清史	御代川/山下	御代川/小川	-	-	-	運営 展示	委員長
宮島勝	宮島勝	宮島勝	小川/宮島	-	-	-	-	社会医療 事業行政	
古屋雄三	古屋雄三	古屋雄三	-	-	-	-	-	広報	
猪股康	猪股康	猪股康	北島/長谷川	-	-	-	-	検討 会則	
山崎裕	山崎裕	山崎裕	-	-	-	-	-	編集	

第15期	第14期	第13期	第12期	第11期	第10期	第9期	期	年
2020~21年 (令和2~3年)	2018~19年 (平成30~令和1年)	2016~17年 (平成28~29年)	2014~15年 (平成26~27年)	2011~13年 (平成23~25年)	2009~10年 (平成21~23年)	2007~8年 (平成19~20年)		
大石邦雄	大石邦雄	宮島勝	宮島勝	小川清史	小川清史	山崎裕	会長	
-	-	大石邦雄	大石邦雄	大石邦雄	大石邦雄	御代川/宮島	副会長	
-	-	-	-	-	-	小川清史	理事 専務	
藤枝淳	高江洲義朗	大島雅之	大島雅之	外口和美	外口和美	-	理事 総務	
桑原勉	三上勉	山崎裕	山崎裕	宮島勝	宮島勝/大島雅之	大石邦雄	理事 渉外	
河手雅弥	河手雅弥	近藤大士	西川裕機	大島雅之	中島 実之	井出清	理事 財務(会計)	役員
小川清史	小川清史	小川清史	小川清史	-	-	-	理事 特務	
-	-	-	-	小林功一	小林功一	-	理事 広報	
宮島勝	宮島勝	外口和美	外口和美	御代川和寿	御代川和寿	中澤孝夫	監事	
御代川/山崎	御代川/山崎	御代川和寿	御代川和寿	-	-	-	相談役	
桑原勉	三上勉	大石邦雄	大石邦雄	宮島勝	宮島勝	小川清史	運営 展示	委員長
小川清史	小川清史	小川清史	小川清史	大石邦雄	大石邦雄	宮島勝	社会医療 事業行政	
藤枝淳	高江洲義朗	山崎裕	山崎裕	小林功一	小林功一	御代川和寿	広報	
-	-	-	-	-	-	猪股康	検討 会則	
-	-	-	-	-	-	-	編集	

日本歯科矯正器材協議会会員企業一覧

(令和4年(2022年)3月現在・50音順)

株式会社デンタリード

〒532-0033 大阪市淀川区新高1-1-15
電話 06-6396-4448
FAX 0120-240-892
URL <http://www.interglobe-jp.com/>

デンツプライシロナ株式会社

〒106-0041 東京都港区麻布台1-8-10
電話 03-5575-5205
FAX 0120-120-659
URL <http://www.dentsplysirona.com/>

株式会社トミーインターナショナル

〒101-0047 東京都千代田区内神田3-11-7
日立神田ビル
電話 03-3258-2231
FAX 03-3258-2235
URL <http://www.tomy-ortho.co.jp/>

株式会社バイオデント

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-33-19
YDM日暮里ビル
電話 03-5604-0980
FAX 03-3801-7560
URL <http://www.biodent.co.jp/>

有限会社バルビゾン

〒273-0005 千葉県船橋市本町5-8-5
アメニティプラザ
電話 047-460-7818
FAX 047-460-7819
URL <http://www.barbizonortho.com/>

フォレストudent・ジャパン株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂2-10-12
生駒硝子ビル2階
電話 03-6277-6980
FAX 03-3568-8864
URL <http://www.forestadent.co.jp>

株式会社プロシード

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-10-13
東信青山ビル
電話 03-5468-1666
FAX 03-5468-1650
URL <http://www.proseedcorp.com/>

株式会社ミツバオーソサプライ

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨2-16-4
メゾンカタヤマ
電話 03-3949-0066
FAX 03-3949-0090
URL <http://www.mitsuba-ortho.com/>

メディア株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-6
NREG本郷3丁目ビル8F
電話 03-5684-2510
FAX 03-5684-2516
URL <https://www.media-inc.co.jp/>

株式会社モリムラ

〒110-0005 東京都台東区上野3-17-10
電話 03-5808-9350
FAX 03-5808-9351
URL <http://www.morimura-jpn.co.jp/>

株式会社ヨシダ

〒110-8507 東京都台東区上野7-6-9
電話 03-3845-2951
FAX 03-3845-2726
URL <http://www.yoshida-dental.co.jp/>

株式会社YDM

〒114-0014 東京都北区田端6-5-20
電話 03-3827-5407
FAX 03-3827-8991
URL <http://www.ydm.co.jp/>

日本歯科矯正器材協議会会員企業一覧

(令和4年(2022年)3月現在・50音順)

株式会社アソインターナショナル

〒113-0021 東京都中央区2-11-8
第22中央ビル
電話 03-3547-0471
FAX 03-3547-0475
URL <https://www.aso-inter.co.jp>

有限会社ウィルデント

〒530-0046 大阪市北区菅原町10-32
DAIX 西天満7階
電話 06-6367-0073
FAX 06-6367-0076
URL <http://www.willdent.com/>

株式会社岡部

〒815-0041 福岡市南区野間4-4-32
電話 092-561-8198
FAX 092-561-8070
URL <https://okabe118.co.jp/>

有限会社オーソドントラム

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-7-15
日本橋トグチビル
電話 03-5652-3322
FAX 03-5652-3393
URL <http://www.ortho.co.jp/>

株式会社オーティカ・インターナショナル

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-5
新宿御苑さくらビル4階
電話 03-3353-3676
FAX 03-3353-3830
URL <http://orthika.jp/>

カボデンタルシステムズ株式会社 オームコジャパン

〒140-0001 東京都品川区北品川4-7-35
御殿山トラストタワー15階
電話 03-6859-0065
FAX 03-6866-7273
URL <https://www.kavo.co.jp/>

株式会社オーラルケア

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-32-9
電話 03-3801-0151
FAX 03-3801-0188
URL <https://www.oralcare.co.jp/>

株式会社ジーシーオルソリー

〒174-8585 東京都板橋区蓮沼町76-1
電話 03-3965-1653
FAX 03-3965-1657
URL <http://www.gcortholy.com/>

株式会社 JM Ortho

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-2
御茶ノ水杏雲ビル14階
電話 03-5281-4771
FAX 03-5281-4716
URL <https://www.jmortho.co.jp/>

株式会社松風 営業部矯正課

〒113-0034 東京都文京区湯島3-16-2
電話 03-3832-1824
FAX 03-3832-7682
URL <http://www.shofu.co.jp/>

スリーエム ジャパン株式会社 歯科用製品事業部 ユニテック製品グループ

〒141-8684 東京都品川区北白川6-7-29
電話 03-6409-5511
FAX 03-6409-5812
URL https://www.3mcompany.jp/3M/ja_JP/orthodontics-jp/

ストローマン・ジャパン株式会社

〒108-0014 東京都港区芝5-36-7
三田ベルジュビル6階
電話 03-6858-1188
FAX 03-6858-4945
URL <http://www.straumann.jp/>

株式会社タスク

〒112-0001 東京都文京区白山2-38-14
白山CTビル
電話 03-5615-8827
FAX 03-5615-8837
URL <http://www.task-inc.net/>

有限会社ティーピー・オーソドンテックス・ジャパン

〒114-0024 東京都北区西ヶ原1-46-13
横河駒込ビル
電話 03-5961-3800
FAX 03-5961-3805
URL <http://www.tpoj.co.jp>

大学歯科矯正学教室一覧 (令和3年(2021年)10月現在)

新潟大学大学院医歯学総合研究科
口腔生命科学専攻摂食環境制御学講座
歯科矯正学分野

教授 齋藤 功
准教授 —

〒951-8514
新潟県新潟市中央区学校町通二番町 5274
電話 025-223-6161
FAX 025-227-0803

岡山大学学術研究院医歯薬学域
歯科矯正学分野

教授 上岡 寛
准教授 井澤 俊

〒700-8525
岡山県岡山市北区鹿田町 2-5-1
電話 086-223-7151
FAX 086-235-7046

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
医療科学専攻
歯科矯正学分野

教授 吉田教明
准教授 佛坂齊社

〒852-8588
長崎県長崎市坂本 1-7-1
電話 095-819-7600
FAX 095-819-7608

日本歯科大学新潟生命歯学部
歯科矯正学講座

教授 遠藤敏哉
准教授 —

〒951-8580
新潟県新潟市浜浦町 1-8
電話 025-267-1500
FAX 025-267-1134

広島大学大学院医系科学研究科
歯学講座
歯科矯正学研究室

教授 谷本幸太郎
准教授 國松 亮

〒734-8553
広島県広島市南区霞 1-2-3
電話 082-257-5604
FAX 082-257-5615

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
健康科学専攻発生発達成育学講座
歯科矯正学

教授 宮脇正一
准教授 —

〒890-8544
鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘 8-35-1
電話 099-275-5111
FAX 099-275-6019

愛知学院大学歯学部
歯科矯正学講座

教授 後藤滋巳
教授 宮澤 健 (特殊診療科)
准教授 藤原琢也
准教授 田淵雅子

〒464-8651
愛知県名古屋市中千種区末盛通 2-11
電話 052-751-7181
FAX 052-752-5990

徳島大学大学院医歯薬学研究部 (歯学域)
口腔顎顔面矯正学分野

教授 田中栄二
准教授 —

〒770-8504
徳島県徳島市蔵本町 3-18-15
電話 088-633-9100
FAX 088-631-4215

朝日大学歯学部
口腔機能発育学講座
歯科矯正学分野

教授 北井則行
准教授 留 和香子

〒501-0296
岐阜県瑞穂市穂積 1851-1
電話 058-329-1072
FAX 058-329-1069

九州大学大学院歯学研究院
口腔保健推進学講座
歯科矯正学分野

教授 高橋一郎
准教授 春山直人

〒812-8582
福岡県福岡市東区馬出 3-1-1
電話 092-641-1151
FAX 092-642-6246

大阪大学大学院歯学研究所
口腔科学専攻口腔分化発育情報学講座
顎顔面口腔矯正学分野

教授 山城 隆
准教授 —

〒565-0871
大阪府吹田市山田丘 1-8
電話 06-6879-5111
FAX 06-6879-2832

九州歯科大学
歯学科健康増進学
顎口腔機能矯正学講座

教授 川元龍夫
准教授 —

〒803-8580
福岡県北九州市小倉北区真鶴 2-6-1
電話 093-582-1131
FAX 093-582-6000

大阪歯科大学
歯科矯正学講座

教授 松本尚之
准教授 西浦亜紀

〒573-1121
大阪府枚方市楠葉花園町 8-1
電話 072-864-3111
FAX 072-864-3000

福岡歯科大学
口腔・歯学部門成長発達歯学講座
矯正歯科学分野

教授 玉置幸雄
准教授 —

〒814-0193
福岡市早良区田村 2-15-1
電話 092-801-0411
FAX 092-801-4909

大学歯科矯正学教室一覧 (令和3年(2021年)10月現在)

北海道大学大学院歯学研究院
口腔機能学分野
歯科矯正学教室
教授 佐藤嘉晃
准教授 —

〒060-0808
北海道札幌市北区北13条西7丁目
電話 011-716-2111
FAX 011-706-4919

北海道医療大学歯学部
口腔構造・機能発育学系
歯科矯正学分野
教授 飯嶋雅弘
准教授 —

〒061-0293
北海道石狩郡当別町金沢1757
電話 0133-23-1211
FAX 0133-23-1669

岩手医科大学歯学部
歯科矯正学講座
教授 佐藤和朗
准教授 —

〒020-8505
岩手県盛岡市中央通1-3-27
電話 019-651-5111(内線4511)
FAX 019-654-4119

東北大学大学院歯学研究所
地域共生社会歯学講座
顎口腔矯正学
教授 溝口 到
准教授 北浦英樹

〒980-8575
宮城県仙台市青葉区星陵町4-1
電話 022-717-8244
FAX 022-717-8279

奥羽大学歯学部
成長発育歯学講座
教授 福井和徳
教授 島村和宏
准教授 板橋 仁
准教授 川鍋 仁

〒963-8611
福島県郡山市富田町字三角堂31-1
電話 024-932-9274
FAX 024-938-9192

日本大学松戸歯学部
歯科矯正学講座
教授 —
准教授 根岸慎一

〒271-8587
千葉県松戸市栄町西2-870-1
電話 047-368-6111
FAX 047-364-6295

東京歯科大学
歯科矯正学講座

教授 西井 康
准教授 石井武展

〒101-0061
東京都千代田区三崎町2-9-18
電話 03-6380-9001
FAX 03-6380-9606

(水道橋)

教授 西井 康
准教授 石井武展

〒101-0061
東京都千代田区神田三崎町2-9-18
電話 03-3262-3421
FAX 03-3262-3420

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
口腔機能再構築学講座
咬合機能矯正学分野

教授 小野卓史
准教授 —

〒113-0034
東京都文京区湯島1-5-45
電話 03-3813-6111
FAX 03-5803-0180

顎顔面頸部機能再建学講座
顎顔面矯正学分野

教授 森山啓司
准教授 小川卓也

〒113-8549
東京都文京区湯島1-5-45
電話 03-5803-5532
FAX 03-5803-0203

日本歯科大学生命歯学部
歯科矯正学講座

教授 新井一仁
准教授 —

〒102-8159
東京都千代田区富士見1-9-20
電話 03-3261-8311
FAX 03-3264-8399

診療科
矯正歯科

教授 —
准教授 小林さくら子
准教授 宇塚 聡
准教授 宮下 涉
准教授 安藤文人

〒102-8158
東京都千代田区富士見2-3-16
電話 03-3261-5511
FAX 03-3261-3924

日本大学歯学部
歯科矯正学講座

教授 本吉 満
准教授 中島 昭
准教授 馬谷原琴枝

〒101-8310
東京都千代田区神田駿河台1-8-13
電話 03-3219-8001
FAX 03-3219-8310

昭和大学歯学部
歯科矯正学講座

教授 榎 宏太郎
准教授 中納治久

〒142-8555
東京都品川区旗の台1-5-8
電話 03-3784-8022
FAX 03-3784-8021

明海大学歯学部
形態機能成育学講座
歯科矯正学分野

教授 須田直人
准教授 真野樹子
准教授 大塚雄一郎

〒350-0283
埼玉県坂戸市けやき台1-1
電話 049-285-5511
FAX 049-287-6657

鶴見大学歯学部
歯科矯正学講座

教授 友成 博
准教授 菅崎弘幸

〒230-8501
神奈川県横浜市鶴見区鶴見2-1-3
電話 045-581-1001
FAX 045-574-0225

神奈川歯科大学大学院歯学研究所
歯科矯正学分野

教授 山口徹太郎
准教授 —

〒238-8580
神奈川県横須賀市稲岡町82
電話 046-822-8751
FAX 046-822-8801

松本歯科大学
歯科矯正学講座

教授 —
准教授 川原良美
准教授 影山徹(診療科)

〒399-0781
長野県塩尻市広丘郷原1780
電話 0263-52-3100
FAX 0263-53-3456

四〇周年記念誌の企画は、二〇一九年十二月末の簡単なミーティングから始まりました。

参加者は歯科矯正業界の歴史を知る弊社会長経験者である御代川氏、山崎氏、小川氏、大石氏、宮島、そして二〇周年記念誌の編集作業もお願ひした東京臨床出版社長の富久氏。富久氏は二〇周年記念誌編集には関与していないとのことでしたが、快く引き受けてくださいました。

内容については、二〇周年記念誌をベースにし、さらに器材協議会ならではの項目も加えた企画案としました。出版予定を二〇二一年の日本矯正歯科学会としましたが、仕事の合間の限られた時間の中で、活動が多岐に渡るようになった二〇二一年からの二〇年間の企業通史並びに年表作成に時間を要し、さらに二〇二〇年初めから世界中に広がったCOVID-19の影響で作業が思うように進まず二〇二二年三月の発刊となっていました。

五部構成の第一部は二〇周年記念誌の企業通史をそのまま掲載、第二部一章は発足からの二〇年を簡単に記した上で二〇〇一年からの二〇年を紹介、二章に器材協議会が関わった主要案件をピックアップとして記載しました。第三部一章では福原先生に歯科先天異常患者とその家族に光明を見出した口蓋裂矯正治療への保険導入について、二章では一九七〇年代から導入された主な矯正歯科テクニクについて八名の先生方にご寄稿いただきました。新しいテクニクの導入は、矯正器材の輸入と国産化に拍車がかかり新しい矯正関連企業の活動に繋がりました。第四部は会員企業紹介、第五部は矯正歯科界に係る年表と器材協議会会務報告を掲載しました。十分に注意はしたつもりですが、不備な点多々あるかもしれません。ご高覧賜り、お気づきの点などご指摘いただけましたら幸甚です。

最後に、ご祝辞をいただきました弊会の協力団体である日本矯正歯科学会の森山啓司理事長、日本臨床矯正歯科医会の野村泰世会長、ご寄稿いただきました福原達郎先生、与五沢文夫先生、根津浩先生、川本達雄先生、浅井保彦先生、古賀正忠先生、嘉ノ海龍三先生、大野肅英先生、榎宏太郎先生に心より御礼申し上げます。また、COVID-19の影響で動きが取りにくい中、少ない自前の資料で困っていた最終段階においてご自宅にある貴重な資料を閲覧させていただきました福岡の佐藤英彦先生ご夫妻には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。そして、東京臨床出版の宇田川編集長、本当にご苦勞様でした。

〈日本矯正歯科器材協議会四〇周年記念誌〉
矯正歯科業界の歩み

【非売品】

令和四年三月三十一日 発行

発行 日本矯正歯科器材協議会

発行人 大石邦雄

編集人 宮島 勝

〈事務局〉

東京都荒川区西日暮里二丁目三三ー一九

YDM日暮里ビル

株式会社バイオデント内

電話〇三ー五六〇四ー〇九八〇

印刷所 株式会社チューエツ

●乱丁、落丁、その他不良の品がありましたら、おとりかえいたします。事務局までお申し付けください。

●本書の全部または一部を無断で複写（コピー）したり、磁気媒体への入力、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、あらかじめ事務局までご連絡ください。

日本歯科矯正器材協議会

© Orthodontic Suppliers Association of Japan
2022 Printed in Japan